OCCULT ETHER PHYSICS:

TESLA'S HIDDEN SPACE PROPULSION SYSTEM AND THE CONSPIRACY TO CONCEAL IT

By
William Lyne

SECOND REVISED EDITION

偽りから真実が、流れ出ることがある、
しかし、真実から嘘は流れることができない。

アーサー　ショッペンハウアー

私の息子 Angus Lyne と Matthew Olay に捧げる

1875年のニコラテスラのオリジナルプランついての序論 1
序文 4
1章 オカルトエーテル理論と電磁推進 10

基本的エーテル粒子の特性 10
重力法則の逆二乗の法則の原因 16
ミクロの螺旋形チューブの力 17
ゼロ ポイントラディエーションZPRとドイツ製の内蔵方向指示システム.....18
古い木の箱 19
低周波と高周波とテスラのエネルギーのワイヤレストランスミッション..... 24
テスラのテレフォースの発見 27

第2章
エーテルの特性と探求 29
初期のエーテルの研究とその背景 29
ＪＪトムソンの電磁気の動き" 30
テスラの出現. 31
宇宙の動きと局地的動き. 35
局地的動きと天上の動き 36

第3章
観察. 42
温泉に浸かっていた7人の人 44
他のＵＦＯとの遭遇の比較 47
エーテルと測定可能な物質. 48
軌道周回惑星と衛星 53

4章
エーテル理論の発展の歴史 54
回転運動と螺旋効果 54
周囲の静電気の電荷の流れ 56

5章
テスラとグッドオールドボーイズクラブ 62
テスラの重力の動態理論.. 67
テスラの秘密. 73
電磁気の性質 - ----------75

結語 78

6 章

フリーエネルギーの抹殺 ..... .81
原子状水素のプロセス 81
アカデミックな世界からの煙幕 88
他の驚くべき証拠と他の水素分解の方法.....93
どのように作動するか? 96
このプロセスを使用する. 101
原子状水素燃焼装置　など. 102
フリーエネルギーサプライズ 104
結語.. 105
原子状水素燃焼プロセスへの言及. 106

今日「カルト」と「オカルト」といったことばが意味するものには多くの驚きがある。
多くのものは、彼ら自身の組織、グループまたは宗教がこのカテゴリーに分類されないかと心配する。
「オカルト」という言葉は単に「神秘的な」とか、「隠され」ていることを指すことばであるから、未知のバクテリアを「超自然的な」と言うために、医者によっても使われている。
宗教、哲学、組織または他のグループ活動に関して、それが「カルト」の「秘密の教え」ならば、選ばれた少数の選ばれた者または「聖職者」だけの選択された人だけに教えられる
通常、全科学教育がこのことに言及しないために、公的に入手できるデータは強力なグループによって「放送され」るようにされており、物理学の全領域に、公的に、あるいは、プライベートな個人には「オカルト」と宣言された「ほとんど立入禁止の領域があった」かもしれない？
たびたび『秘教的なエリート』以外誰も真実を知らないまま、「偽の科学に」入れ替えて活性化され、広められたのかもしれない。実際「電子推進力」に関係する科学については、その、可能性がある？
そして、もしそうならば、「超自然的な」科学は、極めて少ない特に選ばれた会社/政府「聖職者」の独占的な仕事になっているのかもしれない？
私は 1946 年に、西テキサスから遠く離れた南ニューメキシコ砂漠にある油田で、銀色の「空飛ぶ円盤」を見た油田の発掘ポンプの使用者と話し、これに関係する科学を含めて、この論争を研究し始めたが、その時、私は 8 才の子供でしかなかった。
後に、13 才で、私は New Mexico のアルバカーキーで家族の友人と彼らの隣人であった天体物理学者 Lincoln La Paz 博士を訪ね、２、３日一緒に過ごした。
La Paz 博士は、第２次世界大戦の後、New Mexico に持ってこられたナチ空飛ぶ円盤技術を完全に隠すのを最後まで手伝うために、米国政府によって使われた。
私の初期の信念は、ラパスが働いていたサンディア基地で私がドイツの 1943 年の空飛ぶ円盤のハードウェアを得た事実によって後で補強された。
「エーテル物理学 ether physics」（別名「aether エーテル」）に基づく、電子推進力についての真実は、一般大衆が、彼らの鼻の下に存在する正しい事実を知らないようにするため「国家の安全のための秘密」と宣言され、隠され、集められ不在にされ、あるいは、とても激しい不正な宣伝によって、意図的に壊滅させられている。
私は、結局、電子推進力（「超自然的な Ether Physics）に関係するエーテル物理学を仕上げた。この書物は、これらの秘密を確かめ、再発見することを主な活動とし、そして、それを公的な知識と統合しようとしている。
この超自然的な知識の第一人者はエリートの高圧的な独占的銀行組織と産業、鉱業に関連した利益の所有者で、その人は特定の科学者の研究の開始を許している。
巨大な規模の陰謀を実行し、維持するために、軍隊と官僚の範囲だけに彼らの秘密を教えることが必要で、そのため、憲法に反する「国家の安全法」によってテクノロジーを支配することができ、民間法律当局と軍と警察で「国家の秘密」を秘密にすることができる。
これらの処置は、エリートによってコントロールすることで古いテクノロジーと手段を市場社会の本当にフリーな競争から、保護することを目的とする。
最近まで 76 年以上大多数の科学者はエーテルの存在と、空飛ぶ円盤の知識と科学の操作の概念を

嘲笑し、まるでそのような考えが「地球平面」論と「緑色の小男」のカテゴリーの項目に入るような宇宙の無駄口だとするかのように、次第に間違った宣伝を強めているがしかし、逆こそが真実である。
中世の時代に「平らな地球」を遠くに行き過ぎると「宇宙に落下」とすると信じられていたときのように、相対性理論とビッグバン（「ビッグ Bangers」）の支持者は宇宙が有限であると思うようにあなたに望んでいる。
中世の時代とどこに、違いがあるか？
平らな地球...有限の宇宙...これらは、両方とも批判のできない理論である。
そして、「緑色の小男」のうそは、確実に確立した電気科学に基づくテクノロジーと物理学で人間の作った電気飛行装置だけに関係があるが、間違って役に立たない「理論」があなたに与えられている間に、エーテルの存在は、それを使わないようにするため、秘密の金庫室に隠された？
そして「空間の曲率」、「タイムトラベル」、「ビッグバン」と「宇宙人の誘拐」物語から「平行した宇宙」、「インター次元旅行」と他の法外な信じがたい物語）も入るこれらの範囲は政府スパイ、国民的保安要員と秘密情報機関の「ユーホロジィ」と「偽」の「暴露」コミュニティによって作り出された。
（これは私の言いかたで言えば公式政府が、スポークスマンまたは科学的な物知り顔をする人による「偽の暴露」のための仕事である。
それは完全に空飛ぶ円盤の存在を否定することが目的で、他の政府に隠れて対立する者を、UFO ユーホロジィスト、ニューエイジまたは paranormalists パラノイアとして嘲笑することになっている。
あなたがエーテルなどは存在しない、または空飛ぶ円盤はない、と決める前に、または、しばしば喧伝された宇宙人は「ここに」いる、あるいは、タイムトラベルは可能であるといった「最初」の偽りを信じる前に、これらの主題に関する考えが独裁者の大きな嘘によって条件づけられていないかどうか、あなた自身に尋ねなければならない。
あなたがタイムトラベルは、その肝要な部分であるとした相対性理論を信じるならば、私はそれを非常に信じがたく不可能なそれらは、あなたが頼るいわゆる「科学」を作る半可通のたわごとの役に立たない部分が、誰かによって作り出されたことを指摘する。
その人は「超自然的な Ether Physics」の自薦の第一人者になり代わってあなたの心を破壊しあえて目を向けさせないようにしたかった。
あなたの中にある考えを見ることは、平凡な思想統制のバロメーターを見ることでもある？
なたが NASA（NAZIA）と CIA の、Scientific Intelligence Office 科学情報局（「OSI」）の許可された「カン詰商品」により、あなたの考えは生まれてくるため、あなた自身の形而上学的概念と認識論は支配できることはない？
あなたは真実の情報を決して発見しないように、秘密政府によって準備されたＴＶディナーで教育されている？
高圧的な独占者組合国家に代わって空飛ぶ円盤電子推進力と他の先進技術、および「フリーエネルギー」のテクノロジーを隠すように企画され、膨大な宣伝量で間違ったことが広められたことに関して、その理由と他の事実をよく知らないなら、私の前の本、「ペンタゴンの宇宙人」でより完全な解説をあなたは読まなければならない。

著作権 Wm. R リンヌ、1993 年、ISBN 0-9637467-0-7;
1995 年の第 2 版、ISBN 0-9637467-1-5;
1999 年修正された第 3 版.、ISBN 0-9637467-7-4

あなたがおそらく他の誰からもこの事実をこれまで聞かなかったとしても空飛ぶ円盤は、ニコラ・テスラのライフワークで（彼の最も基本的に重要な発明）の成果である］そのために彼の他のすべての発明は追跡された。
どうして、私はそれを知ったのか？
私は長年研究して、テスラの彼の生涯の発展と彼自身が述べ、発表した言葉をたどり、それを文書にした.
散らばり、まばらにされているが、十分な情報から見て、19 世紀の世界で最も大きな科学的な心の人たちはテスラのひらめきによって、この上ない業績を上げてきた。
1919 年 5 月 29 日に、曲がった 4 次元時空で.我々は、生きている」ことが証明された。
アルバート・アインシュタインは宇宙を回る大きい物体…は、周囲の空間と時間をゆがめる.. と言った
それが、いわゆる「フレームが曲がること」と「空間弯曲」の起源である。
「重力は、もはや、少し離れたふりをしている不可解な力でなく、具体的な物体の存在によって湾曲している空間を通り、直線で移動しようとしている物体にうまれる結果」である。
（ガリー・トーブス、相対性理論の軌跡と発見　Relativists　Orbit、Discover、1997 年 3 月）。
このうそとも言えるような理論には.『空間-時間'の『構造』」（「空間弯曲」）といった相対性理論の決まり文句のフレーズで織りまぜられているが、柱が引きずられ、はげ落ちやすい壁のようであるが、誤ったエーテル概念ではあるがエーテルの存在を示唆している。
1919 年以降の、「科学」には新しい成果は少なく、現実に合致していない疑似科学的な数学的ないかさまになったが、ニコラ・テスラの電子推進力についての発見は、政府の隠蔽と、窃盗と嘲笑によって隠された。今は真実を見るべき時間である。

序文：

ニコラ・テスラの 1875 年の最初の計画

1870 年代のテスラの学生時代の独創的な展望は electropulsive 電子推進力による「理想的な飛行機」の、（実現）であった。それは彼が 1875 年当初に電気科学の分野に入った理由である。
これは、彼が主な生涯の仕事として彼自身に課した課題であった。

（フランク・パーカー・ストックブリッジ、「テスラタービン）
「世界の研究 The World's Work,」1912 年、5 月 pp. 543-48。）
当初電子推進力の航空機の電力の必要性は、船に発電所を置くには、あまりに大きいことが予想され（まだ彼の船は船を空中に支える理論が欠けていた)、まず最初に、地上に置かれた電力発生器と送信基地から予想された必要とされる電力を伝導するため、彼の「電力の無線伝達」システムを開発することにとりかかった。

これらの初期の Tesla のアイデアのいくつかは彼の飛行機には不必要なことがわかったので、彼はそれらを営利目的のために使用した。
彼のエーテルの概念からみるとエーテルは比較的低い-密度で彼の電磁力の概念では重力よりそれほど強くなかった。
彼はその後、電子推進力のある航空機の発展に導かれて、
彼の以前に必要とされた電力の予想は実際に必要とされたものより大きかったことを発見した。
そして、多くの「発展したスピンオフ』技術が生まれた。
1920 年代の間、彼が電子推進力のある船を完了するために大きな金が必要であったとき、
彼は米国政府に興味を持たせることに失敗した
この余ったいくつかの、「発展したスピンオフ』技術は準備されたが、決して発表されなかった
未発表の彼の言葉でいうと、「我々は、すぐに遅れることなく、国家の全パワーと手段で飛行機とエネルギーの無線伝達の発展を推進しなければならない」とテスラは言った
この「フライングマシン」（「飛行機」でない）と「エネルギーの無線伝達」の間には密接な関係がある。
Morgans モルガンと Rockefellers ロックフェラーがそれらに立入禁止と宣言したので、Tesla は彼の特許のファイルを得るためにお金を生み出そうとした
これらのシステムのうちの 1 つを手に入れるために、銀行から誰も、お金を借りることができず、ゼウスからの稲妻のような彼らを非難する神の怒りを予想し自分のお金を使うには彼らはあまりに愚かだった
彼の発見と彼の用意した電力への差し迫ったニーズはそれほど大きくなく、そして、誰にでも彼の無線エネルギー変速装置システムの開発に対して関心を持たせることに関する怠慢があった。
テスラは、1909 年に発明した注目に値するタービンで、1913 年に特許を取得した。
これは、多分電磁内部作用が重力相互作用より 1040 倍強いことを示した認識の発展を促しただろう（ショージ・ガモフ、Gravity、Anchor Books、N.Y.［1962］、138 ページ)。

(George Gamow, Gravity, Anchor Books, N.Y. [1962], p. 138).
Hendrick Lorenz によると、電気引力は、重力誘引的な力より 2×1039 倍強い。
、地上から電動ビームによって発射された無線エネルギーを使った電子推進力をもつミサイルの 1915 年の実験と、彼の 1934 年の誕生日の発表の間に、テスラの戦略の変更は、起こったようである
これらの新しい発展は、多分創造力の母によって駆り立てられたのだろう、以前からのミサイルの概念は無線エネルギー・システムなしでは、役に立たなくなる。
権力の独占者は、こうした革新を止めるために戦うことができた
長い期間テスラが見捨てられたように、彼自身の装置は他の誰も目を向けることがなかった。
彼が Tesla Propulsion コーポレーションのスローガンの下で商業的に 1 パウンドの大きさで 20 馬力」を出すまだ明らかにされていない方法でタービンを使うタービンを開発し、彼の特注の高周波交流発電機のうちの 1 台を駆動して船を動かすようにさせるたとき、初期の誤解は、まだいくぶん Tesla の心の中にあった
少なくとも 30,000rpm.で回すことができる軽くて強力なタービンを開発し 20 ポンドの装置がガソリンで 200 ブレーキ馬力以上を発生した後に、彼はまた、新しい種類のプロペラによる「VTOL」タイプの・飛行機のための特許を、-1928 年に提出し、授与された、
それは前と後に取り付けられた 2 台のタービンが原動力となる、そしてそれはプロペラのトルクを打ち消し、ヘリコプターの胴体の後ろに付けられている安定させるためのプロペラの必要性を除く。
この航空機が造られたならば、重さに対する馬力の比率がだいたい 1～3 倍効率的だっただろう
そして、垂直に離陸し、非常に速く水平飛行に移れた。
テスラは、大きな翼をもつ航空機のもつ厄介な必要条件をみて、もっと重い航空機エンジンの効率的利用法を理解し、新しいタービンを使った飛行機の設計と特許権をとって商業化することを明らかに、望んでいた、
それは彼のタービンを高価な彼の電子推進力のプロジェクトを完了するために必要とされた資本を集めるために、特に、使った。
彼は前に特許を得た経験から、彼がプロジェクトを遂行するための必要とされた資本を得ることができない限り、特許期間が期限切れになる前に、特許も役に立たなくなることを知っていた
わずか 17 年後に特許の発表は他の者にも許され、特許が彼に与えられるかもしれない
単一巨大財閥の財政的利益集団は、彼に断固反対したので、彼に資金提供が無いためその時間の間、彼の発明は棚上げにされることができた。
最初の発展段階の間、テスラは「電力」の本当の力をまだ全く知らないようだった、
彼の 1915 年の初期の場の実験は、それが「ものすごい」ものであることを証明した。
テスラは 1893 年と 1894 年には、少なくとも「理論」では彼の Gravity Dynamic Theory、は「完全に、うまくいっていた」
その彼の電子推進力システムには固有の理論があったが、それでも、装置は形成過程で理論的な段階であった。
しかし彼の理論を発表することは、基本的なテクノロジーを明らかにすることと同じで、彼の競争相手にテスラの人生で最も重要な仕事であり人類の最大の発明を与えることを許し、信用とお

金と資源を与えることに等しかった
Tesla には必要なお金が不足して、これを立ち上げることができない。
彼が航空機産業と政府に印象づけるために大きな十分なスケールの実用模型を完了して、テストするまで、彼は特許で身を守ることができない。
この期間、彼は、プロジェクトを実現するために依然として身体的にもスタミナがあったが、運命的に、最もたいへんで、彼が以前のシステムを時代遅れにする新しい電力システムに到達したので J.P.モーガンと彼の仲間がすべてテスラを挫折させる意図で、請求書の束と差し押さえによってぼろぼろにされるよう強要したため、財政的にも必要なことがおおくあった。
テスラが市場に出したどんな発明も、彼に大きな利益を許し、彼のエネルギー・システムが構築されるための資源となり、モーガンとロックフェラーのシステムを破滅させるので、彼は打ちのめさせねばならなかった。
テスラは、決して完全にそれを理解していたようではなかった
モルガンの偽の公共福祉精神フィラントロピスム philantropism は、モルガンとテスラの契約によってテスラ自身を独立させるより、むしろ、テスラを他の者に不正に依存することを誘発し、評判を落とす計画以外の何物でもなかった。
この処置はテスラを財政的にも、技術的にも、感情的に同様に阻害し、彼の神経を卑屈な塊におとしめた、
モーガンに彼の約束を文字通り守るように頼むが、そのかいもなく、すべてが本当に悲劇的な人物のように表面的には見えたが、強欲な会社の強制と強要に従わすため、国家安全保障という嘘の湖の下に沈んで』いる、無名の傷つくことのない不屈の技術者の力 arturian によって作られたエクスカリバーのような剣の発見者である悲劇の英雄は、死の忘却に入る前、英雄的な再主張をしたことは、素晴らしい
テスラはそれに値する補償と信用を得ることができない限り、彼の唯一の力である秘密は、略奪者のくすねる手から保護して、彼の発見を世界に与えずに去った。しかし、彼らは結局それを得たので、その抵抗は全く重要でなかった、彼の死体が冷たくなる前に、彼に苦労のために、びた一文決して支払うことはなかった
テスラは後に重力より 100000000000000000000000000000000000000000 倍強い「力」の本当の力に気づいた。one hundred billion thousand trillion thousand trillion times stronger than gravity.
テスラは、「無線で電力を伝達」し、ロボットに操縦を任せ電力システムを搭載した人の輸送のために使われる遠隔操作された、電子推進力のある「ミサイル」（戦争に用いられる地面から送られた電力で飛ぶミサイル、）をもつ航空機についてのアイデアを追求し始めた
彼が 1915 年に電気的に推進されるミサイルの実用模型を実地試験した後、長い沈黙の後、テスラは推進力に言及し始めた
彼のこの後の「ものすごい」発表は 30 年代に始まった。
この「驚嘆」すべきものはかろうじて離陸するような弱い反応を意味せず、それは仰天するほどの大きな力で上った、私はテスラの死後のわずか 10 年後の 1953 年に空飛ぶ円盤がその方法で、機能するのを見た...
もし飛行機または通常のロケットのようなものが「ものすごい」ことを意味したとしてもデスイ

ンフォメーションの達人の CIA/NASA がそれは馬鹿げているとして誤解させようとしたとしても、空飛ぶ円盤が 3 秒で 9,000mph で推進する力と記述されたものは、何なのか？。
ニューヨークタイムズのW・ローレンスとの彼の 1940 年の会見でテスラによって「推進力の方法」という言葉は使われており、CIA/NASA の両方のデスインフォメーションの陰謀を理解し、興味がある者にとって、テスラの隠された発見の乏しいドキュメンテーションと同様に、これは最も重要なことばである。
この文脈のなかでは、このことばは、電子推進力のある手段が搭載された（有人であるか無人である）「理想的な」飛行船で、基地からのわずかな無線エネルギーとコントローラによって「機械的に」コントロールされる無人機か、またはパイロットの乗っている船で、使われる推進力を意味した。
それは「ペレット」または「弾丸」のような「推進力システムを持たず単に「何らかの銃で「反発する」だけで飛ぶ「発射体」として言ってはいなかった。そして、それはまたいかなる「飛行機にも言及していなかった。それゆえに、「飛行機」のように彼のマシンは翼、補助翼、プロペラまたはいかなる種類の外側の付属物もなかった。

ここでの「推進力」は、運動の恒久化のために搭載され使われる、電磁方法によるシステムを意味する、
（それに搭載された発電機で電力も供給される）
または、地上から放射するパワービームによって、電気エネルギーとコントロール信号が送られる。
その推進力のための電気エネルギーが地球から伝導されることができる限り、宇宙船は、燃料タンクを必要としないという考えは惑星間の旅行についてのアイデアとなってテスラを魅了した。
彼の友人で財政的サポーターB.A.ベーレントへの 1930 年代の、手紙で
テスラは隠れた彼の電子推進力の発見に言及した
「私がその他の発明で達成したものについて特別にあなたに相談して来たことを、私は、あえてあなたに言わない。だがこれは、全く本気で述べている。」
テスラは、明らかに、彼の電気機械で宇宙の「他の世界」を発見する計画について推察していた
テスラは、すべての固体が「電気含有量」を含むと理解した、
まったく、これらは共鳴する空洞としてふるまい、そして速く電磁気が変化する静電力とエーテルとが空間で相互に作用しこれらの重力相互作用と運動を決定する。
これらの理論はテストされて、彼の 1899 年のコロラドスプリングス Colorado Springs の実験である程度確かめられた。
米国政府は、Tesla のこの時代に何もしなかった、
そして、彼のたいへんな電子推進力の発見は、Wernher フォン ブラウンが 1936 年の New Mexico ロスアラモスで「p2」プロジェクトの展開を、開始し 1937 年秋にドイツに戻って、プロジェクトが立ち上げられ、バルト海の Peenemunde パーネミュンデで展開し、ナチ・エリートの熱心な手にすべり落ちた。
これらの秘密と、その他のことは休戦の直後に、米国政府のペーパークリップ作戦の下でアメリカの会社と交換され、引きかえに米国政府とアメリカの会社の仕事のため、多くの戦犯の大赦の

合意とともに、数千の人は移住した。重要な技術情報がある者は誰でも、保護された。

The REAL Cover-up

真実の隠蔽

テスラは 1945 年の円盤の発見以来ずっと、米国政府の影響力を受けた、
当初、実質的にドイツ帝国 VI 対抗部門 RSHA Amt VI(Reichsicherheithaupt Amt VI によってデスインフォメーションの宣伝番組が作られたが、その組織はゲシュタポの中の組織「国家安全保障局第 6 部門」に配置転換された。
そしてそれはナチドイツを支配しドイツ帝国で最も高い極秘の性質をもっており、我々の UFOlogy ユーホロジィとニューエイジ、そして、偽懐疑論者のディスインフォメーション普及ネットワーク）と同じようなもので、米国政府は、このナチのデスインフォメーション装置でもあったナチ UFO 防諜活動装置を、全てを単にまねして使用し、(ニューメキシコの)Holloman A.F.B. ホォロマン空軍基地に雇われていたこの人たちは 1947 年の「ロズウェルやらせ事件」をデザインし、実行した。
そしてこの表向きは軍と、「国家の安全」のための隠蔽は、強権的な独占者の組合国家によって延ばされ、1936 年のナチスによる秘密の獲得以来、その時代のドイツ人の民間の手によるテクノロジーとして伝えられたものは、とても少ないものだったが、実際はナチ国家の時代には、非常に多くの先端技術があった

あなたは、この円盤のタイプの輸送手段をプライベートに手にする効果を想像したことがあるか？
それは、普通の男が世界の至る所に入ってゆくのを許し、現在航空会社が料金を請求することさえできないすべての場所をプライベートに訪問することを可能にする。
それも、小型、私有の空飛ぶ円盤は、造るのに自動車より少ないコストで、ほとんど燃料を使わないし毎時数千マイルでの旅を、長い間続けても、メンテナンスをほとんど必要としない。
あなたは、全体主義共産主義者、ファシスト、コーポレート国家政府の『恵まれた』経済利益効果を想像することができるか？
突然どこにも道のない場所でさえ生きるのが可能になったとき、キャンディがぶらついていた不動産市場に意味はなくなり、底が抜けるのを見ることができるか？
「パスポート」をチェックすることなく端から端まで UFO が横断し、戻り、飛ぶとき、あなたは、国境に関する問題がどうなるか理解することができるか、
見ての通り、主要な問題は、多くの権力を突然失い狂った権力当局の誰かが、高圧的なエリートの利益を保護し彼らに必要な彼らの「仕事」を守り、維持するための、妄想性の犯罪の恐れである、
これらの考察は、犯人がしている「隠蔽」を指摘することである。
テレビ番組、ラジオ・トークショー、新聞、書物、雑誌とその辺にあるビデオについての多くの話は、宇宙人と 50 年取引している我々の政府のカバーアップ」である
あなたが毎週毎晩プライムタイムのテレビでそれを見るならば、唯一「隠蔽」であるとそれは推

定することができ、彼らがあなたに話しているふりをするものと事実は反対である。
そのようなプログラムは、隠蔽のためである。
これらのうその量は、とても大きい
それはほとんど信じがたい、
事実を考えるとこれらは我々自身の政府が舞台裏でひそかに我々に嘘をついていることの証拠である、
アメリカのあらゆる家庭にそのようなくだらないビッグなうそを放送することに政府はいつも関係している、
それは、彼らは「他にどの程度、我々の周囲を偽っているのか？と尋ねる正当な理由である」
この本は、私の前の本に加えて、この秘密についての技術的で社会経済的独裁を終わりに至らせる目的にささげている。

Ⅰ章：

THE OCCULT ETHER THEORY AND ELECTROPULSION

超自然的なエーテル論と電子パルス化

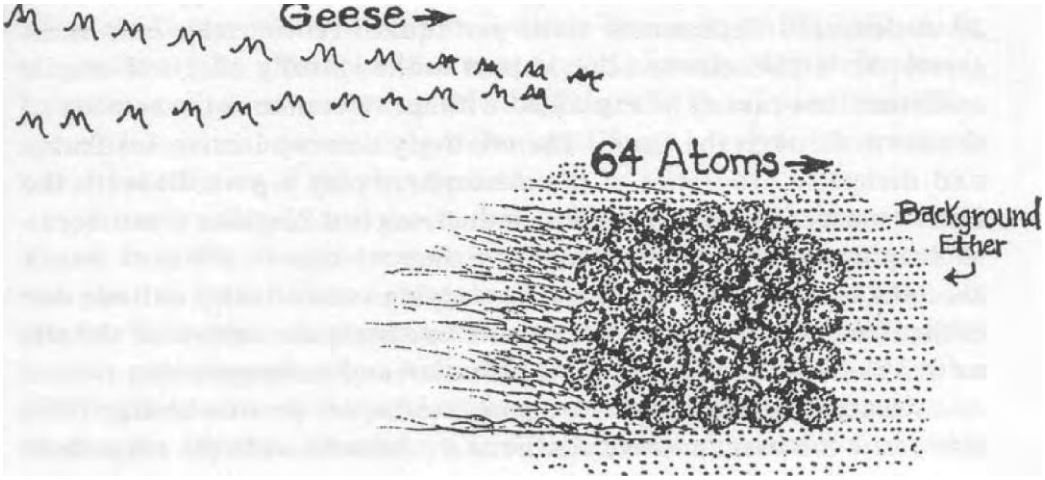
私がこの本で述べる理論は、ニコラ・テスラのことばの確認と展開を通して補強されることができたものに基づく
そして、他の特別な情報と結合して論理的に解釈した結果は、私の先の本「ペンタゴンの宇宙人」で提示されたことに関連する。
この理論は Tesla の「重力の動的理論 Gravity　Dynamic Theory」に近いものと、私は考えたい。
それは、十分に長く生きた Tesla 自身がしたか、しようとしたものを、いくらか訂正さえしている。
大部分の理論がそうであるように、この理論は不完全で、エラーを含むかもしれず、更なる発展と、テスト、将来他の人か、私自身によるか、どちらかによって訂正と改訂を必要とする。
私は、その改訂する時までこの問題に関する私の基本的な考えを私自身の用語「オムニ Matter」（別名「Ether」）を使用してここで述べることにする、そしてそれは、私の前の本からいくぶん進歩している。
注意深い人は、私がこの章のタイトルで、電子推進という新語と「電子推進力」という短いことばを創ったことに気づくだろう。
この本はあまり専門的なことを知らない市民のためのものなので、研究者がいたとしても、私はそれを素人の言葉で言い表す努力をする。そして、私は私自身も素人のようなものだ。
そして、かったるい方程式とともに、論理的に完全に証明されていない非論理的構築物だと、反駁も生んでいる「量子力学」的説明よりは、むしろ、理にかなった役に立つ具体例で私の概念を理解できるようにする。
― 「ねえママ私、数学がこんなにできるわ！私を見て！」と言っているようなものである。
「エーテル物理学」が対象とする概念は、もともと原子以下の「サブ陽子」「サブ電子」が構成している物理的特性の領域である
私は、サブアトミックの核粒子自体についてはそれほど考えない、むしろ、それは、陽子と電子の一時的な構成素材であると思っており、そしてそれはより単純な姿でエーテルの内側に存在すると思っている。
私は、すべてのクオーク、ミューオン、中間子、レプトンその他「相対論的な量子力学」（「R.Q.M.s」）とこれらの「エレガントな方程式」その他を捨て去る。

Characteristics of Basic Ether Particles

基本的なエーテル粒子の特徴

私の基本的なエーテル粒子は、「オムニ」と呼び、それらは、「Omnion オムニオン」と呼ばれる

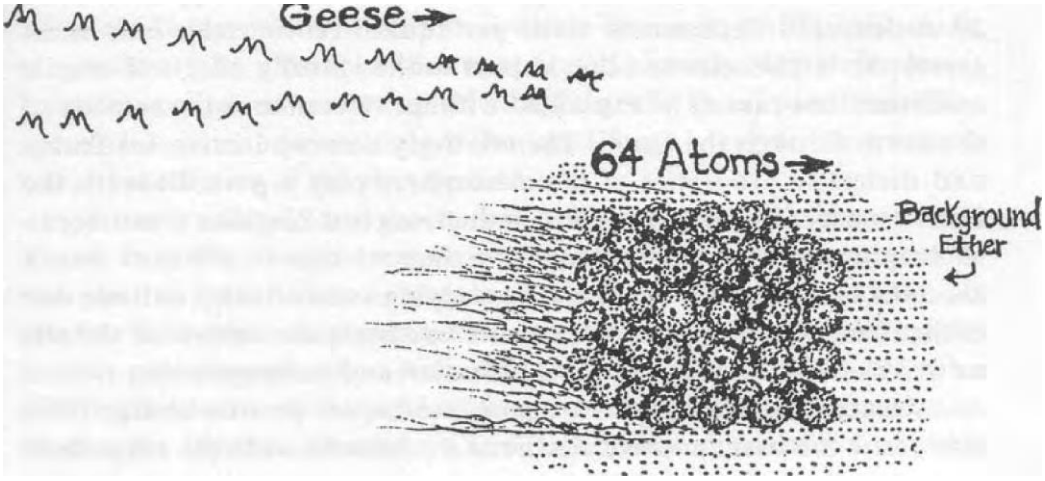
陽核「プロテット protette」を持っていて、下位陰電子は、「エレクトレット electrette」で「オムニトロン」とよんでいる。
あなたは気がつくかもしれないが、この略図は、基本的な水素原子の陽子と電子の、縮小されたバージョンである。大部分の原子のように、Omni は、通常中立で平衡であるが、非常に小さく、超微細である。



その小さいサイズと中立の極性のために、それは簡単に「固体」を通過することができる（実は固体の中にあるオムニによって、中を通すと言うべきなのかもしれない）、
それでも、可視光の赤以下の振動数の特別な範囲の高周波電磁放射線に対して、固体のようにふるまい、その平衡を妨げるので、我々がそれを感じることもできるが、肉眼には透明で、見えない。
それは磁場の圧縮性のために、水素ガスのように、若干の弾力があるので、Faraday が言ったように、「弾力性がある固体」である。
オムニのサイズは小さいため、いわゆる「なにもない空のスペース」は実はほとんどこの非常に純粋な物質が一杯に詰まっている。そして、それはX線よりはるかに、小さいサイズで通常中立のそれは「固体の質量」を透過するのを許すような高周波で振動する。
それらの、ほとんどは「スペース」である（スペースは、オムニで飽和しており、オムニのために質量にこれ以上多くの余地を与えるためには、動かされなければならない）。
恒星間の『スペース』はガス状の物質をほとんど含まず、真空に等しいので、例えばレナード管で、チャージが簡単に動くようにオムニのある惑星間空間は、非常によい伝導体となる。物体から物体へ、磁気力線に沿ってチャージは、自由に移る。
オムニで満たされた空間は超純粋な放射線によって全方向的にしみ通っていて、それは通常平衡している。そして、「ゼロポイントラディエーション」（「ZPR」）と呼ばれている。
この ZPR は絶えず原子物質の電子雲を「鳴らす」そして、「電子軌道」というイリュージョンを創りだす。そして、それは実際、原子と分子を囲む定常波 standing waves で波動運動する電子雲の層である。
これらの電子雲が関連する物質には絶え間ない運動がある、電子の雲は流れ「まわりに電荷が運

ばれ、電流」になる。
これを動かす背後の電流は、長期間動いても、「力」をもたない、
ZPR によって『生まれる』ものに運動量はない。
Omni の群れはほとんどバランスのよいチャージ比率（「1:1」）があって、両方の正と負のインパルスに反応している。
静電発電機は、Omni の電気作用の優れた例を提供する。
十分高電圧な、正と負のダイナミックな下位チャージは、磁場と切り離されて、電子と陽子を形成し凝縮する。
これらのチャージが特別な大きさになる理由は、根底に若干の未知のものがあり、まだ説明されていないが、しかし、量子理論は、下位区分に基本的な電気チャージが、あることを、ほぼ認めている、そして、その電子は、「分割できない」状態のものではない
これは、基本的な論争の種で、電子が割り切れる時、相対性理論は陥落しなければならない。
「基本的な電荷」が認められ、電流が光と同じ速度で動く時、その電子は時間に関係するように見え、したがって、電子の電荷は、多分、時間単位に基づいて蓄えられたオムニの数で電荷量が決まり、それはその時間の間ごとに、陽子がスペースを移動した距離が反映し、実はオムニと物質の間で電荷が流通しあっている
エーテルを操作するためには高電圧の電気放電、または、放射線の力で Omnion-Omnitron 結合が壊れることが必要である。
同じ原則は、電子推進にもあてはまる。
ネガティブな Omnitronic な雲のバリアを透過しポジティブな Omnions に反応するために、強い、高電圧の、高周波のネガティブパルスが、必要で、ポジティブな Omnions はオムニの「慣性抵抗力」の存在が「うまれる」原因となっており、Omni で満たされたスペースを通って宇宙船を推進させるために、質量が他の物体を引く慣性の抵抗状態を変化させるためにここにアクセスすることが必要である。
そのアクセスは回転のない空虚な Omni の芯のまわりで電磁気の細管を回転させるマイクロ螺旋形の「ねじれた」力を使う。
電磁気の細管は磁束によってつくられる電流の回転の成果である。そして、それは動きが変化することで強化される。
空間のボリュームごとの大量のオムニの数は通常の『固体の』質量が保持している数より非常に大きなポジティブな物質の密度を表す、
それゆえに、オムニは electropulsive な航空機が空間を通してそれ自体で推進できるように「実質的に静止した支え」となって機能し electropulsive な航空機はその上に、それを浮かすことができる
オムニの『支え』は、地球と比較して実際ダイナミックである、
どんな時でも毎時数千マイルの速さは、地球上でエーテルを通して動くときの速度の上限を表す。electropulsive な力で、「アクセス」すると実質的に、光速の近くまでこの速度が変えられる
しかし、オムニと地球の間の速さの比較の違いは、ほとんど取るに足らない
いわゆる重力の影響を除いてほとんど「まるで地球がエーテルと比較して動かないと言えるようなものである。

1秒につき186,000マイルで移動する効果にとって、1秒につき20マイルくらいの物体の移動は、ほとんど「静止している」ようなものである
たとえば、液体水素とオムニの間の密度の違いは、
水素原子と小さなオムニとの大きさの違いに関連するのと同じように、実際 Omnion によって占有されたスペースでの量は、Omnitron と関係する。
それは、陽子の下位区分として小さな Omnion があるとみなすことができ、陽子は Omnion に比較してスペース 1 単位につき密度は 12 ほど大きい。
それは陽子を形成するために集まっているが、Omni 同士の間の隙間は相対的に短く、詰まった状態である。(密度が高い)（レンガの間のスペースをモルタルが満たすように）
この『モルタル』は、テスラの「絶縁性の流体」といったものであるだろう
そしてそれは「完全な流体」のように、ポジティブな物体と粒子を「濡らし浸透している」。
電子のチャージの大きさは時間-と関係するように同様に陽子の大きさは時間に応じた蓄えられた Omnions の数に関係するだろう。
オムニは、その振動過程が可視領域の周波数を越えているので、それは、感知できず見たところ見えない。
我々が動くと Omni が速まるか、減速するか、我々の体の中で方向を変えるのを感じることができる。
走るとき、我々は運動量の変化で、体の原子と分子を通してオムニ細管が異なる方向で、経路で速めるか、減速することを強制されて、抵抗（「慣性」）が体の中に引き起こされるのを感じる。
一旦我々が一定の速度に到達するならば、運動量」をつくるオムニを貫通する Omnitrons の穴の、安定したピッチの回転によって、マイクロ螺旋がどんな具合に動くか感じることができ、それらは、あるレベルではわれわれに向かって直線で運ばれる傾向がある。
風によって、または機械の摩擦または不規則な運動でも失われないよう、恒常的な速さを維持するために恒常的な速さでエネルギーを供給しなければならない
また、日常的な物体の作用の中にオムニの影響を見ることもできる
これらが倒れるか、加速するか、運動量がつくか、転落するか、よろよろ歩くか、衝突するか、粉々になるか、はねるか、停止するといった運動における変化に抵抗する。固体の質量をガチョウの群れの例えによって説明すると、これらはその「形態」（「形」）を維持して「空中」（「オムニ」）通して飛ぶ



地球とその進行中のすべては相当な速度で、エーテルを満たされたスペースの中を動いている。
そのうえ、地球は回転して、旋回する。そして、それは相互に浸透している「エーテルの風」の極性と関連して徐々にマイクロ螺旋形のパターンが変わる
いわゆる「重力の大きさは、エベレスト山の一番上では海面より大きく、「物体の質量中心から正確に測定され、その物体の中心と地球の間が遠いところでは、より大きい、
しかし、ニュートンの法則に基づくこの声明は
重力が「なぜ」存在するかについて、我々に話すことに失敗している。
そこで何がそのようにさせるか、または、「質量に正比例し、2 つの物体中心の間の距離の正方形に逆比例し、重力はなぜ変化するのだろうか。
ニュートンさえ、彼の法則は、原因について言及することができなかったことを、
はっきりと認めた。そして、数学的に影響を記述したと主張するだけだった。
全ての固体で「電気容量」は、固有のものである。
原子は、ポジティブ陽子と中性の中性子から成って、陽子と電子から成る核を含む。
これらの核のまわりには、ネガ「電子」が存在する。
全物質は静電荷を含んで、動いているゆえに、「まわりに電荷」が存在し、この流れは磁場を創る。
磁場が回転を電磁界に与えるので、これは、物体の中にある回転のない空虚なエーテル芯のまわりに、回転するマイクロ螺旋形の電磁気の細管をつくる。
これらの小管は、形態の中にある軸、または変化する運動の軸に沿って、相対的に、物体の運動に同調している
そして、「エーテルに穴をあけて通すことによって運動量をつくる。
どんな所定の時間ででもマイクロ螺旋のピッチと直径は不変なので、それは、単純な「渦」でない、それは、中へ、または、外へと動く対数関数的螺旋である。
速度または方向が変化するたびに、マイクロ螺旋形の振動ピッチと方向は抵抗し、新しい動きに適応する。
地球には、およそ 20esu/cnr（1 平方センチメートルあたり 20 静電単位）でマイナスにひくくチャージされた地表面がある
この大気の現象は宇宙放射のイオン化する効果の一部で Omni を通した地球の速さと関係せずに説明することはできない。
大気の誘電特性は比較的非伝導電性のもので、絶縁体としての、役割を果たす。
地球表面の電荷の下で、半導体の大気の外皮は、余剰電子の膨大な海を含む。
地球の表面電荷は、ほぼ不変であるが、宇宙放射線の発生率とその振動数と同様に、それは、地球の表面域の大気圧の変化と、空気の水分含量や高度によっていくぶん絶えず異なっている。
水素を含めてすべての原子は、正味において正電荷を備えている（正味では正電荷になる）
これは、陽子がもつ基本的な正電荷が、電子の基本的な負電荷の大きさをしのぐからである。
水素に含まれる一つの陽子と一つの電子は-質量との比率で最高までチャージされており、すべての元素のなかで最も低い重力をもつ。
元素の周期率表を 1 つでも上がっていくと、水素より上では、次第に複雑さが増加し、元素は、次第に質量のチャージ比率は低くなっていき、電子の比率を比較すると、核の陽子数と一致している。

中性子はマイナスではないので、これらは電子と比較するとプラスの群に加わるが、電気的チャージの一因とはならない、これは、中性子の増加の比率としてあらわされる。
これは、地球に過剰なプラスの量を残す、
そのため地球表面の半導体は大きなマイナス電荷の余剰を受けとることができ、それを保持することができるが、その大部分は 1 秒につき千ボルトの雷によって、地球に一瞬のうちに流れ込む、そして、その電荷は普段は、大気のもつ誘電体の性質と絶縁体の特性のために保持されている。
地球の宇宙運動によって大気から絶え間なく電気が放出され、それは静電荷の流れに変わる。
これは、H.A.ローランドの実験によって確かめられた。
大気のガスは絶縁体で、主にアルカリ性で、地球の、半導体的な外層は主に電子を提供する材料である。そして、それはほぼ絶縁体である大気によってマイナス電荷の大きな蓄積は保持される。
宇宙線は電離層の希薄にされた軽いガスにぶつかってそのプラス電荷が維持される。
ヘリウムと水素は両方とも軽い陽電気を帯びたガスで、重力も、影響して電離層に引きつけられる。
地球の表面と電離層（c620 マイル上.）の間の勾配 c は 150 数ボルト/メートルあり、合計およそ 1 億 7600 万ボルトの、かなりの電界をつくる、しかも、電界は電離層を越えて遠く広がる。
この電界は、オムニに電気変位をつくりその範囲の中で重力の原因となる。
オムニの電気のフィールドの効果は「自由空間」から質量へのオムニの通り道を通して働き、ほとんど瞬間的で光速に近いものであり、重力は、電界の源の方である下に向かって発動される。
この電界より上には、地球の重力場の大きな効果は、ない。
地球の磁場が月を包囲しているので、そこには電界がまだある。
「下位イオン」（Omni）が電界の中にあるとき、下位負電荷（オムニトロン）は陽極（電離層）に引きつけられ、陰極（earth）には、はね返される。
これらの吸引/反発の力の影響は、各々のオムニを「移動させ」るので、誘電空気とオムニに圧力をかけることになる、
地球の近くの、Omnitronic な雲が各々のオムニオンのまわりにあるが、地球から 300 マイル以上に中立の地帯があるので、オムニオンはこの上にいくよう激しく強制される。

重力の「逆平方」法則の明確な原因

いかなる地点でも、地球の回転による表面の速さと大気の速さは、地球の中心からの距離に応じて、変化する。
海面にある物は、エベレスト山の一番上にある物体よりゆっくり、オムニの中を動く
高い高度の大気のガスと、電離層の間の電位は低いが、高高度の大気と、エベレスト山の表面との間の電位は、高い。
したがって、海面にある物と、オムニトロン的な雲の位置との間は大きく、トータルで大きな電界の強度がある。
速度の増大は、オムニのフィールドへの効果の増加をオフにする、そうしたこともあって、地球

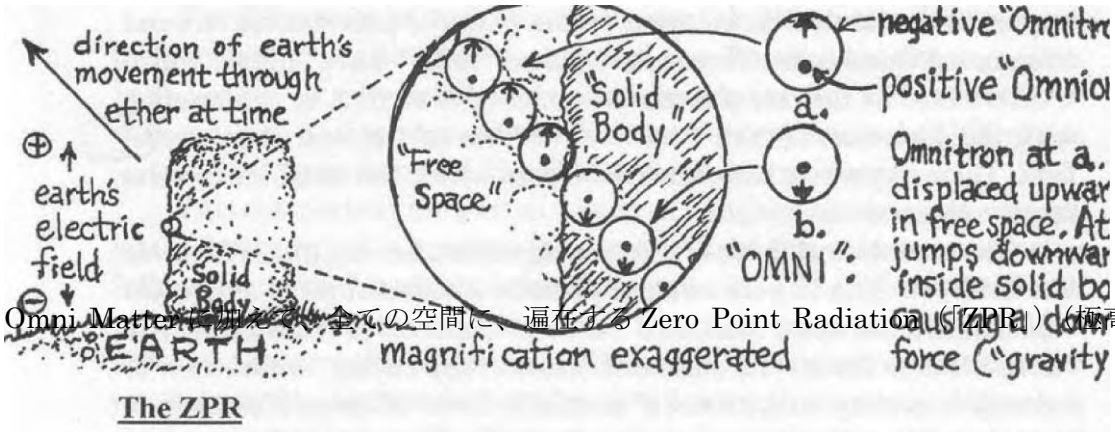
上の低いところにある物と、高い高度にあるものとの間で、重力が多いか少なくなるかすねことで、ほぼ等しくなるようにされるが、エベレスト山以上の地球の表面のチャージを超えると空中の飛行物体への、重力効果は減少する
地球の「重力フィールド」の中でのオムニトロン的な雲の位置との関係と、これらの電位の違いは、そのフィールドの中で動く物体の動き方の違いが、なんで、おきるのか、理解させる。
つまり、いわゆる「重力」は電気的圧力の違いと正比例して変位する。
この比較をみると、より高い高度と早い速度の物体には、低い重力が働くことを示す
なぜなら電界は Omnitronic な小雲に対しては低い影響があるからである、そしてこの逆もまたいえるわけである。
これは、電子推進に関係し、重力を減少させ、反転させるためには、すぐにこれらの配置を支配し、慣性、運動量と「重力」を総合的に、コントロールしそれを拡大しなければならない。
電気変位は動きに影響する、なぜなら振動しているマイクロ螺旋形の細管は、エーテルのスペースを「生む」方法に影響を及ぼすからである。
固体の内側に電界が入るのを遮るので、細管は、集中的な回転になる傾向となり、これらの質量部分が下に落ちる重力を変化させる。
「重力」は、この電気変位の変化に抵抗し妨害することで発生する。
その「仮想質量」の増加が課せられたとき、球が動く理由とは、つまり、仕事量の増加が、動くことを要求するからである、しかし、その内側へ重力が働か無くなるのは、増加した電荷の「ファラデー箱」効果からではなく、オムニの上に負電荷の影響が及び、質量を通すオムニの動きへの抵抗が増える傾向によって生まれたものだ
.16
このよう電場とその配置が影響して固体の中も外も電気の誘電率が変化するので、マイクロ螺旋形の細管は集中的な回転になる傾向がうまれ、これらの部分の質料が下へ向かう重力が変えられる
「重力」は、電気変位のこの変化への抵抗によってうまれる。
マイクロ螺旋形の力のチューブ
宇宙での地球の運動のため、静電気と、分子の電荷は電流になる。それは重さのある物体の中で磁場を創る。
原子または分子の「領域」の電流と電場は、磁場または動きによって統一される。
地球のエーテル/Omni 場を通しての物体の動きは「エーテルの風」の効果で、質量を通過して絶えず吹く風で、方向が絶えず変わる。
Omnitrons は「下位電子」なので、これらにも共鳴する。
物体の中の Omni を通して電気的な容量の経路が形をなし、これに反響する分子流の動きは磁場の形をうみ、それは回転のない Omni 芯のまわりのマイクロ螺旋形の回転部分と偏光面
となる
これらのマイクロ螺旋形の「チューブ」には、線型の 1 秒ごとの運動率で確定される「ピッチ」がある、それは光速に近い速度の回転の直径（または「波」）と連結している。
これらの小さい波は球状の面がある。そして、それは形の大きな球状波と結合することが可能である。

電磁気のマイクロ螺旋形のチューブは、ピッチを持ちそのドリルのような機能は恒常的なピッチを持ち、直線速度で動く回転のない空虚なオムニ芯のまわりに、まっすぐな経路の穴をあける傾向がある（ニュートンの慣性と運動量の法則に合致している）
方向または速度の変化は、抵抗（「慣性」）に会う。
質量の全ての群れはすでに動いているので、常に勢いがある。
地球と関係して物体に安定的に示される慣性は本当にその動きが生み出す効果なので、この慣性は本当は動きである。
慣性は、したがって、動きの様相の変化への物体の抵抗である。
抵抗と慣性という 2 つのことばは異なる状況で使われ、抵抗と慣性で、速さや方向の「変化」が定まる。

回転する地球の近くのオムニから、強い負電荷を受ける
そして、地球にあるポジティブな質量によって、Omnions は下に引きつけられるが、Omnitrons は、上へ反発し、物質の中心から外れたところに『小雲』をつくる。

（「静止している」）海面レベルの物体の表面にオムニが入ると、オムニに対する地球の電界の影響は変えられる、
一定の誘電率の変化は、質量の中のマイクロ螺旋形のチューブの回転を下にジャンプしてもっと中心に向かうよう強制するが、オムニの密度と堅さは、そのような変化に抵抗する。

電磁チューブは質量の一部なので、下へ落ちる力は、Omitrons の下への圧力によってつくられる、それを我々は「重力」と呼ぶ。
この効果は、高圧の水の流れがあるホースと似ている。
水の螺旋形の力は、ジャイロスコープに安定性をつくりそして、それを規則的に前進させることで、まっすぐな直線にさせる傾向がある。
「まっすぐにする」行動は、いわゆる「重力の力」にたとえられる。
電磁内部作用の、ほとんど光速の相対速度と地球の電界の両極性のため、固体がエーテルを通してたとえどの方向に動いたとしても、これは真実である。
重力は、したがって、物体の運動量の変化に対するオムニの抵抗反応である、
誘電率の違いが、質量へ移されて、その絶えず変化する運動の方向と速さは、普遍的にあるエーテルのスペースを通って動く。



Omni Matter に満ちている全ての空間に、遍在する Zero Point Radiation（「ZPR」）（極高周波、

パワーと密度）は、全方向的にしみ通っている。
1 人の科学者は、いわゆる「黒体放射線」を ZPR によるものと考えた
(T.H. Boyer,
（T.H.ボアイェ、Blackbody Radiation Spectrum の起源--量子力学の仮定なしで
Without Quantum assumptions,、
Phys. Rev. 182 [5], pp. 1374-83 [1969]).
フィジカルレビュー182［5］（pp. 1374-83［1969］））。
Boyer も、非線形の双極子が特別な方法で ZPR スペクトルのエネルギーを吸収することができることを見つけ出した（ランダムな電気力学：
古典的な電気力学の理論による古典的な電磁ゼロポイント放射線、
フィジカルレビュー11［4］（pp. 790-808［1975］））。
もう一人の科学者、はランダムな ZPR の個々の変動がプランク長（10-33cm）のスケールで 1094 グラム/cm3 で ZPR のエネルギー密度が計れると主張する
標準的な放射線検出器の、周波数の反応は、それらが関係している非常に高い周波数スペクトルに対応して特に変化した

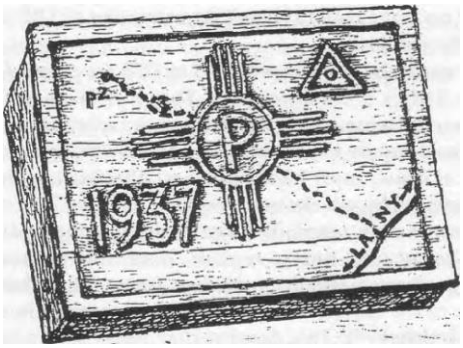
(J.A. Wheeler, Geometrodynamics,
（J.A.ホイーラー、Geometrodynamics、
Academic Press, N.Y. [1962]).
アカデミック・プレス（N.Y.［1962］））。
最後の章で、私は原子状水素プロセスで ZPR エネルギーを引き出すことを詳述する。
1962～1975 年のこれらの特別の研究は後の事である。そして、Tesla のたいへんな発見のずいぶん後に来る。
これらの研究は、単にそれを再確認しただけである、
そのような激しい、特に高い高周波放射線がスペースを通り抜けさせるには文字通りにさらにより純粋なエーテルがつまっている下位電子負電荷によって囲まれたプラスの質量の超高性能の束で出来た、高密度の、スーパー高周波が通るスペースを必要とする。
この機能は固体水晶結晶板を安定的に作る四面体の二酸化ケイ素原子に関係している、そしてそれは、電磁放射に反応して、無限に高い周波数から、最も粗い周波数まで、同時にあらゆる方向に（「全方向的に」）伝導することができる
この高密度物質は、放射線の周波数をＸ線周波数域から弱い赤外線までの間に下げて固体としてふるまうが、それでも、広くいきわたって、相互に浸透し、すべてを濡らす「完全な流体」としてふるまう、
（原子で作られた）動く固体の大部分には原子構造に「隙間」のような多くの部屋が含まれている。
電子推進は、その「慣性抵抗力」を主張するオムニへ影響する原因となるために、
外部に発射された IR-から出される非常に高い電圧の可視領域の放射線を利用する、
回転する電磁気の細管をつくるために、内部の（分極化した）低周波の波と結合し即座に、運動量を合成する

そしてエーテルで満たされたスペースに穴をあけてそれを通して宇宙船を推進する。

An Old Wooden Box and a German Inertial Guidance System

古い木の箱とドイツの慣性誘導装置

1979 年に、サンタフェのフリーマーケットで、私は 1937 年の「p2」と呼んだ秘密のプロジェクトの雇用されていた初老の Pojoaque 人が所有していた古い木の箱を調べた。それはウェルナー・フォン・ブラウンに使用されていた。
男は、この仕事で使用する道具をいれるために、箱を造った
.彼は、「New Mexico の民衆のやり方」で、プロジェクトの日付が書いてある「地図」を開いて、ハイウェイとプロジェクトの行われた位置と名称、プロジェクトのシンボル（フォン・ブラウンがメンバーであったプロシアの三角形の真ん中に点がある Illuminati のシンボル）を示した。
男が生活していた Pojoaque には、地図によくわかるように大きな「P」が、サインとして描かれていた。
下の図は、私が古い箱を描いたものである：



1979 年の春の次の週末、に、私はアルバカーキ・サルベージ会社へ行った。
アメリカ東中央部の「King's Surplus 市」で非常に変わった大量の材料が別々の小さい堆積で全く積み重なっているのを発見してうれしかった、そこで私は、しばしば私の研究と発明に関連する軍の余剰品を買った。
堆積物の上に私がすぐに認めた装置は空飛ぶ円盤で求められる一種飛行用「コンパス」であり、（それは 30 度の倍数で増大する）1949-53 年の間、Texas Kermit の私の裏庭に使わずに寝かされていたが、それは証人となった
装置は 30 度増大を示しており、各々12 の方向のために 14 の接点があり 2 つの 6 ボルトのモーターがあった
モーターはコンパスのリングを回転させるもので、ラベルは 1943 年 10 月 1 日に Nazi Germany Liztによって製造され（52 台ある装置のうちの 1 つを意味する）127-178 という製造番号を示していた。

装置は「Peiltochter kompass」（「極地を示すコンパス」）と呼ばれ（それは「マイスターkreisel kompass」（「マスター・ジャイロコンパス」）からの信号によってコントロールされた）それは装置が内部誘導装置の片割れであったことを意味する。

そして、「KT-p2」（「旋回するソーサーSaucer」― p2 ―を意味する「Kreisel Teller ― p2 」）という名前をつけられたプロジェクトのためで
（その文字「p2」はフォン・ブラウンの指揮によって動いていた 1937 のロスアラモス・プロジェクトを示していた。そして、1943 年ドイツにナチ空飛ぶ円盤プロジェクトのための公式の秘密の名前に指定にされていた。）
Space Aliens で明確に詳しく書いたように、私は 1957 年後半、第２次大戦の間に北ドイツで製造されたガンカメラ映画のオリジナルのリールを見た、
同じ日の午後、そのドナルド・キーホオ少佐は、全国テレビで彼のいたずらを行った。

いくつかの映画が、同じ男によって作られ、私の空軍情報部のグループが元となるアメリカ陸軍第八空軍グループに所属していた時、B-17 爆撃機で特別の爆破を実行しそれを撮影した映画は、明らかに有人の小型電子パルス的な航空機の「飛んでいるカメ」がいるのを示していた。
その映画は爆撃機のまわりを高速で飛んで攻撃の注目を引き寄せ、これらの任務に干渉した。
1945 年の春に、ロシアは Berlin に迫ったが、装置全体の写真は下で示される：

ジョージ・パットンは、ロシアの領域から、バルト海の Peenemunde パーネミュンデのナチ・ロ

ケットセンターまで奥深く入って特別な武装グループを捕えた
このグループに付いて、「タンク部隊」に偽装した軍情報将校は、ロシア人によって持っていかれる前に、プロジェクトで戦略的に重要性のある技術的な図面と、その他のどんなものでも探しだすことと、すべての空飛ぶ円盤の資料を取り戻すこと、特にパーネミュンデプロジェクトにある同じものを破壊するといったことに、仕事の目的が定まっていた。
塩洞穴の地下奥深く、パットン将軍は 200 台の空中での誘導装置（別名「内部」誘導装置）を発見し、このシステムのための技術的な図面と仕様がすでにアメリカに所持されていたという事実を知らなかった彼は、これらのシステムを破壊するよう彼の上司によって、命令されたことに憤激した。
ＵＦＯを取り囲む電界の作る「ファラデー箱」効果のために磁気コンパスが役に立たず、そして、それは地球の磁場を遮るので、空飛ぶ円盤の作動のためにこのシステムの発展は緊急に必要であった。

マスター・ジャイロは離陸の前にコンパスが真北を指すように調整されて、走行の間、その位置を保持し続ける、言ったように、6 ボルトのモーターは回転し、コンパス方向が、正しい飛行方向を反映するためにギアを入れられており、ベルを鳴らす
この 30 度の増加または倍数で、最新の中性子爆弾弾頭を運んだドイツの「V」ロケットのタイプ（「Vergetungswaffen」または「反撃用兵器」）といった他の装置で使われそして、私が Space Aliens.で詳述したように最終的な「手詰まり」で使われ、最新の「電子-U-Boats」の後で牽引された特別な小型潜水艦から水中で発砲した
私が購入した後、セキュリティ・エージェントは私が何を所有したか知ったので、彼らは（King の Surplus City の所有者の息子 Mark King のところへ行って、彼を厳しく尋問した。
基地から不要になった払い下げ品をいつも彼に売却するため持ってくる Sandia 基地の職員から大量の小さな払い下げ部品を購入した彼は、Sandia 基地からの売渡し証を見せた、
結局のところ、大量の機密にされた払い下げ品を盗んで、隠すことを目的として『2 枚のレシート』を使って自分の利益ために売っていた
保安員は監視するため人を投入し、再び、彼を襲ってとらえ、訴えて、投獄した。
彼らは、私から装置を取り戻すことができなかった、
私は「まだ秘密にされていた装置の目的を確かめたことでセキュリティルールの違反になったが、罪のない購入者」であった。
22
私は、1945 年後半に Paperclip 作戦の下にサンディア基地にその後 116 人以上の空飛ぶ円盤科学者と 15,000 人以上のドイツの人員がつれられてきたときに持ってきた 1943 年製のナチの空飛ぶ円盤の内部誘導装置を購入した、
そしてそれは、「引き分けによる取引」に従って減刑された特別な秘密の「取引」の一部として、ニューメキシコに持ってこられた。
「p2」が科学的に意味していることに関して言えば、Nikola Tesla によって「ポテンシャル」、「陽極プレート」または「プリマリー」を意味するよう指定してこれと似たように、使われていた。
Tesla の 1890 年代の講義の 70-73 ページの抜粋した情報に図版とそれに続くものが、含まれてい

て、そこから私は Tesla がどんな具合に彼の「p2」を創設したか見つけ出すことが出来、最高の情報を提供していた：
ＤＣ『ブラシ』電極と. A.C の『圧縮』された電極は、エーテル・キャリヤーを引き寄せ
船の質量を通してマイクロ螺旋形のチューブを作製する、そしてそれがまわりを取り囲んだ中にエーテルの穴をあける。
左側の電極は、特別なテスラ球につながれ、逆側の A.C.電極と対にされると、マイクロ螺旋のピッチの角度を増加させ、質量を通過するエーテルの速度を速めて、船を推進させる。

Low and High Frequency Electromagnetic Waves And Tesla's Wireless Transmission of Energy

低周波と高周波の電磁波と、エネルギーの Tesla の無線伝達

低周波電磁波は固体を通すことができ、「地球に近づく」傾向がある、高周波の波は、固体に浸透せず、「表皮効果」の原因となって、「地球に近づかず」、むしろ直線で地球から離れて外へ向かって放出する傾向がある。
ニコラテスラは、Colorado Springs の実験において、大気と固体で高電圧の高い周波数の波と低い週波数の波動の効果を調査した地球上で最初の人間であった。
テスラのコロラド・スプリングス実験の範囲は、とても広範囲だったが、これらについて科学ジャーナルは誤解によって麻痺し唖然とさせられ、他にもいた科学者のもとからもジャーナリストは去っていたのでほとんど何も報道されなかった.
Colorado での Tesla の実験の多くは、電子推進に関連があった。
長波は宇宙船の内部の質量に影響を及ぼす。そして、ドリルのような電磁気の回転する運動を発生させ電磁気のマイクロ螺旋の（「力のチューブ」）をつくることによって、「動きを合成し」、エーテルを「通して」その質量を動かす。
同時に、宇宙船の進行方向にむかって先端の反対側つまり最後部、移動方向の反対にある高い振動数は、エーテルが宇宙船の質量と、その容量を通過して進行速度を加速する原因になる
（そしてピッチ角が増大することになる）それで、マイクロ螺旋の押し分けて進める作用は、空間を通して宇宙船を推進させる。
力強い縦の電磁パルスを放出するのが可能な低周波波動も、大気を分極化しコンダクターにし、U.V ウルトラボルトの「キャリヤービーム」に沿って遠くの地点）に特別な波動を送ることに成功する。
高圧長波、キャリヤー光線によって進行方向にある遠くの地点にむかい、更により高い振動数波をその地点にもたらすことができ、エネルギーをひき起こす高周波を届ける。(強力なピークの長波)
これは、テスラの「ワイヤーなしで電気エネルギーの伝達の発明」の基礎であった
彼のエネルギー・ビーム」と「殺人光線」の発明でもこの電磁波の操作システムは「は同様に同じ基礎として使用され、3 つ全てでつかわれていた。
これらの特徴ある電磁波の操作は、テスラの 19 世紀の「エーテル物理学者」の研究への注目によ

って刺激された電子パルスの操作とブダペスト・ハンガリーでの（1882 年の、）彼自身のすばらしい回転磁場の創造的な直観と密接不可分に関係し、影響されている。
24
Tesla は力が回転する「力のチューブ」を合成するのに回転磁場を使うことができると理解したので、この回転磁場の発見は彼の電子推進 electropulsion の発見に関係した。そして Faraday と Maxwell によって、固体の性質に生じる現象が述べられ、Tesla によってそれが理解された。そして、それは宇宙船を空間を通して推進させた。
イングランドの J.J.トムソンによって、チューブは 1881 年にも議論された、しかし後になるまで、トムソンはエーテルとチューブを特に関連づけることはなかった
ニコラ・テスラは、チューブを彼の意図した電子推進に関係させた。
Tesla は低周波光線を使う-パルス誘導について発見した。
定常波(縦波)の 4 分の 1 波長が原因で大きな電磁パルスを突発させることができ地域で大気のガスを興奮させ、爆発的にそれらが拡大する、そのエリアでものすごい内破とたいへんな熱量の吸収が続き、即時の凍結の原因となる
（非常に高い刺激的な波をともなうことによる）
このプロセスは内破によって波が戻ることに続いて爆発的なショックウェーブを創る。そして、これは核爆発と類似している。
たとえば、（キャリヤー-光線によって導かれる）3,100 マイルの波長の
60cps サイクル毎秒(周波数の単位)の低周波を使うことで、775 マイルの 4 分の 1 波長で噴火するパルスを、得ることができる-.（速度の要素で 751 マイルの速さに訂正される）。
刺激的な 50 メガヘルツ周波数のパルスを重畳させることによって、言い換えると「冷たい内破」の原因をつくることで大気のガスを興奮させ、熱を吸収することが可能になった。
波長と伝達の方向を変えることによって、地球の目標地点に届ける効果を生むことができる。
（テスラの「光線」の基となるテスラ・イオン球は、真空のガラスの容器に硬質のアルミニウム半球が入っている。
半球状の端末の中心に高電圧の D.C.直流を当てることで興奮する。
分極化した光線は、普通平らな面の中心から発せられる。
電圧によって周波数が、確定する。
イオン・ビームは分極化し、集中して、長い波長が球状に導かれる。そして、遠くの目標に、テスラの「特別なコイル」によって拡大される、それは重畳した高い周波数の波面を拡大する、そしてそれは 4 分の 1 波長で目標地点を「鳴らす」、実際、しばしば音が鳴り響く。
球の外と、光線の近くで、低周波の高電圧の交流（「力の波」）が、環状の電極から発せられる、そして、大気につくられたビームの伝導の道に沿って導かれる、そして、遠くの目標へ放射される
4 分の 1 波がピークに達すると、最も大きなポテンシャルをその「地点」に届ける。
テスラについてのこの考えは、伝導体をとり囲む誘電体には実際に電流を「導くだけ」の機能があることを示すマクスウェルの概念に刺激されたかもしれない。
25
1908 年 6 月 30 日のシベリアの Tungushka ツングースクの爆発/内破は、多分危険な実験だった

だろうし、または、テスラの巨大な Wardenclyffe ワーデンクリフ発振器の使用での不注意な結果が、このプロジェクトが決して完了されなかった隠れた真の理由だったかもしれない。
この方法は、「環境から」のエネルギーの吸収を含み、熱が熱から冷却化に移る、ことも示さなければならない
これは、さらにたいへんな別種のエネルギーの発見であった。
この Tesla の方法は大気の可能性を「開いた」。そして、これはテスラが「環境」から来る核エネルギーについて言ったことと一致している。
Tungushka ツングースカの爆発は、テスラから J.P.モーガンへの 1934 年 11 月 29 日の回顧の手紙で言及したように、この爆発の数年前に V.I.レーニンによってテスラに「非常に魅力的な申し出」があったことが、真の理由であったかもしれない、。（マイクロフィルム、米国議会図書館）

レーニン申し出は、1917～1934 年にあり、テスラがモーガンをじらそうとして失敗した試みに言及していた。
Tesla の「ビーム」兵器は、以下の具体例でほのめかされた：
Tesla's TELEFORCE Discoveries

Tesla の遠隔力 TELEFORCE の発見

Tesla の遠隔力発見は、1900 年から 1940 年の間に発展した、それは真空ではない大気に自由に光線を生み出す「新しい」方法で「非常にたいへんな電気力」を創り
力を「拡大する」「新しい」方法であり、電子推進力の「新しい」手段であった
（William L. Laurence（New York Times）1940 年 9 月 22 日,11（7 ページ））
実はテスラの装置は 1 つ 1 つ別々に並設されたものとは異なり、これらの 4 つの「新しい」発見の全てが一緒に働くこともできる、装置であった
すでに、コロラド・スプリングスまたは後半はニューヨークまたは Wardenclyffe の実験で別々にテストされていたが、ただ 1915 年は例外で、彼は、光線を発射する電気エネルギーで動く電磁パルス的なミサイルをテストした、
そして、彼はニューヨーク市の夜、彼のホテルの窓を危険にさらして、小さな、electropulsive なプロトタイプの実験的な試験飛行を一人でテストした、
そして、それらは非常に大きくてより野心的なスペースシップのための準備の実験的な根拠として働き、それを彼は設計した。
そして米国政府の、彼らはおそらく彼が気違いだと思ったので、それは繰り返し拒絶された。
それでもナチスは Tesla の電子推進力のテクノロジーが、機能するかどうか懐疑的だった
実は 1936 と 1937 年に Los Alamos で Wernher von Braun ワーナーフォンブラウンがこの概念をテストし、ヒットラーの最終的な承認を得るまで、納得しなかった。
フォン・ブラウンのドイツへ帰還した直後、1937 年後半に、ほぼすぐに建設は開始されている
最初は Uboats の鉄の気密室を使った、大きな「葉巻き型の」船で、大気で用いるディーゼル発電器と宇宙で用いるバッテリーがついた密封可能なシステムを、すでに備えていた。
そして電磁内部作用の強さとそれに働く重力との巨大な差から見て、船体の重さは明らかに問題ではなかった。

それ以前に Tesla にはロシアからの申し込みが実際にあった、
私は、テスラはナチスとアメリカのロスアラモス実験で、故意に、または、知らずにナチスと、協力したと考えている。
いくつかの未確認の研究所を通して、テスラは研究したと言った。そして、それは非常に真実である可能性がある。
ナチ・スパイとかんがえられる者を注目していくと、Tesla の最も個人的秘密に這うように迫った 1 人の者が、あった、その人は、America で彼のスパイ活動をしたが、彼の活動に隠されていた真の目的のため、後で有罪判決を下されて、収監されたが、ナチプロパガンダのための宣伝以外は公的な記録には決して残されなかった。
ナチの「p2」プロジェクトのやり方にテスラの electropulsive な発見の要素が完全に同時に使われているのが見られることを説明するのに、この関係が、最も有望な説明だった
戦前の von Braun フォンブラウンの New Mexico での冒険は、秘密政府によって市民からその後隠されたという事実はナチ空飛ぶ円盤プロジェクトへの言及によらない限り、説明することができないような類の、重要な秘密で、非常に魅力的な問題である。
私はPeterバンDresserという名のアメリカのロケット工学者と個人的な友人であった事がある。その人は von Braun フォンブラウンと Robert Goddard ゴッダード博士の戦前の活動に怒っていた。
そしてその人は 20 年代から New Mexico にいて、証明するために残されたものはほとんどないが、そのような連携を隠すための情報のセキュリティ基盤が少しもなかった、
1930 年代の von Braun フォンブラウンの秘密の Los Alamos 活動での連絡係と親しかった、
「ロケット研究」が唯一のものだとしても、von Braun フォンブラウンは戦前のアメリカと関係していた人である。
ヒットラーとヒムラーHimmler によってパーネミュンデプロジェクトの研究リーダーとして、彼は、すでに任命されており、そして SS の Ubersturmbannfuehrer へ進み、そして、America で冒険をするため Hitler に「休暇」を与えられた。
メスカレロにあったNew Mexico研究所のRobert Goddard ゴッダード博士の発射地域はRoswellに近いエデンバレーにあったが、そこは、遠く南の Los Alamos での知られていない第 2 次世界大戦前の研究には少しも関係しておらず、多分そこの von Braun フォンブラウンの秘密のプロジェクトについては何も知らされていなかっただろう。
テスラの発見について世間に流布された意図的な誤解を最もよく伝えている証拠の 1 つは 1943 年 1 月のテスラの死亡の直後にすべてのテスラの文書と装置は、FBI の手に集められたがそのことから見ても、特に、彼のシステムの名前"TELEFORCE".つまり「離れたところからの力」、の意味の重要性は明らかである。
文脈から見てシステムでは 4 つの記載された部分が一緒に使用され、空飛ぶ円盤推進力に明らかに適用できる、
かつて、私はこの偽装を指摘し、1993 年の声明で正しく説明した。
空飛ぶ円盤を発明することができたただ一人の男性との間の関係をうまく隠す仕事をした秘密工作員に、私は、その声明を手渡さなければならない。
たとえテスラに十分発展する可能性のある実用模型を造る金が無かったために彼の最大の発見を

与え世界に印象づける公明正大な機会が決してなかったとしても、当然信用に値する発明者として、すぐにでも社会的に受諾されるべきである。
彼にお金が決してなかった理由は、依然として貪欲な独占者によって秘密の彼の名前で設定された「私権剥奪法」のためで、考え方と、商品と業務において、技術的自由と本当にフリーな市場が怖かったからである。
28

2 章エーテルの特性の探求

研究初期の背景

エーテルの特性に関する長年の研究と思案の後、1997 年に、この本を完成させる前に、私は他にどんな人が実際にエーテルについて言ったか見ることに決めた。
私が入手できた資料のいくつかは、間接的な情報で、誰かが他の誰かに言ったことだった。
私は、これらの「度重なって伝えられたこと」が正確なことか確認しようと思った。
いくつかの困難の後、私は Edmund Whittaker 卿による古典的な本（エーテルと電磁気理論の歴史）の復刻版を求めた（1951 年に修正され拡大した第二版の I 章および II 章
1910 年に存在した、この書物の 1910 年の第一版はかつて公開された中で多分、エーテル論に関して最大の包括的な書物であっただろう、しかし、1951 年の改訂版は単にエーテル物理学を「許容できるよう」に簡明にしただけだった。
「デカルトの時代から 19 世紀までのエーテルと電磁気の理論の歴史」という題で、第一版はスコットランドで印刷された。
第二版は、量子力学に関連した「新しい資料」を統合していた。
第 I 巻は、古典的な理論であった。
II 章と III 章は、1926 年の相対性と量子論の起源になった
1910 年の第一版も 1951 年の改訂版も Tesla には言及していないだけでなく、年代順のシーケンスからみると「科学者が電子推進に関して何を実際に狙っていたか指摘せず、改定版では鋭く批判する』ように見えた。
Nikola Tesla に関する情報は省略されていたが、そこには非常に価値ある関連した情報があった。
ホイッテカーは序文で、述べた
現在空間は、電磁波を伝達する特性を除いて真空と考えられている
量子電磁力学の発達で真空の状態を、電磁界が『ゼロポイント』で振動する位置として新しく理解し、電荷と電流のゼロポイントの変動は誘電率の変化にともなう分極化の様に不変性のものではなく変化するものになっている（すなわち、それらはエネルギーを含む）

このように、ZPR を認識するが、すべてにそのような波が常にあるとしても、量子論は 1/2 の「量子」が占有するとして、本質的に「ゼロポイント」の変動の可能性を無視する。
Whittaker は、エーテル論支持者がエーテルと関係して地球の運動を観察することについて怠慢ではないか、そのことは理論の失墜の原因となるとの、疑いが生まれていると、言った
しかし、事実は相対性理論の科学者が出版会社の利益によって支えられていることを示している
急いで、墓を掘り起こし、それがまだ生きているのに、間違った理由からエーテル論が死んだとして、土を放り投げる
この誤りの多くは、最も論拠が薄弱な支持者に批判を集中させたことだった
そしてその人はエーテルの一部が地球によって「運ばれる」と思っており、エーテルが存在するためには、地球から数ポイント離れて光学収差が観察されなければならないと考えそれを確認すべきだと考えた。

この考え方から見て事実が否定されたことでエーテル論は「終わった」と言われた。
エーテル論の中で最も弱い誤った理解をしていた支持者の考えを宣伝することで、メディアはエーテル論を相対論的量子力学 RQM によってあわただしく簡単に葬式に出し、騙されやすい市民が相対性理論を承認する道を開いた
私は Whittaker の 1951 年の版が意図的に、電子推進に関わる重要な事実を鋭く批判していると結論を出した。そして、私はそれをこの書物で読者のために正当なものにしようとした。
現在の私は、Whittaker の本を読む前よりも、私の理解した Tesla 理論に対して不安がないと感じているが、それは、ただ私が何に目を向けているかよく理解したことによる。
私の Space Aliens の第二版で言ったように、私が見つけた事実は正確である。
ホイッテカーの資料をより正確な法則に再編成することで、私は多くの「新しい」ドキュメンテーションを発見した、(以前の「古い」資料でもそうだ) その 19 世紀の科学者は電子推進力の追求中だった、そして、その時代の特別の科学者の考え方と私自身のものとの面白い類似点があった、そして、実は彼らが言ったことについての、若干の誤った概念を取り除くと、どの程度類似点が存在するかよく理解できる。
私は、electropulsive な「空飛ぶ円盤」の作用の、「証明」と言えるものが食卓の向こうからデザートのプリンのように飛んでくると、多数の出来事に関して意見を述べた、
テスラの追求の原因となった既知の理論を検討し、彼らの発見にテスラが何を貢献したのか理解した時、何がそれを隠し、誤解し、最終的に隠したか決定することは、私の意図であった。このために、エーテル物理学関係する簡潔な歴史とドキュメンテーションを発表する
J.J. Thomson の「電磁気の運動量」運び手「carry-along」としてのエーテルの概念に戻る
量子力学の創始者、マックスプランクは、ある程度このエーテル論の形を特定し、エーテルに回転はない状態でなければならず地表近くを同じ速度で持ち運ばれ、空気のように、圧縮でき重力に従うと言った、
プランクの信じていた、メカニックな概念からみると弱点があったが、意図的にメカニックに徹したしたものからみると、予想外の何かがあった
J.J. Thomson（1856～1942)、電子の発見者、トムソンは異なるよりもっともらしいエーテル論を理論立てた。トムソンはマクスウェルの初期の理論に基づいて直線で動くチャージされた球状コンダクターは、媒体に電流を発生しなければならないとした。
(Phil. Mag. xi [1881], p. 229).
（Phil. Mag. xi［1881 年］(229 ページ))。
12 年後の 1893 年に、彼は「電磁気の運動量」が発見されたと主張した
そこにある電磁界…はあらゆる単位量の機械的運動量を保管した。そしてそれは、電気と磁気のベクトルのベクトル積と比例している」と言った。
(J.J. Thomson, Recent Researches in Elect. And Mag.
（、Elect. And Mag[1893]、13 ページ。Recent Researches J.J.トムソン)。
[1893], p. 13.)
トムソンも、動く力のチューブの理論をもったと言われていた
それは、1891 年にファラデーが言った初期の仕事に立ち戻らせた
その分子構造は、静電力のチューブと第二の力と考えられている磁気力とが、密接に関係する、

彼は、..エーテルそれ自体が、メカニカルな運動量 x 単位量につき（量（1/4*pi*C）[DB]）の伝達物であると述べた
[DB] per unit volume." (Phil. Mag. xxxi ［1891 年］、149 ページ; [1891], p. 149;

Recent Researches in Elect. and Mag.
電磁気の最近の研究 （1893 年], 1 章.）
[1893] ｃ ｈ ａ ｐ 1.）
Tesla Shows Up
Tesla が現れる
トムソンによるこれらの「発見」に注意することは面白い
しかし彼の最初の推測のあとに続いたことは、マクスウェルの理論に基づいており、また、1891 年 5 月 20 日コロンビア・カレッジ（N.Y.）での、アメリカの電気学会でのテスラの講義に続く（そこにおいて、テスラはトムソンの仕事を以前に先取りして行った実験と、彼によって完成した技術と機械の実証とを、初期に W.トムソン（ケルヴィン卿）が、イングランドで「成し遂げることが不可能だ」と言った周波数と電圧を実験的に使用可能にすることで 2 つとも確認し、解説した）
その意味において、英国の「気のいい人」は、それを認めなければならなかった
テスラの仕事は、それ以前のもので、イギリスの「彼ら」には、調査に必要とされる周波数を発生し、実験的に現象を確かめるための器材を作ることができなかったため黙って承認した後、反論の出来ないものとなった。
J.J.トムソンの理論は数学的に統一された方向で電磁気と運動量を関連づけた論文で、1891 年のテスラの初期の何度か繰り返された講義と初期の実験によってそのことが証明されていた。
しかし、テスラの理論はトムソンのものと異なっていて、そのトムソンの理論は不正確だった。
トムソンの電磁気の運動量はテスラの装置だけで即座につくることができた。そして、それはトムソンの「発見」の前は、テスラの研究所だけに、存在しておりトムソンが「彼」の理論を実際に修正したり、実験的にそれを確認する方法が、なかった。
事実は Tesla の前に Thomson が確実な根拠のある理論を公開しようとしたことを示しているが、Tesla は自ら完成させる前に Thomson に影響を及ぼした要素をもつ発明品を公開することができなかった。
Tesla は、最初に実験結果によって理論を証明した人であった。
トムソンは後でテスラの交流と高周波の発見を不正に自分のものとして要求しようとさえしたがテスラは、トムソンに対してただ時をかせいで待つ紳士でいた。
トムソンの初期の仕事（Phil. Mag。xi［1881］（229 ページ））でチャージされた球状コンダクターが直線で動くことに関してテスラの尊敬を集めたそして、これはおそらく、テスラの仕事に影響した、
しかし、すでに回転磁場のテスラの 1884 年の発見は、彼ら全員を衝撃で、打ちのめしていた、そして、記録では彼は、1870 年代の学生時代からそれを証明するために、グラーツで彼の「博識な教授」と議論をしていることを示している、そしてその人は、彼は「おかしいにちがいない」と言った。

それは、テスラにとっては克服すべき恐ろしい困難であったにちがいない、
彼の完全な理論について沈黙を守るままだったのは彼が特許保護を得るために実用模型を仕上げる前では、彼のテクノロジーを渡さずに発表することができなかったからであった。
そんなことで彼のエネルギーと財源を使い果たし破産といっていいほどお金が無いために不完全につくられ風の中で回る、Wardenclyffe 塔のように不正に高価なシステムの建造に誘導された。
動きに関しては、私は以下の通りに類推で説明する：
物体が回転またはアーク力を持つとき、角運動量によって創られる変化する力のチューブを含む。放出されるとき、まっすぐなベクトルですべり動く。そして、放出の時点の力のチューブの様相と一致する。作動状態になると、チューブの傾向によって創られた遠心力は直線に動くか、少なくともチューブの動きを継続するため横向きか複雑なパターンで存在する。そして、それはいつでもチューブの変化を妨害するよう創りだされた。
「何かが」一旦リリースされるならば、(力のマイクロ螺旋形のチューブが生まれ、運動の方向と速度が確定されるとその真空は force-free（力が供給されなくてもよくなる状態になる。）
これらの事実は（Thomson、Faraday、Maxwell のもの）と Tesla の「力のチューブ」は一致している。そして、それを私はより詳細に後で説明する。
1881 年のトムソンの大部分の仕事は、マクスウェルそして、彼の前の、ファラデーが、1831 年に「静電的に満たされた物体の動きは運動と運動量によってつくられた力管と言われる流れに等しい」と述べたことに立ち帰ってはじまっている、
（ファラデー、実験的探求 Experimental Res。Section 1644;
Maxwell, Treatise, Secs. 768-70).

(Faraday, Experimental Res. Sec. 1644;
Maxwell、Treatise、Secs768-70).

彼の「慎重に考えることが必要な性質の問題」の考察において、Faraday は原子が電気、磁気、そして、重力が中心点をとり囲む力の場以外の何物でもないことを暗示していた。
その中心点はすべてに完全に入り込める
(Bence Jones' Life of Faraday, ii, p. 178).
（ベンチェ・ジョーンズのファラデーの人生、ii、178 ページ)。
フレネルは後で次のように述べた
『星の異常を考えると、即座に、私は、luminiferous なエーテルが、自由に木の林を通る風の流路のようにおそらくすべての具体的な物体の質量の抵抗をほとんどなくさせるというわけではない、ということを信じたい
フレネルの概念は、地球をとり囲むエーテルが地球の運動に影響を受けないことを前提とし、そして、実は、彼が失敗と考えたことを除いて、一般に観察されることに同意する
どのように、地球のダイナミックな電界は、エーテルに影響を及ぼすのだろうか。
ファラデーは、彼の（c.1831 年）弾力のある帯電した固体エーテルと磁力線、の理論によれば、すべてのスペースを「満たしている」と、思っていた。
17 歳で Wm. Thomson（別名ケルヴィン卿）（1824～1907）は、ファラデーの初期の発表に基づ

いてエーテルによって生まれる少し離れた電気的な連続的な動きについての数理学的な考えをもたらした。
1846 年に、彼は電気的な現象を機械の弾力との類推で説明した。
彼の初期の概念では原子は、『移動させるか、それを圧縮することなく』エーテルを通して動かされるというもので、あった（フィッツジェラルドからヘビサイドへの手紙 1889 年 2 月 4 日、）、エーテルは、『固体に流れ、そして固体が、光と熱になるように動く』。と言う概念はテスラによって後に採用される。
1853 年ごろ、Bernhard Riemann（1826～66）は、エーテルは圧縮と方向の変化に抵抗すると考えた（Ann、D. Phvs cxii［1867］、237 ページ;
Riemann の Werke、2e Aufl.、288 ページ;
Phil. Ma2 xxxiv［1867 年］、368 ページ）

D. Phvs. cxii [1867], p. 237;
Riemann's Werke, 2e Aufl., p. 288;
Phil Ma2. xxxiv [1867], p. 368).
リーマンは、圧縮に対する抵抗が重力と静電的な効果を引き起こすと考え、方向の変化に対する抵抗が光学的現象と磁気的現象の原因となる、しかし、彼はこれらの概念を更に発展させることができなかった。
これらの初期のリーマンの洞察は、しかし後の思想家に非常に影響力があった。
彼は人が安定したイメージで星を見る能力をえたことで、ダイナミックなエーテルへの反証をあげるようになり、地球が空間を通って動くといった、一般に認められるようになった仮定に基づいて静止したエーテルを考えた。
スペースを通しての電気的な流れの動きに関してリーマンは速さ C でチャージされた電圧が変化する新しい方程式を提案したが、彼があまりに若く死んだので、彼もエーテルの特性について考えを正確にフォローアップすることができなかった。
、Riemann の洞察は彼の全ての生涯より 10 年後、ほぼ 50 年後に確かめられた
何年も後に、マクスウェルはファラデーの 1831 年の電磁気学の実験的探求第 3 章を読んだ後、ファラデーの磁気力線と電気の考えを Wm トムソンの数学的な類似と関係付けて電磁界のメカニカルな概念を形成しファラデーの概念を 1 歩前進させた。
（ファラデーは数学を使って表現することができなかったので、私は常にマクスウェルが「ファラデーを数学で説明した」と言いってきた
彼は歴史で最大の「実験的な哲学者」と認められているが、元アイルランドの製本屋の職人だった彼は装丁していた本から、初期の教育を受けた。
そして彼は 1812 年に 21 才で偶然ハンフリー・デイビー化学教授卿に手紙を書き、デイビーに衝撃を与え次の春、王立研究所に任命され、そのあとは歴史のとおりである。
一種の電気技術者のモーツァルトである特異な才能をもつファラデーは最初からたいてい正しかった。そして、ファラディの死後に、多くの注目に値する洞察と観察がされたとしても、公式を作るプロセスに貢献をしたマクスウェルにとって幸運なことに、それらは数学の面倒なページに頼らずに作られていた、

ファラデーは、鉄に誘導された磁気は、鉄だけの中に存在し外部の遊離したエーテルの中はゼロであると述べた、そしてそれは、電磁誘導の基礎だった。
マクスウェルの「誘電体の電気的な変位」は、磁気誘導 B に類似しており、遊離したエーテルではゼロだとしてもそれらが誘電体の電気的な数値を異なるようにさせるかもしれないと言った

マクスウェルによると、変動がある「具体的な物体」（すなわち電気的な平衡状態から離れるように動く）が存在するかどうかに関係なく、電気力がある場合はいつでも、このように、エーテルがこの電気変動をうむ。

（マクスウェル、Scientific Papers i、451 ページ; 526 ページ）

静止したエーテルで「休息している」地球で、物体が均一な運動をしている時、（または一様に変化する運動状態のとき）、フリーなエーテルの中にある固体と、スペースの中で、地球の電界で分極化したエーテルとの、2 つの間に、誘電率の違いによって、スペースの中のエーテルに電気変動の違いがあることが、私の心に浮かんだ
私は、このことから静止したエーテルで満たされたスペースを通して物体の安定した変化がこれらの電荷を運び変位電流をつくると推論した。
マクスウェルは、何年か前に『物理的な磁力線は、電流と同様に、「流体」の流れとして「ダイナミックな状態」があるかもしれないとするファラデーの提案に基づきファラデー磁力線（磁気誘導のベクトル）を圧縮できない流体の動きとして、表した
34
これは、地球によって『持ち歩かれる』ファラデーの「ダイナミックな状態」の電界と同じで、地球の磁場と、地球のダイナミックな電界の中で静止したエーテルに対する影響によって重力を発生させる流れと等価物である
それはまたファラデーが述べたように磁気力線は、磁場が電流のセカンダリーな効果であるとしても、電流に対して「等しくて反対の」反応であることを意味する
回転運動の生み出すものの 1 部が電気だとして、磁場は、等しく重要で、どちらも、マイクロ螺旋形の「力のチューブ」に対して関係がある
それは宇宙の天体の永久運動を維持し、永遠にエーテルを通して電流を導く勢いをつくる。
そして、この考えは、同様に Tesla の理論であったにちがいない。

宇宙運動とローカルな動き

地球は、1 秒につきおよそ 18.5 マイル（66,600mph）で、太陽の軌道に乗って回る
太陽系は、天の川を中心とする軌道に乗って非常に速く回っている、
そして、天の川は非常に速い Magellanic Clouds の軌道に乗って回っている、
月そして地球、天の川、その他へと速さが次第に増加してゆくこの階層を、電磁気の速さと比較するのは、無意味だが、運動の力の変化は、時間と関係がある。
エーテルに関係する地球の速さと両極性は全て、軌道の位置と銀河のサイクルとその回転によって、絶えず変化する、

たとえば、太陽と天の川の中心との間に地球がいるとき、「外側」にいるときより、それはよりゆっくり動く。
毎日地球は回転するが、エーテルを通して赤道の回転表面の速度がおおよそ 1,041mph であるとともに、地球の南北両極は毎時 15.2 度回転運動する
この地球の両極性の連続変化は、感覚的に感知できないほど段階的であるが、多分、重力の力を調整する一因となるだろう。（さらにこれは我々の感情的な様相に影響するはずだ！）
W.B.モートンによると(Phil. Mag 物理学雑誌. xli［1896］、488 ページ xli [1896], p. 488),
身体の、荷電量の増加は「バーチャル仮想的な質量を増加させ」、動かすために要求される仕事量を 2e2/3ac2.増やす
これは、J.J.トムソンによって訂正されたものであった。
このようなことを考えると、シャフトの端に、充電あるいはおよび放電を行い交互に物質の中の質量が増減し、シャフトで回転する大きな、絶縁された伝導ボールを付けた発電機の可能性を示唆する、
しかし、「ボールを動かすための要求」が増加するので、この可能性は、ファンタジーのように見えるがトムソンの理論では、これはエーテルの貫通に対する抵抗の増加と関連する、ファラデーによると、これは磁力線をシャットアウトする「ファラデー箱」効果をつくる特別な電荷の存在に起因している。
磁力線が無くなるかまたは磁場によってチューブの回転力の力線は抑えられるか減らされると、運動量は減衰または無くなり、減らされるか、止められる。
このような分析は、十分な思考の材料を与える
Tesla が彼の創案した機械で地球のチャージを増やすことを継続したならば､彼は地球の時間を取り消すよう放射でき、減速させて、多分、太陽の方へ漂流する原因となる。
彼はこれらの事実を認識し、後でそれに取り組み、さらに将来の技術的な可能性としてそれを記載した。そして、誰でも気がつくように、彼の電子推進の場の展開を補強した

天の運動と局所的な運動

その動きは奇妙な事である
Earth に関係して物体が動く運動の方向に、その動きが、あるとしても、それでも、地球上の地点に物体は静止しており、依然としてその地点には動きがあり、最終的な運動はエーテルと関係する。
運動は複合物である、しかし、主体の最終的な動きは本当に、全の力の働きを複合したベクトルとして表せる。
earth は赤道で完全に 1,041mph で回転するので、動きがそこにあるが、太陽を回る地球の軌道の速度と進路には、その軌道方向以外の多くの様々な地球の進路があることを意味している。
遠くのオブザーバーには地球の自転している表面は軌道の運動方向から後方に移るように 1 日中みられるが、軌道の速度（66,600mph 以上）はその自転速度より大きいので、地球は常に軌道の方へ進む。
回転するすべては、我々の地球表面の「地点」の速度を
定期的に、減少させ、増加させる

そして、スペースを通って徐々に、24 時間おきに 1 回、その方向を回転する。
地球、太陽系、天の川、その他との合成運動としての運動量で.. エーテルに関係して恒常的に、合成された、段階的な、絶えず変わる運動する物体の、より複雑な運動のパターンを持つ
若干の面白い影響が、見つかるにちがいない。
これらの影響はニュートンの法則によって遠いところから、真空のスペースを通って働く引力として解説されるようなものではない
エーテル-フィールドと関係してゆっくりと軌道回転と地球の運動を変化させる
比較的少ない量の「外部的に作用している」力（「重力）は、Newton の法則のために常時適切に存在しなければならない
私がもっと詳細に明らかにするローカル・エーテル現象を除いて、完全に説明可能なレベルで（「重力）は存在している
私は相対性理論の、重力は 1 つの物が別の物に対して働きかける直接行動によらないと言う、その部分には同意するが、スペースにある物体が空間それ自体によって「くるまれ」、「それをカーブさせる」ことが重力の原因であるという考えには同意しない。
エーテルなしでは、何もカーブしない、そして、相対性理論もそこにはない。
1995 年前半に、Space Aliens のコピーと引きかえに、私は、エリック・ラーナーの「ビッグバンは起きなかった Never Happened」のコピーを受け取った、
そして物理学（または天体物理学）のアカデミックな世界に、何人かの理解者がいるとわかってうれしかった
そしてその人は少なくとも（ビッグバン理論に関する私自身の見解）を部分的に共有する
私はこうしたビッグバン理論は強権的なエネルギー独占のためにつくられ、私が「永久運動の保存法則」の元と言っているエーテルから入手可能な、フリーエネルギーを否定する意図のため、アカデミックな世界でビッグバン理論が盛んにされていると思っており、もちろん彼らの理解はここまで到達はしていない。

私は Lerner の書物を見つけ出し私の宇宙的スケールでの考えを作成するのに役立ったことは言うまでもないが、元気を回復させてくれた。
ラーナーの目立たないヒーローは、ノルウェーの天体物理学者と宇宙構造学者、
ハンネス・アルフヴェンである。
彼の磁気流体力学の発展と磁力線による冷凍化についての彼の概念のために 1970 年に与えられたノーベル賞によって、初期の相対性理論による「アカデミックな世界でのエーテルについての埋葬」をいくぶん回復させたが、その理論の一部はアルフベン自身によって否定された。
アルフベンは、「エーテル」という用語を「プラズマ」に入れ替えて、数学的な理論である相対性理論の不正な使用に強く反論した。

彼は、理論は『常に観察されたものの物理的な理解に近づくためのもので（主人というよりむしろ）そのための使用人でなければならない』と言った。
彼は空間を通る巨大な流れを主張した、太陽から、惑星を通して、実際に角度の変化する磁気力線に沿った、運動が惑星にむかって動く。

Alfven の仕事とこの発見は、彼の宇宙的 MHD 現象の研究と共に、Tesla のダイナミックな重力理論の非常に近くにいた。
このような本の表現はラーナーの明確な発展で、そしてそれは相対論に耐えられずに上げられた異議を意味している。
ビッグバン理論を恒久化し、支持しようとしている新聞とマスメディアのすべての NASA の間違った宣伝にもかかわらず、それは、科学者の間で価値が低下している。
たとえ彼がエーテル論を肯定し支援を呼び起こすことはせず、相対論とビッグバン宇宙論に疑問を呈する勇気があっただけだとしても、私は Lerner の書物を勧める。
実際の地球上の特別の地点が宇宙を通る道は、地球がより大きなものの中で小さなサイクルの中にいるのだから自然に太陽以外にもある多くのものと複雑に関係している。
エーテル-フィールドと関係して、太陽系と Milky Way 天の川の全てと相互関係がある動きは、一般に波形の道で我々の地点に影響する、
エーテルと関係して我々の速さは定期的に速まり、減速する。
地球の厄介な電気的で、磁気で、いわゆる「重力」分野の存在によって鋭く影響される以外は、この同じ運動の原則は、宇宙にあてはまり
すぐにローカルな物体の運動にもあてはまらなければならない。
Alfven が彼の宇宙を通して巨大な電磁流れにいて長く認められた発見において、感触を持ったものは、同様に認められていないローカル・スケールで影響を及ぼす力の働きと類似している。
地球が宇宙空間を通して 70,000mph で突進しており我々もそうしている、
そして、極めて重要なことがスーパー微細なスケールで起こっている、
それはこの巨大なパノラマにおいて非常に大切な役割を果たしている。
ビッグバン宇宙誌を発明した人々は、早まって答えを示そうとしたが、それはどのように、すべてが永久運動をし続けることができるかという大きな疑問が、ある
エネルギー保存の法則...この法則を犯し、それに従って相対性理論を論破することもせず、相対性理論の下でビッグバン理論を展開している？
Tesla の死産にされた理論は、まだ彼らののどにひっかかっている、
Alfven のそれらに加えてすべての本当に競合する理論を不明瞭にしたくて科学の年代記で、永久に、秘蔵することにされている。
彼らの方法は、シナリオをでっち上げることで最初のビッグバンは、我々が見るすべての『起源』であった
しかし、その効果は結局、ガスのなくなった車の様に、「衰える」。
この考えでは宇宙的なプロセスは、どのように絶えず自己補充されるか説明できない。
自然の強い力と弱い力そして、物質の相互作用を通して、永久運動は保存される。
強烈なナチュラルの相互作用と弱い力と問題を通して、永久運動は節約される。

強い力は、弱い力に打ち勝つ。

宇宙放射線はプラズマや、形をなした物質に反応するまで、エーテルの中を旅行する
物質が濃縮されるとき、その力は集中する

他の、ほとんど濃縮されてない物質と接触して、それが占有するスペースの中により強い、宇宙の力が放たれる。そしてそれは、結局変化してより多くの宇宙放射線を生じ、吸収されるまで、それらはスペースを移動する
そして、プラズマまたは他の質量に変わって、低い周波数のより多くの質量または放射線に変わる、そして、無限に、このプロセスは続く。
誠実な思想家は、単純すぎるほど明確に答えを出さなければならない
「物質は、どこから来るか」といったことに関して、
「それはどこに行くのか」、
「生命の目的とはなにか」
または「すべては去りゆくにまかせるといったこと」に関して、その他
時々、我々は現実に合致しなければならず、我々に単純すぎる答えを出そうとする偽の理論を放棄すべきだ
そして我々も知らないことを尋ねるとき、あまりにばかな質問だと考えて遠慮してはならない
宇宙的な、力、膨大な距離、大きい物体とイベントといった問題の存在、そして、永久運動、物理学第一法則または「最初の法則」、に関して、現実に揺るがすことのできない事実、を考えるとき、我々は存在のより有益な側面に関連した特別の疑問に答えることで向上できるが、まずその前にそうした現象を我々は受け入れなければならない。
太陽の周囲を回る地球の軌道の速度が地球の回転速度よりたいへん速いので、我々の地点はエーテルと関係して決して後方に向かっては動かない
そして天の川の軌道の速度は太陽系の軌道の速度または地球の回転速度より大きいので、我々の地点はより大きな「波動方向」の道で動いている
そこにおいて地球の 365 日のサイクルより長いいわゆる 4 番目のサイクルで日によってその速度を速めて、遅くなっている、
依然としてそこにはこれより大きい運動のより大きなサイクルが、時間の流れとともにある。太陽系は天の川を軌道に乗って回るが、天の川はそれより大きい Magellanic Clouds、その他の軌道に乗って回っている。
これらの周期的な運動をみても分かるように、ビッグバンの爆発性パターンというよりも宇宙はギアのような精度で動く無限の相互関係の中にあるシステムである。
宇宙の運動は、サークル（または楕円）の規則正しい、サークルの周期的なパターンをうみ、大きなものから小さなものまで電磁気に関連する機械的振動をしている。
超新星のような、時折の宇宙爆発は法則への反証というよりはむしろ例外であることが判明する。宇宙の事件による破片は結局パターン化された運動に落ちるし、さらに時折くる彗星は周期的なパターンになる。
そのようなスケールの爆発は巨大であるが、これらは宇宙的スケールでおきている突発的な池の波紋のようなもので、それで我々の展望をゆがめることはよいことではない。
もし先週ハッベル望遠鏡のようなリモートコントロールされた望遠鏡で運動を見、それを数年前の初期の測定値と比較し、それが宇宙の遠くの部分が離れてゆく動きを示しているとすれば、これはただ宇宙の運動の観察であると理解すべきだ。
我々が少なくとも何百万年も先を観察することができるならば、それは後で反対方向の運動にな

るように見える、我々の見方からすると、これは非常に長い期間にわたる振動の、非常に大きなパターンの一部である。
我々が現在で地球に関して観察する運動の回転パターンと「我々の周辺」の宇宙の大きな構造のため、我々には、すべてそのような運動は周期的だと思う正当な理由がある、
そして、現れ方が全く異なる時間のながれに我々自身がいる
地球と他の天体がビッグバンの結果であることはばかげた理論で宇宙は常に存在し、時代がなく、常に存在する。
どんな具合に惑星が「創られたか」という理論が全て誤っている
生物形態は、ある時、他の全ての惑星と星のなかで一度だけ、火星だけに存在しただけではなかった。
実際、惑星はより小さな物体から成長した
生物形態の結果のように、それは恒星間の放射線を固体の物質に変える。
我々が、地球上で穴をあけることができる深さはたいしたものではない、
または、そう出来れば、反対の直接的証拠が得られるのだが
そこで我々がその過去に生物の一部だった物質を見てない。
この理論は、ビッグバン理論のために惑星を「あまりにも古く」している、
その現状に達するまで非常に長い時間かかるので、彼らの「カレンダー」を投げだしその上で「ビッグバン理論」の第一人者は地球の「出生日付」を置く。
たとえば、葉緑素の成分のうちの 1 つは鉄である。炭素の堆積物と他の元素と一緒のこの鉄は、光合成の結果として生み出されている。
地球の、何千フィート、何マイルもの厚い層も、植物と動物の腐って変化した残骸から成っている、
最初の生物資源は、光合成を通して、そして、多くの元素と鉱物（例えば鉄、カルシウム、リン、硫黄、窒素、カーボン、水素、酸素とヘリウム）は最終的に放射線が変換され層をなしていることを表し、それは、このプロセスで、簡単にたどることができる。
そのような要素は、生命の形態を支える宇宙的運動力を通して蓄積される。
おそらく生物形態と無機のものとの間の宇宙の数学的な比例の定数がある
エーテル（ZPR を行う媒体）は、物質またはエネルギーの形に変わることができる。
正確なテクノロジーを使うことでエーテル以外の元素を凝結させることが可能になる
エーテルは我々が「固体」と言っている素材を含むがその証拠はこの可能性を強化する。
結局ニコラ・テスラは、彼の「相当な推進力」の発見においてエーテルの使用法を実現した
彼の electropulsive なテクノロジーの研究は、原子または小さなテーマの研究より重要なものだ。
エーテルだけがこの動きと親しく関係している、
1953 年に私が観察したようにその相当な推進力をこれで説明することができる。
この推進力になる力は自然の中に存在する力以外の何ものでもなくそれは人の手で論文にされ一旦知られるならば、合成して、操作可能な物理的なプロセスとなる。
私が観察した全ての船の質量と、その方法で可能な質量と船の加速率から、それはすぐに明らかだった
通常電磁気で慣性をキャンセルし、即座に新しい運動量を総合するテスラのテクノロジーがなか

ったら、ロケットまたはジェット燃料で一杯にしても、それは加速度的に c.9,000 mph に増大し、無限に消費されることが要求され、3 秒で消費される
慣性とは、何であるか？
慣性は『静止している』物体がすでにもっている画一的な運動の様相の動きである、しかし、我々には静止しているように見える
Tesla のテクノロジーは電磁内部作用を使って、（それは重力より 1040 倍強い）ものすごい推進力」を創るため、即座に新しい軌道に沿った新しいマイクロ螺旋形の力のチューブをつくり、宇宙船の原子と分子を再プログラムし「前からある慣性/動きを創る力のチューブの「記憶」を破壊する。
電子推進は、「フリーエネルギー」プロセスである
環境の中に潜在している重力と運動量のエネルギーはより強い性質の電磁気の力と入れ替わり勝ることで、特定の時間の間に、より大きな仕事量を実行する、
そして、それは理論的には、変化を誘発するために「エネルギーの入力された」ものより少ない量を使用して 1040 倍多くの仕事をする。
「エネルギー」は「仕事を行う能力」で、「仕事」とは「一定の距離の中での質量の動き」ならば、与えられた時間内で、より強い力はより多くの仕事を行う。
弱いエネルギーのものから強い力に形態が変化し（環境の中に存在する）「環境エネルギー」は、新しい方向で働こうとする
電子推進を可能にするプロセスは、ZPR によって再供給される宇宙の活力によるもので、どんなに運動量が失われても、永久運動を保存するために、弱いものがより強い力に自然に交換される。

第 3 章

観察報告 OBSERVATIONS

テスラの理論と、以前の研究の背景と、これらで得た理論をみることを一時的にやめて、
私に密接に関連した人々と私自身によって直接観察されたことに目を向けてみよう。
私が 1946 年に観察し始めて以来ずっと続けて観察してきたものは、人工電子推進力の飛行機である
それは空中に浮かぶことができて、そこから離れて飛び出ることなく高速で狭い場所で回ることができて、聞き取れる音または衝撃波(ソニックブーム)なしで、少なくとも 9,000mph までほとんど即座にスピードを上げることができる。
1953 年に、私はまっ昼間に、300 フィート(0.3048x300=91.44 メートル)の遠いところ（地上より上のおよそ 250 フィート 76.2 メートル）に浮かんでいる船を見たそして、45 度ほどの急角度で進んだあと、1 秒につきおよそ 2 度の低い率で前進した。
私がそれを見つけたすぐ後、真西にまっすぐ動き始め、およそ 800mph マイル毎時まで速度をあげた、1 マイル = 1.609344 キロメートル（毎時 1287.475ｋｍ）
その時、完全に 2 回正方形のターンをした。
まっすぐに直角にターンして降下しもう一度直角にまわって、水平飛行に戻りそして 3 秒で地平線より無限に高い地点に急速に移動した。
まるで 2 つの 50 フィート 15.24 メートルの直径のステンレス鋼の中華鍋が結合したように､二枚貝のように船は造られていた
それはその表面の溝に、同心の「線」を持っていた
その表面中の幅はおよそ 1 インチ 2.54cm であるように見えた
それが太陽の光線でその金属的表面が明るくゆらめいて precessed 摂動したので、その下半分に巨大な「金属の引き伸ばされた」の中華鍋の外観を与えた。
その時太陽は、地平線より 10 度上にあった。
それが precessed 摂動したので、それはきらめく、「虹に染められた」電気コロナを放った。（高圧テスラ電流でショックを与えられた金属的表面のように）
太陽から影の側にある宇宙船の底は柔らかい『雲』のようで、precessed 摂動し赤く輝いていた、そしてそのコロナの「虹」は明らかに高電圧の電気のそれで電子レンジのようなものの存在の可能性を示しているように見えた
As the ship began accelerating,
宇宙船のスピードは速まり始めコロナの虹はきらめいた。そして、宇宙船の後に足跡を残した、また、足跡のラインは特定の振動数で脈動しているように見える「特性」を示していた。
ラインは 5 フィート 1.524 メートルの間隔でスピードは「約」200mph 時測 321.8km であるように見え、およそ 5-フィート 1.524 メートルの間隔をあけた脈で 4 分の 1 波長を出し、周波数は非常に低い毎秒 60 サイクルであることが確認できた。
この「200m.p.h 時速 321.8km」という数値は我々の視点から見たものに基づく荒っぽい推測である。
（注：

テスラの時代には、「マイクロウェーブ」は短いフィート（0.3048m）またはインチ（2.54ｃｍ）のものだけだった、
彼の 1899 年のコロラド・スプリングス実験の間に彼は地球から来る「マイクロウェーブ」を測った
おそらくこの宇宙船で「内部」周波数と鋭い長波が使われ、方角を定めて加速させ、必要な「力のチューブ」を分極化させ、推進力のために、エーテルに作用していたことは外側から見ても明らかだった、
視覚的に示されたパルス化の効果は 5 フィート 1.524 メートルの、空間にきらきら光るイオンの足跡を残した。
観察されたものからみて、すぐに電子推進力のシステムは、内部を原子的方法で統合的に操作し、加速と回転において通常慣性と運動に問題が生じるのだが、システムは四角に直角に回るという証拠が示すように、それを克服していると考えられた、
しかしたとえ重力が明らかに電磁過程と同じ性質によることを明かにしたとしても、システムが「重力」にたいして行うことはごくわずかなことでしかないように見えた。
これらのエーテル、重力、慣性、勢いの性質に関する証拠となる特定の事実を観察すると、「電子」「推進」は額面通りに存在するとしか考える他無かった。
私は、1947-53 年の間、夜、屋外の裏庭で眠って円盤の全戦隊を観察した、

戦隊は New Mexico の方向から我々の町（New Mexico 国境から南に 10 マイルの辺）の上に到着して、彼らは夜間動いたあと、来た方向に戻っていった
（注：
1953 年の目撃に関係した船は真東の、テキサスのエルパソの、近くの Ft. Bliss 岬の北端の方向に向かって飛んだ。
Ft. Bliss は、1945 年夏に Weniher フォン・ブラウンが調査担当責任者として指定されていた本部のあった場所であった（アメリカ陸軍 Ordinance）
その後中心本部は、フォン・ブラウンの関わる主な作戦基地とともに、およそ 1951 年までにアラバマのレッドストーン・アーセナルに動いた。）
夜間戦隊円盤は 30 度または多数の角度で回る
（30、60、90,120、180 度、その他である）。
その意味で、これらには私の買った 1943 年の時代遅れのドイツの円盤で使われていたパイロットコンパス Peiltochterkompass と同じ方向指示器ナビゲーションとコントロールシステムがあった。
私の所見は、パイロットコンパス Peiltochterkompass に関する記録された全情報と装置自体の分析と共に、ドイツの「Kreisel Teller-p2」についての推進力システムをほぼ明かにした：
1. 宇宙船は、電気的に推進された;
2. 推進力システムは、円盤のまわりに電界をつくった
磁気コンパスがこの電界の「ファラデー箱」効果によって役に立たないので、慣性の操作誘導装置とコンパスの開発を必要とした;
3. 船は回転する円盤形の航空機で、そのコンパスは周囲 12 の方向と、さらに「上」「下」に回っ

た。
4. 船は、水平方角を定めたマスター・ジャイロコンパス（「Meisterkreiselkompass」）、
を使用し離陸の前に真北に合わしてその視点を調整し、また、船の推進力用二極式電極を作動させる段階式のスイッチと相互接続させた電磁的方位固定指示コンパス electromagnetic slave compass を使って船を操縦する、
5. システムは、重力の通常の影響をキャンセルした。
マスター・ジャイロの活動を妨げることなく慣性と、動きと方向を総合した選択にすぐに反応するようになっており、飛行の間、明らかに船の外壁である貝殻の内側の質量の慣性/運動のため、その航行方向を維持し続ける。
6. 瞬間的に行われるターンは、圧縮されていないエーテルを示しており、それは物質の重力と慣性の運動現象を完全にロックしている。
1953 年の日昼の目撃以来、私は何回も electropulsive な航空機を見たが、私の最高の目撃例のうちの 1 つは、月明りの夜、温い浴槽に浸っている間のことだった。
Rub-a-Dub-Dub.

Hot Tub 温泉の中の 7 人の客

1996 年 1 月 24 日水曜日の夕方午後 7 時 00 分頃に、
ニューメキシコのサンタフェより上のハイドパーク周辺のサングレデ・クリストス山脈の西の斜面にあった日本式温泉である「Ten Thousand Waves」で、私は他の、7 人の人一緒に、温い浴槽に入っていた。
私が風呂で湯気にあたりながら、デンバーからの一組と私自身の間の会話で、漂っている危険なフッ化物を「あなたは、どうする？」と聞かれ「(「私は、そのことを本に書いた」) と、答えた。
私が書いた本について聞かれた、私は「ペンタゴンの宇宙人」という本だ。」と答えた
右にいた美しい女性が、叫んだ、「私は、あなたの本を持っているわ。
私は、Alex と Rex の友達なのよ。
私はあなたの本が大好きよ、彼らもそうだわ。」と言った。
私は彼女に感謝し、挨拶を交わした、それから、私は言った
「日が暮れてからここにいると、いつも円盤を見るんだ。...、実は、今もあそこに 1 ついるよ
（我々からおよそ 10,000 フィート 3048 メートル離れたところ、三日月の左下におよそ 15 度に、ゆっくり東に飛んでいる光っている航空機をゆび指した）
風呂の中から質問攻めにする人が、言った
「あ　飛行機がいる」、
それに、私が答えた（「別のものだ…飛行機ならば、なんで、あんなところにいるんだ？）
閃光は、根底にある輝きを覆い隠してしまう。
目は閃光に驚くと、もう一回フラッシュが起きるまで目を回復させる時間がない。
速く動くと、もっと赤く輝く。それはこれらがとてもゆっくり動く理由である。」
左の上の静止した船がフラッシングをやめ、暗闇に変わるまで、すぐに、私は話さなかった、
そして
輝いている緑の形はトラックに囲まれているサッカー競技場のようだった。

「進路」のあたりに、暗い帯があり、外側の紫のコロナは、テスラコイルによって生み出されている。
私は、その底の湾曲を見ることができた
それは私のいっぱいに伸ばした腕と人さし指でその後をたどれるぐらい大きな円を描いて飛んでいった、
そして、私のお風呂仲間は驚きで愕然とした
以下は私が描いた下からみた円盤の絵の白黒の写真である：
それはその出発点に戻って、停止し、横に動きつつ、再び光り始めた。
これは、およそ 10 秒だった。
10,000 フィート 3048mの距離で、およそ 2 フィート 0.6096mの腕の長さの半分から 4 分の 3 インチ 1.905ｃｍで船が現れたので、計算するとそれは長さおよそ 400 フィート 121.92mと幅 250 フィート 76.2mであった。
円の直径は上から下までおよそ 30 度あり、その速度は、毎時およそ 2,000 マイル 3218.688ｋｍであった
私はこうした物体のスピードを何回も計測してきたので、この速度に、驚かなかった、
私は、1953 年に裏庭で動き始めたそれを見たが、小さく見積もっても 9,000mph 毎時 14484.1ｋｍはあった。
私は、眼鏡をかけなかったし、それがダークグリーンと紫の光の放出をコントロールすることで、「秘密にされ」光の値を夜空に密接にマッチさせ、融合させて夜空に隠れているように見えたので、ほとんどそれを見逃した、
『存在の主な証拠』は、色の違いによるものであった。
それを私がゆび指さなかったならば、誰も見なかったので風呂にいる他の誰も望遠鏡でもっと明確にそれを見ることは出来なかった
おそらく私自身でもそれは見えなかった、
私は、船の暗いシルエットを見るのを可能にする、若干の光背を発して、月の近くまで大きくなって迫る光る船を事前に見たことはなかった、
そのうえ、本当の理由は、私自身の前意識の、精神的な自己条件付けにあることを理解していた。
私は、前に光ったときは、それは非常に小さく見えていたので、そのかなりのサイズに驚いた。
私が風呂の向こう側を振り返って見たとき、さっきの野次を飛ばしていた人はいなくなっていた、
円盤は明らかに彼には理解できない動きだった
円盤乗組員がここにいる私のことばを聞いていたとしても、完全にタイミングを計って宇宙船のパフォーマンスを、することはできないはずだとおもった。
Bravo!
いいぞ！
彼らには、唇を読むコンピュータ・ソフトウェアがあるのか？
私のかってな理論ではあるがその政府のばか者は、なんらかの「テスト」をするため特別の場所としてここを選んだ、
夜空にひらかれた温泉にいる多数の個人に有効な刺激を与え、
性的な類の民間のヌードのカップルがおり、彼らはビデオテープで録画の準備をする。

私は、政府の彼らがテープを売買するのが想像できる
彼ら自身の間で、もう一つの正当な理由は「.起訴を避け.秘密をまもるため」である。
私は天文学者 Clyde トンボー Tombaugh（冥王星 Pluto の発見者）によって数年前報告された緑に輝くタイプを初めて見た。
それは、円盤技術の現実的な実証としては 2 番目であった
私はそれが存在することを証明した。
私がそれを見つけなかったならば、私の隣の美しい女性を除いてその驚異的なものを見なかっただろう、
その人は私の本が好きで、円盤に関しては強いライバルであった。
ちなみに、女性の胸の形は、「殆ど完璧に空飛ぶ円盤設計のための性質をもつ形」だろう。
Hmmm...多分、「葉巻き型の」宇宙船は、女性によって考え出されたものだろう。
「緑に輝く」タイプは、明らかに、夜空で船を見えないようにする研究の成果であった、
、例えば、「foo フー-ファイター」（「Fliegende Schildkrote」［「Turtle 空飛ぶかめ」］と「球電」［「ボールライティング Lightning」］）といった初期のモデルでは明るく輝いていた。
長方形のデザインのものは円形か『周辺型 peripheral』の円盤と区別され、私が本で「線形タイプ」と言ったことがふさわしい。
スペクトルの記録計の専門家である友人によると、緑のコロナは原子吸光を示しており、私はそれは、『知られていない』テクノロジーで白色光周波数域を抑えた結果だと思った。
彼は、ナトリウムが塗料のベースを形成したと思うといったが、私にはそれがビリジアン緑のように見えたので、多分クロミウムを考えた、（「クロム」）
『曇った』柔らかい、緑は、外面のまわりの『紫の毛のような』ネガティブなコロナと区別され、明確ポジィティブなコロナを示していた。

他の目撃との比較

この温泉での目撃は、1953 年夏の午後遅く、西部テキサスのカーミットにおいて我々の家族と友人とアイスクリームパーティをしていたとき、正に我々の裏庭の 300 フィート 91.44m以内で、最初に私が個人的に目撃したような「日光のような」輝きの、「近距離」の目撃といったような、明白なものではなかった。
私が、私の家族と近所の人で、クローズアップで円盤を見たのは、1950 年、6 月 1 日と 2 日の 2 日間連続で、日光の下で 3 つの宇宙船が現れた時目撃したのが最後だった
残念なことに、私は西へおよそ 120 マイルのデイビス山脈に転居した。
私より父は多くのこうしたことを、見た、
一度は 1957 年 11 月 2 日の夜に、ちょうど（テキサス）レベルランドの南で車に乗っていたとき 15 分から 30 分間、見た
そのうちの 1 つは、長さ 200 フィート 60.96mの卵形の chingas で、彼の昼間の光の下で命を脅かした。
それは、彼の自動車の上 10 フィート 3.048mに浮かんだ、ＵＦＯは彼の車のエンジンを止め、す

べてのライトを焼き切った、それでも、自動車の回路のヒューズは一つも焼き切ることはなかった。
私は、眼鏡をかけなかったし、それがダークグリーンと紫の放出をコントロールすることで、光の値を夜空に密接に一致し融合させて「秘密にし」夜空に隠れるようにできるように見えたので、ほとんど見逃していた、
その電界は、とても強くそれが電流の流れを抑制し、発電機と回路の磁場をキャンセルするほどとても強かった。
そして、白熱状態のタングステン・フィラメントは、回路で最も弱い点であった、
そして、円盤の脈流は、明らかに磁気で電気剪断力をかけてこれらを壊した。
父はレベルランドの暗がりのなかを車で戻らなければならず、モーテルで夜を過ごさなければならず、そして夜明けにテキサスの、オデッサに車で帰らなければならなかった
彼は、午前 7 時 00 分頃に家に到着した、
大急ぎで朝食をとって円盤について何も言わずに、シューウェル・フォードでライトを直すため車を置いて出かけていった。
彼が去ったので、私は、朝のニュースを聞くためにテレビをつけた
そして、彼が船（または何機かの船に）につかまった数人のドライバーのうちの 1 人だったと、理解した
私は Sewell Ford まで車で行って、整備士にライトを直すようたのんだ。
父は、私がどんな具合のニュースか知ったことを彼に話すようたのんだ。
父は、「狂った人」と呼ばれるのを望まないと言った
これは、私が「パラノイア撲滅運動」と言った作戦であった。
政府宣伝によって創られた恐れと嘲笑は合理的だった。
後で、1963 年に、私は Hockley 郡の保安官とこの問題について完全に話し合う機会があった、
その一方で、Brownfield（テキサス）で、製造と出版の宣伝広告のための、グラフィック・アーティストとして働き、そこで保安官が属していた土壌保全地区と接触をした。
父によって見られた船の形はニューメキシコ州 Soccorro、に近いところで代議士ロニー・サモラによって観察されたタイプで外観とパフォーマンスが一致する、
サモラは最初は、船の乗組員を空軍の典型的グレイグリーンの G.Ls 飛行スーツを着ていたと、述べていた
しかし、その後、彼らは「子供たちのサイズだった」と言って彼の話を変えた…
これは、後ろに彼を『脅迫』しているセキュリティ・スパイがあった。
円盤は、私が生きている地域ノーランド地下複合施設が位置するコロラド・スプリングスの南方のシャイアン・マウンテン域の周辺で、どんな夜でも非常におびたたしく見ることができる、
私の家族または私の親友からのいくつかの直接の観察と、レポートといった「プリンの証明」が心をしっかり固定させたので、ほかにももっとこれらに影響を及ぼすためにエーテル論の歴史で見つかることを見てよう。

エーテルと「重さが測定可能な物質」

1879 年に、James Clerk Maxwell（1831～1879）は太陽系の速さがエーテルと関係していれば、

木星の衛星のエクリプスの遅滞を観察することで、その存在が確定することができると言った。
動きを観察すると地球はスペースを通って動くが、星の光は、安定したイメージで見ることができる
動いている地球と太陽系と他の物体に関係して静止したエーテルを示す
エーテルは超微細であるが、非常に濃いそして、正と負に帯電した物質から成る、
、そしてそれはすべてのいわゆる「自由空間」に広がる、それは「物質」によって「占有された」空間と同様に考えられるが、その大部分は「スペース」なので古いエーテル物理学者は、「重さが量れる物質」と呼んだ。
エーテルが動かないので、それは重さが量れる物質である、そしてその逆というよりはまさにフレネルが言った通りその重さの量れる物質はエーテルの中を動く
その非常に微細な、高周波構造のため、エーテルは透明である。そしてそのサイズが低周波放射線に反応するにはあまり小さいので、それは可視光を屈折させないか、反射しない、
瞬間ごとに推進力のある方向でエーテルに「アクセスする」ためには高電圧パルスが要求される。
これは、J.J.トムソンの「電磁気の運動量」論と一致する、そして、それは 1891 年にニコラ・テスラによって行われたテストによって確かめられた
テスラの実験では、軽いガスの弱いイオン反応以上の反応が確かめられた
例えば後で T.タウンゼンド・ブラウンの 1950 年代の「特許」の誤報は騙されやすい市民にそれが正しいテクノロジーだと信じるよう誘導するためにされた。
彼のテストの後、テスラが述べたエーテルは、「光と熱」を運ぶ『固体』の媒体になった
（可視的な赤外線の明りとして）、
それには「十分に高い電圧と周波数」を出すことでアクセスすることができた。
運動方向の急転、加速率または物体の速さがあるとき、エーテルの存在はより明らかに見られる。
チャージされた物体の動きと、電流の等価物は、それがエーテルを通して動くとき新しい度合いの電気変位をうむ、
そして、物体自体を構成する陽子と電子によって影響を受けたエーテルを通して、速度変化への抵抗に影響を与えることができる。
球を動かすとき、「慣性」と呼ばれている増加する「抵抗」のため、仕事量の増加が必要となる
「運動量 momentum」と呼ばれている運動の傾向に、その増加は反映されなければならない、
そしてそれは運動に一致して生まれる正と負のチャージの配置変化、または移動方法の再編成を示す。
したがってそれまで恒常的な速さで、動いているチャージされた物体は従来の仕事をするよう要求するが、増加した電荷によってその運動量が増やされる。そして、それはその「仮想質量」の増加と一致している。
慣性と同じ事が原因であることは明確である。それは現状を維持しようとして、原子の組織の群れの電気的な反応パターンの構成を同じように持続しようとすることが原因である。
磁場または電界の変化がインダクタンスのために必要なように、運動を変化させて変化する「場」を作りだすことが、慣性と運動量を操作する基礎となる
すべての物体は動いている、そして、「重さの量れる物質」と、エーテルに、「弾力と、振動する運動が、起こるのですべての物体の中で、陽子と電子も、動く。

エーテルの中を通過する重さの測れる物質の中の電子と陽子（そして、原子と分子）に、エーテルが運動の特定のパターンを準備する
地球がエーテルを通過するが、様々な速さの静電力は、特定の距離まで届き、そして、エーテルの電気的成分をネガティブに分極化させ、その物体の中に影響を及ぼし、我々が「重力」と言うものをつくる
静止したエーテルは、地球に結び付けられた物体の中を動くように見える）
due to the earth's motion through it, undergoes a change in electrical displacement,
地球がエーテルの中を通りながら運動するため物体の外のスペースと物体の内部のスペースの間の誘電率の違いのため、電気状態が変化する、
物体の外のエーテルが入る前の電気配置と、それにエーテルが入って、物体を通過してからの、電気配置には、誘電率の変化と、物体の中の陽子と電子といった「電気的な内容」の変化をうみ、電気チャージと電場と磁場に影響を及ぼしていることが見られる。
これらの変化は、次々に物体の原子に下向きの推進力をもたらすエーテルの電気配置の変化の原因となり、既存の「平衡位置」から離れマクスウェルが言ったように、重力がないところを原子が、占めるようになる。
重さのある物質の電気粒子の「平衡位置」は、誘電率によって異なる。
誘電率の変化で結果として、電気配置を通して平衡位置の変化が起こる。そして、それは結局新しい平衡位置が結果として起こることになる。
時間に関係する重力の特性は、落ちている物体の慣性にあり、落下のどんな過程でも、それはミクロ螺旋形の細管のピッチに段階的な増加を強いる。
要約すると、
地球に関係して大地に静止してつながれた物体の中に、分極化と電気的な配置効果の違いが、存在する、
地球の表面のマイナスと、電離層のプラスの間の空間との関係を通して、地球の電界は物体の外側に存在する自由空間から段階的な影響をうけ、誘電特性に、段階的なひずみを生む。
電気配置と重力の効果は、したがって、変化する、
いくぶん、ニュートンの「逆二乗」の法則のようになる。
「重力」と慣性の効果と運動の間には、見た目の違いが、でてくる
伝統的に、慣性は（ニュートンの運動の第一法則に従って）「静止した」物体の傾向と常に考えられまたは地球と比較して 50 以上の「恒常的な速さ」で、外部の力によって作用されない限り、恒常的な速さを保持しつづける、または静止し続ける。
地球と比較して静止しているすべての物体が地球と同じ「恒常的な速さ」ですでに動いているのだが、見た目では地球と比較して変化した運動だけが、運動の問題になる、そしてその運動はどんな所定の時刻でも、エーテルの中を動いていて、そのような運動の変化は質量の中の力のチューブの流れのパターンに影響を及ぼしている。
伝統的に地球に比較して動いている物体だけが「運動」があると言われていた、（この比較によって「物体の質量と速さが生まれる」）
地球と比較して「静止した」すべての物体にはすでに「慣性」と同様に「運動」があるとすれば、この規則は間違っている。

運動と慣性は、正確に同じ原因が生み出す「傾向」である、
それを最終的に理解するためには普遍的にエーテルがあるとする視点に関係してくるのだが、便宜的には、我々がまだ絶対の固定されたエーテルの「位置」を持たないので、我々は、エーテルと比較して物体の変化率を測定する視点として、動く地球を使う
地球がその比較的恒常的な速さを維持し地球の圏内のエーテルは電界に「条件づけられている」ので、実は地球上には特例がある
つまり、その誘電率は、電気的な圧力を受けている。
これは、Tesla が地球から発している「様々なスピードの静電力」の効果に関係すると述べたことの違う表現である。
地球の枠組みの中で、車の走行運動があるように、太陽の枠組みの中で地球の運動もある。
一部の物理学者は、「フィールドの影響』の考え方を誤って適用し、この「重力が影響するフィールド」を考えて、どうにかして、このフィールドの外にいくことでこの影響から物体を分離させようとした。
私は、地球の「重力フィールド」はその電界（「電流」）の動きの作るものであることを信じている
しかしその中にエーテルが影響するので、いわゆる「重力フィールド」は地球の電界より遠くには、少しも広がらない。
物体が非常に純粋なエーテルの中を通過しているかのように、電子、陽子といった電気粒子から成る原子構造のミクロ螺旋形の管状の振動運動が物体の内部にセッティングされる。
これらの細管のミクロ螺旋形の回転は、Faraday によって確認された磁気回転の分極面の作るものである。
地球の均一な運動の結果が少しでも変化すると、ミクロ螺旋形のピッチが変わり、この均一な運動が変化することへの抵抗が生まれる
力の回転チューブが多くの回転のないエーテル芯（「Onmi」）を特定の期間回す時、これらに動きが変化するよう、要求する
エーテル芯（オムニ）に比例してまわりを大きいか、小さい量で回転し、加速か減速かはその変化によっている。
細管は電磁力を所持し、オムニと細管の間を分離し、流れのパターンを、ロックをかけて維持している。そして、それは運動量の受取人である『重さが量れる物質』の構造と結合している。
物質とエーテルとの結合は「電荷」として認められた電流によって生じることが、ありえる。その電荷は絶えず物質を通り、その率は速度差に比例する。
マイクロ螺旋形の細管の流れのパターンは地球の継続的な新しい方向づけのため、常に徐々に変わるが、それは入ってきて、「合成される」方法で一律に変化する
これらの変化は、時間とともに段階的な変化なので、一定の影響のものは実質的に**感覚的に感知できない。**
しかしこの変化は、感覚が捉えるにはあまりに緩慢なものだ、汐の干満の働きは、多分これらに関係するだろう。
自然の重力の力は、通常常に負に荷電している地球の方に向かっていて、地球の電気/重力場の中のフィールドの両極性のため、自由空間のネガティブな構成要素のエーテルが同符号の反発によ

って電気的に上へ上がろうとする時でもポジティブな慣性の構成要素は、より大きく下に引きつける力となる、そして、移動における変化に、抵抗する。
まさにマクスウェルが言った通りエーテルが地球上で静止している物体に進入し、誘電率の変化によって、それを変化させる
物体の誘電率が変わると、列車に乗せられた物体の原子構造の中のエーテルの電気的な配置が変化する。そして、下に向かう力をつくる。つまりエーテルの各々のネガティブな電気コンポーネントが下に動くと、それによって陽子の上に引かれる力を増加させ、そのこと下にある電子の反発力を増大させる。
空気力学的に翼を逆向けると飛行機を下降させる力を生むのと同様に、動くエーテル粒子は、重力の力をつくる、
これは C 点での電磁内部作用のより大きな速度のためなのだが、しかし、この下降する力は、エーテルと関係していて、地球の運動方向に関係ない、
物質の電気的構成要素と C にあるエーテルの間の相互作用、つまり地球の電界によってうまれるエーテルの状態のため垂直に分極化する、それはエーテルに影響している地球の方向との関係によるので、それは時間に、関係なく物質に対して同じように直接影響する
エーテルと比較して地球の速さは毎時数千マイルだが、電磁内部作用を「上回る」ためには十分速くない。

惑星と衛星を軌道に乗って回る

地球の軌道を回る衛星が「地球の場の重力」によって軌道上にとどまるという概念は間違っているようである
私の論理的分析からみるとその意味は、物体がとる軌道は、まるでそれがまっすぐで平坦な道であるように、最少の抵抗の 1 つをその経路と「みなし」てとるからである
地球よりある程度上の半径の場所ではエーテルがある程度移動するので、軌道に乗って回っている物体は慣性によって加速力を経験する、
もしそれが上へ向かう動きの運動で、そこに下に向かって動く力のような減速する力が働いたとしたならば、力のいらない恒常的な速さと、恒常的な半径または最少の抵抗の通り道としてエーテルが配置されているレベルに、向かってその行く手はある。
物体の運動を制限しそれを決定する要因は、その内部の電気量のリアクタンスで
あり、所定の高度で、地球の電場によって、エーテルがその特定の程度に配置され、その配置の通り道のようなものに沿って軌道に乗って回っている物体は、たとえそれが軌道に乗って回る経路だとしても、まっすぐで平坦な道としてその軌道を見ることができる
この経路は、確かに地球からある程度はなれた高度の同心円になる
回っている大きな物体の回りを、スペースと時間が「包む」
それがスペースを通って動いているといったことは、アインシュタインがエーテルを信じなかったこと以外は、アインシュタインが言った方法と似ている（エーテルの無い「空のスペース」には「包む」ようなものは、実際は何もないはずだ）
軌道に乗って回っている宇宙ステーションのいわゆる「無重力空間」で浮いている宇宙飛行士の

映画からカットされた暴露的な事実の 1 つは、言われてきたことに矛盾している。
宇宙ステーションは、地球の重力によって軌道上を「回る」。
地球の重力が軌道上で宇宙ステーションの位置を保つために十分な力を行使しているならば、内部環境は、「重力からフリー」ではないはずだ。
だが宇宙飛行士は下の床に引っ張られる代わりに、我々がテレビで多くの時間見たように至る所で浮いている。
それでも、宇宙飛行士の体の内部質量の中と電気容量とエーテルの間に十分な弾力があるので、こうした方法での運動が許される。
Maxwell は、この弾力が磁場によっていると言った。

第 4 章

エーテル理論の発展の歴史

回転運動、そして、「スクリュー効果」について
Wm.トムソン（ケルヴィン卿）が、磁気の「回転する」性質は物体の熱または熱の動作に関係していることを最初に示した。
(Proc. R.S. viii [1856], p. 150).
（R.S. 会報 viii［1856 年］、150 ページ)。
ニコラ・テスラは、特に 1892 年に完成度を増した彼自身の発見とアプリケーションのさきがけとして Wm.トムソンに多くの言及をした。そして、彼の仕事について報告した。
テスラが発見したものが物理学とエーテル物理学にとって意味することを一般に示すために、世界の主な研究者がテスラの隠された研究成果の紹介に努めることは必要である。
1870 年ごろに、Thomson は電流または機械的パルス（F. Guthrie Phil Mag xli［1871］、405 ページ）によって振動する回転する球体に「重力の動き」が誘発されることができることを示すと思われる実験があった。
トムソンによって、表面の波動は他の物体を引きつけるか、または反発の原因となりえることが確かめられた。テスラが、1875 年グラーツ（オーストリア）で彼が 19 才の学生であった日々の間、このトムソンの仕事に始めて気づいた。
疑う余地なくトムソンの仕事はテスラの彼の初期の「理想的な飛行機」の概念のインスピレーションの火の粉として働いた
そしてそれはエーテルに作用している電気によって推進されていた。
テスラはトムソンについて続けて言及し説明する、
例えばテスラの 1892 年のロンドンでの講義で、「WILLIAM THOMSON」が言ったテスラコイルを原動力とする『ワイヤーの発光』の兆候について、実演した、
最初は、トムソンは、圧縮できない流体に浸漬された 2 つの固体の間で、物体のうちの 1 つは固定され、片方は固定されていない非常に大きな球の中心との間の、線に沿った力によって振動させられるその動きが、ゼロの力の作用と理解した。
動きがフリーな球が、流体よりその密度が大きいならば、小さな（固定された）球に引きつけられ、流体より密度が少ないとき、はね返されるか、引きつけられ、その量との関係とバイブレーターとの距離に比例する
(Phil. 雑誌、xli［1871 年］、405 ページ;
トムソンの F.ガスリーへの手紙、(427 ページ))
トムソンの実験は類推から行われたものであった。そのために、彼は彼の同時代の人たちから賞賛を呼び起こした
彼はまだティーンエイジャーだったが、この類推の理論を完成できない限り誰もが信じている理論に対する彼の拒絶を証明することは、単なる思い込みであった
彼の同時代の人、例えばマクスウェルの理論は数学的な方程式に頼ってしばしば驚愕に導く。]]

球による実験は、重力と慣性と、エーテルでの固体の、運動の反応を徹底的に調査するため理論を造り、メカニカルなものと電磁気波の方法を使用することになっていた。
ファラデー効果は、磁場に置かれた誘電媒体（例えば空気、スペースと特定の固体材料）の中での放射線の偏光面の回転であり、放射線の回転角度は、磁場の中の媒体での磁気強度と経路の長さに比例している。とそれを述べた
これらの初期の実験者は回転運動と運動量の関係があることを知っていて、それを見つけようとした。
磁気の回転現象（線形のものに対して）の特徴は、光の磁気回転に関するトムソンの実験的に確かめられた結論によって強化された。
この回転する性格は、回転している磁場のテスラの発見に影響しただけでなく、慣性と運動量の基本にもなった。
しかし私が後で説明するように、チャージされた物体の動きが電流をつくる時、それらは、磁場をつくりそれらは、回転する運動をうみ、それはまた、運動量をつくることで、端から端までドリルのようにエーテルの「穴をあける」。
Thomson のこのシステムは、1877～1910 年にビェルクネス C.A. Bjerknes によって後で調査された。
ビェルクネス Bjerknes は圧縮できない流体に浸されている 2 つの球がパルスしたとき､それを示した、
これらは、波動が同調しているならば、ニュートンの逆二乗則に従った相互に引きつける力を行使した
相が半波異なるときは、球は反発する。
差が 4 分 1 波だと、動きはなかった。
パルスが 4 分の 1 波長より大きな間隔だったところでは引きつけるものと反発は、逆にされた。
Mathematik I［Leipzig、1877］、268 ページ;
Proc. Camb. Phil.
会報 Camb. Phil。
Soc. iii [1879], p. 276; iv [1880], p. 29).
協会 iii［1879］、276 ページ; iv［1880］、29 ページ）
ヨーロッパの物理ジャーナルでのこれらの研究と実験についての出版物は、ニコラ・テスラが利用できた、
そして、チェコスロバキアの、プラハ大学と（オーストリア）グラーツの Polytechnic 研究所での彼の学生時代の間 Tesla は､全て彼らの原語でこれらの関係するジャーナルを読むことができ、理解することができた。
およそ 1878 年の、George Francis Fitzgerald（1851～1901）のジェームズ MacCullagh によって以前に考案されたモデルに基づく磁力と準弾力性がある固体での速さの比較についての理論（Phil trans.　clxxi [1880], p. 691;）は、MacCullagh がエーテル運動方程式そして、エーテル論で示したように、明らかにただ一つで、それらは、光の電磁論に類似した光の特性で、波を伝播することができるというものであった。
そしてそれは、磁気と電気の相互作用とともに、光学現象をも意味するためにエーテル概念を広

げることを可能にした。

(1809-47) (Brit. Assoc.
（1809～47 年）（ブリテン Assoc。Rep., [1835]),
レポート（[1835]））、
55

An Electrostatic Charge Carried Around

静電荷がまわりに付随する

In 1879, Edwin H. Hall
1879 年に、ボルチモアの学生エドウィン H.ホールは H. A.ローランド（彼の教授）によって提案された実験を繰り返していたが、金-ホイルでおおわれたエボナイト・ディスクでオリジナルの実験をすると磁場の中で、回転させたディスクは電荷を示した

(Amer. Jour. Math, ii [1879], p. 287)
（アメリカ Jour. Math、ii［1879］、287 ページ）

(Ann, d. Phys, clviii [1876], p. 487).
（アン対 Phys が（clviii［1876］）、487 ページ）。
In Hall's experiment, a gold leaf strip
ホールの実験では（金箔端子）に電流は流れ、磁気の隙間に入る。
これは、磁場に直角に起電力を発生させ、そして、2 つの積に比例して流れた。これは「ホール Effect」と呼ばれている。
これは、ファラデーによって以前に発見された 3 つの効果のなかにすでに内在していた
ファラデーは、伝導体を磁場を通るように強制し磁力線を切ると、伝導体に電流が発生する、電磁誘導を発見した。
ファラデーの三つのうちの、第 2 番目のものは中心の極の間の隙間の伝導体に電流を通すよう強制することによって非磁化 unmagnetized された鉄の芯に磁場を発生させることであった。
ファラデーの第 3 番目の効果は、電流の発電であった。
ホール効果は固有事実だったが、磁場に導体を強引に通して発電するのに必要なファラデーの言う力と逆の力が、必要とされた
ホールの仕事は、三つの効果を意識的に合わせることで完了した。
最終的に Tesla の研究による特別な方法で、成果が得られるこの効果は、MHD（磁気 Hydrodynamic）発電器と電子推進力のための基礎である。
ホールの実験の検流計の針は急に磁場が起きるか、急に衰えた時だけ、動いたので、つくられる

物理的な推力はベクトル積であった
それはほぼ 15 年早くマクスウェルの論文(1862 年),ですでにはっきりと提案されていた。
（c. 1845 年のファラデーの仕事のマクスウェルの分析に由来する）、
彼が早く死んだのでマクスウェルは実験で確かめることができなかったが、方程式は、まだ使われている。
しかしそれは、ホイッテカーによってそのホール効果は、磁気的な光の回転のように、慎重な考慮に値する物体だけに起き、これは「遊離したエーテル」では起きないと言われた。
実際に媒体の伝導率に依存して効果が現れるので、この声明は明らかに間違っていた
おそらく、1951 年に改訂が「必要」であった
効果が「重さのある物体」と「伝導媒体」で起きるという事実は、電子推進力にとっても非常に大切である、
それはそのような物体と媒体と根底にある「エーテルの枠組み」の間のプロセスにアクセスされることで、反応が現れる。
テスラは彼の特許で「自然の媒体」（エーテルと空気）についてしばしば言及し、十分に高い電圧と周波数の電磁放射の影響を受けて導通すると、遊離したエーテルは、（正確な限定された状況に依って）、遊離したエーテルを通して重みのある物体の中のエーテルに影響を及ぼし物体を動かすことができる。
ホール効果がフリーなエーテルに働きかけていることの最大の驚くべき証拠は Tesla の高周波振動している空間を通した電気エネルギーの「伝達」であった。そして、そのことは前に彼の 1892 年の London の Institute of Electrical Engineers でのレクチャーで詳述した
電界がエーテルと『置き換わる』ので、これが、MHD の吸い上げポンピングの基礎となる
（特にパルスしたとき効果が生まれる）
実際に使用可能な「起電力」（「emf」）を示し、また電磁気の動きによって重さのある物体とエーテルの間に起こる「電子推進力の力」を示した
高電圧と高周波は、エーテルにたいへんな密度と超繊細さを要求する。
Tesla が生きていた時代に、彼は高電圧、高周波の流れと電波によって電気エネルギーを送信することに成功し」エーテルに「アクセスした」。
Maxwell が、光の電磁的性質を数学的に分析したものを、Tesla の仕事は、実験的にすべて確かめた
慣性と動きは物体の内部の高密度、圧縮できないエーテルの電磁回転する力が生み出すもので、それはすべての物体とすべてのスペースに浸透することを強く暗示していたが、私の入手できる文献は、明確にこの考えを述べることに失敗した
そして、ニコラ・テスラは「大衆 flivver」/T 型モデル自動車」と
「理想的な電気飛行機の存在の可能性を発表する以外は、electropulsive な、脈動している球または他の重さが量れる物体は、他の重さが量れる物体の存在なしで電気的に推進させることができ、エーテルでもう一つ別の球を引くと明確には述べなかった
Tesla は、1884 年に、回転する磁場を発見した、
J.J Thomson が動く帯電された球によって、場が生み出されることを確定しようとしそして、Maxwell の数学的な理論展開を速めた

単純な幾何学的な形の平面、球とシリンダーの既知の作用からそのような問題を解決することは、自然で簡単なことだった
数学。
Soc. xv [1884], p. 197).
協会 xv［1884］、197 ページ）
エーテル自身が『下位電子的な』負電荷をもたらす静止した正電荷から成っている可能性がありそれはゴムのように、移動することができるが、これは明らかにトムソンの考え方の中からすり抜けた。
トムソンは変位電流がどのように起こるか、あるいは、これらの効果が慣性と運動量に関して何をするか教えることができなかったが、彼は変位電流がエーテルで起こらなければならないと仮定し、初期の彼には、これが磁気効果による、動く電荷であるという考えがあった、
古典的な電気力学の支持者との間ですでに起ころうとしていた一種の戦いがあった、そして、
Maxwell 支持者は光の電磁気論を導いた
前者の古典的な電気力学の支持者は、金属ワイヤー、その他の中で伝導が起こり、
マクスウェルの考えでは、その動きは「導くだけ」のために働くコンダクターで、誘電体の周囲のエーテルで満たされたスペースで伝導が起こっていた
Tesla の考えは、Faraday/Maxwell 陣営により一致するように見えた。
放射線が全く電気方法によって発生することができたので、マクスウェルの統一は効力を有したか有効にそれについて議論することによってフィッツジェラルドは、2 つの見解を統一した
この考えに沿って、Thomson（1884）最初は、直線に一様に動いているチャージされた球を考えた。
彼は、球がたとえどんな位置にあったとしても、それが落ち着いて静止していても同じように電荷も電気的な場も同じようにすべての方向に、一様に配布していると、仮定した
球と光速の速さが無視される限り、この仮説は真実であるとわかった。
1889 年に、Wm トムソンは述べる（会報ロイ　アイルランドの Acad. i［1889 年 11 月 30 日］（340 ページ））、、
「回転する渦-の芯は除かなければならない;、言い換えると渦のない回転部分と空虚な芯がなければならない。」
これによって、トムソンはそこに空虚な「エーテル」の存在を定めた、
電磁気の回転チューブの中の核には、おそらくその密度のため、回転がなかった
しかし、また、電磁力を加えて回転チューブの芯が回転するならば、それははずみがつけられることで、電気的メカニカルな作用の効力を消す
フィッツジェラルドはトムソンの仕事の誤りの意味を見つけた。そして、球の運動による電流の移動と対流電流とが結合されるように動く電荷を考えない限り、要求される「回転状態」は生まれないと言った。
トムソンの誤りを訂正する際に、フィッツジェラルドが動く球の変位電流による磁力には、結果として生じる効果はなかったと、その問題に結論をつけたことは行きすぎであった
この結論を出すとき、フィッツジェラルドは「ファラデー箱」そして、「光磁気」効果、
を忘れたようだった

それ以後、チャージされた動く球は、球自身への流入によって電流を発現させる、そして、すべての電流は、磁場をつくる、それは結果として生じる効果として周囲のエーテルに電磁放射線と光の回転を引き起こす。
1888 年に、O・ヘビサイドは静電と電磁単位が、球体の中に「消えた」ことを示した
これは、ファラデーの実験と正反対であった、ファラデーにおいては、動かない密閉型容器の中に静電荷はあり外側にも「現れた」
ヘビサイドでは明らかに、球の動きはその運動量がチャージを強制するため電荷の増加が見えるが、中にもどる。
ヘビサイドの「運動の間の「球面」のシンメトリーチャージ」の概念は 1896 年に G.C.F.サールによって反証をあげられた
(Phil.
（フィル。Trans, clxxxvii [1896], p. 675).
Searle found that サールは、動く「点電荷」システムは、球ではなく、扁円の回転楕円体で、運動方向に沿って極軸があることを見つけた。

そして慣性と、運動量と、電流と、表面のチャージが「消えて」、「再び現れる」こととの関係、そして電気メカニカルとエーテルとの関係、つまり運動の方向に沿った電磁気の極性、運動と極性が一致することと、電気線の移動とエーテルとの関係といったことの発見の重要性は、ホイッテカーが示すことができなかったもので、細管が運動体の中に運動量をつくるという私の考えに合致していた。
物体の動きがエーテルを通して恒久化する時「消えた」静電気/電磁気の構成部分は、マイクロ螺旋によって内部に『閉じ込められる』。
During this time, Nikola Tesla had not tarried.
このとき、Nikola Tesla はこれだけにとどまらなかった。
彼は、この「回転状態」を全く新しい方法で作ることができることをすでに示した。
N.Y.、1891 年 5 月 20 日の、
コロンビア・カレッジの A.I.E.E.を前にした彼の講義で、彼は、彼の技術的才を示した、

N.Y., May 20, 1891,
そして、述べた
彼は、1 台のランプの接続端子に接続し、そして他の端子を、「必要とされるサイズの絶縁された物体へとつなげた。
すべてのケースで絶縁された物体は、周囲の空間にエネルギーを放つように働き、そしてそれは、ワイヤーに戻ってくるエネルギーと等しい。
「この講義で、テスラは「電磁気の運動量」を示しそれは J.J.トムソンが、1893 年に発見したことが公認されたものであった
(J.J. Thomson, Recent Researches in Elect. And Mag.
（J.J.トムソンの電磁気の最近の研究。, [1893 年],p. 13).
サールが見つけたのと同じ年に、(1896) W.B.モートンはそれを「チャージされた物体の電荷の表

面密度は運動によって不変である、しかしもはや、力線は表面に垂直には残らない。」と同じように、示した。
W.B. Morton (Phil. Mag, xli [1896], p. 488)
（フィル。雑誌（xli [1896)]、488 ページ）
彼はまた、動いているときは、静止しているときより、周囲の場のエネルギーが大きいことを見つけ出した。
チャージしてないものよりチャージされた球は所定の速度をつくるためにより大きい仕事量が要求されるが、球が少ない仕事量で動くことができるため、チャージの動きとエーテルの間の関係が、確かめられた
そして、。
球の運動によって電荷が動くとき、
電荷が球の「仮想質量」を増やし、対流電流の自己誘導がつくられたことが真実だと思われた。
しかし、これらの説明のどれを見ても、チャージされた質量とスペースの間に動く力、つまりそれは、エーテルの押すか、引くかする枠組みがあること、または動きによって物質とエーテルの間で電流が流れる原因が発生することを提議しなければならないことを明確に認識しているようではなかった
J. Larmor
J.ラーモアはそれを示唆した
(Phil. Trans, clxxxvi [1895], p. 697)
（フィル。Trans、clxxxvi［1895］、697 ページ）
原子が電子のシステムから成る時、慣性の問題は、充分考えることが必要な問題で最終的にこの性質があることが証明されるかもしれない、
これに対する唯一の異議は、推定されている電子の「不可分性」との矛盾であった。
この「不可分性」はあてにならない「見た目の効果」によると私は信じている。そして、計測器で発生するそれは、これら装置が「全部の陽子」だけを使うので、(エーテル粒子よりむしろ)「全部の」電子だけを測る。
「電子の全て」は、正電荷「全部」に対して生まれる「反対の等しい量の」反応である。
This is similar to Werner Heisenberg's "uncertainty principle",
これは、W・ハイゼンベルクの「不確定性原理」と似ている、
この中では、全部の電子の量の正確な測定値は、測定器具では不可能とされる。
If a greater "virtual mass" effect (W.B. Morton, supra) is created electrically,
もし大きな「仮想質量」効果（W.B.モートン、上記）が電気的につくられたなら、「遊離したエーテル」を通して物体の動きの容易さが増減する、そして、動くシステムの全体のエネルギーを増やすので、重さのある物体とエーテルの枠組みの関連は、証明される、そうであれば、電子推進力のために、特定の方向に動く電荷を使用して力のアンバランスをつくる方法で、動くシステムの流れを総合することは、ただニコラ・テスラの時間とお金の問題だけであった

ファラデー、マクスウェル、Wm トムソン、J.J.トムソン、MacCullagh、モートン、サール、ヘビサイド、ホールとフィッツジェラルドの作品には含みがあった、

運動と質量に関係するチャージの変化はすべてのスペースと重さのある物質の中に存在しそこでは、測定可能 ponderomotive な電磁気の力が働く。
それにガス状の、ダイナミックな、中性の、超純粋なエーテルが相互に浸透することを通して関係する
一旦エーテルと ZPR の均衡が、動くシステムによって「妨げられる」ならば、『移動』は単に動くシステムとエーテルの間の気流の流れを等しいか逆の反応をうむことで調整することができる、Thomson は、エーテル自体が乗り物の機械的な力となる原則を受け入れた。
The Hall effect had shown that an electromotive thrust is produced along a third axis
電流と磁場とが直角になる結果、電動推力が 3 本目の軸に沿って発生するホール効果を示した、そして、この推力は重さが量れる物質だけでおき、「遊離したエーテルで」は発生できないと主張したが、しかし、ヘビサイド、サールとモートンの作品は、それを示した
。
電荷の動きは物体の動きの通常の容易さを増やすことも、減少させることもできた。そして、電子推進力のために実現可能性を証明した。
電気プロセスが反転可能であるので、テスラの方法は（地球と関係した）『静止した』システムとエーテルの間は、まるでそれが「ダイナミックな」システムであるように、気流の流れの原因となるホールの MHD 方法を使用することから成った
そしてそれは動くシステムの流れを模倣しエーテルの妨害をする
そしてそれは一旦気流が流れることを始めるならば、システムの動きで調整することができるだけだった。
そしてこのようにしてつくられる磁場は、回転する力を与え回転のないエーテルの芯のまわりで力のマイクロ螺旋形のチューブを作り、それは自分の道に『穴をあけ』、そして、エーテルを通してシステムを推進する運動量を総合する。
ニコラ・テスラの声明では（Immigrant Welfare（1938 年 5 月 12 日）研究所の前の講義)、
that he had his Dynamic Theory of Gravity "all worked out" by 1893,
1893 年までに彼は Gravity の Dynamic Theory を、「完成させ」、そして、1891 年または、それ以前のテスラの仕事の報告が『得る』事ができる
彼は、1890 年代ごろから声明が始まった J.J.トムソン、サール、モートンとラーモアによって導かれていたヨーロッパの最前線の研究よりすでに前にいた
彼の 1915 年の前進に関して、、Tesla は 1915 年 12 月 8 日に New York Times の記事で electro-propulsive について述べた。
.. 推進するエンジンまたは翼のない無人飛行船…は、毎秒 300 マイル毎秒 482.8032ｋｍ（108 万 mph 毎時 1738092 キロメートル）「で旅行する、…地球の望ましい地点に電気によって送った...」」
1940 年 9 月 22 日のニューヨークタイムズの Wm L.ロレンスによる記事は、テスラが彼の四つの部分をもつ Teleforce システムをすでにテストしたと述べ、彼の電気航空機で使われたように、..ものすごい電気推進力を生み出すための新しい方法がある…」と書いて報告した

5 章 :

テスラとグッドオールドボーイズクラブ

テスラが写真にひょいと入ったとき、英国の「グッドオールドボーイズクラブ」は相当な時間エーテル論を討議してきた、
そして、成り上がりのテスラが、走りこんでゴールに、タッチダウンすることで彼らの審判の誇りを傷つけた。
1847 年に、W.トムソンは不均一な力の場で磁化可能な物体の運動を議論し、チャージされた物体は、周囲の媒体より特別大きな誘導的な量を持つ物体を引きつけ、逆に、周囲の媒体より特別低い誘導的な量の物体には最高の力線の伝導体となり通り道を与えるため、反発すると言った。
トムソンは、絶縁媒体の流体の中に満たされた電極についても述べた
(an experimental analogy to a body in ether-filled space), at ".
（エーテルで満たされたスペースでの物体の実験に類似している)。
..十分に高周波」、のガス状のまわりの、すべてが電極の方へむかう
ものが重力の原因となる、だが大体の意見（彼と、彼のヨーロッパ人の同僚）は、それがそのような周波数に達することができるかどうかは「問題外だ」ということであった
この最後の意見は、すぐに Thomson の仕事の親しい支持者と崇拝者によって反証があげられることになった。
もう一人のトムソンは繰り返した、。
J.J.トムソンは、チューブを動かす、力についての理論を数学的に発展させたと主張した
of moving tubes of force

(Phil. Mag, xxxi [1891], p. 149).
（物理学。Mag、xxxi［1891］、149 ページ)。
彼の仮説は、「エーテルは、メカニカルな運動量の倉庫だといったものであった
", but was this correct?
「しかし、これは正しかったのか？
「メカニカルな運動量」の「倉庫」であることは、ありそうでなく「慎重な考慮に値する問題」でむしろそれらは、エーテルに反応したのではないのか？
1891 年の Columbia カレッジの A.I.E.E.の前の Nikola Tesla の講義は、初期の実験に基づいている。
彼は「力のチューブ」に言及して、エーテルと運動量に関わる彼の発見を明らかにした。
彼の 1892 年 2 月ロンドンの電気学会での講義で、そのとき Old Boys グッドオールドボーイズはまだ電磁気の動きがフリーなエーテルで起こることができるかどうか、討論していた。
テスラは自分がすでに造った器材で、無線エネルギーによって少し離れたモーターを動かす予定で、環境からフリーエネルギーを抽出すると説明した
4 年後に、Wm.トムソンは、彼が「推測した」
「静電力の変化つまり急速な電極の変化で発光するエーテル」、が「凝結した波によって伝播され

る「傾向」を述べた
(Bottomley, Nature liii [1896], p. 268).
（ボトムリー、ネイチャーliii［1896］、268 ページ)。
これは、トムソンがまじめにテスラを理解し始めたことを示していた。
62
彼の 1892 年のロンドンでグッドオールドボーイズのための講義で、テスラは、トムソンがそれは「問題外」だと言っていたその発生のために『必要とされる』周波数について、人が、最初妥当と思う周波数より非常に低い」と、述べた

そして、続けた（関係する部分の強調は私)) :「高周波の交互の電気的インパルスを用いるとガスの分子が衝突する原因になるかもしれない
そして、我々は、現在、それが可能な高周波の実験で炎のプロセスを模倣するかもしれない
私は、この効果はインパルスで生産できると思う
それはコンダクターを通して送ることができる。」
そして「。
..、私には、ガスの領域が堅さを示すことに大きな興味を持って見ていた
...それは低周波だとしても、毎秒 10,000 ほどだと言う
私は、それを特別に造られた交流発電機から苦もなく得ることができた。
..どのように、ガス状の媒体は、惑星間空間で活動中なのか、膨大な静電的なストレスの影響を受けて機能するのか、そして、それらは考えられないほどの速さで振動するのかもしれない？」
この点で、テスラは全方向性の ZPR について言及しているようでもあった。
彼の声明は、エーテルの性質が堅いか流体で、それがどんな状況で変化するのか、そして、その静的であってダイナミックな性質、そして高密度か低密度の場合のそれぞれの性質について、そして、4 番目に :「何が、この物体の硬度を確定するのか？といったようなエーテルの特徴に関して彼が言おうとしていたことを示す
それには動く物体としての速度と量がなければならない。
ガスにおいては、速度はかなり速くなるかもしれないが、密度は非常に少ない、
液体においては密度がかなりの量になるが、速度は遅くなりそうである、

そして、どちらの場合においても、慣性の抵抗が、出てくる。
物体は振動している質量を通して、自由に多いか少なく、動くだろう、しかし、全体としては、それは堅い。」
このテスラの声明は、1892 年のロンドンでの講義以前の彼の実験を反映している、
彼は電力を供給された 2 枚のプレートの間でテストを行った。そして、「十分に高い電圧と振動数」になるとき間の「スペース」が「固体」のようになったと述べた、
問題について次のように言及する
全体が振動している濃密な、堅いエーテルの質量に「固体」は、どのように端から端まで浸透することができるか
電力を供給された物体にある、「十分に高い電圧と周波数」の流れはエーテルを活性化するが、そ

れが、『エーテルの形態』がもつ「慣性への抵抗力」を、奮い起こすことが可能になる方法の本質である
「エーテルそれ自体が慣性への抵抗を示すので、MHD 推力によって、電力を供給された本体は、エーテルを通して推進される
そしてそれは実際は「マイクロ螺旋形のドリル」として働く。
テスラが話した「特別に造られた交流発電機」は、直径 32 インチのものであった、
それらが円盤で使われたタイプと類似しているとすれば、私が 1953 年に見た、多分テスラの刃のないタービンのうちの 1 台を作動させたのだろう。
1890 年代に、Tesia は交流発電機は最高 30 キロサイクル、10 アンペアとを生み出したと言った
これらの交流発電機のうちの 1 台は、下で示される：

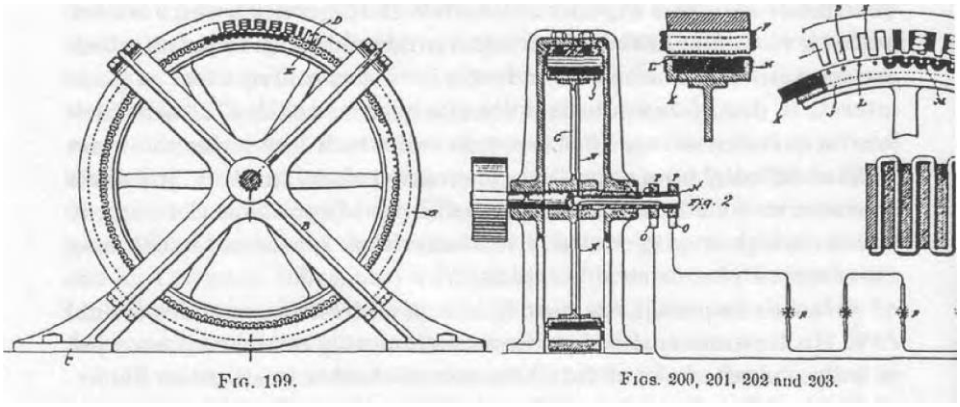


FIG. 199.　　FIGS. 200, 201, 202 and 203.

私が 1953 年に見た UFO は、歳差運動の特徴を示していたがそれはこのような交流発電機を用いたことが原因であった、それが UF0 の出力レベルで出力と rpms 回転数の変化をうみ、
UFO の出力レベルは、その状況で、変化することになった、
船が加速するため多くの力を使うが、まるでそのためにタービンが次第に速くなるようだった、
低い回転数の、空への高い角度での前進は、大きな直径の交流発電機の高周波を常時使っていた、
それは浮かんでいる状態でゆっくり回り、多くの力を得て rpm は増加し船は加速される
UFO]の機体に交流発電機がしっかりと付けられたので、それで UFO が浮かんだ状態で進む原因に完全になっていた
重力による下への加速が electropulsive な上への加速と釣り合うとき、船は地球の空中に浮かんだ。
私が 1953 年に観察した前進は、内蔵された機械の回転によること、または electropulsive な影響によってつくられる「仮想」の角運動量によっていることを、この現象は、示していた。
このバランスの中で、船は空中に保持され、それを空中の常平環 gimbals の上に支えられることに等しかった
それは UFO]の機体の交流発電機と質量の角運動量の回転速度に一致して自由に前進した。
electropulsive な力が宇宙船の慣性をほぼ 0 に縮小させたので、前進するためにごくわずかな力しか要求されない
他方、磁場が電流に与える回転する力は、マイクロ螺旋をつくり前進する原因になる

「前進か逆方向の反応」が船の質量の全ての原子に与えられ、総体的に回転しながら前進する動きを生み出す。
テスラは彼の空中輸送（1928 年 1 月 3 日）のための装置の特許#1,655,114 で明言したように宇宙船の回転する傾向を打ち消す方法の問題を、2 台のタービンまたは交流発電機を用いて（パラレルな軸で同じ方向に回転させるか、反回転させることと、交流発電機またはタービンのトルクによってこれを解決した、.
実際、ギアボックスにつなげられて平行軸に 2 つに分けて置かれた、二つの交流発電機とタービンは、同じ事を達成する。
船は全速力とフルパワーに加速し、船は 3 秒で無限に飛び出たので、その低い率の歳差運動と高い角度の歳差運動は、単なる高周波のぐらつきになった、
（それを私はおよそ 7.5 マイルと推定した)。
これは、次第により高速で回る交流発電機と一致していた。
船の周辺の急速な前進とぐらつきは、その周辺をぼやけさせる傾向をうんで、円盤の形態を写真とビデオで写すことを難しくした。
この物理的な振動は「ファラデー効果」－「光磁気効果」と関係するかもしれない、それは激しい電磁界を受ける物体の輪郭をぼやけさせる傾向となる。
宇宙船の電界の拡張は、その磁場を拡張させ、そして、光学的効果を伴う円盤は、高周波歳差運動の振動の視覚効果に加えて回転を引き起こす、
光学的効果を伴う円盤は、実は、怪しい光磁気効果をつくって回転する
これはしばしば、神秘主義者の心でゆがんだように伝えられる、
そしてその人はそれをある種の「時間旅行」または「次元変換旅行」の結果と思う、
その物体の「回転」によって、スペースを通って動くことは、「時間と空間」の「スペース-ワープ」または「ワープ運動」とされる
アインシュタインは、UFO が「回転する現象を」除いており、これは私の Peiltochte rkompass によって証明されたように、アインシュタインはたわごとでいっぱいにした。
空飛ぶ円盤は、Tesla 交流発電機、テスラコイルまたはその 2 つの共同した動作によって動いているだろう
テスラは、要求された流れは、コンダクターで伝えることができると述べた
それらは、スゥッチとリレーによって、高電圧に変えられ宇宙船の瞬間的な制御力を可能にする通常発電機が置かれることが必要とされるので、火花ギャップ、コイルとコンデンサーの組み合わさったものより交流発電機の使用が便利である、
直ぐに簡単に必要な高周波に変換ができるので、宇宙船のまわりに置かれた「特別な」コイルに高い電圧が接合された。
球形コックピットがドイツの 1940 年代の「旋回する UFO」）KreiselTellers で使用されたかもしれない
コックピットはボール形であることが求められた。そして、それが常平環に取り付けられた、
そして、水平に正しい位置に置かれた Meisterkreiselkompass 主コンパスでジャイロは安定する
UFO の外が激しく前進する間（「マスター・ジャイロコンパス」は、ジャイロのコックピットを安定させるだけでなく方向固定支持コンパスを方向付ける極性コンパスを提供する

交流発電機が機体の外側にボルト留めされているので船の外側が前進するとき、内部のコックピットはジャイロを安定させる運動をする、
それで、パイロットとクルーは、外側の環境を視ることができる。
さらに 45 度の歳差運動の角度でも、パイロットは依然として彼がどこにいたか、そして、彼がどこで何を行っているか見ることできる。
私は UFO を 1953 年に見たのだが、可視性システムをどのように可能にしたか理解することができず、、言うことができなかった。

Tesla のダイナミックな重力理論

（1938 年 5 月 12 日の）テスラの移民局の Immigrant Welfare ための講義の準備によると
彼のダイナミックな重力理論は、2 つの大きな発見に達していたがそのうちの 1 つは「1893 年と 1894 年の間にすべて詳細に研究された
1938 年の講義は、彼の死の 5 年前であった。
「国家の安全」の理由のためにテスラ論文集は政府の金庫室に隠されたので、これらの彼の発見についてより完全な声明は、散らばってまばらな情報源から落ち穂拾いをして推理できるだけである、
私が 1979 年に、特に「国家の安全リサーチセンター」現在の「ロバート J.オッペンハイマー・リサーチセンター」でこれらの論文について問い合わせたとき、その同じ日に開いてた棚で水素爆弾の計画にたとえ気がついたとしても、これらは秘密だったので、私には接近手段は否定された、
その日の午後にサンタフェのレストランでハーヴァード大学院生にこの水素爆弾計画について話した。
その人はロスアラモスに行って、その設計図をコピーし、ハーヴァードで書いて公表した
彼の 1938 年の講義で、Tesla は仕事は前進していると言い、「間もなく」世界に理論を発表することを望んでおり、彼の目的は彼の秘密の展開を完了するとすぐに、明確に、「世界に与える」ことであった。
Tesla が目指していた「2 つのたいへんな発見」とは：
1.は、ダイナミックな重力理論と重力場についての考察であるーそしてそれは空間での物体の動きを説明する;
この重力場の仮説は、空間弯曲（つまり Einstein）の概念を不要とする;
天体の動き(宇宙の重力、慣性、ポテンシャル)の現象で（(全原子と分子の物質と同様に)、エーテルには欠くことのできない役割がある;
そして、2 番目は
空間エネルギーである。それは新しい物理的な真実の発見となる。:
物質の中には環境から受けるエネルギー以上のものは、ない。
テスラは、彼の 79 回目の誕生日（1935）にいつものテスラ誕生日の発表としてこの理論について短い言及をした
テスラはそのまさしく宇宙の発生からその最終的な崩壊まで、最大の天体と同様に、分子と原子についてすべての物質の段階について言った。
しばしば相対性理論を吹き込まれた者は、「形」となった「純粋なエネルギー」について言及する、

その人はどんな「形」も「純粋」ななにかになると言うことになっている、
そして、それは、そうでない？
私の大好きな哲学者（Ayn Rand）は、言った
「実際は、そこに反論はないが我々がそれを知っても知らなくても、問題に関係がないということである
あなたの前提をチェックしてみてください。
「学説「エネルギー」が便利な抽象概念だけならば、それは物理の公式として存在せず、単に実際研究可能な、前提とされる概念を記述しているだけで、生産された物質と電磁放射の、永久運動を生む力は、いわゆる宇宙を通るその王道の研究として、完璧な研究経路で変えられた。
この物質の姿のあらゆる変化または、放射は「作用」に影響し、変化を誘発し、また、変化によって「作用」が誘導された。
作用なしに、変化はない、しかし、すべての作用は究極の永久の、宇宙の自立した運動の作り出すもので、それは規則的で例外はない。
Tesla の理論に関して言えば、例えば、地球が「人間の生れた星」になった原因についてのヒントがある。
詩的な表明で、彼が、「Jove の稲妻」（インド - ヨーロッパ語族の空の神）を使って述べることで科学的な意味を隠した、例えば人が電子推進力（「稲妻」）で「時間と空間を絶滅させ」、時間と空間が、「消滅する」ぐらいとても速く旅行することを、ほのめかすために使った。
彼の論文を政府が盗んだことに、我々はほかの意味を捜さなければならない。
人類の最も大きな業績の論文（1）で Tesla は、彼の Gravity の Dynamic Theory を詩的な形で概説した、（私によってこれは本当の意味を持つものとして言い換えられた）：
luminiferous 輝くようなエーテルが、全宇宙に満ちる
生気を与える創造的な力によってエーテルは、作用される
光速に近い「極微量のものの回転」（「ミクロ螺旋」）にエーテルが投射されるために、重さが量れる物質になる。
その力がおさまると、そして、運動は止まる、そして物質はエーテルに戻る（「原子崩壊」の形）
John J. O'Neill、Prodigal Genius 超天才、1944、pp. 251-252 68
この人はこれらのプロセスを利用することができる、-エーテルから物質を引き起こし-彼が望む物質は何でも作り出せ、エネルギーを引き出す
地球のサイズを変化させ、地球の季節のコントロールする（天候を支配する力）
-宇宙を通して宇宙船のような地球の移動の通り道を指示する、
新しい恒星と星、惑星の衝突と熱と光を生み出す原因となる：
-それは環境から引き出され無限の形で生命力を高めそして生命の源泉になるとして、テスラは無制限のエネルギーと言った。
いくつかの彼の重大なフリーエネルギーの発見は我々の秘密政府に独占的に盗まれた資産であった。
電子推進のために非常に弱い重力の力をコントロールして、用いられる強い力へのエネルギーの転換は、同じ時間量でより多くの仕事を達成する、「オーバーユニティ」効果を発生する。
彼の 1890 年代の前の講義で、Telsa の耳慣れないエーテルの概念化のいくつかは、それにもかか

わらず断片的に説明された。
2
後になって彼は、マクスウェル、ヘルツ、ローレンツとアインシュタインの誤っていて限界のある理論に文句を言った。
テスラのエーテルは、マクスウェルとヘルツと、ローレンツの説明路線による、ガス状のエーテルだけでなく「薄い鋼」のような「固体」エーテルでもあった
また、
Tesla のエーテルは「絶縁流体で満ちているキャリヤー」から成っていた。そして、それは全ての空間に満ちていた。
その特性は、運動に関係し、質料の存在と電気的で磁気環境によって変化した。
テスラのエーテルは、速く変化する静電力によって剛直化された、
そして、それによって、特に地面に近いスペースの重力効果、慣性と運動量に関係していた、
テスラによってその後、説明されたように、地球では「チャージされた金属ボールのようにスペースを動く…」、
それらは、非常に、速く変化する静電力をつくる
そしてそれはちょうど重力のように地球からの距離の逆二乗で、強さが減少する、
地球からの放射には伝達方向があるが、いわゆる重力は、地球の方向にある。

T. C. Martin,
T. C.マーティン、

2
Inventions, Researches and Writings of Nicola Tesla, 1894,
ニコラ・テスラ（1894）の発明と、Researches と Writings
Chapter XXV - Introduction

- The Scope of the Tesla Lectures.
－テスラの講義の概観。
69
テスラは、およそ同じ時期に彼の GravityDynamic Theory を完了することを始めた
彼の実験の結果と理論は 3 つの講義で明らかにするため、
しばしば、テスラは発明した器材を使用してデモンストレーションで示した
関係する部分（私が強調した）で、以下の 8 つの抜粋で明らかにされた：
1. "
1 スペースを充填している最も見込みがある媒体は、絶縁流体にも浸漬している独立したキャリヤーからなる
".
2. 最初に「彼の実験で、静電力によって、生み出された若干の現象に関してのべた
by electrostatic force,

彼は、現代の理論に照らして、それを最も重要な力と考える
3. 「彼は、どんな具合にガス状の媒体と静電力の動きによってメカニカルな動きが様々に生み出されるか説明する」
4.
これらの実験を続行する際に達される最も面白い結果のうちの 1 つについて、
is the demonstration of the fact that
実証された事実は、これである
ガスの媒体の振動は、電圧を加えられ、急速な静電ポテンシャルの変化によって堅いものになる」
5. "
この媒体に巨大な静電的なストレスがかけられるならば、その強さが急速に変化する

それは堅くて、弾力性があり、物体のそれを通しての運動を許すが、流体となるとこれらの特性が欠けているかもしれない、
6. ".
その独立したキャリアは、どんな形態もあると仮定される
1 つの方向の運動に対する流体の抵抗は、対抗するもう一つの反対方向より大きく、
これらの位置に大きな電気密度が互いに向きあい、互いの方向を向く時、流体抵抗体が離れたところにあるものより接近しているものほうが、小さくなるので、その抵抗とストレスの性質は、キャリア自身をグループに配置させる。」
7.
「上記の特徴をもつ放電ブラシの間にある媒体は安定したポテンシャルから作られ、キャリヤーの交換が、連続的に続く、
そして、
放電ブラッシュの装置ごとに電極から離れたスペースでは、キャリヤーが少なくなり希薄化する」。
8. 「パルスによって急速にポテンシャルが変化するならば、パルスの頻度が高いものと、低いものとではキャリヤーのやりとりの結果は非常に異なるだろう;;

スペースを通しての、測定可能な変換運動は最終的に止み、ストレスの十分に高い周波数と強さで、キャリアは電極の方へ引き寄せられ、圧縮が起こる。
上記の 8 つは、以下の電子推進力技術に関係する 4 つの声明に、還元できる：
1. 機械のメカニカルな動きは、ガス状の（エーテル）媒体を通過する静電力の変化する動きによって発生することができる、その rigidified 硬質化された、エーテルの固体は、変化する静電力の動きが通過することが許される。
2.
1 方向のストレスの影響で（分極化している光または熱の影響で)、キャリヤーは集まり、
力のチューブを作り、より大きな運動がその方向で容易になるだろう。
3. （D.C.直流）ブラシによって安定したポテンシャルが作られるとき、エーテルの希薄化と一致してキャリヤーの連続交換がおこなわれる。

4. 十分に高い振動数とストレスの強さが反対方向にあるときエーテルの圧縮によってキャリヤーの交換は、妨害され、力のチューブは宇宙船の電気的な伝導体としての性質を消失させるように強いる
システムは（D.C.と A.C.）の 2 つのポテンシャルの性質を使う、それは「p2」として知られている。
安定した放電ブラシのポテンシャルは、必要なキャリヤーの交換を生み、（伸ばされた）『ゴム入り生地になることを『実証し、より進歩した宇宙船は宇宙船の最後尾まで高周波 A.C.が、圧縮されたような硬直した媒体から成る、深部との交換が、妨害され、チューブの力（私の言葉では「マイクロ螺旋）が消失する、（つまり絶縁流体に浸透されたキャリヤーから成ることとなる）、

それは通常の表面に電気と磁場にそれぞれ直角の切迫した運動量をつくる。
1884 年の、J・ポインティングの定理では、どんな場所でも電気と磁力のベクトル積によるエネルギーの流れが C/4*PI の倍数で見られるとする
3
これは、導体の力が他の形に変わることができることを示している。

J. J. Thomson はほとんど同じ事を 1893 年に、述べた。そして、「言った、
..エーテルは、それ自体が 1 単位量ごとに（1/4*PI*C）（D*B）の量のメカニカルな運動量をもつ伝達物である、

4（D 電気的電気変位と E 電気力のための単位として e.-s そして、B 磁気誘導と H. 磁力のための単位として e.-m を使う

3
Phil Trans. clxxv (1884), p. 343.
フィル Trans. clxxv（1884）、343 ページ。

4
Recent Researches in Elect, and Mag.
Elect の最近の Researches と Mag。
(1893), p. 13.
(1893)、13 ページ
71
71
E = electrical force
E =電気力
D = electrical displacement
D =電気的電気変位
H = magnetic force

H =磁力
B = magnetic induction
B =磁気誘導
ハインリッヒ・ヘルツの理論は、2 つの変化する電流システムは互いのバリエーションで ponderomotive 重々しい力を出すはずだということであった
。
5
Tesla の意見との相違は、明らかで「ponderomotive 重々しい力」が「電流の変化」する部分では発生せず、異なる性質の電流（D.C.と A.C.の異なる速さの静電的な電流）がエーテル・キャリヤーの希薄化と圧縮を生み出すことを証明した事実に基づいている。
J. J. Thomson6 は、磁気と電気の両方で動く力のチューブ理論を、広範囲に発展させ、磁気効果は、電気チューブの動きによってつくられる二次的なものであると、仮定した：
宇宙の中には閉回路にするかまたは原子でさえぎられることでチューブが至る所に存在する
安定した磁場が 1 つの方向に位置し、電気チューブに大きな傾きがある時だけその電気力が、知覚できるようになる
正と負のチューブは、ともに等しい速度で反対方向に動くだろう;
この光のビームは一群の電気的なチューブで、長い方向に対して直角の C で動く、
（回転する飛行艇の分極化についての良い説明を提供している）
テスラは、彼の「操縦可能な魚雷」が 1 秒につき最大 300 マイルで飛ぶと言った、
おそらくその速度は最速では光速 C の何分の 1 かである、
トムソンのこの主題に関する後になっての出版は、前のロンドンで王立協会のテスラの 1891 年の講義に続いており、テスラの仕事に光を投げ掛けるように見える、:
電流を伝える導体に「ponderomotive 重々しい力」が行使されるために、エージェントのメカニカルな運動量の転換からなる力、つまり物体に 5 アンペアが行使される
Phys. Xxxi (1887), p. 421;
物理学 Xxxi（1887）、421 ページ;
Hertz's Electric Waves, translated by D.E. Jones, p. 29.
ヘルツの Electric Waves　　これは、D.E.ジョーンズ（29 ページ）によって翻訳された。
6
Recent Researches in Elect.
Elect と、Mag。の最近の Researches。
And Mag.

(1893), p. 13.
(1893)、13 ページ
72
experiences it; that,
それを経験する;
.

伝導体に入っている可動チューブが消失するならば、メカニカルな運動量が、コンダクター伝導体に与えられる;
このような運動量はチューブと、磁気誘導に直角でなければならない
場の単位量として保持されるその運動量は、電気と磁気のベクトルのベクトル積に比例している。
「トムソンの」Electromagnetic Momentum 電磁気運動量の仮定は、後で H.ポアンカレ、そして、M.エイブラハムによって進展した
7
8.

1910 年までに、これらの表明の結果が 3 つの選択肢を残すと言われた：9
1.
Modify the theory

マックスウェル　ヘルツェル　アインシュタインのように理論を修正し、自由なエーテルの要素の合力をゼロに下げる

2. エーテルの動きが力を生むと仮定する（ヘルムホルツと同様に）；
3. エーテルは、単位ボリュームにつき［D 電気的電気変位-B 磁気誘導］で
メカニカルな運動量を伝達させるという原則を受け入れる（ポインティングとトムスンの様に)。
Whittaker の最も大きな間違いは、Tesla の理論を完全に省略する際にあった。
テスラの実験がそれを確かめたあと、「王立アカデミー」の尊敬されるメンバーの前で正に、その後の「3 つの選択肢」が議論され、新しいテスラの法則が存在することになった。

Tesla の秘密

彼の平和主義への共鳴により、戦争を阻止するために『世界を管理下に置く』ために、Tesla は当初 GenevaConvention ジェノバ会議または League of Nations 国際連盟に彼の電気飛行機を与えることを考えていた。
WWI 第一次世界大戦の後国際連盟の崩壊に、幻滅を感じた彼は「、人間の好戦的な特性を過小評価した」と言った

..underestimated man's combative capacity".
10 7 Archives Ne erl (2) v (1900), p. 252.
10 7 つの Archives Ne erl(2) v（1900)、252 ページ
8 Gott, Nach., 1902, p. 20.
8　Gott、Nach.、1902、20 ページ dom
9 Sir Edmund Whittaker, A History of the Theories of the Aether and Electricity, 1910, Edinborough.
9　Edmund Whittaker 卿、「エーテルと電磁気理論の歴史」1910 年エディンバラ、
Aether と Electricity の Theories の A History、

10 New York Times, July 10,1934.
10　New York Times、1934 年 7 月 10 日

1919 年に、Resolution 誌のフレデリック M. Kerby のインタビューで、彼のさらなる秘密の理由が、出てきた、その中で、ニューヨークとロンドンの間を「3 時間」で飛ぶ飛行機を議論している：
..「我々は、数千マイル離れた国の間でも世界を驚愕させ、ぞっとするような戦争の可能性があるとても破壊的な武器の存在に耐えることができない
そういうわけで、どんな戦争もあってはならない」
政府が彼の防衛についての提案をはねつけたので、
テスラの唯一の頼りは世界に彼の秘密を知らせず、彼らの方向での発見を思いとどまらせることだった。
1929 年に、テスラはすべてのスペースを充填しているマクスウェルの「構造」「のない」「考えられないほど希薄で固くて最も硬い鋼より比類ない強直さを備えている」エーテルを証明するためのハインリッヒ・ヘルツの 1887〜89 年の実験を意図的に嘲笑した。
本当は Tesla の考え方は反対だった。彼は音波と同類の波が観察され「ガス状の」エーテルを常に信じていると言った。
1896 年に..どんな望ましいポテンシャルでもチャージすることができる、「真空管の新しい形」を開発する方法を彼は、語った
(which I call the "Tesla bulb"), ".
（それを私は「テスラ球」と呼ぶ)、「。
そして、それをおよそ 4,000,000 ボルトの効果的圧力で、操作した。」
彼は使用中のとき、どのように球のまわりに紫がかった宝冠が放出されるか述べた、「空気より小さな粒子」が存在し、そのわずか 1/20 ポンドの重さの軽いガスが地球サイズの質量として存在することが確かめられた。
彼は、さらに、音波はこの媒体によって光速で動くと言った。
11
テスラは
宇宙線を調査するために彼の特別なチューブを使ってその放射物が目標物に、影響を与えたとき放射性物質の放射は起こったと言った
そして、その放射性体は、単に「宇宙の至る所から発射される微小な弾丸」によって連続的に攻撃される「目標」であった、
それなしでは、「すべての放射性物質の活性化は終わる。」これらの「弾丸」についての説明は、ZPR と類似していた。

12,

1932 年 4 月 15 日に
13

物質が力に変わり、力が物質へ変わるとする相対性理論、は、「不合理だ」と Tesla は言う
彼は、ニューヨーク・ヘラルド・トリビューンでこれを体と心と力の違いにたとえて言う、

11
Sept. 22,1929, pp. 1,29.
1929 年 9 月 22 日、pp. 1,29。
12 Letter, New York Times, Feb. 6,1932, p. 16, col.
12 の手紙、New York Times、1932 年 2 月 6 日、16 ページ、col.dom
8.
13
ニコラ・テスラの論文と稀少本　資料図書館（コロンビア大学)。
74
物質の.役割」とは、まさに心が体なしで存在することができないのと同じように必要なものである
物質のないものに、力はありえない
." On Sept. 11, 1932
1932 年 9 月 11 日。」
テスラは Maxwellian/Hertzian のエーテルをばかにした（ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン)、その一方で、より高い振動数の波について言った、「。
..地球の湾曲に続いて、周辺の抵抗物もたわむ」、
1934 年 4 月 8 日に、ニューヨークタイムズに書いた
「電力の搬送目的」のための『無線技術』において、短波は、不適当で、電力は、「長波」で動く
彼の 1929 年の Maxwellian/Hertzian のエーテル論への攻撃の 39 年後までの間に、Relativism 相対性理論は出現したが、彼の隠された理論だけがこれに関連して、実用的な展開がされると思われたが、それを明らかにせず、それを宣伝せず、それを隠した。

電気の性質

古いエーテル物理学者が「圧縮できない、完全な流体」を解説しようとした時、何について、言及していたか？
「完全な流体は」は、何を行うのか？
それは、それが接触したすべてを例えば陽子のように、「浸す」ことができる、そして、抵抗なしで至る所に流れることができた。
、「流体としてのエーテルは至る所に流れることができた、そして、その密度と超繊細さのため、何もそれを止めることができなかった、そして、それは抵抗が o だった、
しかし、状況により、物質は抵抗だけを感じた。
これとは異なるタイプの電気の流体は、特定の場所に流れることができ、特定のものだけを浸す、しかも、しばしば抵抗に会う。
エーテルを理解するために、我々はもっとよく電気を知らなければならない。

水のように、陽子はその表面だけが電気を持つ
しかし、陽子の『表面』は ZPR を原動力とする、せわしなく飛ぶミツバチの球形の群の外側の領域のメカニカルな状態に多分似ているだろう
「ミツバチ」の濃いかたまりが『ボールの』中心にある。
このミツバチの群れが雨の霧の波（エーテルの風を）を受けるならば、ミツバチのすべては、彼らの形態を維持するために、エーテルの風に直面しなければならない。
エーテルの風によって下位レベルの電気チャージをもたらされた『水』のしずくは前面のまわりにかたまる傾向がある。
このときミツバチは羽根をはためかせて、各々のミツバチは湿ったようになるだけである、
過剰な『水』は流れ落ちて、次のミツバチへまたはミツバチの次の群れへと運ばれるように、このしずくの『流れ』は、エーテルの風、その他によって、ミツバチのボールの中を流れ続け、エーテルの風を通しての運動と物質の移動運動量となる。
『水』はもっと大きくなると落下しようとする。そして、それは各々のミツバチに蓄えられた小さなしずくが集まったようになる。
流体力学の場合のように、サイズの『低下』は、電気の『流体』の粘着性の効果に影響する、
各々の『ミツバチ』の表面積と各々のミツバチの間のスペースにその粘着性の効果の原因の全てがある、
75
それが十分にたまって出来あがってくる各々の「滴」（「電子」）の最終的なサイズは『落下』に大きく影響する
人が数学的に「滴」（すなわち「量子」）の流れを分析するならば、
質量の単位ごとの、「現在の」流れ率で測定され、これらの、運動量をうむエーテルの風の流れの平均率、チャージ/cm3 が得られる。
ミツバチの体のようなそれらは（その多くの電子、原子と分子の間には、多くの『スペース』がある）地球で落ち着いて静止しているとしても、地球の回転、軌道と他の動作のため、それは一般的なエーテル場を通って途方もない速度で動く。
彼のコロンビア・カレッジの 1891 年の A.I.E.E.講義で、テスラは、関係する部分について言った（私の強調）：
「電気と磁気とはなにか？
..我々が、現在確信しているその電気と磁気の現象はエーテルに起因している、そして、おそらく、静電気の効果は動いているエーテルの効果だと言うのは正当である。
..我々は、電気、または、電気的な状態、様相または効果について意見を述べる」、
. エーテルの特性をもつ媒体のため….我々は互いの効力を消すような反対の性質の、2 つの効果を見分けなければならない
我々は、媒体の周囲に同じか逆の効果の原因をうむことなければ、おそらく圧力を行使することができない、いかなる種類の移動も、運動も発生しない。」

..その状態は、正と負の性質を決定する。
「「我々は、それが圧縮できない流体のようなふりをするということを知っている;」「。

..光の電磁気理論と観察されるすべての事実は、電気とエーテル現象が同一であると我々に教える。
ウィリアムトムソン卿が提案したように
「光の波と熱のような「固体としてのエーテルの不可解な性質は、その物体を通す流体としての運動が、動いていると仮定することによって最も自然で満足な方法で確実に、説明される
「ただ、誰も現在の交流機械から放射される横のエーテル波が、あることを証明することができない
そのようなゆっくりとした動乱が、静止していたとしても、エーテルはあり本当の流体として依然動いているかもしれない。
「テスラの声明は、彼の決定に備えていろいろな議論のバランスをとっていた：
…、したがって、電気はことばの広義の意味でエーテルと呼ぶことはできないが電気的エーテルを物質または束ねられたエーテルと関係していると言うことを否定するものではない、;,
または、言い換えると、分子を扱う方法では、分子のいわゆる静電気はエーテルに関連する、
その密度は異なることができない。そして、エーテルは圧縮できない：
したがって、重圧下でも、運動においても圧縮できない、
そして、後者の運動過程でもほぼ圧縮できない。
テスラはしたがって地球が動いているので、地球と比較するとエーテルは動いていると信じていた。
テスラが認識したことは、エーテルが電荷を維持するのでそれは原子の上に沈積する。
そして
「ダイナミックな」エーテル概念を支える際に、彼が言及した「エーテルの運動」が地球上でオブザーバーによって認められる静止したエーテルと比較してのエーテルの「見た目の」運動だったので、彼は、「静止したエーテル」概念を支持していた、
宇宙運動での静電気の電磁気効果の重要性は Tesla の講義によってとりあげられた：
「およそ 15 年前、すなわち、ローランド教授は、付随する静電気が電流の効果を発生するというとても面白い重要な事実を示した
そして、静電的にチャージされた動く分子を考えると、この実験的な事実は、我々に磁気についての公正な考えを与える。
我々は、物理的に、動く分子の列に誘導されて作られる、存在する線または力のチューブを考えることができる

我々は、これらの線が閉じられ短くされ、拡大するなどの傾向がなければならないのを見ることができる、
それは、同様にすべてで最も不可解な現象（永久磁性）を
理にかなった方向で説明する、そしていわゆる分子の電流の仮定と、同じようにどうしても不可欠な欠陥を維持することなく、アンペア理論 Ampere 論のすべてで普遍的な美しい解決を生む
更にこの主題を引伸すことなしに、
私は、静電的な分子力のような、すべての静電的で、電流、磁気現象に目を向けて言う
これらの声明において、テスラは彼が地球上のどんな「静止した」場所でも実は素晴らしい運動（「70,000mph」）があることに気づいていたことを示した。

「まわりにともなわれる」静電荷は原子とエーテルの間の流れである。そして、それは磁気を生み出す。
明らかに、『永久磁性』または『宇宙的に、誘導された』磁気の現象は、宇宙運動によって宇宙のエーテル場に『運ばれる』静電荷によっている
すべての原子と分子は磁場を発生させる電流を伝えるが誰も原子または分子で確認することができないので、全く、それはファンタスティックな運動で、ある。
磁場は電流が生み出すものなので、誰も、(導体を通して、または、それに沿って動く）電気なしでは、または、ローカルか宇宙的運動の静電荷に付随するものとしての磁場を発生することができない。
この上ない宇宙での、業績であるテスラの重力の Dynamic Theory 理論そして、特別な電磁推進の MHD 方法はファラデー、Wm トムソン、トムスンとエドモンド・ホールの研究といった研究に関係していた

結論

エーテルは宇宙の媒体である。そして、それは全空間に満ちる。
空間を通って毎時数千マイルも動いている地球に大きく関係するように見える。
エーテルは通常電気的に中立で、超微細で、全固体に浸透する。
遍在する極超短波の放射線で、ある、
通常中立で（Zero Point Radiation（「ZPR」）と呼ばれている）
それはエーテルに関係し、最も微細で、最も濃い形の電磁放射を意味する。そして、それは、エーテルとともに、宇宙的な永久運動を維持させる。
ZPR と関係したエーテルは、全物質と力の源である。
「エネルギー」は物理的な形の中に存在せず、「仕事を行う能力」である。そして、それは「時間を越えた力」に等しい。,
「時間」という言葉のように「エネルギー」という概念は便利なフィクションである。
それはエーテルで満たされたスペースを通しての、物質の運動率の任意の測定値である。
全ての事件は現在起きている、そして、「過去」と「将来」は単に比喩である。
エーテルの中の電磁動乱は ZPR からの「エネルギー」の抽出物でおこり、それはエーテル論だけによって説明可能である。
この「フリーエネルギー」は（それは実質的に無制限である）物質の永久運動によってつくられ、それによって宇宙が働いている
そして、より強い力とより弱い力の永久の交換で宇宙の平衡が維持され、このプロセスの間総計はずっとゼロに等しい
すべての固体はスペースを通して「エーテルの風」と ZPR の干渉を常に受け、む絶えず浴びて、常に動いている。
質量の方向またはその速さが変化している間以外は、これらの効果は察知されない。
全質量と空間には、誘電特性がある。
誘電特性の違いは、質量とエーテルの風の中で電磁電気変位の変化の原因となる。

地球の質量の中の電界とエーテルの中で地球の電界は、誘電電気変位効果を創る。
質量の内側と質量の外側の誘電電気変位の違いで、エーテルの風が生まれ
ネガティブな極性の方向に下降する力をつくり、質量の内側をエーテルの風が『吹く』。
これは、「重力」と呼ばれている。
すべての質量が動いているので、
明らかに地球と比較して「静止している」ときでも、すべての質量には勢いがある。
勢いは、物体の運動状態の変化への抵抗である。
慣性がその物体の運動量の変化への抵抗なので、慣性と運動量は電磁気的なミクロ螺旋形の細管の、速度と方向と横への動き、または位置（そして、相対的な「ピッチ」）が変化することへの抵抗と同じことになる、
すべての空間と質量は「電気的な含有量」だけから成るので、
運動量/慣性は事実上電磁気で、電磁気で総合されることができる。
全質量は静電荷を含む、そしてその静電荷が ether/ZPR-に満たされたスペイスの「まわりに持ってこられる」とき、天空でも『ローカル』な運動でも、電流を構成する。
これらの電流は、物質とエーテルの間で実際に流れる、
そして、物質の動きのための運動量を生むメカニズムに必要なものがそれによって与えられる
等しくそして同時に対立する物として、電流は、磁場をつくる
そして回転のない空虚なエーテル芯のまわりで回転する運動をうみ
電気的で磁気フィールドの双方向性の流れに結合する。
この回転する電磁気の行動は、運動量をつくる、
force-free な「力から自由な」物質の内部のスクリュウ-タイプ」の反応として、エーテル芯に関係してその運動をつくる、
このメカニカルな力は、電磁気が関連している原子質量に転移する。
これらの現象は事実上電磁気なので、特別の物体の運動状態を示すこれらは電磁気の状況の再現によって合成される事ができる
低周波の電磁波が物体を透過することができる時、U.V の下で..LR より上の高周波の波によってエーテルが「その慣性への抵抗力を示す」原因となることがありえる。
このテクノロジーは、高電圧のＤＣ放電『ブラシ』の電流、高周波流、急速に変化する静電力と光/熱光線に関係する。
急速に変化する静電力は、ＤＣ放電ブラシの、電流はキャリヤーの交換を誘導し、その望む方向に真空をつくり運動を誘導するよう、望ましい方向で光/熱線媒体を分極化させエーテル・キャリヤーを「希薄にし」薄く伸ばす、
船の終端側で、高周波流は、船にキャリアーを引き寄せる、そして、エーテルを圧縮する、それが固体の質量を貫通して、ミクロ螺旋形の細管の回転をうみ、それはエーテルの核にある極性軸に沿って特別な運動量の率と一致したピッチで回る、
電磁内部作用の強さは重力相互作用より 1040 倍大きいので、同じ時間に同じ「エネルギー」を使って理論的には多くの仕事を行うことができる。
「百聞は一見にしかず」なので、私は見たことで、それを信じている
人工の空飛ぶ円盤の作用はニコラ・テスラのこれらの「フリーエネルギー」発明の存在を証明し

それを示している。
Relativism 相対性理論への彼の反対は正しかった、そして、世界の科学的な機関で教えた一般的な理論は明らかに詐欺的である。
「ダイナマイトは、小さなパッケージの中に来る」という考えはこの小さな本でも、私の前の本「ペンタゴンの宇宙人」と同じである、
人類で最もすばらしい発明であるニコラ・テスラの Gravity の Dynamic Theory の再発見と、それに関連した電子推進技術の再建と公開を始める、
憲法に反して、会社国家の実体はそれを隠すことによって電子推進技術そして、他の先進の自由エネルギー技術、を国際的な（高圧的な）会社国家独占者の利益のため
これまで制御し Secret 秘密政府は不正に隠してきた。
Electropulsive 電磁的推進宇宙船は、「特殊効果」を通して隠されてきた、そして、「ステルステクノロジー」は、ニコラ・テスラの発明に基づくが、これらは空に浮かび飛ぶ、そして、「政治的な心理作戦の」方法として、ニセ「宇宙人」と「地球外の起源」宣伝を普及させる。
-端から端まで、「UFOlogy」グループは、隠れた政府職員によってリードされた
公式政府スポークスマンが空飛ぶ円盤の存在を拒否する間、隠れた政府エージェントは、「懐疑論者」、「UFOlogists」と「paranormalists」精神異常者のような態度をとって、偽の議論で市民の注目をそらすため交戦状態に入る。

空飛ぶ円盤を見たこと…」は、「幽霊または宇宙人を見たのと同じくらいばかばかしいことにするため合理的な目撃者と共に「懐疑論者」は、UFOlogists と paranormalists 精神異常者をひとかたまりにして、嘲笑する
間違った論理に基づくこの偽の議論は、全体的な隠蔽システムにうまく適合し、「宇宙人の」テクノロジーでなく「人間の先進テクノロジー」を隠すようにできている、
この秘密の社会経済独裁は、古い燃料と電力を買うように我々を強制することで、強制的に得てきた収入に依存している
そしてそれは我々の通信の規制に資金を供給している、
政治的な金融決定、その力を拡大する不当な法律、規則と手順の執行、
個々の人権を制限し除外し、情報と、確実な証拠と我々の税で代金を払った我々のテクノロジーにアクセスすることを許さない。
真実の入手は、自由な人々として我々の独立と生き残りのために必要である。
コーオペレーション国家による混乱、隠蔽、BIG LIES 大きな嘘と裁判で社会経済虐待にもかかわらず、我々は、TRUTH 真実を復活させることができる、
正しいテクノロジーとして実在を決定して、障害を回避して、我々自身でこれらの船を建造するために、我々の社会を Secret Fascist Corpocracy から解放するために
我々の創造的な発明の才を使うべきだ

第 6 章

隠されたフリーエネルギー

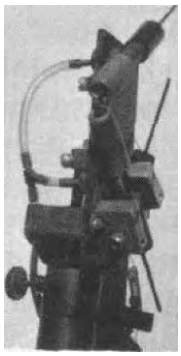
水素原子のプロセス
c1996 年、Wm. R リンヌ
「オカルトエーテル物理」の、本の終わりはどんな方法が良いか
秘密にされた「自由エネルギー」のもう一つ別の処理についての章が、いいかもしれない
テスラの電子推進力を可能にするエーテルを使う類似した技術でエネルギーをとりだすように見える？
SPACE ALIENS で、私は単純なスパーク放電によってヘリウムが 460,000 カロリー/グラム原子を生み出すために得られる自由エネルギーであると指定した、、多数の一般に入手できるテキストと科学的な百科事典からデータに基づいている
これは、私が知る貴ガスからの最も高いエネルギー出力である、そして、同じガスは、唯一要求されている入力エネルギーでスパークを無限に、させる。
ヘリウムは平均的な「Joe」ためには不適当で、最も簡単にアクセスできる水素ガスを使ってもう一つ別の自由エネルギーの過程を実行することで、あなたが使うより出力が多分多いだろう、それを適切に示す
私は原子状水素に密接に関連するオカルトエーテル物理学で、いわゆる「低温核融合」と、フリーエネルギーの 2、3 のプロセスで生み出される熱の説明もする。
長年にわたって、国家の安全の利益ため…「相対性量子力学 Quantum Mechanics」（「RQMs」）は彼らの理論の無効性を示すプロセスまたは反応を隠してきた
支配している会社ファシストの見地からすると、これらの不正な理論は、我々に対する彼らの鉄のように硬い全支配力を無効にする『危険なほど効率的な』テクノロジーを隠すと同時に、実際、秘密の政府機関から見ると、その「国家機密」を隠す最大の重要な手段の 1 つだった。
欺瞞的な相対性理論者によると、量子力学は、全エネルギーは「ノン・エーテル」の源だけから反応し次の反応にむかうとし、Max Planck の初期の量子論の誤用によって許可された不連続な「量子」だけで進めなければならない。
Planck の最初の量子メカニカルの理論の基本的な考えは、原子の濃度が整数整数（1,2,3、その他）で変化するエネルギーを「量子」と呼んだ（それは一つの電子の基本的な電荷に基づいている）、それは原子と分子の異なるエネルギー準位を確定しただけである。そして全ての原子と分子の、最大のものから、最小のものまでの、その間の変化可能なエネルギー量を定めるためにこれが使われる。
全原子エネルギーは、必然的にこれらの量子の数値か、整数倍だけしか変化が許されない。
従って原子によって吸収されるエネルギーは、この厳しい基準に合わなければならない。私はこの考えは、この原則と衝突する基本的な物理的なデータを隠す明らかな試みだと考えている。以前にプランクによって発表しないようにされたこの原則と衝突するプロセスは、相対性理論によって誤って説明され、彼らの理論に取り込まれ、そして、まるでそれが彼らの理論だけ正しいようにしてきた

私は、あなたと議論を続けるが Relativists 相対性理論で記述されたものは、紛れもなく測定に失敗し、矛盾がある。
２価水素分子を解離させるプロセスで、これは原子状水素として原子に分離されるが
彼らによれば、109,000 の cal./グラム分子（「1.9k.cal./グラムの分子」）のエネルギーを、吸収をすると言われている。
基本的な水素原子と、原子とか分子状態の、すべての個々の『量子』を考える際、水素原子または分子の状態でないように見えるエネルギーを「保存する」ことができ、特に彼らの不合理な声明を考慮して、RQMs の理論を使うとしても、すでにエネルギーが放出されたあともエネルギーが分子にまだ取りついている！。
かなりの熱量を異常に吸収したため、独立した水素原子として存在できるというのが彼らの主張であり、彼ら自身の基準からみても、原子にそのメカニズムがないという事実にもかかわらず、それによって理論的に定義可能にしている。
そのような二つの水素原子に十分な流入エネルギーの存在が来て、Relativists 相対性理論によって水素原子に保管されていると言われる大きな熱量が、解放されたとする。
RQMs は、水素原子が２価の状態のものから原子の状態になるまで持ってくるのに必要な分離エネルギーを決して直接測定しなかったし、どんな具合に扱うか知らなかった、なぜなら彼らの理論は「全ての反応はリバーシブルである」と言い、水素原子の再結合で放出されるエネルギーと分離エネルギーが同じであると、彼らは言ってきた、
さらに悪いことには、彼らは原子状の水素（基盤）の基底状態の様相をまるで分子状態の励起状態であるように、定義した。
実際は、原子状水素反応はエーテルによる建設あるいは再建されるとする理論に言及すること、によって満足に説明されることができるだけである。
分子の 2 つの原子の間の「結合エネルギー」には未定義で不可解な方法でこのエネルギーが中に『含まれ』ると論じ得るだろう、なぜならエネルギーは反対の反応と等しく、絶えず一致しているというルールが支配するとすれば分子が形作られるときの結合エネルギーはリリースされるエネルギーと等しくなければならないので、この議論は実際にエーテル論を支持する。
そして、そう考えないとすれば、人間にとってすべては、相対的なものとして人は.オーウェル風の二重思考で RQMs を信じているのである。
人々はこれに同意できないが、彼らだけの仲間内の高度な標準ルールとして、この種の許容範囲を許している。
相対主義者の二重思考の特徴は、Albert Einstein アインシュタインがプラトン学派の認識論を持つ１人でイルミナティのカバリストの実在主義者であったという事実から生じる
哲学において、基本的に 2 つのタイプの認識論の起源があり、人間の知識の限界と性質についての考えかたには 2 つの基本カテゴリーがあることを意味している。
すべての哲学の認識論がその 2 つのタイプのどちらかに分類されなければならない、
人は、どのように何かを知りそして、それらを説明するのか
ある哲学では...実際、彼らがそれを知っていると考えることに基づいて、それを「知る」。
単に信じないというよりむしろ証明する義務があると主張しており、そのために知る手段が、問題になるだろう。

根拠または「本当」であるということを知る確実な根拠のある手段なしでは、誰も法的に、道徳的に、または、『精神的に』何も信じる義務はない
全ての認識論は、プラトン学派の人またはアリストテレスの各々で機密にされる
古代のギリシアの哲学者プラトンの書物、「共和国」において、「プラトン学派の人の認識論 Epistemology」は洞穴のアナロジーで示された理論として、有名である
...実際、彼らがそれを知っていると思うことを、彼らは「知る」。
プラトンの洞穴のアナロジーで（洞穴の内側の観察者から見て）
道の向こうでキャラバンが通ると夜の内部の壁に燃える火によって投影された、通過するキャラバンの影だけが壁に投影されるのを見る
プラトンによると、人は、現実を知ることができず、現実の『影』だけが見える、
しかし『より上の完全な形』の『世界』があるが、それは『天国』だけに存在する。
したがって、この認識論がどのように宗教的な考えに続くかは、明らかになる、
そして、多くの宗教は、この考えによって影響され『科学的な信用』の根拠のある理由よりむしろ信仰に基づく彼らの宗教的な考えを加えた。
同じようなこの推理は何世紀もの間科学的で、哲学で、経済で、政治で、『精神的な』詐欺師達によって使われた、そして、かつて知られたあらゆる全体主義哲学はこのプラトン学派の認識論と同一の誤った『推理』に依存している。
この理論において、影が『より高いものの、形を映す』かもしれないとしても、Plato の洞穴の観察者がどんな具合に影を『知る』ことと単なる「影の影」との間の線を引くか不思議に思う
古代のギリシアの哲学者「アリストテレスの認識論」に基づくとき
アリストテレスの理論は、それを持つ
感覚は、認識の有効な、科学的ツールである、
我々にとって、現実の知覚できる事実を見つけるのに頼る感覚は、認識の有効な、科学的ツールである、
まったく、我々は、認められた事実に頼ることによって、現実を知ることができ、現実と他の、おそらく感知できない事実さえも決めることができる。
これらの 2 つの認識論とこれらが含有する意味の比較から分かるように、プラトン学派の認識論に基づく哲学の人の努力は、神秘的および／または全体主義で、あてにならない
特に自然科学に適用されるとき、アリストテレスの認識論 Epistemology に頼る哲学と努力はより合理的で客観的である。
この致命的に傷のある認識論の上に築き上げられた相対性理論が大衆化されるとき、
パワーエリートによってコントロールされるコミュニケーションの独占によって、
潜在的に詮索好きで探究心旺盛な社会に議論が不可能な前提を強要することで、支配をより容易にするので、物理学者によるプラトン学派の人の認識論の使用は、特に許せないと思わなければならないと見ることもできる。
絶えず『神』と考えられなければならない結論と絶対確実な創造物のように、Einstein のイメージは確立された。
この間違った理論を保護し宣伝するだけでなく、真に有効な理論とコーポレーション国家主権主義者の世界的な権力の支配権を終えさせるような、先進技術を隠蔽するよう、助ける。

そしてその人たちは社会にはすでに、『必要とされる』すべてのテクノロジーがあると思っており、もっと大切なことは、エリートが世界を『支配すること』である、
彼らが所有する鉱物、産業、銀行利権を利用する、古いテクノロジーが、かってにかき乱されるかもしれないと考えて、バリアを張って維持している
私は、量子論の原子レベルのごくわずかな不和しかいわないが、論理的にエーテル論を含めて広げて解釈されなければならないと思うので、私はその RQMs による現在の発展と不正解釈と思考制限に反対する。
私の見解は、彼らがうまく隠されている装置にエーテル論をすでに適用したということである
まったく、これらの隠された当り前のことの再建を開始するためと、市民による使用のためにこの本が必要なだけである、
Planck は彼の量子論がこの「システム」にあてはまるとは言ったが、その後彼は Relativist 相対性理論のシステム」と彼の理論がシステムにあてはまる唯一ものだとは言わなかった
理性的に拡大された量子メカニズムの理論がエーテルを除外しないので、
私の「RQM」の名称は不完全な相対論的量子力学と「統合された Reality Mechanics」(「IRMs」)呼ぶものと間を、区別する
私が原子状水素の反応に、注意したのは 1964 年が最初だった、
私は大学物理学で入門講座をとったその翌年、ハンツヴィル（テキサス）のサム・ヒューストン州立大学で産業のプロセスを研究していたときだった、
教科書でいろいろな溶接プロセスの概説を読んでいたが、「原子状水素溶接」と古くから呼ばれているプロセスに私の目は向けられた。
その頃までには、このプロセスは「時代遅れ」のものとすでに考えられていた
私にとって、それが 3400° F より上の高温を生じるというだけででなく、プロセスは貴重なものにみえた
..それはタングステンの溶融に十分な、人によって作ることのできる最高温度なのに、「遮蔽」されており、細い金属を溶接するのに使えそして、しばしば流量なしの、
ほとんど熱歪曲を生じない集中した炎で、多様な金属を溶接するのに用いられることができる、
このプロセスでは、『通常の』２価 H2 は、アークを通して噴射され、それは「原子」水素（H1）に分離する。
この原子状水素は、溶接される金属面で再結合し、非常に高い熱をもたらす、
このプロセスは私に興味を起こさせたが 31 年の間に、これまで１回も原子状水素が売物の溶接装置を見たことがなかった。
産業の価値あるプロセスを構築するためだとする明らかな弁解で、脇に置かれ、それが『よりよい』プロセス例えば Heliarc、TIG と MIG 溶接といったものに『取り替えられた』ということであった、
彼らがめったに言及しない「プラズマアーク溶接」は市場からもほとんど見えなくなった。
プラズマアーク溶接は特に再設計されたトーチを使って原子状水素プロセスを単に拡大することなので、『不可解な』効果がある理由は、疑う余地なく同じである。
このプロセスへの関心は、1976 年までの２、３年の間、私の心の内部の奥底で煮えた、
そして、ステンレス鋼を溶接するのに使用可能なことと、水素がプラチナ金属合成物を還元し、

金属に溶解させることを知って、このプロセスに対する私の関心に再び火をつけた
（それは、酸素からも保護されていなければならない）
原子状水素プロセスは、空中の酸素と水素の燃焼に頼らない、
しかし、原子状水素が『通常の』、２価水素H2 を形成するために再結合する時「原子」エネルギーはリリースされる。
私が得たいろいろな溶接データが詳細な事実に十分言及するのに失敗した時から、私には依然としていくつかの答えのない質問があった。
Nikola Tesla が正しいならば、エネルギーがエーテルから来ると私がいうのは正しいことである。
私が原子状水素トーチを購入するための情報を知らなかったので、私は 1 つ造ることに決めた、しかし、私の情報は正確な建設には不向きだった。
私が製造したトーチでは、水素ガスがアークに直角に通り抜ける代わりに、両方の電極がまわりをかこむアークの中心に水素ガスが、入った。
私は間違った種類のアーク変換器を使ったので、それが持つはずの力がよく働かなかった。
この失敗にもかかわらず、私は問題を修正するならば、トーチがよく動くことを知っていたので、より良い情報と時間が十分使える時まで、私はトーチを私の納屋に置いておいた。
私は、産業スパイの好奇心の対象となった。
私が地元の溶接工から水素の大きなタンクを借りたとき、これが多分 CIA の保持した裁判のいやがらせの突然の加速に関係しただろう
私は、1974～1992 年の（18 年間）耐えた。
彼らは明らかに、私が単に溶接のためというよりはむしろ、そのエネルギーの使用の可能性のため製造プロセスを調査していると思ったのだろう、そして、彼らの推測は正しかった。
私のトーチは、下に掲載している：
70 年代に、私は古い英語の無機化学教科書を 1 冊得た、
ロスアラモス Scientific Laboratory が　S.25 として回収したものを購入した、
そしてそれは『30 年代の年代物の原子状水素溶接トーチ、若干の基本的なデータと一緒の）のハーフトーンの写真を含んでいた。



そこに示されているトーチは、
それが高圧アーク変換器を使ったという点で私が造ったものと異なっていた、
そして、高電圧がそれを不必要にしたのでアーク放電を始めるために、アーク電極をたたく必要がなかった。
アークに直角にガスを通していることを示していた。
この古い教科書では、170 ページで以下の通りに明言されていた：(私の強調)
「Langmuir ラングミューラー（1912）は、電流によって熱されたタングステンの線 wire と接触する低圧の水素が原子に、ある程度解離することを発見した：
『これは、グラム分子単位で約 100kcal といった大量のエネルギーを吸収する
原子状水素として形成されたものは、化学的に非常にアクティブなものになる
タングステン電極の間のアークが大気圧（図 106）で水素が燃えるのを可能にするとき、原子状水素が形づくられる。
テキストは続く。:

「分子水素のジェットの力が及ばずアークの向こうに吹き飛ばされた原子状水素は、強烈に熱い燃えるような輝きを形づくる（タングステンが溶ける）（m、Pt. 3400 °).
（m、Pt. 3400 °).
この燃えるような輝きは、水素原子から H2 への再結合でその熱を得る
「化学反応がフリーな状態に設定されている水素は、水素ガスよりしばしば反応性がある」。
そのような発展しかけている（生まれたての）水素の活性化した力は、われわれの水素化合物を原子状態に遊離するよう働く。
「以下は、「106 図はそのコピーである
最近のヴァン Nostrand のサイエンス百科事典 2 で、このデータをチェックすると
1311 ページにこれに関係する部分について述べている：
水素分子は電磁的アーク、または、照射によって吸熱し、高温で原子に分離する
（分離の熱はおよそ 103cal/1 グラムのモル）.水素原子が、金属面で再結合するとき溶接のために必要な熱を提供する
「私は、これをヴァン Nostrand 百科事典で発見して驚いた、
しかも、D.ヴァン Nostrand 社が 1910 年に、ハラーとカニングハムの書いた、High Frequency Coil（先進のアマチュアのためのテスラ Coil の製作法）という題の 119 ページの本を出版したことを私はみつけた、そして、Tesla と Van Nostrand の関係についてのちょっとした記録も、そこにあった。

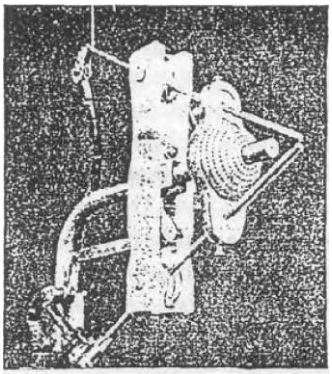


FIG. 106.—The atomic hydrogen blowpipe.

学界からの煙幕

後で示唆したようにアークへの非常に短い露出で吸収された分離エネルギーは溶接するのに必要な 103 カロリーと同じ熱量であると解説したことは私には奇妙だった
むしろ、過剰な熱が「どこか他の所」から来なければならないと考える方が私にはより、合理的だと思えた。
分離エネルギーを 1 枚のパン（@4 cal.グラム）にたとえると、この、著しい出力は 60 個のパン（@1814 cal.ポンド）のカロリー-に等しくなる
これら 2 つの数値の間にはあまりに多くの相違があり、明白な真実を完全に隠そうとして、かえって疑問がうまれるような、多くの手ぬかりと混乱が生じていた。
以前のテキストは、より明確な装置の製造法を示していた、
そして、以前のテキストが 100,000cal./グラム・モルが再結合に関して解放されることを示していたのに、新しいテキストはただの 103cal./グラム・モルだけが分離のために要求されることを示した。
私は 2 つの情報源の間を交互に比較し一緒にし、完璧なドキュメンテーションを得ることで、矛盾を発見することができた。
新しいテキストでは書き手が、最終的にアークから熱が吸収され 100k.cal./グラム分子が

109k.cal/グラム分子まで上げられたと信じるよう意図して書いていたため、前のテキストとの矛盾が、明らかになった。
しかし、分子の分離のために要求された 103cal./グラム熱という数字は、109 キロ.cal/グラム分子熱との間に 108,897cal./グラム分子の熱の差を示す関係を説明できない。（108897 cal./グラム +103 cal./グラム＝109 k cal/グラム）
臨界容の水素が 1 モルにつきおよそ 65 立方センチメートルあるならば、アークで 65 立方センチメートルのガスに分離するのに必要な時間の中で、開口部を通過し、アークを通ってガスになるよう処理される中で、結合するのに十分なエネルギーを吸収したとは、とても考えられなかった 109,000cal./グラムモルは、ざっと 432.6BTU/グラムモルに等しい熱エネルギーを含んでおり、合わせて 60 個分のパンの余分の「熱エネルギー」となる。
専門家たちは、我々に、アークを通るその細い通路の間に、原子状水素の重さの総量が 1 オンスの l/28 で『あった』ことを信じろという！
どのようにしたら、変換機はこの多量のエネルギーを発生させることができるのか
特に従来の溶接のプロセスを今までの使用量の半分だけを使ってすることができる？、
『ほとんど裸の』原子状水素原子は過剰な熱を分子に保管することができるようである。
ボーアの小さな原子で、今まで起きていたようには、起きていない！
より大きく、とてつもなく大きくなっている、そして、…
以前のテキスト（1921 年-1950 年までの（最初の第 1 版から第 6 版までのテキスト）と新しい Norton 科学百科事典の（1976）間に、プレ国家安全保障法との関わりで新しい科学テキストは直接干渉されたことは明らかだ。
国家の安全法によって持ち出される生臭い試みの反映が、あった、
そして、RQMs 量子力学はより安定した権威となった、
それは 1912 年に戻ってラングミュアによって、すでに発見されていた確かな科学的な知識を隠した。
ガソリンの燃焼と水素分子の燃焼と原子状水素の出力過程に関して、以前の測定値と新しいテキストでの測定値の矛盾を除いても他の問題も私は見つけることができ
この正確な引用で見られる状態は、私が失敗と言った以上にひどいものだ。
ややこしい表現を通しての原子状水素に関する若干の重要な事実、そして、ガソリンと水素燃焼の実際の出力の比較の誤説は「詐欺の象徴」である。
私は、それについて Space Aliens.で意見を述べた
以前のテキストは、そのような影響から比較的受けないでいたが、あるときから Norton は明らかに時代状況によって化石燃料カルテルと他の矛盾する利益の代理人である『科学者』に従うことを強制された。
たとえば、新しいテキストの、1311 ページでは、水素の燃焼によって出るエネルギーは、29,000 カロリー/ per グラム（52,200BTU/lb）と明言されていた。
古いテキストでは、この数値は、水素 1 ポンドにつき 62,100BTU で、ガソリン（「石油」）との比較の数値では、ガソリン 1 ポンドにつき 19,800BTU が与えられた。
（この数値は新しい百科事典ではガソリン 1 ポンドにつき 20,825BTU まで増大する）。
ガソリンの n-Heptane は 10,737.2 cal./グラムで、水素は、28,669.6 cal./グラムである、

そして、原子状水素からの総出力は新しいテキストのどこにも、私は書かれたものを見つけられなかった
そして、新しいテキストも以前の古いテキストにおいても、このプロセスで水素が「消費されない」ことは、どこにも肯定的に述べられていなかった。
「通常の水素（H2O の形または水）の燃焼と CO2 の形のガソリンの間の比較において修正された数字（52,200BTU/lb）を見ると、水素はガソリンのおよそ 2.7 倍のエネルギー産出高を持つ、。
この後、我々はガソリンと原子状水素の間の比較をする。
しかし BTU ポンドと-BTUーポンドとの間で 2 つは比較することができるし、原子状水素プロセスの本当の出力測定は、「エネルギー入力」と正味 103cal./グラム分子のエネルギー出力との間の比較で設定されるのだから、原子状水素の驚異的な出力の存在を示している。
「エネルギーの入力」は、そのプロセスで H2 として結合状態に返すだけで、水素を『消費しない』ので、このプロセスの間では「不変＝ユニティ」である。
この著しい出力から、水素を分離させるための入力エネルギーを引いたものが、正味の出力である：
109,000cal/グラムモル（著しい熱出力）引く－103cal/グラムのモル（分離させるためのエネルギー「不変な部分ユニティの部分」）=残り ― 108,897cal/グラムモル （正味の出力 「オーバーユニティの部分」 ）
水素には、最初そんなに多くのカロリー・エネルギーがなく、、そこでは『消費』もされていない）
原子状水素プロセスでは、水素は、本当は「燃料」ではない、
むしろ見えない放射線と見えない電気エネルギーを赤外線の（熱の）放射線に変えることによってエーテルからエネルギーを引き出すことと、その転換のために使用されている「媒体」以外の何ものでもない。
リサイクルされる前に再結合した水素を保存タンクにポンプ圧送するためにエネルギーが要求され、そして再び戻り、アークを通って噴射され、そして、再び反応室に入る、
こうしたことがこの計算においては考慮されていない。
このエネルギーは取るに足りないものでなければならない、
分離エネルギーは多大な出力のかろうじて 1000 分の 1 ぐらいのものである。、
そして、いずれにしろこのプロセスをポンプなしで機能させる方法も、多分あるだろう。
情報の操作者は、嘘をついて、できるだけ難しくなるように、
原子状水素とガソリンの間で直接比較をした
しかし、私は真実を得るために、多段階的に数学的に、物理的に、化学的に、統一的に把握することをめざして、さまざまな過程をへた。
原子状水素は完全に 109k.cal./グラム以上の分子のエネルギーを生み出す。そして、それはキロ単位に変えれば 109,000k.cal./キロのエネルギーでもある
吸熱させて分離させるためのエネルギー103cal./グラム分子を引くと、正味 108,897k.cal./キロが残こる
1 キロは 2.205 ポンドに等しいので、1 ポンドは 453.51 グラムに等しい（1000 グラム/2.205 ポンド＝453.51 グラム＝1 ポンド）
cal./lb.（カロリー／ポンド）を得るには、lb./kilo（ポンド/キロの比率）によって正味の cal./キロ

を割らなければならない、そして°F/lb ポンド（1 ポンドあたりの熱量）を得るためにカロリーからＦへと変換するために、°F/°C の比率（1.8 倍）をかける。
これを、grams/lb グラムとポンドの比率で割ると 196,015BTU/ポンドを得る。（1 ポンドは 453.51 グラム）
エネルギー総計は、196.200btu/ポンドである
n-Heptane の 19,314BTU/lb と比較すると、原子状水素の 1 ポンドあたりのエネルギーは（H2O の 1 ガロンの H1 あたり）10.5 倍ある。
簡単な数学的なプロセスである、しかし、これは私が何を行ったか、明らかに示している。
このプロセスが「使用可能」なことは疑問はない。
これを使っても、家庭の消費者は燃料のために何も支払はない、彼が地階で少量の水素を生み出すことができるので、いつでも、彼は必要なだけ、何度も、無限に使うことができる。
彼は家を暖めることができ、車を運転することができ、「家庭での仕事」のために使うことができる。
海上のモーター・クルーザーは、次に使う「何ガロン」かの燃料の貯場所やそのコスト、あるいは日光の熱のように心配する必要はない、日光と違って晴ても雨でも夏でも冬でも、原子状水素から、「フリーに」、あなたが望むだけの量を、いつでも、夜でも日昼でも生み出すことができる;
農場主は彼のエネルギーを石油カルテルにもはや依存しないで、彼の機械を動かすことができ、「フリーに」彼の納屋を暖める。
彼は、自身でやると、燃料供給元と銀行に話すことができる。
アラスカのはるか北の人々は、莫大な支出なしで大きな場所を暖めることができる。
「北国の産業」は、再び成功する。
ナチス人口抑制は、私は嫌いである。
ARCO のような会社が 70 年代初期に大量に、太陽エネルギー装置を生産に入ったという理由は彼らが支配することができることに、あった
そして、最後に、それをガソリンと他の化石燃料と「競合する」させるために、（無料の）太陽エネルギーのコストを上げた。
そこには事実を混同させるために現代のテキストで使われる多くの方法がある、しかし、最大の効果的方法は完璧に手ぬかりな状態のままにしておくことであった。
これらがあまりに素晴らしい現象なので、そのような事実は「事故」または単なる「情報管理」によって隠すことはできなかった。
単位を、混乱させ、しちめんどくさい数学的なプロセスをこつこつすることによってだけ比較可能にし、そして、他の要因も含めて、そのような隠蔽の本当の動機が何か考えると、明確に理解される
しかも、こうしたことに私がなぜ驚かないか、納得させてくれる？
保守的な意見は、原子状水素プロセスは、n-Heptane に対して 10.5～1 の比率とする。
1 ガロンで 315 マイルを走れる？
550,000 マイルはどうか？
その答えはあなたが、どれほど多く最初の水をリサイクルする回数を増やすかに依る
n-Heptane ガソリンのための数字は、はなはだしく混乱させる、

人は、その重さに比較して示されるだけなので n-Heptane に対して水素燃焼は、1 対 2.7 の比率を持つと思うだろう。
この偽装は熱と重さと圧力と量と摂氏と華氏の基本単位が異なることを使ったものである。
原子状水素のための「109,000 の cal./グラム分子」の数字は、新しいテキストから省略された、それは他の領域で述べられた若干複雑なデータから推定できたかもしれないが、詮索好きな人でも見ないようなところにそれはあった。
原子状水素プロセスは言うまでもなく、石油の燃焼と、水素の燃焼のエネルギー出力の直接の比較について、私が利用できる他の「新しい」データーも含めて、新しいテキストには完全になかった。
私は、化学または物理学の博士号を持つ何千人もの人の中に、直接比較を試みた人をこれまで見なかった、
その人達は彼らの皮相的な研究の間に、これらの事実に気づかなければならなかった。
BTU（「英国の熱量の単位）は、これらの数字をさらに滑稽にする
人は、当然重さが「ポンド」ではなく、メートル法のキロで示されると思って見る。そんなことで、ここで使われている「ポンド」の数値を、メートル法の数値と錯覚し、メートルポンドといっていいような奇妙な単位で不正確に理解をしてしまう。
すべての科学者は知っていても、言ってはいけないようコントロールされているという陰謀の仮定は明らかに十分根拠があるように見える、そして、彼らが言おうとするならば、コントロールされないこれらの人々は「偽医者」と考えられてしまう。
また普通のケースでは「人々知っていても、言うことができない、
そして、言う人々は、知っていないと推定される。」
使用されるもう一つのばかなトリックは、「燃焼装置の重量」を含めて比較することである、
水素のユーザーは、間違った仮定で否定しようとしている者が提示する燃焼装置だけを使用しなければならない、
、燃焼装置にいれる、必要な水素の重量が約 3 分の 1 としたら、厄介な低温ビンまたは水素化物貯蔵タンク、その他を用いて水素がガソリンと「同じ」重さになるよう増加させてしまう。
水素化装置に言及するときはいつでも、カリフォルニアのジェラルド Schafflander 博士によって開発された液体水素化装置を明らかに無視する、
以前の本「Space Aliens.」で Schafflander と同僚に味方して書いたように、彼は SEC によって口汚く起訴された
原子状水素のプロセスは、わずか 1 ポンドの水素で十分実用的なエネルギーとなる、人は Schafflander 博士の 25lb 液体水素化物をトランクで運ぶことができる。
下記はガソリンと分子水素と原子状水素の燃焼プロセスでの発生エネルギーBTU/lb の比較である：
ガソリン（n-Heptane）の燃焼 19,314 BTU/lb
Hydrogen（H2 + O）の燃焼 52,200 BTU/lb
Atomic 水素（H2<→ 2H）、196,200BTU/lb、
なお原子状水素は水素を「消費」しない、たとえ「消費」したとしても、ガソリンと原子状水素の間の熱発生比率は、依然として 1 対 10.5 の効率で優勢である

ガソリンを自動車エンジンの中に入れ、1 ガロンにつき 100 マイル以上走行する最高の方法を考えるべきだ（1 ガロンにつき数百マイルでさえ可能だ）
燃焼の前にガソリンを気化し空気と混成させるが既存のそれを利用するとして、これはガスが標準の温度と圧力の状態なので、水素でこれをするのは簡単である。
また大部分の「ガソリン」は水といろいろな添加物との薄めた混合物で、私が「ガソリン」と言っていたものはおよそ 50%が n-Heptane だけの、『まじりけのない』ガソリンで、完全に n-Heptane だけのものは長い間利用できなかったことを考えてほしい。
1 ポンドのガソリンで 30 マイル車を推進できるならば､消費エネルギーは 666.6BTU/マイルである
同じ状態で、1 ポンドの原子状水素ならば、315 マイル可能である
それも、完全に何度も、その水を繰り返し使用できる。
1 ポンドの水素はあなたの生涯のすべてのエネルギー・ニーズをおそらく満たすことができる、そして、あなたは地階の水道水から電解によって正にもう 100 ポンドの水素を生み出すことができる！
これはフリーエネルギーではないか?!
この「秘密の」水素反応の事実は「明白には見えないように隠されている」が、
人は、科学界に一般的に流布している偽情報に注意しなければならない、
一般の人の間違いと同様に「科学者」によってつくられた RQMs によってもだまされた。
たとえば、1976 年のノートン Encyclopedia の第 5 版、1311 ページに、水素に関係する大部分の事実が、示されている。
示された以下の事実が特に注目に値するが、水素の再結合のため「109,000cal./グラム分子」のエネルギーの発生は直接示されていない（昔のテキストでは報告されていた）:
20.4° K の熱で蒸発する場合　107cal/グラム
燃焼で放出されるエネルギー　29,000cal/グラム、
燃焼の熱 25° C　63,317.4cal/グラムモル
著しい熱での燃焼　正味で 25° C 57,791.6cal/グラム・モル

もう一つの仰天するほどの証拠、水素による多くの方法

Norton 百科事典はその第 5 版で､「103cal./グラムモル」分離エネルギーと書かれていることは誤植またはミスプリントには見えないし、もし誤りが発見されたならば、その頃までには訂正されていなければならなかった。
明らかな隠蔽のための、異常な記述があるとは特に思いもしなかった時から数えると、どれくらいこのような『ミスプリント』を見つけ出したことか？
それでも、ケンブリッジの E. A. Moelwyn-Hughes による Physical Chemistry（1965 年（Pergamon Press、London））の、418 ページには、以下のように書かれている：
「解離エネルギーは Spectroscopic スペクトロ分析による評価で示されるが、
２価分子には、無限に切り離されるときと、原子が平衡分離で落ち着いているときとで、これらのエネルギーに原子の位置のエネルギーによる違いがある。」

分子の「落ち着いている」状態と、原子的な水素原子要素の「無限に切り離された」「励起状態」を表すことばとしてそれに注目すべきだ。
素人のことばで言えば、RQMs 量子力学は単に分離エネルギーと再結合エネルギーが同じと述べるが、彼らの理論がそれらが同じであると決定したからである、
それで、再結合エネルギーをまるで分離エネルギーであるようにして、分離エネルギーを測定した後、その測定値を再結合エネルギーとして述べて、測定したことにした。
ここで単純に述べたことは多くの RQM のややこしい表現になり、「嘘をつくことができない」分光器による「スペクトル分析器の評価」は、いんちき薬を売るために付けられる話のようになる。
同じテキストの、417 ページ以下でもすこしあいまいに述べてもいる：
1 モルにつき 109 キロカロリー水素原子が発熱してエネルギーを放出するとするならば、分子を形成するため結合するとき、この分子の位置エネルギーは失われるが、これらの「位置エネルギー」は水素分子のもつエネルギーと考える。
結論から逆に進めることで、論理的に当然の結論を引き寄せる彼らの義務を避けている。
「基本の電子状態の水素分子の位置エネルギーを表すグラフ（「図 4」）によってこのうそは、表されている。
「「王立協会」の物理学の博士号によって、このグラフは明らかにゆがめて解説されており「原子状態」にあるとされるその水素は、基底状態でなく、励起した状態のものである。
英国のこの 1965 年の物理化学テキストでは、水素原子の再結合に関して発生する熱エネルギーを 109,000cal./グラムモルとして書かれている。そして、その発生した熱をちょうど今再結合し形をなした「基底状態の水素分子」の「位置エネルギー」としてゆがめて伝えている！
彼ら自身のもつエネルギーの爆竹で上昇したとする、しかし、水素の「基底状態」は RQMs では原子の状態としてあり、最も低い電子エネルギーレベルである、その基底状態原子は 109,000cal./グラム分子のエネルギーを「蓄積」することはできない。
そこにこのエネルギーは、正確に、「存在しているのか」？
並行して、この同じ数字は、各々2 水素原子の興奮した状態で分子を形成するために、一緒になるときに発生する熱と、不正に同等視される、
再結合に関して熱エネルギーが放出されているので、分子にはすでに放出される位置エネルギーは無くなっているはずだ。
これらの分離した基底状態の原子の位置エネルギーは、分子のそれより大きい、
この熱エネルギーは流入したエーテルと変化した ZPR から放出されるので、それは水素原子からのものではない。
ここに、オーウェル風の「きれいをきたない」というような二重思考が暴露された。
元素の原子の位置エネルギーは、その分子状態で、いつ測定されたのか？
これは正確に、丘のふもとにいるトラックが、丘の上までいく運動に要求されるエネルギーより、すでに丘の上に上っているトラックに多くの「位置エネルギー」があると言うようなことだ！
「位置エネルギー」を決めるのになんと妙な方法だろう
ガスが存在しないところにガスの位置エネルギーが存在すると言っているようなものである！
水素原子のユニークな特性は、位置エネルギーの高い丘の頂上に「連れて行く」ということである！

その仰天するほどの特性は、おなじみの原子物質の世界とエーテルとの間の「戸口」として動く力にある。
相対性理論に基づく答えは、正しいものとして、無意識に受け入れられている、
なぜなら、彼らの理論にはエーテルまたはZero Point Radiationの可能性がないので、そして、結論は「E = MC2」なのだから分離している原子より質量の多い分子には、多くのエネルギーがなければならない。
相対論的量子力学RQMsは、このプロセスで、分離した原子は、より低い質量になるとゆがめて伝えており、分子より分離した「原子」にはより多くのエネルギーがあることを隠した！
え！
これらの水素に見られる事実は、Eが MC2より大きいことを示す。
相対性理論と量子力学の下では、「固体」の物質は、「「原子のエネルギー」の形態が最も「コンパクトに」圧縮されて「保存されていると誤って考えられている
なぜなら「壊れる」か破壊されることによって、または原子が融合することで、エネルギーが放出されると思われている、からである。
テスラは、それらが間違っていると言った。
それは、原子状水素の反応によって明らかに示されている
テスラは正しかった、そして、相対性理論家とアインシュタインは間違っていた、
２価の状態の水素分子より分離した原子状態の水素原子には多くの位置エネルギーがある！
これは、理論的に2つのことがありえるとすることで説明可能である
分離した、原子はZPRからエネルギーを「得る」、
そして、再結合したとき、エーテルからそのエネルギーを放出する！
いずれにせよ、放出の後の測定からみて
原子によっても分子によっても、エネルギーは保存されていないことが分かる。
そこには相対性理論の薮に隠れているさらに大きなうそがある。
この位置エネルギーの邪悪な誤りは、水素の２価分子を、水の分解によって生み出される発生期の原子状の水素原子と混同する方法でもある。
水の分解のエネルギーは、分離エネルギーと再結合のエネルギーによる燃焼のエネルギーと同じエネルギー量とされる、
ここで提示される情報は、水の分解されたものを結合することによっているがそれは、原子状水素がおそらく、酸素を捨てる燃焼プロセスの代わりに、原子状の水素の再結合プロセスで直接生産されるものを示している、
そして、水の分解入力の少なくとも10.5倍多くのエネルギーが生じることが可能である、
これはまだ仰天するほどの水素のフリーエネルギー・プロセスの3分の1である。（普通の水素の燃焼過程と比較すれば）
原子状水素の過程では普通の水素の燃焼過程での重さごとのBTUs出力エネルギーの少なくとも3.75倍を問題無く、放出するので、これは真実である。

さらに相対性理論者は、たとえば電気分解による水素の工業生産が通常、120%効率的であることはよく知られているのに「燃焼エネルギー」が少なくとも「水の分解のエネルギー」に等しいこ

とにしてしまう。
水の分解による（それは分子を別々にしていく分離過程だが）原子状水素の生直接産は、さらにもう一つの刺激的な可能性がある。
65 立方センチメートルの水素ガスを生み出すために 109,000cal./グラム分子に相当する電気量を費やさない。

どんな具合、働くか？

この「溶接プロセス」は、新しい MIG と TIG 溶接による使用による溶接効率には匹敵できないとして『もはや旧式』、となっている
これまでこの溶接方法はそれが唯一の「公的な」使用法だったが、
「新しい」プロセスの出現で、工業界はこれを「旧式な」方法としてゴミの山に投げ捨てた
（彼ら自身の『秘密の』使用法を除いて）。
この「新しい」プロセスは、一般には知られていない、溶接供給元と電力会社自身の中にいる者に動機づけをされて普及した。
旧式のタンク、トランス、計器、トーチ（吹管）、電極、ガス、磁束計、そして、電源、その他、その他、こうしたものは売却され大きな利益を与えられた。
人々が自宅で溶接のために彼ら自身で水素を作るならば、どれくらいの器材が必要なのか？
原子状水素はそのエネルギーを「エーテル」から得るならば、どんな具合に、得るのか？
体制科学がそこにエーテルがあるということを知るのを望まないのも不思議ではない。
我々がエーテルを除外する相対性理論的な『科学』と、権威あるエスタブリッシュメントによって解釈された「エネルギー保存の法則」を信じ、『標準的な』テキストから入手可能なデータを使うならば、このプロセスは不可能である。
私は、103cal/グラム分子の入力エネルギーが 1,058 倍以上ある 109,000cal/グラム水素分子のエネルギーに『拡大した』ことを示した
または水素を「媒体」とする使用法で（または 103 カロリーエネルギーの『種』を「活性化するエネルギー」と呼ぶ）「エーテル」によって正味 108,897cal./グラム分子の原子状水素になるよう惑乱の引き金を引く。
同じように「原子ヘリウム」のこの著しいプロセスは、Space Aliens で報告したように、この出力が 4.6 倍となる。
これは水素と同じ方法で行われることができ、同じ種類の電気エネルギーと熱放射エネルギーへの変化が生じる、
水素やヘリウムの「質量」はこのプロセスでは単に「媒体」として使用されるだけである。
The same principles are shared by the Atomic Hydrogen Process, by Josef Papp's Method and Means of Converting Atomic Energy into Utilizable Kinetic Energy (Patent No. 3,670,494, of June 20, 1972), and several other discoveries mentioned here.
ヨセフ・パップ Josef Papp の特許「原子エネルギーの利用可能なキネティエネルギーへの変換の方法と意味」（特許番号 3,670,494（1972 年 6 月 20 日））、
は、水素原子に起きる過程と同じ原則が共有されている、そして、他のいくつかの発見はこの特許に記載されている。

比較のために求められた最終の電気エネルギーの数値で、これで生じたのと同じ量の電気エネルギーがこれらのプロセスで使用されるならば、使用法のプロセスは、正しいのか？
30mpg の n-Heptane で比較すると、ヘリウムは、42.86 倍以上の効率で、1 ポンドにつきおよそ 1285.8 マイル走ることができる
ヴァン Nostrand ラインホルド社（1976）のヴァン Nostrand　サイエンスエンサイクロペディア Scientific Encyclopedia、第 5 版.によると、
特別な空間で簡単な電子によるヘリウム・ガスへの爆撃は、一時的にとても短い半減期の放射性の同位元素をヘリウム原子に励起させる。
この状態で、ヘリウム原子のもつ電子を非対状態にして、1 つの電子を活性化する
その後 2 番目の状態で 460,000cal/グラムの原子（ヘリウム 1 グラムごとに）を放出する（非常に短い時間だけ、その状態にする）
興奮した原子が崩壊して、その基底状態に戻る。
熱は、光子の形で出る。
102 ページに示した私の図面で示したように、これは原子状水素のプロセスと似ている。
電子雲が興奮した（拡張された）状態にある間、ZPR からこれらが集めて、エネルギーに変わるというのが私の理論である。
水素がアークを通り抜けると、明らかに電気と磁場が、熱を与えて、活性化エネルギーを提供する
さらに 108,897 cal./グラムの分子の吸熱性分離エネルギーが分子の『不安』を起こす
正確に、これは本当のことなのか？
各々の水素原子は陽子と電子から成り、各々一対は逆の等しい電荷で結合している
人は、分子の間の拘束力が非常に弱いと思っているが、原子に分離されるとき、これらの拘束空間の大きさは意図的に拡大する
大きなオムニ物質 Matter の量を含んだ非金属の原子よりも、陰イオンが大きく、作られる（オムニ物質は「エーテル」のための私の用語）
再結合するとき、原子は質量が縮む、
そして過剰に『集まった』エネルギーは自由な（熱）エネルギーとしてエーテルからしぼりとられる。
「吸熱性」の分離で 103cal/グラム分子の熱だけを吸収する、そして再結合で、原子は「発熱的に」正味 108,897cal/グラム分子の熱を生む。
どんな具合に、これは正確に起こるか？
Space Aliens で言ったように、私の理論では、全ての空間は「Omni Particles」（別名「エーテル」）が数珠つなぎに固く圧縮されている。
そしてこの捉えどころのない濃くて極端な微細な、全く透明な物質は、Zero Point Radiation（「ZPR」）と呼ばれている何かによって、全方向的にしみ通っている、
そのような高周波と電圧をもつそれは測るか、認識するのが難しい。
この放射線は、（非相対性理論的な）平衡状態にある。（したがって、「ゼロ Point」放射線と呼ばれる）
原子状水素プロセスで証明される事実は、オムニ Matter と ZPR の関係によって説明されるのだ

が、相対性理論と量子力学によってそれは禁じられている、
単純な調和的な発振器には運動エネルギーがゼロの静止した状態を感知できない、
基底状態はまだ 1/2 量子エネルギーとそれに相当する運動を持っているので、相対性理論の中の『その他の』法則としてある、運動エネルギーの原則は電磁放射（ZPR）に適用できない。
相対性理論もエーテルの存在を拒絶するので、そのような放射エネルギーを含むいわゆる「真空のスペース」はない、
そして、原子状水素プロセスは、「無」からそのエネルギーをつくらねばならず、したがって、すべてのエネルギーが「最初の」BIG BANG の『段階的に縮小した』製品の一部として機能すると見る相対性理論の学者によって誤って説明されているように、これはエネルギー保存の法則を犯すことになる。
あなたは、相対性理論者が言ったことを無視することが可能になる。
ZPR の平衡は、オムニ Matter に引き起こされる障害で動揺することがありえる
私は、それを Omnions（超微細、陽「下位陽子」粒子）と Omnitrons（Omnions によって運ばれる「下位電子的な」電荷）に分け、そしてすべてに、ZPR が相互に浸透している。
オムニ Matter への一方向性の振動（障害）は、ZPR から転換する力を蓄える原因になる、
オムニ Matter を平衡から抜け出し、ZPR に向けて平衡を回復しようとする。
オムニ Matter の過剰力は、原子状水素原子をへて移動する
（または、他のものを一時的に興奮させる。そして、拡大した原子はその過剰力を含む）
原子質量の振動に入り込んで、このような騒乱をへてオムニ Matter は平衡を回復する、。
この移された力は「何からもつくられない無のエネルギー」ではなく、他の形ですでに『スペース』の中に存在する無限のエネルギーの「形」の変化を意味するだけである
（(ZPR のような、または、「下位電子的な」チャージとして時間の外の力として)。
H2 が 2H（H1）に分離されるときはいつでも、、電子雲は大きく ZPR に影響を受け、多くのオムニ Matter を含むために大きくなり、
原子から発熱性の力の反応と移動がある
それは分子の中の、原子を結びつけている Omnions を剥がす。
この発熱エネルギーは、電子雲の中に、Omnions を十分な量放射する
そして、これらの電子と量子の境界の向こうにある、原子の間のスペースに集中する
さらに原子を解離させるために必要なエネルギーが周囲のオムニ Matter と ZPR から得られ、そしてオムニ Matter の平衡が回復する。
原子状水素は再結合して 2H を形成する（ZPR 放射エネルギーが変化する）
そして、私は下位電子チャージを、原子から放出された（はずされた）Omnitrons と呼ぶ、
熱、または低い周波数の放射エネルギーがそれに干渉する。
Omnions によって運ばれた陽電荷が加わることで電子雲が縮むのである。
水素分子の電子雲の密度が原子の間のスペースのまわりのエリアに集中する理由は、そこに Omnions の存在が流入するためである。
そうでない場合は、2 つの原子にともなう 2 つの負電荷が、相互の反発の原因となる。
実は、熱は、赤外スペクトル放射線であるとすれば、このプロセスは
ZPR を超鋭いポジティブな（『冷たい）スペクトル放射線から赤外線の（熱）スペクトル放射線

に物質が反応するように変える方法と考えることができる
そして、これはつまり、発熱熱放射の形としてある、いわゆる「フリーエネルギー」となりうる「源」である。
ZPR は日光に似た物で、常に全物質を透過して、日中でも夜間でも影響を受けずに、原子状水素プロセスのように全時間使えるエネルギーに変えることができる、理想的なテクノロジーになる
ちなみに、最初に今この場で公表するがこの同じ原子状水素プロセスは
いわゆる「低温核融合」プロセスで起きる水性の空洞現象(キャビテーション)でもたらされる異常発熱熱現象の原因でもある、
これは原子状水素プロセスに基づく他の 2 つのフリーエネルギー・プロセスになる。
1 つは、明らかに空洞現象(キャビテーション)は、John Ernst Worrell Keely によって作られた、「真空水力モーターHydro Vacuo Motor」燃料のない強力なポンプの活動と関係する
1870..
原子状水素原子には、シェルが拡大し、対になってない一つの、電子がある。
メンデレーエフのグループに I-a の原子があるが、そのグループの中のすべての原子は外側に対になってない電子を持っている、
そして、原子番号 19 以下の元素のすべての原子のように、紫外線光を浴びるとフォト光子が反応し、変化する。
これらの元素のいくつかは赤外線で変化するのが見える、そして、それらの全ては ZPR を使ってフリーエネルギーの発生元になるものとして変化させて使うことができる。
このフォト光子粒子の反応性は一時的に短い半減期の同位元素から人工的に放射能を生み出す
光子エネルギーの放出で非励起状態に戻って原子は平衡を再興する。
原子自体からでなく、これらの放射性放射物のエネルギーは、エーテルから来る。
特定の結晶のラーマン効果として書かれていることの類推で、この原子の動きは、説明することができる、
そこでは結晶を通過する光は、低い周波数に「落ちる」。
原子状水素のプロセスで生産される赤外線スペクトル光は、その長い波長のため普通の原子と分子物質で、熱性の反応が出る
オムニ Matter を通して、ZPR からの力の移動は、分離された H（原子）を通して、明らかに存在する
それはテスラによって話されるたときには、いくぶん隠されていた、:
「エネルギーは、環境から受け取られて、それ以外に物質からのものではない。
4
いわゆる「低温核融合」において、ちょうど原子状水素でのプロセスのように、
電解槽に「生まれたての水素」が生じ、そして、単一原子水素が 2H へ再結合することで熱を放つと実験は主張している。
この原子状水素のプロセスも、その「アトミックエネルギー」は原子を『壊す』ことからではなく、環境から来るというテスラの理論を証明する。
その意味で、「質量」は、そのアインシュタインの方程式に収まらないことを証明する、つまりアインシュタインの「E = MC2」は間違っている。

アインシュタインの相対性理論は水素が『絶滅し』その「質量」を熱、やその他に変えるならば、このプロセスが可能になるだけだと言う、それ以外は不可能である。
しかし、プロセスの前中後で、水素は依然として水素であり続ける、このように、Einstein は具合が悪く、具合が悪く、まったく具合が悪かった！
相対性理論、Heisenberg の「不確定性」理論、誤解された量子力学と BIG BANG は無視される！
おそらく、これに類似したプロセスは、リーランド・アンダーソンがテスラへの賛辞の中で彼が熱量装置が「得た」ことに言及したことでもあった、
薄い空気では正しくない
したがって、結局 2H の水素原子の、分子形がより小さい時、「圧縮される」
2H の水素原子の分子の形が完全に、小さい時、「圧縮された」ガスは、熱をリリースする、
通常減圧の間、エネルギーは吸熱的に吸収されると考えられる
しかし、水素の場合、2 H への自然な再結合の、物理的なプロセスでこの変化はもたらされる。
分子の原子は、わずかな分離の熱を使用することで『減圧することができる』、
原子間の強い拘束力は、Omnions によって造られたので、少量の十分な発熱エネルギーによって簡単に弱められ原子を分離する

それで、Omnions は、周囲のエーテルと ZPR から彼らの Omnitronic 電荷を回復する
水素原子で、ほとんど完全に陽子を中和する比率、（最高の電荷/質量の比率）は知られている。
プラスでない質量が雲の中にあるので陽子の方へ雲がひかれるために、分離の間、電子雲の『減圧』が、起こる
103cal/グラムの分子の使用で、100 の陽子が解離すると、大きく拡張された原子の電子雲はより大きな質量または Omnions を含むことが許される、
108,897cal/グラムの分子に等しい下位電子 Omnitronic 電荷を利用できるただ一つ供給源 ZPR とオムニ Matter（別名、「エーテル」）から、運ぶ、
大きな冷却活動が分離領域のすぐ近くにないので、
『熱』は、オムニ Matter と ZPR から来ることができるだけである、
そして、コヒーレントな、『冷たい』ZPR、Omnitronic なチャージは、
、最後にランダムな利用できる形の熱放射のエネルギーへの転換となる。
このプロセスは、それが熱として引き起こされるが、単に熱のプロセスだけでなく、これは ZPR と Omnitrons から赤外線の（熱の）放射線になるもので
放出される正味のエネルギーは熱エネルギーとして変換されたものだけではない。
驚くべきことに、このプロセスでの生データは、、
平均的なアメリカの実験者にほとんど利用できないが英国の最も古いテキストに書かれており普通の科学の本の中にある。
石油に相当する完全な大きさと出力は、一貫したストーリーのもと総正味の出力を得るために、測定、単位と温度計、重さの変換だけで無いものにされた。
最大の物理学者または化学者は、たとえ彼ら自身でそれを計算したとしても、結果を信じることを拒否し彼らが誤っていると主張する
これこそ正しいと言われているが、逆に本当に大きな嘘 BIG LIE である。そして、それは、そし

て、しばしば、非常に小さく話される。
BIG LIE 大きな嘘は、エーテルは存在しないという否定から成る（量子力学の歪曲）
そして、誇張と縮小化 minimalization、測定値の他との非互換性によって、間違った全体的な映像を作成する。
これは、燃料カルテルと国家安全保障法によってつくられた情報の真空によってバックアップされ、一般公開されたテキストと他の情報源からなる。

このプロセスの適切な使用法

今我々が我々の原子状水素の大きな出力とフリーエネルギー・システムを理解し始めているが、最適ですぐに適用できる用途は、何か？
最も、直接的に適切なこのテクノロジーを使って家のための暖房と同じように、家庭の産業の目的のヒーター、そのためだけでなく農業といったものに提供するのを見る
二番目の使用は、タービンで動く発電機を駆動する蒸気のための熱をもたらすことになっている、または車、トラック、ボート、電車と飛行機の起動力のために使う。
極限的な個人的な輸送のための電子推進力の空飛ぶ円盤に電力を提供するために、冷却ドライブと結合した閉ループのターボ発電機ならば、このシステムは素晴らしい。
正味の出力が熱なので、最初の業務予定は特別な熱交換器で熱を水または他の媒体へ移すか、タービンの回転のための蒸気を生み出す。
原子状水素の反応室の炉の熱は、速く取り除かれなければならない
反応器面を十分溶かす熱の強化を交換器で防止する
そしてそれは再結合するガス原子を受けて、触媒作用が働く。
下で示される簡略化されたデザインは、単に提案である。
数年前、ドイツの冶金学者は、水素炉を開発した
それらは、閉鎖系の銅のるつぼを使った
それはプラチナ・グループ合成物の縮小のために必要な「水素環境」をつくった。
圧縮のために必要な高温に耐える銅のるつぼは、水で下から冷やされた、
そしてそれは銅の溶けるのを妨げるため十分速く熱を取り除いた、
プラチナ金属はトーチの中で上から溶かされた。
酸素への閉塞は、るつぼとプラチナ金属の酸化を防いだ、そして、水素によるプラチナ合成物の縮小を保証した。
この考えは（45 年以上親しまれ）
そして、パイロ熱・テクノロジーとして、34 年以上溶接に使用されてきた
それは、この原子状水素炉の（単純化されたバージョン）デザインに影響した：

フリーエネルギーの驚き

エーテル、ZPR と「環境」エネルギー

アインシュタインの相対性論を反証をあげることがこの装置で明解に現れ、ニコラ・テスラの核理論は証明されたと考えられる。

Space Aliens（vii、ページ 185 と 187）の資料に基づいて、研究者は（vii ページで示されたものと同様の）装置の発展のために私は彼の名前を使わない規定で、50/50 で共同で研究しようと私を誘った。
私は鉄パイプと 15kv の変成器を使うよう示唆した、Colorado Springs 実験の鉄の「アンテナ」の使用は Tesla に基づく。
およそ.1 アンペア/120 ボルトの入力（12 ワット）で、48kw の出力が、達成された
鉄の K-捕獲レベルが 7,110 ボルトなので、
私は、7,500 ボルトの 2 本の足を 7,110 まで可変的に調整することを提案した（全体としては電圧 14,220）
すると出力が 66kw まで飛びあがり 38%以上の効率を獲得した
120 v/.l アンペア/60cps/14.22kv でアースがない装置に入ると出力は、明らかに高周波で重畳されて出る、（上の前例と同じように）
そこで、高圧『刺激電界』を維持している間、出力は抽出され
高圧高周波フィルターと整流器を通してインバーターで使える電力になる。
「K-捕獲」で、鉄の一番奥の「K-軌道」の電子は核へ落下する、
これは、鉄を不安定にするように見える、（すなわち、Tesla のいう意味ですなわち、「放射性の」ものので、それが平衡を妨げて、ZPR に反応させるようにし、そのいくつかを電気出力に変える。（鉄を経て）
たいへんな熱を生み出すよう異なる方法で使われるとき、この装置は亜鉛を水銀に変えるとも言われている。
まさにこの時点で、装置はまだ謎の部分がある。そして、それはたいへんなエネルギーを生み出すように見える。
装置が動くと、それはうなる、
アークなしで空気の冷たい一条の光線がそのトップから出て、強い電気/磁場がそこにある。
なんらかのオゾンが、形をなすように見える。
これは、多分、Tesla が「鉄のための新しい使用がある」と言ったときに、意味したものであっただろう、そして、「.. 本当に静かに、何かが進行していた」
「Free Energy Surprise フリーエネルギーの驚き」（c 1997、William R. Lyne）
計画と記録写真の一組のコピーのため（郵便料金を含めて）10 ドル送ってください。:

Creatopia Productions, General Delivery, Lamy, New Mexico 87540;
Creatopia プロダクション、局留め郵便、Lamy、New Mexico 87540;
Tel/ファックス(505) 466-3022

結論

1 ポンドの水素から多量の 196,200BTUs のエネルギーが生まれる。
私は、夢かと思って私自身をつねらなければならなかった。
それを、10,000 回、繰り返した。

40 年代後期に、この種の「原子力」を知らないアメリカの市民の小数の溶接工の
人たちに打撃を与えたとき、ゴルフボールのサイズの放射性物質のかたまりが原動力で大西洋を横断するクィーンメアリーの航海はできると書いた新聞記事が、あった。
彼らは、我々が騙されて、そのために料金を支払うと思って、彼らの誇張した話を語った
しかし、今日の「原子炉」は、石炭とガス燃焼発電機（38%）と、同じ効率で電気を発生している。その上、我々はまだ固定した、古い、停滞した「核」核崩壊、
廃棄物、チェルノブイリの惨害の可能性があり、および化石燃料テクノロジーの大きな出費の回避不能な問題に対処しなければならない。
水素の使用に障害があるというのは実は幻想である。そして、このストーリーはコーポレイト国家の強制的な独裁資本共産ナチス monopolists.CommuNazis（別名ナチスイルミナティ IllumiNazis）によって創られた。
原子状水素プロセスがラングミュラーLangmuir によって 1912 年に発見されたが、30 年代になると「溶接プロセス」としてそれは発展した。
カリフォルニアのジェラルド Schafflander 博士によって、液体の水素化物システムが発達するまで、ロスアラモスの DOE、『科学者』が水素の使用に厄介な低温タンクと器材が、
重く関係すると言って 1979 年まで彼らの行った努力は全く偽のものだと、1980 年のニューメキシコ州民への手紙で、私は指摘し嘲笑した。
液体水素が「岩塩」のような何かで水素を保存しそしてそれは 70° C.頃に外側にひびが入ったので、SEC によって Schafflander と同僚は、起訴された。
DOE 科学者は、より重く、より厄介な、固体金属的水素化システムだけに言及する。
Schafflander のより軽い液体水素化システムは水素を生み出すために、太陽のボルタ電池（voltaics 電気）を使う、これは貯蔵するのに素晴らしい方法で、水素を原子状水素プロセスに至らせる。
さようなら、石油カルテル、こんにちは原子状水素、今や見直す時である！
私の「低温核融合」のやり方は 1980 年に（私は鉛ベースの陰極の魔法を使う）
テストし、よく研究したが、ラングミュアが、1912 年に、鉛のアマルガム陰極が「生まれたての（強力な）水素」を生じると言ったからであった。
（ペンタゴン Space Aliens　5（198 頁）、を見なさい。
低温核融合論者は、パラジウム陰極を捨て、鉛のアマルガムを使うべきだ！
いつか水の価格が 1 ガロン 1.40 ドルまで高くなるのを見てなさい。
結局、なぜ、「彼ら」は「我々」が希少な全部まじりけのない「化学製品の」何ガロンかの H2O を買わなければならないようにするのか？（生涯で 1 ガロンで十分なのに）
参考文献
1. J. R. Partington (Emeritus Prof. Of Chem., Univ. Of London), A Text-Book of Inorganic Chemistry, (Sixth Edition, 1953), Macmillan & Co. Ltd., London
1. J. R. Partington（(London 大学）化学の名誉教授）（無機化学の教科書）（第 6 版、1953）Macmillan と Co. Ltd.（London）
2. Van Nostrand's Scientific Encyclopedia, Fifth Edition (Edited by Douglas M. Considine), Van Nostrand Reinhold Company (1976)

2. Van Nostrand の科学百科事典、第 5 版（Douglas M. Considine によって編集された）、Van Nostrand Reinhold 会社（1976）
3. E. A. Moelwyn-Hughes, Physical Chemistry (Second Revised Edition), Pergamon Press, London (1965)
3. E. Adom Moelwyn-Hughes、物理化学（セカンドエディションを修正した）、Pergamon プレス、London（1965）
4. Nikola Tesla, Lecture Before the Institute of Immigrant Welfare, May 12,1938
4. 1938 年 5 月 12 日 Nikola Tesla、前の移民福祉協会での講義、
5. William R. Lyne, Space Aliens From the Pentagon, (First Edition, 1993;
5. William R. Lyne、「Pentagon からの宇宙人」（第一版、1993 年
セカンド・エディション（1995 年）Creatopia Productions
Second Edition, 1995), 、General Delivery, Lamy, New Mexico 87540
Creatopia Productions, General Delivery
William Lyne は New Mexico Big Spring に 1938 年に生まれその後西 Texas 石油新興都市におり北 California のベイエリアで II 世界大戦の間 2 年いた
その後南東 Texas の Big Thicket country に行った
彼には、ファイン Arts と Industrial Arts（1965）の B.S.がある
そして、
テキサスハンツヴィル、サム・ヒューストン州立大学、から、そして、オースティンのテキサス大学から Studio Arts（1969）の M.F.A.がある

そして、He は過去 27 年 New Mexico で生きている人で、Santa Fe の南方の小さい鉄道町 Lamy に彼には 13 年前に生まれた息子 Angus と、住む
1993 年に、彼は「Pentagon からの宇宙人」を出版した：
空飛ぶ円盤は、人間の作ったエレクトロマシンである。
1995 年に、この書物の修正され拡張された第二版が、出た
The result has been the illegal dissemination of a vast quantity of false government propaganda, via covert intelligence agents in the "UFOlogy" community, to overcome the effects of the book.
結果は書物の効果に打ち勝つために、「UFO 学会 logy」コミュニティの隠れたスパイを通して、不正な政府宣伝の膨大な量のプロパガンダの不法行為があった。

スカラー波の発見

クリスティ・バリシーモ著 by Christi Verismo

2000 年

ChristiVerismo のウェブサイトから

目次

1 世紀前のビーム兵器
テスラのスカラー波技術の継続
テスラの交差したスカラービーム
ロシアの『キツツキ』スカラー波送信器
1930 年代
1940 年代
1950 年代
1960 年代
1970 年代
1980 年代
1990 年代
現在
スカラー技術で何が、できるか？
読心術、大量の催眠術と合成テレパシー
病気の誘導
衛星の禁止
In The Air
大気中で
気象工学
地震
海での攻撃 Sea Attacks
テスラ・シールドと球体
地上攻撃
個人を消すこと Obliterating Individuals
携帯用のスカラー・バズーカ
レーダーからの不可視性 Radar Invisibility

起こることができた戦争の概要

Russian UFOs Attacked The Us Shuttle Program From The Beginning

ロシアの UFO は、我々のシャトルプログラムを最初から、攻撃した

どのように、ロシアは UFO を得たか？

元ボルシェビキはアメリカを運営している Former Bolsheviks Running America

Replicas Used For The Landings, After Originals Shot Down

オリジナルのショットダウンの後着陸のためにその複製が使われた

Cloaked Russian UFOs Above USA

USA より覆い隠されたロシアの UFO

All U.S. Satellites Shot Down By Russia Until 1981

1981 年までロシアによって落とされたすべての米国の衛星

Lies, Lies And Lies

うそ、うそとうそ

日本人との摩擦

Enterprise Shuttle Determined To Spy On Russia

ロシアをスパイすると固く決心しているシャトル事業

ロシアは、攻撃を強める

Trying Again To Get Up Into Space.

再びスペースに起きようとしていること。

Third Time Lucky?

三度目の正直。

Bold Attacks On America

アメリカへの大胆な攻撃

The Struggle At The Top For Power

権力のためのトップの闘い

The Stealth Plane Comes To The Rescue

平面ステルスは救助に

Phantom Against The Cosmosphere

物質界に対する幻

The Expected Genocide

期待される大量虐殺

Plans Foiled To Destroy Russia's Military Arsenal

ロシアの軍事兵器庫を破壊するために裏をかく計画

Brazil

ブラジル

India

インド

Japan

日本

神戸『地震』

中国
Oklahoma FBI Building 'Bombing'
オクラホマ FBI は『爆破』を構築した
他に誰が、UFO を持つか？

情報源
用語集

ニコラ・テスラへ戻る
新エネルギーへもどる
Temas への回帰－Paraciencia
スカラー電磁気学技術へもどる
スカラー戦争へのリターンースカラー電磁気学の素晴らしい新世界
ドイツの ET とのコンタクトに戻る？
- Its Legacy On The Twentieth Century And After...
－20 世紀の遺産とその後

スカラー波の発見

それは、Ｊ・マクスウェル（1831-1879）という名のスコットランド人と、18 世紀にすべて始まった。
彼は数学的な天才であった、そして、アインシュタインの相対論 Relativity に後でつながった量子物理学の発達に、彼の業績はつながった。
マクスウェルの方程式は電気と磁気を結んだ、そして、彼は通常の hertzian 電磁波より別の高い波を発見した。
彼らは電磁波から離れ直角に置かれて、全方向性である、ところが、通常の電磁ヘルツ波 hertzian は通常の器材で計測可能で、直線で移動するだけである。
重力場に属しているので、彼らは重力波とも呼ばれる。

我々の 3D の物理的な現実のマクスウェルの電磁スペクトルより高く進んでいて、そして超空間の、微細な識別できないスカラー波が存在する、(用語集でスカラー波のための他の名称を見てください)。
（マクスウェルはこれらがエーテル/超空間で流れると言った)。
それゆえこれらは、X線とガンマ線より微細な幅の 1 平方センチメートルに 100,000,000 あるほど、スカラー波は微細である。

これらは、さまざまなモードの周波数で操ることもできる。

マクスウェルが死んだとき、物理学に基盤を設定する 3 人の専門家（ヘルツを含む）によって、彼の仕事が解釈され、その時代の装置で測ることができることを越えた「神秘的な」何らかの波があると考えたが、役に立たない。

トムビアーデンによると、（(その時以来）標準的な物理学規則）は 22 の誤りを含んでいる。
ニコラ・テスラ（(1856 または 1857-1943）ユーゴスラビアの生まれ)、そしてその人はマクスウェルの仕事を行い 1891 年に米国民になった。
Telsa が彼自身交流を発明する間に、直流電流を発明したトーマス・エディソンのために、テスラは働いた、しかし、2 人の男はよくうまくやっていかず、方法が分かれた。
テスラはロングアイランドで、そして、コロラド・スプリングスで研究所を開き、何らかの電線を使うことなく 1 つの送信器からもう一つまでスカラー波を利用する方法を学んだ。

JP モーガン(その人は新しい電気の企画を所有していた)から、彼は部分的な金融支援を受けた、費用のかからない（何現在『フリーエネルギー』と呼ぶ）真空を利用する純粋なエネルギー（超空間）の利用を人々に許すことによって彼ら自身が利益得る、すべての電気にかかわる仕事を奪われるので、モーガンは興味を持たなかった。
その時、エディソンは、1 平方マイルの街区の顧客に完全に電気を供給するために高さ 10 階建ての施設を必要とした。
1889 年テスラは『輝く Energy』または『Teleforce』と呼ばれたものを、特定していた。
テスラはドイツのハインリッヒ・ヘルツが 1887 年にしたことを複製する実験の間にそれを発見した。そして、電磁波の存在を証明した。
ヘルツの実験をコピーしている間、テスラは直流電流を突然激しく放電する実験プロセスでスカラー・エネルギー（新しい力）を発見した。
1904 年に、彼が電線なしでエネルギーを伝導するためにスカラー波を使う仕事を完了したと、テスラは発表した、しかし、残念なことに、彼がそれに対する支持を得ようとしたとき妨害が起こった。
彼はコロラド・スプリングス研究所の電気代で訴えられた、そして、彼の研究室は壊された。
彼は弁護士からローンの非支払いでも訴えられた、そして、彼の財政的困難は決して無くならなかった。
彼はお金を持っていなかった、そして、たとえ彼が 1943 年に NY ホテルの部屋で文無しで死んだとしても、プレストン・ニコルズの本『プレヤデス星団との遭遇』では通りにいた外観が似ている浮浪者がテスラとして火葬にされ、彼は英国にさらわれテスラは彼の仕事を続けたという証拠がほぼあると主張する。

目次へ戻る

2.

1 世紀前のビーム兵器

たとえテスラが電線のないスカラー・エネルギーに対して米国政府関心を持たせることができなかったとしても、ロシアとドイツは彼らのために働くよう頼んだ、しかし、彼は諦めさせた。
すべてが奪われたというわけではなかった、ちょうど『死ぬ』2 週間、前に、彼は若いアメリカの物理学者に彼のすべての調査資料を与えた。
テスラの発明は危険だった、そして、彼はスカラー波と地震を捏造するためにそれを使う方法を発見しただけでなくて、彼は『死の光線』（粒子ビーム兵器に例えられた）をつくった。

（粒子ビーム兵器は宇宙で 1000 マイルレーザーを発射することができる。）
FBI は 1943 年の彼の死後、テスラの敵の手に渡らないようにする『最高機密』と考える多くの文書の隠蔽に活発に関係した。
(航空機を破壊することができる彼の『死-の光線』兵器と彼の地震を誘発する機械の計画を含む)。
しかし、ドイツはビーム兵器も発明して第 2 次世界大戦の間、彼らも利用した。

低いレンジに定めた、低周波音波を使用して 2 マイルの範囲で厚さ 4 機の甲部隊を粉砕することができる武器が、彼らから回収されている。（William クーパーによると）
ドイツにもスカラー波テクノロジーがあった、そして、彼らには 1939 年にドイツに墜落した UFO から得た反重力テクノロジーが確かにあったという証拠も、ある。
彼らはそこから逆行分析して、1940 年までにドイツの中の 8 つの施設で彼ら自身で UFO の艦隊を建造していた。
ロシアはドイツの科学者に UFO を彼ら自身のために艦隊を建てることを強制した、（1946 年にソビエトが占領したドイツでその人たちは多くのナチの科学者捕虜を得ていた）そしてそれは、彼らは『COSMOSPHERES』と呼れた、そして、結局、彼らは何百機も造った。
ナチ科学者は、ロシアのためにスカラー送信器と粒子ビーム兵器を建造してやった。
テスラもまたしばしば彼が『惑星を離れた』た人々と話すと人々に話したが、多分、これは彼の発明のためのインスピレーションの供給源であった。
地震を引き起こし、目標のビルディングをバラバラににするように振動させるために、テスラは彼のスカラー波を使った。そして目標物の近くにあるのものさえ、破壊された。
彼は大きいテスラコイル送信器で地球の核心を通して、対蹠点に同一の効力をつくり、そしてスカラー波をはねさせ、送信器サイトへと戻ると主張した。
2、3 馬力の全く少量の 10kw の発電機エネルギー供給は、彼の『エネルギー送信器の拡大』装置のコイル回路で、何百万馬力の響きによって、す速く増強された。
人工稲妻のシートは、回路からまたは、球状空中システムから地球の基礎点に、アークを描く。
彼はスカラー『ポテンシャル』を使って特に惑星の対蹠点（対立する側）にある、何マイルにあたるすべてに（人々にさえ）火事と炎を発生させる。（超空間に散らばる粒子が、利用された）
テスラは彼の『死の光線』が数百マイルの範囲も持つと主張した、航空機に対して役に立ち、EM 爆発変速装置によって惑星の大陸間の距離の離れたどこかの都市が完全に荒廃させることができ

ると、彼は述べた。
ジェリーE.スミスによる本『HAARP ― Conspiracy　Ultimate Weapon ― 』によると、現在1000 アンペアで 1000 億ワットの電力レベルのものまでがあって、テスラは、彼の送信器が 1 億ボルトの圧力を発生することができると主張した。
それは電波によって核弾頭のエネルギーを打ち込むことができ、そして、世界の何らかの場所を光速で蒸発させることができた。
1908 年 6 月 30 日のシベリアのツングスカ大きな爆発は地球を通してその対蹠点をたたいた、この送信器のテストによったと、何人かは言う。(不可解な隕石が左側のクレーターを残したとするがまだ説明できていない)
スミスによればテスラの兵器がかつてテストされたという証拠が、ある。
ツングスカの爆発の力は 10-15 メガトン級の TNT 爆弾であったと推定された。Oliver Nichelson はテスラの装置はそれを送達することができると計算した。
トナカイと他の動物の全群に加えて、50 万エーカーの松の森を爆発が平らにして、2 人の命を奪った。
1907 と 1908 年に、テスラはこの機械の破壊的な影響について、彼は言い、書いた、そして 9 年後で再びそれについて書いた、
「避けられない時がきたら、財産と生命を奪うのに［送信器］が用いられるかもしれない」。
.
ラインツングスカは（テスラが彼の送信器を持っていた）ロングアイランドの Shoreham の大円と同じ位置である
テスラが北極圏の氷を壊そうとして目標を越えたかもしれないと思う。

彼の実験とツングスカ爆発が行われたのが同じ日だとしても、テスラは公的にそれを決して認めなかった。
1938 年の報道ではテスラのデス・レイが物理学のまったく新しい原理に基づいて発生することができた直径わずか 100 万分の 100 センチメートルの 5000 万ボルトの光線波の新しい形で、大きな反発する力を使用していると、ハリー・メーソンは言った。

ハリー・メーソンによると、もう一人のオーストラリア人が「デス」「レイ」を発明したのが 1937 年にイングランドのハート部分で見つけられ撮られた。"Death Ray" was found shot through the heart in England in 1937.

テスラは、この装置がどんなエンジンも溶かすことができ、月を狙うならばその表面の地点を白熱にさせると主張した
スカラー波は核の構成要素の外の電子殻に、直接エンジニアリングまたは干渉することをを避けて、原子核に大きな反発する力を発生することができる。

USA での個人的なリサーチは、これらは光速に限られていず、ゼロから無限の何らかの速度で、超空間にある非線形の時間次元で、スカラー波が動くことを、示している。

目次へ

3. テスラのスカラー波技術の継続

これによって発生する大企業のお金の損失のため、フリーエネルギーと反重力テクノロジーの発展を停止させるために、西側の大部分の大学は陰謀のためテスラの仕事を無視したが、東ヨーロッパとロシアの大学は彼らのカリキュラムに、それを含む。
「ソビエトは、若干の超強力兵器を持っている」とフルシチョフ大統領が発表した 1960 年以降これらを利用したロシア人によって米国が 10 年の間ひそかに攻撃されるまで、そのような波を見つけるための器材がなかった
それが、米国がスカラー波が自分達に対して使われていると理解しなかった理由である

1977 年にすべてのアメリカのスペースシャトルと衛星がロシアに打ち落とされた後、米国のナチ科学者の専門知識で開発された燃焼粒子ビームとスカラー・ビーム兵器を超えて公然とコスモス球体飛行体を飛ばしているロシアに、米国は完全に慈悲をもって許していた。
これの後、テスラが 1943 年に死んだと言われた数年後に F.B.I.がすべてのテスラの学術論文を所持していた米国で、ビーム兵器を開発するため、非常に大きな努力がなされたが、1960 年代初期、ロシアが気象工学で米国の軍事目標を攻撃することに反撃するのが最も必要だったとき、調査の多くは公衆には知られなかった。
テスラ技術を使用しているオーストラリア、アラスカ、プエルトリコ、グリーンランドとノルウェーのような場所から、アメリカは彼ら自身の方法でスカラー送信器を使い始めた。
しかも、モントーク Montauk、LI とロスアラモス、NM で粒子ビーム送信器を使った。
テスラ技術のスカラー兵器の 1 つが、最初に置かれた場所は、1968 年に造られたオーストラリア西のエクスマウス米海軍基地と 1969 年には人気のないオーストラリアの奥地で練習することは完全に自由であった。
米国の軍事基地のオーストラリアの中央のパインギャップは、1970 年になって、2 つのスカラー送信器を持っているもう一つのサイトであった。
たとえ原子物理学者 Tom ビアーデン、とスカラーの専門家が言っても、米国は秘密のロシアのスカラーと彼らへの粒子ビーム攻撃に全く気がつかなかった。そして、それは公衆に決して知らせなかった、U.S は彼ら自身のテスラ・テクノロジー兵器を使用しなかったが、、宇宙人の同盟から、彼らはひそかに、数千年もリードする高度技術を手に入れた。
権限の位置で、異なる米国政府省は、互いに争う、異なる派閥によって、別々に研究された。
（Secret Shadow Government 秘密の影の政府 ― リチャード・ボイランによる構造分析 A Structural Analysis ― を参照）
1960 年代の 1 つの派閥は、宇宙のタイムマシンであった、stargates を通して将来戦争で戦うと言うのが空軍の挨拶だった。（StarGate SG1 の連続テレビ番組の場合のように）
『公式』宇宙プログラムは軌道上に衛星を乗せることさえできないとして、彼らがまるで次第に進歩していくようにするために、月にそれと航海について嘘をついた。

陰謀研究者によると、戦争が終わる前に彼らが南極大陸、月と火星にすでにコロニーを作ったように、これらの技術的施設の多くには後で宇宙で何かを実行するのが器用な元ナチ科学者が、いた！

ナチの自分の国家での UFO 工学計画は戦後ドイツで見つかった、そして、彼ら自身で最高のナチ科学的な頭をうばい取ろうとした、奇妙なアメリカ人、英国、フランスとロシアのあせりがあった。
マッテルンとフリードリヒによる本、「『UFO』はナチ Super Weapon か？』、は 1950 年代にドイツで書かれたが、ドイツ人がそれを発表する勇気はないので、1960 年代にカナダで発表された）
多くのフランス人と、英国人と特にロシア人は怒ったがアメリカ人は、多くの『素晴らしい捕獲物』を捕らえて最も賢かった。
75,000以上に分離している部品の表現から成る航空機産業の技術的な専門用語のために特別な辞書がなければならなかったので、アメリカの大きな脳の強盗にとっての敵は、その大変さに、ひるむ心であった。
ドイツの工場のあらゆるナッツとボルト、モデル、図面とプロトタイプを含む全てはアメリカに出荷され、そして他の連合国はより少量の範囲をとった、アメリカは質を得たがロシアは量を取った。

1946 年 10 月 22 日ロシアは（ドイツは 1946 年 10 月にソビエト占領されたので）275,000 人のドイツの科学的な専門家を召喚するために重装備軍隊を行かせ、彼らのベッドから彼らだけでなく妻とすべての子供たちを、ロシアのおよそ 40 の所在地へ連れて行ったと、本は主張する。
ドイツの工場はすべてが分解されて、木枠に詰められて、彼らを待っていた。
彼らは 5 年間の仕事契約にサインすることを強制され、毎日 3 杯のボルシチスープと 1 切れのパンで 24 時間働いた。
同様に戦争の間に、秘密の地下活動の中での南極大陸と南アメリカへの大きな脱出があって、戦争の後残った科学者は、ドイツにほとんどいなかった。（彼らは反重力リサーチその他を持ち出した）
The Russians set them to work,
ロシアは、研究のために、彼らを置いた、

航空機とジェット・エンジニアリングに関する研究 40%

航空機設計に関する研究 31%

ラジオと電話に関する研究 6.5%

パイプラインに関する研究 4.5%
原子力に関する研究 2%テレビジョンの 1.5%

4.

テスラのスカラービームの交差

1920 年代には、テスラはスカラー波から、『テスラ Shields』をつくりこれら航空機と飛行物のシェルが通過できないエネルギーのバリアをつくることによって、国を完全に守ることができると、主張した。
原爆が日本に落とされたあと、ソビエトは米国に追いつくために彼らの『超強力兵器』の探求の間、テスラのすべての仕事にアクセスした。
彼が 1943 年に死んだあと、テスラの論文集は共産主義のユーゴスラビアに出荷された、そこで、ソビエトによってこれらは簡単にアクセスされた。
1914 年までに、ハリー・メーソンによると、テスラは大気の湿度の電気管理を予測し、彼の拡大送信器でどのようにすべきか、そして、どのように太陽の EM 分野をコントロールすべきか、スカラー送信器を用いた地球に対するその影響を修正すべきかを述べた。
またより安全に海と大気を航行できるように、夜から昼へと回転する方法を考えた。
彼は、ある特別な光線が宇宙中至る所で発散し核放射線に相互作用することが崩壊の原因となるので、EM シールドのエンジニアリングで核放射線からの腐敗を止める事が可能と述べた
テスラは、核を刺激し爆発させるか、急速に均等に変化させることができると言った。
およそ 1908 年に、エネルギー損失なしで、干渉計を用いて 2 つのスカラー波ビームを交差させることでスカラー・エネルギーを集中化させることを、テスラは発見した。
干渉計（交差した光線）技術によって、巨大な縦波は、焦束され非常に大きなエネルギーの光を生じるように結合させることができる。
これは、狙いをつけた遠い地点に地震を誘発させるのに用いることができる。
一旦それが地球の中で振動し始めるならば簡単に制御できなくなることができ、実は、振動するために地球がバラバラになる原因となることがありえると、彼は注意した。

位相のテストの間に自分のものはとても強力だとわかった彼は、その振動が近所を破壊しないように大ハンマーでそれを完全に破壊した。

『POTENTIALS ポテンシャル』は超空間で組織されてない粒子で物質界にまだ放出されない純粋なエネルギーである。
これらはスカラー波で異なる周波数をつくることで引き出すことができて、人工的に造ることができる。
干渉（混ざる）地帯より高い干渉が送信器が可能である場合だけ、このエネルギーは出てきて、安定する。
送信器が低いポテンシャルで設定され、送信器が焼き切れないならば、処分されなければならない送信器の後ろに、エネルギー・ボトルは再び現れる。

2 つの電磁（EM）単一周波数スカラー（ゼロベクトルを含むこと）が振動し、そして、人工のポテンシャルが交差するならば、EM エネルギーは間にあるスペースを通って飛ばないが、リアルな観察可能な電磁波動エネルギーは起きる。
従来の科学によると、人工のポテンシャルを使用したとき何らかのフォース・フィールド振幅のない純粋なポテンシャルの見えない波は表面上存在しない、しかし、これはこれらが通常の発見装置で検出不可能な程度であるからである。
それでも、彼らを分極化させるか、超空間の力の河に集中することによって、これらは製造することができる、そしてそれを、結合するとき、2 つは放射して、本当の電磁波をもたらす。
送信器がエネルギー・ビンより上のポテンシャルを使うならば、見つけられるエネルギーはその地帯で出てくるが、それは EXOTHERMIC モードと呼ばれる。
エネルギーを抽出するために、エネルギー・ボトルから送信器に戻るが、エネルギー・ボトルで発生した、ポテンシャルは送信器に戻ったものより下でなければならない。
This is ENDOTHERMIC mode.
これは、ENDOTHERMIC モードである。
2 つの送信器が一定時刻に発生するように仕組んでパルスを送る、そして、2 つのパルスが会うならば、爆発が出現するかまたは遠い干渉域で抽出される。そしてそれは、発熱か吸熱性モードのどちらが使われるかに依っている。
しかし、送信器 transmitters の間にエネルギー流はなく、そして、2 つのビームの交差は超空間に人工のポテンシャルを閉じ込める。
これは、建前としては存在しない。
閉じ込められた人工のポテンシャルだけはあるとしても、送信器と交差している光線の間のエネルギー流は、その間のスペースの中に物理的な EM フォース・フィールドとしては存在しない。
波の伝達が連続的であるならば、エネルギーは連続的に物理的に、光線の間に現れる。
複数の周波数が光線の上に送られるならば、3 次元の球体は弾丸またはシェルとして、その交差点に現れる。

パルス伝達を使用して、このエネルギーの形態は衝動的か爆発的に出現し現れる、しかし、連続モードを用いるならば、熱烈なプラズマの形は連続して目にみえて現れる。
吸熱性モードのインパルスエネルギーが抽出され、冷えた爆発または急激な冷却を引き起こす、そして、これは雷のように聞こえる。
遠くの交差吸熱性モードでエネルギーを抽出するには、送信器で再び現れなければならない。
ソビエトは、一時的に熱を捕えて蓄電池に保存し storing in an accumulator、送信器 transmitters に蓄積する「ダンプ」方法を使用する。
2 番目の発熱モードの榴弾砲はしばしば遠い捨て場としてある、北極海のシベリアの北 Bennett 島にエネルギーを集中させるのに用いられる、そこでの、排気管は米国の気象衛星で絶えず観察されている。

位相のテストの間に自分のものはとても強力だとわかった彼は、その振動が近所を破壊しないように大ハンマーでそれを完全に破壊した。

『POTENTIALS ポテンシャル』は超空間で組織されてない粒子で物質界にまだ放出されない純粋なエネルギーである。
これらはスカラー波で異なる周波数をつくることで引き出すことができて、人工的に造ることができる。
干渉（混ざる）地帯より高い干渉が送信器が可能である場合だけ、このエネルギーは出てきて、安定する。
送信器が低いポテンシャルで設定され、送信器が焼き切れないならば、処分されなければならない送信器の後ろに、エネルギー・ボトルは再び現れる。
2 つの電磁（EM）単一周波数スカラー（ゼロベクトルを含むこと）が振動し、そして、人工のポテンシャルが交差するならば、EM エネルギーは間にあるスペースを通って飛ばないが、リアルな観察可能な電磁波動エネルギーは起きる。
従来の科学によると、人工のポテンシャルを使用したとき何らかのフォース・フィールド振幅のない純粋なポテンシャルの見えない波は表面上存在しない、しかし、これはこれらが通常の発見装置で検出不可能な程度であるからである。
それでも、彼らを分極化させるか、超空間の力の河に集中することによって、これらは製造することができる、そしてそれを、結合するとき、2 つは放射して、本当の電磁波をもたらす。
送信器がエネルギー・ビンより上のポテンシャルを使うならば、見つけられるエネルギーはその地帯で出てくるが、それは EXOTHERMIC モードと呼ばれる。
To extract energy back to the transmitter from the energy bottle, the potentials must be below that produced in an energy bottle.
エネルギーを抽出するために、エネルギー・ボトルから送信器に戻すが、エネルギー・ボトルで発生した、ポテンシャルはエネルギー・ボトルから送信器に戻される数値の下でなければならない。
これは、ENDOTHERMIC モードである。

2 つの送信器が一定時刻に発生するように仕組んでパルスを送る、そして、2 つのパルスが会うならば、爆発が出現するかまたは遠い干渉域で抽出される。そしてそれは、発熱か吸熱性モードのどちらが使われるかに依っている。
しかし、送信器 transmitters の間にエネルギー流はなく、そして、2 つのビームの交差は超空間に人工のポテンシャルを閉じ込める。
これは、建前としては存在しない。
閉じ込められた人工のポテンシャルだけはあるとしても、送信器と交差している光線の間のエネルギー流は、物理的な EM フォース・フィールドとしてはその間のスペースの中に存在しない。
波の伝達が連続的であるならば、エネルギーは連続的に物理的に、光線の間に現れる。
複数の周波数が光線の上に送られるならば、3 次元の球体は弾丸またはシェルとして、その交差点に現れる。

パルス伝達を使用して、このエネルギーの形態は衝動的か爆発的に出現し現れる、しかし、連続モードを用いるならば、熱烈なプラズマの形は連続して目にみえて現れる。
吸熱性モードのインパルスエネルギーが抽出され、冷えた爆発または急激な冷却を引き起こす、そして、これは雷のように聞こえる。

遠くの交差吸熱性モードでエネルギーを抽出するには、送信器に再び現れなければならない。
ソビエトは、一時的に熱を捕えて蓄電池に保存し storing in an accumulator、送信器 transmitters に蓄積する「ダンプ」方法を使用する。
2 番目の発熱モードの榴弾砲はしばしば遠い捨て場としてある、北極海のシベリアの北 Bennett 島にエネルギーを集中させるのに用いられる、そこでの、排気管は米国の気象衛星で絶えず観察されている。
何らかの基準以上の発光と、形、色と強度で、非常に高いエネルギーで包まれるか、その中に含んだ、プラズマ・ビンを干渉によって生産するために、異なる送信器から送られるいくつかのスカラー波が、交差するように設計されるだろう。
この『bottle』は'、惑星のまわりを自由に動く（見えるときもあるし見えないときもある)。
ビンに詰められるエネルギーは、特別なトランスからさらに放出されるかもしれない。
それは大気を通して、、地球へ、または、海に動かすことができる。
地球で「爆発する」ならば、結果は地震である。
建物または都市での、激烈な爆発は、核爆発のような結果になる。
ビアーデンによると、地球自体の融解した核心部分から非常なエネルギーを直接離れて抽出することができる、そして、ソビエトはスカラーEM 武器を使用してわずかな変化でこうすることができた。
スカラー周波数のペアは-12khz 間隔で地球自体に送られ、彼らはそこから巨大な電流を抽出する。
そして、それは軽く撃たれて、信じられないほど強力なスカラー兵器システムに送られる。
多くのナイアガラの滝の力は、各々の武器を動かす。
強力な送信器は、地球の融解した核から、EM エネルギーの半球状のドーム、または非常に大きな球状の球体エネルギーをたたいて抽出することができる。

何らかの望ましい発光、形、色と強度で、非常に高いエネルギーで包まれたか含まれているプラズマ・ビンを干渉によって生産するために、異なる送信器から送られるいくつかのスカラー波は、交差するように設計されるだろう。
この『bottle』は'、惑星のまわりを自由に動く（状態によって見える時と見えない時がある)。
ビン詰めにされたエネルギーは、さらに特別なトランスから放出されるかもしれない。
それは大気を通して、、地球に、または、海に動かすことができる。
地球で「爆発する」ならば、結果は地震である。
建物または都市では、激烈な爆発は、核爆発のような結果になる。
ビアーデンによると、地球自体の融解した核心部分は非常なエネルギーを直接それから離れて抽出することができる、そして、ソビエトはスカラーEM 武器を使用してわずかな変化でこうすることができた。

スカラー周波数のペアは-12khz で地球自体に送られる、そして、彼らは巨大な電流を抽出する。そして、それは信じられないほど強力なスカラー兵器システムから軽く撃たれて、それに送られる。

多くのナイアガラの滝の力は、各々の武器を動かす。
強力な送信器は、地球の融解した核から、EM エネルギーの半球状のドーム、または非常に大きな球状の球体のエネルギーをたたいて抽出することができる。

このシェルは、超空間の真空のディラックの海からディラック物質を取り出すことができる。
テストはスカラー曲射砲サインを伝える（テスラ球体とも呼ばれる）実験は、日本に飛ぶジェット大型旅客機で北太平洋の上空で見られただけでなく、ロシアの配置したアフガニスタンの地上秘密試験監視員とイランのバイロット秘密監視員によっても見られた。

目次へもどる
5.

ロシアの『キツツキ』スカラー波送信器

ビアーデンによると 1976 年 7 月以来ずっと、ロシアのスカラー送信器は、3-30 メガヘルツのバンドで世界の通信システムを妨害する放送を連続的に送った。

木のブロックをつっつくキツツキのような雑音なので、これらは『キツツキ』とあだ名をつけられた。巨大な送信器の電力はそれぞれ異なるが、これらの出力レンジは、ほぼ数百メガワットくらいの高さで、そして、名目上は 100 メガワットと、彼は言う。
いくつかの国は抗議した、しかし、彼らは今日までまだ続けている。
ロシアは、定期的に他の周波数に変えスペクトルを広げた。
これらの Woodpeckers からの地平線レーダービームの上に乗せた 2～3 スカラー波は、USA の上を互いに交差することができる。
USA 全体にある交差点グリッドは、2 つの主な Woodpecker 光線の波形干渉によって作られる。
これらのビーム光線は、惑星の回りにある、地球-電離層の導波路とカーブをたどって流れる。
発射されたミサイルと戦略爆撃機が USA から離昇するのを見つけるために、これは放射される。
しかし、ビアーデンによると、アメリカの広域をおおっているこの大きいロシアのグリッドは、他のより不吉なマインドコントロールの操作をしている。
複数の Woodpecker 周波数の上で 10hz の位相にロックされた ELF 変調信号は、しばしば同時に検波される。
この変調 modulation がシューマン共鳴 Resonance（地球の自然の磁場の周波数）より十分に強いならば、『強制的』に頭に催眠術をかけることができる。
人間の脳波は、Woodpecker 信号と、その複数のコヒーレントな周波数位相に『同期し』てロックされる。
複数のコヒーレントな EM 周波数が心に向けられ流入するると、ビアーデンは書く。
脳の幾何学的に特定の部分を攻撃するのに『フーリエ拡大』と呼ばれるものが用いられるかもしれないと、彼は言う。
ビアーデンは、以下のように書く：
「1950-1952 年に、ソビエトは直接脳と神経系に影響することができる［スカラー］EM 機械を開発した。

これは、リダという機械を含んだ。そして、それは人間、猫などの哺乳類を、緊張型分裂病の状態に誘導することができる。米国の科学者は 1980 年代にこれらの装置の 1 つを得、それが 40MHz のキャリア波を利用して、変わった波形を生じていることを報告する。（周波数が複合化された形態を示していた）
米国科学者がスカラーEM 検出器を所有していないので、彼らにはリダの出力信号のスカラー構
1 人の米国の科学者によると、朝鮮戦争の間に北朝鮮で米国の囚人を洗脳する際に北朝鮮の尋問者によりこの装置は用いられて、非常に有効だった。」
ロシアが 1960 年代初期に最初にスカラー波を使用したように、見える、しかし、US はすぐに追いついた。そして、1968 年にオーストラリアでスカラー送信器を造る。
Back to Contents
目次へ戻る

6.　1930 年代

ビアーデンは、言う。
1939（T.H.）年にソルトレークシティの T.H.モレーはテスラのエーテルの海（超空間の真空で）について学習の後、特殊増幅器を造った。そして、それはエネルギーを真空から抽出した。
それはスカラー干渉計と集積拡大装置として機能した、そして、それは従来の入力なしで 50kw の電力を作り出した。
55 ポンドの増幅器は、ローカル時空をカーブさせた。
それをテストした後に、ソビエトのエージェントは装置を破壊した。それを作るため、モレーは数百数千ドルを費やした。
彼は、財政的にそれを作り直すことが決してできなかった。
モレーとテスラり 2 人は、スカラー電磁気学、電子重力、局地的一般相対性と熱力学の最初のエンジニアで科学者であった。
テスラは、アインシュタインとジョンフォン・ノイマンという名の男性と一緒に、WW2 のために米国海軍のために『レーダー』で『見えない』軍艦を製造する方法を発見するために、テスラは 1930 年代後期に一緒に働いた。
しかし送信器が 1943 年にいわゆる『フィラデルフィア実験 Experiment』で使われたとき、それが時間の支配力を奪われたので、船は超空間にねじられた。

米国科学者がスカラーEM 検出器を所有していないので、彼らにはリダの出力信号のスカラー構成要素の測定値またはその可能性があることについての知識がない。
1 人の米国の科学者によると、装置は朝鮮戦争の間に北朝鮮で米国の囚人を洗脳する際に北朝鮮の尋問者によって用いられ、非常に有効だった。」
ロシアは 1960 年代初期に最初にスカラー波を使用したように、見える、しかし、US はすぐに追いついた。そして、1968 年にオーストラリアでスカラー送信器を造る。
目次へ戻る

6. 1930 年代

ビアーデンは、1939 年について言う。
ソルトレークシティの T.H.モレーはテスラのエーテルの海（超空間の真空で）について学習の後 1939 年に特殊増幅器を造った。そして、それは真空からエネルギーを抽出した。
それはスカラー干渉計と集積拡大装置として機能した、そして、それは従来の入力なしで 50kw の電力を作り出した。
55 ポンドの増幅器は、ローカル時空をカーブさせた。
それをテストした後に、ソビエトのエージェントは装置を破壊した。それを作るため、モレーは数百数千ドルを費やした。
彼は、財政的にそれを作り直すことが決してできなかった。
モレーとテスラり 2 人は、スカラー電磁気学、電子重力、局地的一般相対性と熱力学の最初のエ

ンジニアで科学者であった。
テスラは、アインシュタインとジョンフォン・ノイマンという名の男性と一緒に、WW2 のために米国海軍のために『レーダー』で『見えない』軍艦を製造する方法を発見するために、テスラは 1930 年代後期に一緒に働いた。
しかし送信器が 1943 年にいわゆる『フィラデルフィア実験 Experiment』で使われたとき、それが時間の支配力を奪われたので、船は超空間にねじられた。
その後で LI Montauk モントーク研究所に船の経営者（キャメロン兄弟）がいるとき、フォンノイマン Nuemann は 40 歳若くなり 40 歳年をとって帰った。
そのフィラデルフィア実験の時間に彼らはテレポテーションによって船の発電器を壊すために送られ、そして、再び現れた。
この後、時間をどのように操作するか大きな発見がされそして、これは米国政府によって秘密に開発された。
現在、人々は特別な『タイムトリップ』施設でタイム-トンネルをつくることができる段階へ進歩し、宇宙の中に進み、そして何らかの過去または将来の時間に到達するかもしれない。
Back to Contents
目次への戻る

7. 1940 年代

1945 年、第 2 次世界が終わったとき、テスラが NY ガレージに保管しておいた、テスラの関係する 17 個の論文集の入ったトランクと器材を受けとるようにワシントンに請願した。
1952 年に、これらは共産主義国家だったベオグラードに送られて、ソビエトがすべてのデータを得るために、博物館に入れられた。
日本人がこれらを博物館で研究するので、テスラは彼の論文集に「死の光線」の設計図を残さなかった。
ソビエトは、テスラ博物館自体を建設した。
ロシアはボスニア紛争で米国のヘリコプターを落とすためにテスラ・スカラーテクノロジーを使ってセルビア人を助けたともいわれる。
彼らが 1945 年に日本に原爆を落としたあと、優秀な科学的な才能をロシアが迎えに来た。
ドイツが彼らの管轄下になったとき、彼らはソビエト連邦にドイツのレーダーの科学的チームを連れていった。
（マッテルンとフリードリヒによる本『UFO はナチの秘密兵器か？』はドイツ人は戦争が終わる前に、原爆をすでに発明していたと書いた。）
これらのナチ科学者は、レーダー有効反射断面積とレーダー吸収材料の理論をすでに提出している。
ビアーデンによると、彼らは時間を逆にするレーダーの位相共役波動を発見する寸前だった。そして、それは、スカラー波の技術になった。
ドイツの本『UFO、ナチの秘密兵器か Secret Weapon？』によれば、ドイツ人は反重力テクノロジーをうまく開発した、そしてこれを 6 ヵ月早くやることに成功していたならば、おそらく勝っ

ていただろう
WW2 戦争の直後にこの本はライターによって書かれ、ナチ反重力エンジニアが残したすべての技術的な計画図面はライターによって取得された。

正確に彼らが戦争の間にドイツの国の中の施設で造った同じ UFO は戦争の後、空ですぐに見られた。そして、戦争が終わる前に、彼らがこれらをもって行った南極基地から飛んだ。
同盟国によってドイツで見つかった建造計画は、彼らが何をしたかを示していた。
マッテルンとフリードリヒは数えきれないドイツの発明について書いた、そして、戦争の後彼らがすべての発明を再生産しないならばアメリカ人は戦争裁判をほのめかし、するための誘因として小量の配給食糧が与えられた。
ナチ科学者はネバダ州 Area 51 で働く用意をし、アメリカの自身の UFO を造り、米国宇宙プログラムをつくった。
彼らは、ソビエトを 20 世紀だけでなく 21 世紀の宇宙時代までレベルアップしてきた。
アメリカ・ユダヤ人の共産主義者スパイは、ロシアが原子爆弾を生産するのを助けた。
ドイツの科学者は、ミグ戦闘機（韓国とベトナムでアメリカ人を殺すのに用いられた）を潜水艦、魚雷、タンク、軍のロケットと『宇宙船-球体飛行機』（ロシアの反重力 UFO）とともに生産した。
ドイツ人がグループで抗議したとき、彼らはチャーチルとルーズベルトによって英語で書かれた、ロシアがドイツの科学者を利用することが明確に正当に見えるようにする、文書を与えたのを見せられた。
（戦争の後ドイツの強制収容所でルーズベルトが病気と飢餓がおよそ 1 万 5000 人のドイツ人の死亡の原因となったことを心に留めておくべきだ)。
5 年が経ったあと、捕らえられたナチが死ななかったとしても、多くの人々は終身の強制収容所生活を強要された。
彼らはもう 2-3 年間隔離され、彼らは取り組んできたプロジェクトを忘れた。そして、何らかの鉛筆またはレポートも与えられなかったと、マッテルンとフリードリヒは書いた。

南極大陸のナチス？

しかし、ドイツの最初の専門的 UFO 科学者全員は、戦争の後、見つからなかった。
マッテルンとフリードリヒによると、ドイツは 1940 年に彼ら自身の UFO を持った、しかし、彼らは彼らとの戦いに勝つために十分な量の必要なレアメタルを持っていなかった。
ドイツ人は、何人のユダヤ人を殺したかという厳密な記録をドイツに残した。
1945 年に同盟国は、犠牲者と死を考慮し戦犯を捜し出す中で、250,000 人がすべて異なる原因で姿を消したとわかった。
マッテルンと Friedich によると、行方不明の数は一定のままで減ることは無く、南極大陸と潜水艦と身の UFO を使って南アメリカへ、引っ越したと、彼らは主張する。
ナチスは才能あるユダヤ人の偽造者を利用して完全な米ドルと英国の 5 ポンド紙幣を創り、銀行もその違いを言うことができなかった。

World Monetary Fund 世界金融基金は、本当に存在してはならない 150 億ドルを見つけた。

墜落したドイツの飛行機に完備した印刷版とイギリスの５ポンド紙幣 300,000 枚が見つかったあと、英国は５ポンド紙幣を回収しなければならなかった！
地図のために慎重に 11,000 枚の写真を撮った後、ナチスは 1937/38 年に南極大陸にひそかにコロニーを作った。
同盟国がそれを発見したあと、彼らは南極大陸に 1 946 年 12 月 2 日に 4,000 人以上の米海軍部隊を派遣した。
バード提督がそこに着地したとき、測定装置は全く混乱して動いた、そして、方位計と高度計はとても不安定に動いた。そして、バードに侵入を中止するようにさせた、
しかし、彼はなんとかナチの基地を見つけることができた。

その後ライターの W.A. Harbinson ハービンソンは「地下のナチスは誰も近づけない超強力兵器を持っていた」と言った。
他の情報源はドイツ語を話すアーリア民族の様な宇宙人が UFO でバードの飛行機の下で重力を除去しバードの飛行機がなんとか着陸できるように援助したと、言った。
彼は明らかに宇宙人と話した。そして、その人は Aryanni と呼ばれる人種の出身だと言った。
他の情報源は変節したプレアデスとナチスが地球に降りて同盟していると、言う。
南極大陸の宇宙人は、ポールシフトがおこすことができたか？

『要塞国家オーストラリア』と呼ばれる記事で、現在アメリカが南極の磁場を変えるために HAARP 送信器を宇宙人と共に使い、すでに北極に向かって磁場が動くようにしたと言われる。
多くの心霊研究家は Pleiadians プレアデス星人に明らかに『チャネリング』し地球が 4 次元の周波数に『上昇していてアセンド』彼らはそれを『助けている』と言った。
セムジャーゼ Semjase という名のプレヤデス星団からの女性にコンタクトしたスイスのビリーマイヤーMeier は、ゲルマン民族がプレアデス系 Pleiadians の出だとその宇宙人の女性は言ったと主張する。
他の情報源は、ヒトラーに Pleiadians が地球にもう一度住むと話したと言う。
明らかに、ヒトラーは血液タイプ A の人々を救おうとしていた。そして、北欧のタイプのプレアデス星人もその血液型をもつ。
何人かはバードが南極大陸でアメリカは戦線布告し爆弾を落としたと言う。しかし、48 時間以内にバードの 4 機の飛行機は奪われ、彼らはもとに戻った。
多分南極大陸に、1940/41 から現在まで宇宙人と彼らとの同盟があると言われており、彼らがそこにいた時から、ナチスは秘密兵器を開発していたのだろうか？

ブラントンの本『オメガ・ファイルズ』でバード提督の甥であるハーレー・バード博士は南極大陸のナチのコロニーが、見つかったと言い、バード提督はナチスと協同するために迎えられたと主張し、グレイの宇宙人、ドラコニアン（爬虫類）と反乱したプレアデス人 Pleiadians と**サスクワッチ** sasquatch 巨人さえも訪れていると言う。

UFO はあらゆる面で秘密に開発されている

しかし、第 3 次世界大戦が起きたら宇宙船とビーム兵器で戦われると言ってもさしつかえなく、今は、他の多くの国も彼ら自身の UFO を開発した。そして、テスラの発明と宇宙人との同盟と、宇宙人の墜落した円盤から得たテクノロジーと、あらゆる兵器を完備している。
これは、聖書に書かれた『天空の戦争』なのか？
ロシアは、現在南極大陸で、何百ものロシア製宇宙船コスモスフェアを持つ、そして、ブラントンによると、現在明らかに未知の UFO とおよそ 200 万人の多くのナチがいる。
多分、ロシアのロシア製宇宙船コスモスフェアは、アメリカと戦うだけでなく南極大陸でナチスと争っているーまた、そのアメリカは元ナチ科学者に戦争の後エリア 51 で反重力航空機を作製させた。
ナチスは第 2 次世界大戦の間、南アメリカに植民地を建設した。
アルゼンチンとチリ、ならびに、南極大陸は、多数のドイツの住民と多くのナチスのファシスト・リーダーが逃げた場所であったとマッテルンとフリードリヒは言う。
（英国）UFO マガジンによると、2003 年 8 月に、アルゼンチンで奇妙な地下信号、不自然な放射性サイン、マイクロ波、地球の深いところで発せられている電気と振動のレベルが、見つけられた。
相当の深さの地下から機械を操作し、交互電波で振動を送って来たと、これらは断定された。
地域は変な速く動く光りを持っている。そして、それは地面に飛び込む。
それは、ナチスか宇宙人のものなのか？

マッテルンとフリードリヒはレインホルト Schmidt と呼ばれるドイツ人のアメリカの男性に言及した、Schmidt は多くの機会に、ドイツ人兵士のようなドイツ語を話す仲間と、空飛ぶ円盤で極地に連れ去られたと、主張する。
しかし、仲間のリーダーは、もう一つの惑星の出身であると主張した。
彼は、ドイツ語を話す土星人 Saturnians とも話した。
プレストン・ニコルズはプレアデス人は、戦争の間にオランドのフィールドで時々、ヒトラーとドイツ人と談話していたし、更に宇宙人は彼ヒトラーに会うために着地し船から降りてきたと主張する。
Pleiadians が彼らドイツ人と同じ北欧の人種であるため、1939 年戦争の間に故意にドイツに宇宙船を墜落させ、彼らにテクノロジーを与えるきっかけを作ったと他の人は言う。

ARE NAZIS STILL BEING A THREAT TO THE WORLD?

まだナチスは、世界に対する脅威か？

また（プレストン・ニコルズとピーター・ムーンによる『モントークシリーズ』の本で)、宇宙人とナチスによって運営された、Montauk 研究所（LI）のタイムトラベル実験で、彼らは時間を戻すテクノロジーを使って送ったと言われている。
Andy Pero は THE　UNIVERSAL SEDUCTION のシリーズの Vol 1 でイブ Lorgen によるイン

タビューで、
Montauk に取り組んでいたナチスによって、時間を過去に戻してイングランドとドイツに、アメリカが戦争に勝つのを可能にするために 1940 年代のパーツの図面と通信装置と兵器を送達したと、主張する。
第 2 次世界大戦を、異なるタイムラインの視点で誰が本当に勝ったか解くことは、我々の現在の現実では複雑なパズルであった。
25 年先を走るもう一つのタイムラインから来た『Phate 教授』の主張ではドイツは戦争に勝った、または停戦協定を呼びかけたと、彼は主張したのをアメリカ人は、聞いたが、米国政府の支配者は、彼らが望んだように、彼の魂を使用して 1 つのタイムラインからもう一つのタイムラインへと彼を変える作戦を採用した。

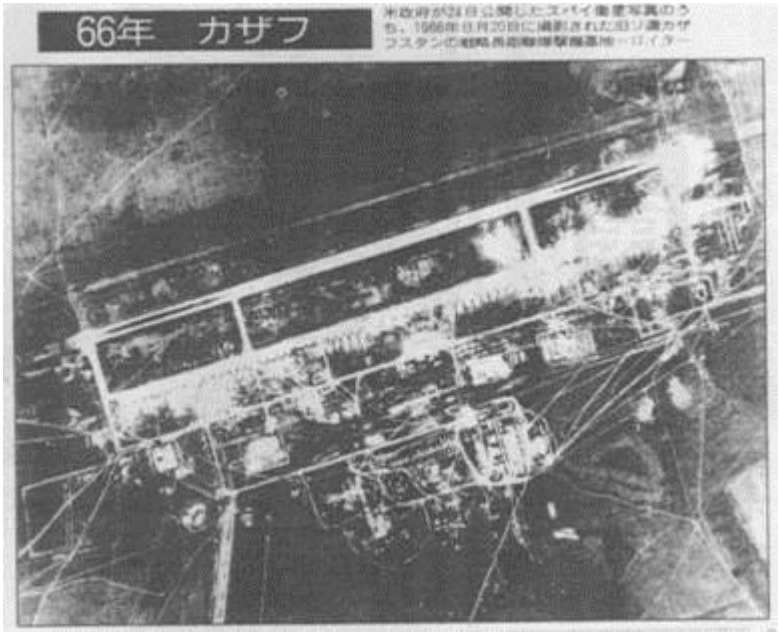
これと並行して、もう一つの全く新しい現実があると彼は言う、そこでは、単なるヒッピーのリバイバルではなく、非常に異なる現実があるということである。
明らかに、世界のグリッドラインの多くは Montauk で収束するが、Montauk の人々と彼らの宇宙人の仲間とはそこから異なるスケジュールを操っている、。
各々のスケジュール/グリッドラインは、テクノロジーによって異なる『現実』を含めて明らかに操ることができる。
プレストントン・ニコルズによれば、我々の現在の『現実』は 435MHz で動く、そして、人間の意識へのウインドウとなる周波数は 400-450MHz で動く。
400-450Mhz に合わせるテクノロジーによって一連の（心から放射される）『思案の形態』を送って、新しい『現実』は濫造される。
ニコルズはすべての送信器があった Montauk の地点の外側を彼は訪問したが、その日彼はそこにあった現実が、ポンと鳴って次の瞬間なくなったのを見たと主張した。
そこで平行してある現実にコンピュータで無作為に、変えられた。
彼は、たとえ彼の知る限りではそこに訪れていなかったとしても、彼は、その場所でもう一つのタイムラインを発見し数年間電子技術者として、働いていた。
宇宙人のコンピュータと魔法のプロセスを使用して、『kundali のスピリッチャルな火』は通りにいる犠牲者の脊骨から吸い上げられ操作によって見分けのつかないほど曲げられ、動かされ時間はループし、ねじられる。
彼らは（タイムラインを操作しリファレンスをつけるために）、1920 年代テスラによって造られた『0 Time Generator』を使った。
人はいつでも宇宙の時間トンネルを通して数千年もの過去また未来の何らかの地点に、行かせられる。
時間コーディネートはコンピュータで計算して Zero Time にあるべき時間のリファレンスをつけられ、人は正しいタイムラインに戻ることができる、さもなければ、彼らは異なる『現実』で道に迷うかもしれない。
ライタ・ブラントンによれば、
Montauk、Li とダルシー、NM とパインギャップ（中部オーストラリアの）米軍地下施設では数千年も先の未来のテクノロジーを使用して、『複数の現実』が異なるタイムラインで並行して動い

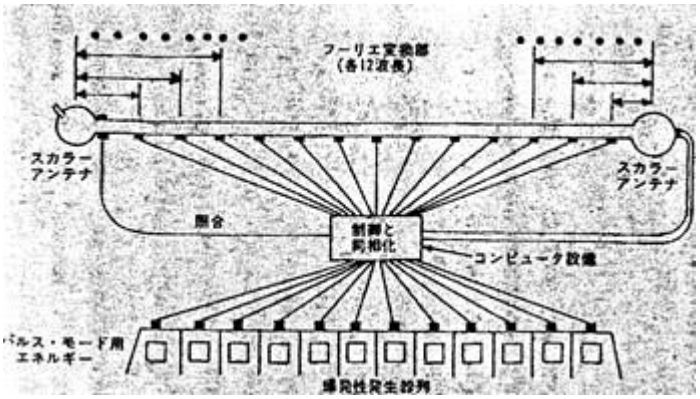
ていると言われている、

たとえ目標が速く動いていて少し波は奪われて配送されても、伝導された TR 信号エネルギーのほぼ全てが遠くの目標に到着するので、その目標で直接反転するとき、これは強力な兵器となる。交差したビーム法を用いてエネルギーの幾何学的な形を作成することができ、そして、キャリアがこれらの時間を逆にした波を距離で分散させずに、大きな距離を何百と数千マイルにも均一に送ることができる。そして、始めに送られる増幅の量によってだけ制限される。
1960 年以前に、ソビエトがモスクワからスカラーEM 波と位相共役エネルギーを米国大使館に放出したと、ビアーデンは言う。そして、それは、弱いマイクロ波キャリア波ビームで調整される。これらによってつくられる病気と血液は、指標で見方が変わる。and blood changes in the staff.
何があったか理解するのに米国の研究は長い間がかかった、そして米国大使館スタッフに向けられたこれらの光線に、US が時間反転波技術とスカラー電磁気学に対する防衛手段の対策をとってなかったことで、ソビエトは米国の不備を知っていた。

目次へ

9.

9. 



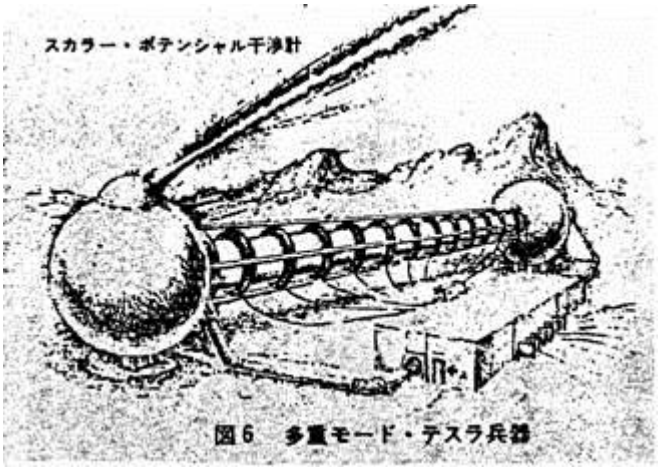


図6　多重モード・テスラ兵器

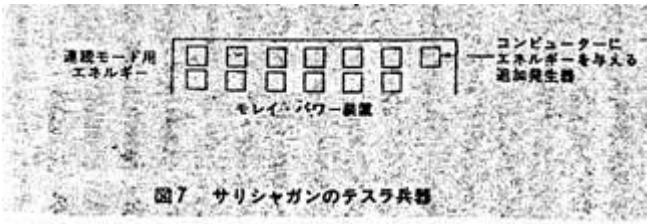
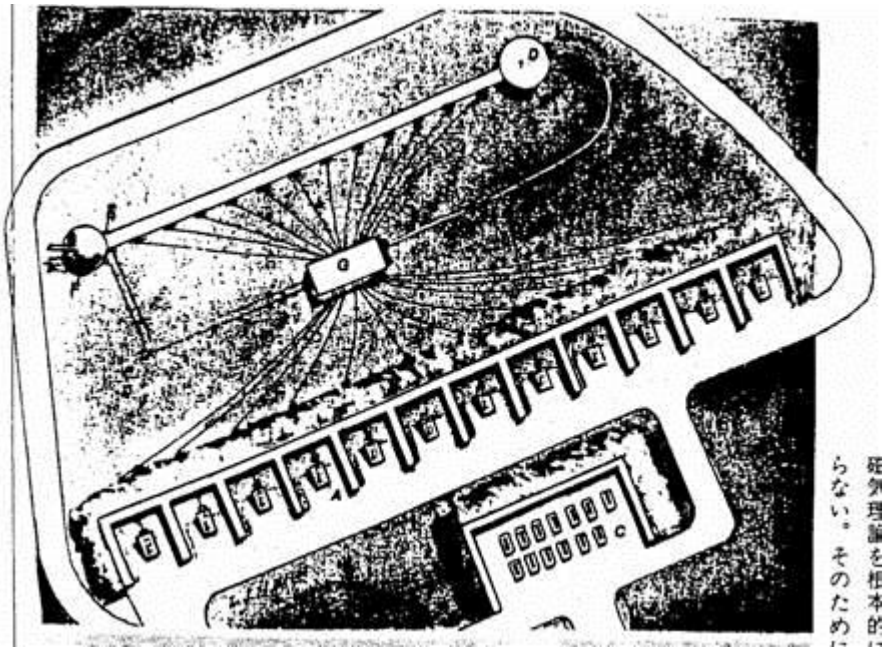


図7　サリシャガンのテスラ兵器



研究理論を根本的に
らない。そのために

朝日新聞 (夕刊) 1995年(平成7年)2月25日

66年 カザフ

米政府が24日公開したスパイ衛星写真のうち、1966年9月20日に撮影されたロシア東カザフスタンの戦略兵器関連施設=ロイター

スパイ衛星写真 米が初めて公開

60年～72年の全88万6000枚

リークが問題

仏内相「米が漏らした」

米「まったくでたらめ」

スパイ事件で舌戦

THE 1960s

THE 1960 年代

ニキータ・ソビエト首相フルシチョフが 1960 年 1 月に、新しい素晴らしい兵器の発展を発表した、そして（Tom ビアーデンによると）、1963 年 4 月 10 日に、ソビエトは、U.S.S. アメリカ海軍艦船を破壊するために、それを使った。
スレッシャー原子力潜水艦が米国の東海岸を離れたその翌日、
プエルトリコのトレンチ（プエルトリコの 100 マイルの北）の海の中にいるところに向けて巨大な水中爆発を引き起こすために、異なるモードでそれを使った。
それ以来、ロシアは彼らのスカラー・ビーム兵器をテストし、いろいろな航空機に干渉し撃墜した。
不思議なことにベトナム戦争で F-111 は撃墜されたが、すべての電気系統が破壊されたのがわかった。
ソ連特別なチームは飛行機の電気系統を破壊するために、北ベトナムの若干の SA-2 ミサイルシステム・レーダーをスカラーEM モードに変えたと、考えられた。（それは簡単にできる）
テスラは彼の吸熱性モードのスカラー干渉計をリモートビューイング・レーダーとして使ったと、ビアーデンは書く。
2 つの光線を交差させて、少しのエネルギーを抽出するだけでこれは達成することができる。そして、それは対象を適切なスクリーンに表示され読み出すことができる。
これは新技術で、全くすばらしいものとなる、そして、これが発展することで、これは側方監視捕捉レーダーと同じくらいになるかもしれないと、ビアーデンは言う。
スカラー形ビームは地球または海を透過することができ、X線の 1 つの形態として使うことが出来る、そして、地下の建物を見ることも可能になる。
ジャングルの下の目標が、見える場合もある。
水中潜水艦を見つけられることができ、追跡することができる。
潜水艦を破壊するために、発熱モードの 2 つの光線を発し激烈な電磁パルスで潜水艦に交差させ強力なスカラー・パルスにするとそれはすぐにすべてを破壊する。
Soviet が 1963 年に USS Thresher スレッシャー（おながざめ）潜水艦を破壊したとき、それは近くの USS Skylark の上にもスカラー干渉のあとを残した。そして、それは「スプラッター放散地帯」であった。

スカイラークの電気系統は現実的に使用不能になった。そして、そのため 1 時間半にわたり、アメリカ海軍のスレッシャー潜水艦のまわりに緊急メッセージを送るのは止められた。
その後スカイラークの電気系統はどういうわけか運用を再開した。そして、それは海中で使われた発熱スカラー干渉計の明確な影響のしるしである。
アメリカ人はロシアのスカラー兵器と施設について知ったにちがいないそして、同じものを研究開発するため、うるさい人の目から離れて、彼ら自身の施設を構築した。
オーストラリアの人気のない奥地が良好な実験環境であった。

Harry Mason による、記事『輝く空』で 1968 年に西オーストラリア NW 岬の US 海軍の Exmouth の施設の後ろに、
主な工事請負人が去ったとき、Long Island と Colorado コロラドで造ったテスラのエネルギー送信器の複製に、スカラー技術が組み込まれた。
おそらくマイクロ波と同じくらいの非常に高い電圧と周波数を取り扱うので、木で建設された。
そして、それは放電からコイルに誘発された静電波を含む。
これは、VLF と ELF を取り扱うために必要ではない。
（1966-1967 年のオーストラリアの首相ハロルド Holt は、アメリカのオーストラリアでの活動について彼を深く怒らせたことを議会で問題にすると友人と家族に逼迫して話したその翌日、泳いでいる間に姿を消した。

彼は決して、二度と見ることはなかった。）
1970 年の直前にグレートサンディー砂漠（WA）でテストを行うのに間に合うように、エクスマウス Exmouth は 1969 年に活発になった、そこの、グリッド線上の 10km 間隔で地震は誘発された。
1965 年グレートサンディー砂漠は米国政府によって高度航空写真によって地図にされた。
そして 1966 年にそこの石油探査の許可証を持っていたフランスの石油会社 Aquitane は
大気磁気、基本的重力、地震の起きやすい断層線そして、VLF/ELF EM の基本的研究が実行された
それらは、石油探査のためには奇妙だった
しかし、オーストラリア政府は探査費用の半分を支払った。

公衆は英国のブルーストリーク・ミサイルとヨーロッパの第 4 ステージのロケット衛星をテストするため立入禁止であると、話された。
彼らは 1970/71 年で 1 つのロケットを軌道に入れた、そして、プロジェクトはおわった。
目次へ戻る
10.

1970 年代

1970 年に、Aquitane はフィールド・ワークをせず、地震もそこで起こらなかったが、1970 年 3 月に、一連の集中したマグニチュード 3.0-3.5 地震がグレートサンディー砂漠で始まった。
中心点に『狙いをつけた』2 本のクロスする線の 10 平方キロの領域に沿って、これらの地震は起きた。
不思議なことに 2 人の若い牛飼いはグレートサンディー砂漠の『地震試験範囲』の地震のグリッドラインの上で、数年前、死んだ。
オーストラリアの中心点のまわりの他の地域は、一群の地震を示した。
メーソンによると、
Great Sandy 砂漠の地震は、アメリカ海軍 Exmouth 送信器（Tx）サイトの東で正確に起こされ、

そしてカナダ国境の Maine の近くの Cutler の Exmouth の姉妹サイトから、磁気北極サークルルートへ悪意に満ちて sinisterly 動く。

（これは、完全にブルース・キャシーの本 Harmonic 33 で書かれたように磁気北極をもう一つの地点に動かす米国/宇宙人プログラムの一部だったのか？
この邪悪な科学的な同盟は、現在の世界の自然な格子線をこれらの点からおよそ 10-12 度明らかに離して、再配置し我々の現実を通して時間を変える方法だと言われている
地球の磁場は、新しい磁極にあわせたように一列に並ぶ。
グリッド線を再配置するこのフィールド・ワークが 1945 年に宇宙人によって始まったと、キャシーは主張する。
この主張に関する他の宇宙人のチャネルリング情報は、この新しいグリッド線再活性化作業は 2012 年には終えたという）
1973-1994 年の間にグレートサンディー砂漠の方へ、いくつかの火の玉がエクスマウスから発射しているのが見られたと、メーソンは言う。そして、莫大なパワーの EM 兵器をテストし、配備するためにそれは利用されたように見える。
彼は、交差したスカラー・ビームエネルギーの弾丸は、Exmouth から発砲することができ、そして米国の Cutler Tx 基地と世界的な他の地域の送信器から、一定の方向に向けられ、爆発的に開始されると言う。

エクスマウスの北から、地理的極地の大きな円形のルートは、これらの米軍施設を通り抜ける：
香港;
カトラー、メイン Maine（VLF Tx として知られている）；
Arecibo、プエルトリコ Puerto Rico（VLF Tx として知られている）；
Tucuman、アルゼンチン Argentina（VLF Tx として知られている）；
米国の南極基地の Palmer と Amunsden-Scott からエクスマウス Tx へ戻る。
テスラは 1908 年に、マイクロ秒の非常な EM エネルギー・パルスで何らかの地球の対蹠的な点に当てることができると、主張した。そして、海軍の我々が現在核爆発と呼ぶ Dreadnought 横型戦艦と等価な物をつくった。
プエルトリコはエクスマウスの正確な対蹠地点に近い、そして、両方のサイトは一般に UFO 目撃が多い、（特に Arecibo）しかし、これらも両方のサイトでテスラ球体を試験している場合があると、メーソンは言う。
中部オーストラリアのパインギャップ米国の軍事基地は、1970 年に、作動し始めた。
本「Anti-Gravity と World Grid」によると、そこにある施設は 2 つのスカラー波送信器を設置している。
発熱モードでは、新生のエネルギーが赤外線のスペクトル帯にあるならば見ることができる、たとえば可視スペクトルの EM エネルギーが発生するならば、可視的な閃光が起こる。
これらの 1 つは、1979 年にアフリカの南海岸沖の南大西洋の上の「核閃光」として、ヴェーラ衛星によって感知された。
2 番目の赤外線の核閃光は、ヴェーラ衛星によって 1980 年に感知された。

ビアーデンはこれがたぶんロシアのものと思っている、しかし、イスラエルが南アフリカの数地点で秘密の兵器をテストしていたことをも知られている、そして、彼らもスカラー兵器、粒子ビーム兵器、レッド・マーキュリー兵器 red mercury weapons と量子ポテンシャル兵器を持っている。
ビアーデンによると、南アフリカもスカラー兵器を持っている。
イスラエルがスカラー兵器をどのように得たかは知られていない、しかし、多くのロシア国民はイスラエルに移住した。
また、最初にフランスは持っていたスカラー兵器をイスラエル核兵器技術に与えた。
本「UFO ナチ Secret Weapon」によると、アメリカのユダヤ人も、ロシアに原子爆弾の技術を与えた？
1976 年に、英国のヨーロッパエアウェイの作業員は、リトアニアの上で飛行機の下の雲に強烈に輝く、静止した光のボールがテスラ球（スカラー）のサインを示しているのを見た。
パイロットは、ロシアからそれを無視して、この空域を出るように言われた。
1978 年アメリカでベル島のニューファンドランドで、空から大地へ異常にまっすぐな（ギザギザでない）『雷』の光は、45 度の角度で落ち、大きい爆音と住宅破損その他の原因となった。
深さ 2 フィートと広さ 3 フィートの 2 つのカップ形の穴は、この大きな衝撃を示していた。

近くの建物につながる電線は、蒸発した。
住まいのすべての配線は、吹き飛ばされた。
また、近くのテレビは爆発した。
大気の状況は、稲妻を流す状態ではなかった。
米国のヴェーラ衛星は、出来事に気付いた。
事件は米国の、ロスアラモス兵器研究所の 2 人の代表者によって、速やかに調査された。
1977 年 11 月 21 日に米国太平洋岸沖で、巨大な縦波の雲の徴候が観察されたと、ビアーデンは主張する。そして、アラスカからチリまでそれは伸びていた。
この海の上の雲堤の広がりは、アラスカからチリまでの距離の全体に達していた。
そこで何者かによって、雲の塊りにまっすぐな黒い線が現れ、終端まで移動していた。
それは雲にできた、幅 1 マイルと長さ 200 マイルの穴であった。
よく説明が出来なかったが、テスラ・スカラー球体と火の玉は中心の下にまっすぐな黒い線を持っていた。
1977/78 年に U.S の東海岸沖で、若干高高度に上昇する閃光が、起きた。
ビアーデンによると、これらの爆発は米国の上に確立された干渉グリッドの交差したウッドベッカースカラー形ビーム Woodpecker による調整を意味した、そして、大砲タイプの高い破裂の重合はスカラーEM 榴弾砲を意味した。
グリッドの他の多数の調整と榴弾砲の重合は、米国の上で起こった。
グリッドは、スペースを通過する何でも見つけることができる。

スカラー干渉グリッド波を作成するために、片道で一つの装置から送られると、もう一つの送信器からそれを横切って送られる、これは彼らのコンピュータ・スクリーンの上にグリッドとして

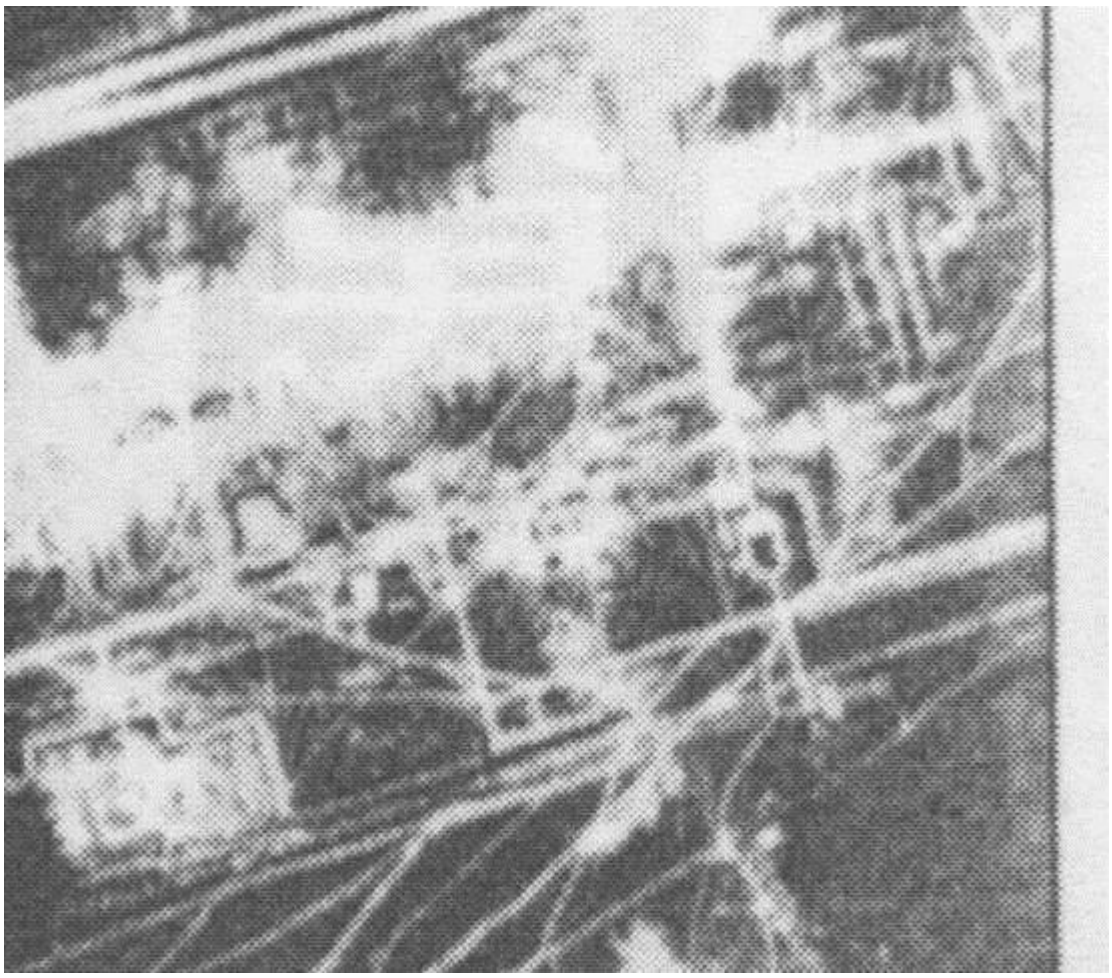
現れる。
これは大気で何かが燃焼されるならば、人は、見ることが可能である、また、そこの、gridsquares の中の 1 つの物を目標とすることができ、スカラー波を片道で送り、そして、もう一つのものからのものと目標で交差させる。

爆発は、スクリーンに現れる。
1984 年に、US の干渉グリッドの重大な調整が、起こった。
ロサンゼルスとサンディエゴの上に、地震の騒動なしに建物と窓が震え、爆発、轟音、空振 airquakes のような異常空中現象が、起こった。
予想外の異常な天気が現れた。そして、12 月 12 日の夜、強風は地域を吹き荒れた。そして、広範囲にわたる損害と停電を生じた。
ダイナミックな Woodpeckers によって進められ新しく作られた現象は他の地域で重大な吹雪をもたらすために行われた。そして、トゥーソンさえ 20 インチの積雪『ダンプ』を受け取った。

同じようにするためにいろいろな国にある複数のスカラー送信器から出して、他の国の上の干渉するグリッドをアメリカも現在持っている。
もう一人のインサイダーによってロシアに彼らのロシア製宇宙船コスモスフェアが粒子燃焼ビーム兵器であると米国中で大きく主張された。

さらにその後でビアーデンによると、1979/80 でヴェーラ衛星によって見られた『核閃光』はパルス状の発熱モードの交差したスカラー形ビームのテストでありえ、それは急激な電磁爆発で、それゆえ、『閃光』を生じる。そして、核爆発の最初の電磁閃光と非常に類似している。

彼は以下のように述べる：
「真空の空間でさえ、真空のローカル時空自体の中の『ディラックの海』から爆発的噴火となるエネルギーとして、物質がふくれ上がることが期待されるかもしれない。[超空間エネルギーとしてプラズマを生産する)。
この突然のプラズマエネルギーの迅速な吸収と再放射はほとんど核爆発のときのように、同じように『ダブルピーク』特性が現れることが期待されるかもしれない。
これは、閃光によって表れる特性であった。
なお、第 2 の閃光に見られるものは、ほぼ間違いなく従来の核爆発を除外すれば、明らかに主に赤外線の『爆発』だった。
しかし、それは、ポンプでくまれた EM 波送信器を使った時間を逆にされたパルス状の巨大な遠距離ホログラフィー以外のものを考えることはできない。」



1979 年アフガニスタンで、ニック・ダウニーは、ソビエト連邦の奥地で、
少なくとも 1 方向にエネルギーを誘導する装置またはスカラー干渉計として機能することが可能な粒子ビーム装置のある Saryshagan ミサイル試験場の方向へ向かう、巨大な、拡大している光の球を見た。
ダウニーはこの月の間に多数の事件が起こったと、言う。
また他方、ビアーデンはこのヴェーラが、見たこれらの米国に敵対的でないもう一つの国の兵器と関係するイベントを衛星中継する場合があったと言える、希薄な証拠が存在すると主張した。

世界のグリットラインを活性化するためにテスラのテクノロジーが使われた

より秘密の解釈では、未知の領域でテスラのハイパー次元物理学が展開するのに用いられたように見える。
1995 年のリチャード・ホーグランドはラジオのインタビューで、1970 年代に中央アメリカの米国軍隊にいたセキュリティ部門の友人について、話した。
彼は軍の大きな部隊のエンジニア要員であった。そして、駐留地に着陸した。
彼らは大きな携帯用の発電機を輸送した。そして、それは 1 つの都市を照明する電力を発電することができた。
大量の銅ケーブルがあった、そして、この器材は緯度 19.5 度に近い中央のジャングルの中の古代の Meso アメリカのサイトでも設置された。

発電機は、幾何学的な六角形のパターンの励磁されたコイルとは別に置かれた。
ホーグランドは我々が知ったことからそれで地球のハイパー次元グリッドの有効性を徹底調査しようとしていたにちがいないと、主張する。
グリッドのハイパー次元の結節点で、人は響きを変えることで対象に、地質学的地球変化を引き起こすことができる。
物理現実は間違いなく周波数で振動しており、いろいろな物理学者は時間が流れる方法を変える送信器、つまり我々の時間フレームを振動させる方法を、使用している。
ホーグランドは言う、我々は操作された常識のシステムに操られている。そして、それは限界点にきている。
誰かは我々が間違いのない方法で考えることを望み、ものごとはこの認識に続いて動くが、彼はこれでは真実に到達しないと主張する。
（アメリカとロシアはスカラー波を使って、我々が現在持っているものと異なる周波数で現実の特定の種類のレベルで振動するよう設計し、我々の脳波の発現を変える。そして、それはスカラー波で動く。
脳のある部分は、どの周波数によって活動するといったいろいろな周波数があり、それは我々が生命に認めるのと同じ方法で動く
、ホーグランドはハイパー空間物理学では当然不変な定数が変化すると言う、これが起こっているようである。

核定数はグリッドに位置するのと位置していないのでは変化し、グリッドに位置する原子力発電所では彼らがそうでなければならないより『熱く』なる、それは、多くの事故がおきることを意味するかもしれない。

同様に Bruce Cathie によると、これは、世界グリッドラインの交点でグリッド-結節点または渦がパワーアップすることに関係する（彼は多数の本でそれを証明した)、
宇宙人の援助でハイパー次元物理学者は、南北極に接続している現在のものと並んで世界グリッドラインの新しい設定を作製するために、秘密工作中である、

UFO 目撃例とともに、多様な奇妙な現象が、グリッドラインに沿って起こるが、主なグリッドラインは 30 海里間隔である。
規則的なサイクルと世界バイオリズムを用いて、自然の時間トンネルが開放され重力に影響を及ぼす特定の惑星配置のとき、超空間に宇宙の他の場所へいく方法があるようである

人は、このために超空間で動く非常に微細な電磁波を使用することが必要とされる。
スカラーより微細な波がこのために使われているとしても、それは知られていない
しかし、1950 年代以来ずっと脳波放射物がスカラー波を使って支配されることができ、
そこで、最近数十年の間ここで使われているのがいわゆる『合成テレパシー』で、

それは、本当の考えと同じ種類の微細な波の中で生み出される人工の考えである。

ロシアは、最初にこれを開発した。
原子力発電所および電気パワーステーションは、故意にデリケートなグリッドラインの地点に造る、
（ハイパー次元物理学の）ハーモニックス和声学を使用して、重力によって置かれたグリッドラインの中を流れるタイムラインによって保持されている、『現実を操る』。
ブルース・キャシーはチェルノブイリ事故が起こったとき、核爆弾を爆発させるために、隠れた科学者が使用する太陽と惑星の角度を計算し超空間に影響を及ぼすため、最高に調節する手法の、公式でみると、他の核爆発と同じようにすべての日時が天文学的に正しい位置にあったと主張した。

隠されたグリッドラインの結節点の新しい設定が準備されている。
ロシアは、バックミンスター・フラーの世界グリッドラインシステムに関する特許を買った。
1950 年代からロシアには宇宙人の同盟があったことが知られている。
彼らが超空間グリッド結節点を操るためにアメリカ人とともに働くかどうかは知られていない、しかし、オンラインでの情報ではロシアがアフガニスタンに使用中の大きな自然な timeportal を持ち、英国/米同盟がロシアから取得しようとして、アフガニスタンでの戦争を意図したことになっている。
調査は古い Atlantean グリッドラインを 1 つの派閥が運営しようとしていることを示す。そして、それはモントーク、アトランティスとシドニアに関連した古い『現実』をつくっている。
Pleiadians プレディアス人を含むいろいろな宇宙人の派閥が Montauk モントークを運営し確かにタイムラインを起動させようとしているように、見える、そこでは、多くのタイムラインが交差していると言われている。
そこでは主要な現実のエンジニアリング作業が非常に長い間、されてきた。そして舞台裏で政府と軍人とが、超空間に入って、交互に宇宙に進んでいった。
ブルース・キャシーは、英国のスパイが 15 次元に入ることができると彼に話したと言った。
知られていないがテスラはフィラデルフィア実験に関係した後、時間が人為的に操作できることが判明したので、死を装って英国に行き、（あるいは、行った後に死んだとし）、英国の物理学者と彼の研究を続けるため潤沢な資金を得たのでないかと疑うこともできる。
ハリーOssoff の書いた本「Anti-Gravity と World Grid」ではフィラデルフィアのグリッドラインに軍艦エルドリッジがいたが、その一方で、船は超空間へ 4 時間消え、その消えた間、一時的に別のノーフォーク（ヴァージニア）のグリッドラインに現れた。
このグリッドラインは、ブルース・キャシーによって計算され決定されている。
Ossoff は尋ねた：
「船に乗っている強力なフィールド発生器から正確な周波数で送られる磁場のエネルギーで、こういうことが可能なのか？」
フィラデルフィア実験が 1943 年に起こった時から、超空間がどのように機能するか、多くのこ

とが学ばれた。
宇宙人のやったようにロシア製宇宙船コスモスフェアによって彼らがグリッドラインを操作し、グリッドラインで非物質化しまた現実化することができる方法を、ロシアが学んだことは、あり得るか？
3 人のロシア人は、1960 年代にグリッドを『発見した』。
しかし 1950 年代にはフランスのエメ・ミシェルとニュージーランドのブルース・キャシーは両方とも、UFO が同じ緯度または同じ経度の場所に出現するように見えると、気がついた。
彼ら両者ともに、同じ頃に、一組のグリッドラインを設定する計画を立てた。
これを、公衆に知らせたときキャシーを CIA と MI-6 がただちに訪ねてきた。
彼がどこで、情報を得たか、そして、彼に CIA が静かに黙らせるように何百万ドルも提供したか知りたくて、至る所で、尾行した。
しかし N.Z.政府は彼を保護し、彼が起こっていることを個人的に研究し、データを N.Z.政府に伝え、そして誰にでも話すのをやめさせるために、彼を 1 人にさせた。
グリッドラインを理解するために彼の特別なハーモニック方程式を使用し、物理学者によってそれを調整して超空間の入口を開く

世界の中で一番上の大学のハイパー次元についての最高の物理学者によってグリッドラインを開ける隠れた計画があるように見える
そして、この特別のグリッドの結節点の領域で、核爆弾を落とした。
フランスは、単独で 1975～1988 年の間に南太平洋でムルロワ環礁で地下核実験を 1,112 回行ったのはなぜか人は疑問に思う。

彼らは、その後もっと落した。
リチャード・ホーグランドは、フランスがハイパー次元物理学を本当に使っていると主張する。
彼らは、自身のために時間-の入口でもつくったのだろうか？
フランスがこの時間-の入口の探求のためにそれほど多くの回数落としたのか、もう少し注意が必要である！

目次へもどる

11.1980 年代

The 1980s was a danger for the planet's safety, because the Russians got really dangerous in their experiments and especially with testing their new weapons on US, one with multiple scalar transmitters turned on at once, endangering the survival of the entire planet.
1980 年代はロシアが特に彼らの新しい兵器を US で実験で、テストすることで惑星の安全が本当にすぐに危険になった、
複数のスカラー送信器を使うので危険であった、そして、惑星の生き残りを完全に危険にさらし

た。

ビアーデンによると、(1985 年 5 月 1 日のメーデーに) ソビエトは (最近選ばれたリーダーである) ゴルバチョフのために、『十分』大規模なスカラーEM 兵器システムの戦略的行使と通信の戦略的行使を行った。
この突然の権力行使の間、Frank Golden は、ソビエトが強力な 54 個のスカラーEM 周波数の電子的重力を地球に送り、そして 54 個の周波数すべてで地球を共鳴させることによって巨大な 27 の『電力栓』(12kHz で 2 つに互いに分離され 27 組のペアにされている)
を活動させ確立したことを発見した。
それぞれ 27 の電力で地球自体の融解した核を叩くことで非常なエネルギーを抽出しそれを回転させることで普通の電力にした
ソビエト連邦が所持する 4〜6 台の最大のスカラーEM 榴弾砲を動かすことで、各々の大きなタップ叩き出しはできる。
ビアーデンは以下のように述べる：
「明らかに 100 以上の巨大なスカラーEM 兵器と多数の兵士と送信装置コントロールは動かされそれは数日間続いた。
たくさんの各々の 2 つの対送信器のポテンシャルを交替させることによって、莫大な総計の電気エネルギーは地球自体から抽出されることができる。そして、それは地球の融解した核心の『巨大な陰極』から供給される。
スカラーEM 司令部と、大きいスケールの (水中の潜水艦との高データ速度通信を含む)、制御システムの活性化であった。
電力タップは切ったり入れたり変化するので、試験は何日かにわたった、そして司令と、コントロールシステムも切られたり入れられたりした
米国の独立した諜報研究室も、科学者もスカラーEM 放射線のために検出器を持っていなかったので、これを見つけなかった、そして、公式には人は行使が決して起こったと思ってない。」とビアーデンは言う
幸運にも、それは数日間先進の、フランク・ゴールデンの専用検出システムによってと、ビアーデンによって数時間モニターされた。
この行使は「1985 年までに、ブレジネフのソビエトは、世界のどこでも、願うことをする用意ができる」という 1972 年の声明が達成されたことを、意味していた。

NASA シャトルの打ち上げはこれらの超強力兵器の発射位相である ABM モードのテストであったと、ビアーデンは主張する、ABM モードは、発射されたミサイルを離陸の直後に見つけることができ、破壊することができる。
最初は、初期のシャトル軌道で電磁パルス (EMP) を破裂させたが発見を避けるために故意に適時遅れさせた。

しかし『空からの火 Fire From The Sky」の著者は、
ロシアは、スペースのかなり高い所でこれらのシャトルの撃墜のために彼らのコスモスフェアー

を使った、
まったくもう一つの予備シャトルの見せかけの着陸とともに、最初のシャトル打ち上げのすべては、彼らの粒子ビーム兵器によって撃ち倒された、と主張する

1881 年～1963 年、本名は加藤ユキ、モルガンお雪

これは、後でカバーされる。
1985 年 11 月 26 日のシャトル打ち上げの間に、シャトルの離陸の 12 分後に発射サイトの上に非常に大きい『ソニックブーム』または爆発が起こったと、Tom ビアーデンは思っている。（シャトルは離陸したときすでに、射程にあった）、
少なくとも前の 2 台の打ち上げ用シャトルラウンチャーが、偽の目標として使われ、車の相当後ろの発射サイトに爆風が起こった。
『空からの火』はロシアのロシア製宇宙船コスモスフェアはシャトルを打ち落としたと主張するただ一人のインサイダーであったのはビアデンだが、この話題について書いたときビアーデンにはこれらの宇宙船についてわからなかった、彼はこれらの兆候で、使われた兵器のタイプを知っただけだった。
ロシアがシャトルを打ち落とす方法には、わずかに異なる 2 種類のバージョンがあるが、ロシアは初期のシャトルを破壊しなかったとビアーデンは言われたが、彼はロシアの天気工学による周辺の雲の写真のサインから見て、ロシアが、1986 年にチャレンジャーを打ち落としたことを 100%証明できた。
　また 1980 年代中頃、アメリカと日本によって、西オーストラリアの奥地を使って他のスカラー兵器が、テストされていた。
ハリー・メーソンによれば彼の『輝く空 Skies』の記事で、西オーストラリアで 1980-1985 年の間と、その後の 1993 年に、火の玉ではない、信じられない大きさの光の現象について、書いた。
一般の見解では、夜間の空で見られる上層大気の 5-10 秒の青い白色光の大規模な爆発とする。
通常、これらのエネルギー放出と同じようなものは見られない、しかし、1990 年代の西オーストラリアでスカラー兵器のテストの間に火の玉が飛んだあとに、見られた爆発と似ている。
西オーストラリアで、1997 年までに記録されたおよそ 100 の出来事が、ある。
他の唯一類似した放出はテスラによる 1900 年の高周波、高電圧のスカラー波実験をしていたころのものである、そこで、電気をアーチ形にした大きい青い白い流れの爆風は床材から出た。そして、強烈な、激烈な、青白い輝きを発生させた。そして、電気雑音を発する。そして、それは何マイル離れていても数分聞き取れた。
閃光と光線は 1985 年以前に USA の東海岸で見られた、そして、ビアーデンによると、これらは

一つ以上の発熱モードのスカラー榴弾砲から出たものであった。
1985 年のケープカナヴェラルでの 3 つのスペースシャトル打ち上げで、大きな爆風が、現れた。

このためにロシアの Woodpecker ＯＴＨレーダーを使い、地球-電離層を越え地球の曲率にしたがった導波路で上昇するシャトルに合わして方向をあわせ、タイミングと、相をあわせた。

実際のシャトルに対して検査したものを受けとったビアーデンによると、シャトルは破壊されていなかった。

しかし提出された、「空からの火」のファイルは、ロシアがシャトルを破壊したと言う。
1985 年 4 月 18 日 2 つのタイタン・ミサイルは、US 偵察衛星発射直後に唯一見えるシャトルの発射オプションを吹き飛ばしたとビアーデンは言う。

同じ日、重大な Woodpecker 活動が起こった。
1985 年 11 月 26 日、NASA スペースシャトルの発射サイトの上に、離陸の 12 分後に、非常に大きい「ソニックブーム」または爆発が見えた。
爆風のあと、発射サイトの上にある、前からある 2 機のスペースシャトルがソビエトの目標として使われた、しかし、シャトルは破壊されなかったと、ビアーデンは主張する。
ニューファンドランド（カナダ）で離陸しているアメリカの空軍 DC-8 の乗客に、ソビエトはとても残忍だった。
1985 年 12 月 12 日に、彼らは故意にそれを破壊し乗っていた 258 人を殺した。
離陸した直後、航空機は力を奪われて、尾翼を地面に激突させた。
落下の前と事故の前に飛行機から炎または煙は出なかった、それでも、それは黄色またはオレンジ色のハローが不思議なほど輝くのが見られた。そして、それは『連続 EM 出現』モードのスカラーEM 榴弾砲を使用したサインである。そしてベトナムで、いくつかの F-111 が撃墜された方法と類似していた。
DC-8 の電気系統は、EM エネルギーと、航空機が占領する時空の各々の増大を通してつくられる雑音を詰めこんだ EM によって、干渉された。
エンジン機能の紛失は、エンジンに多分局所的
な吸熱性光線（エネルギーを抽出する）によっただろう。
交差した、熱烈な光線が雲の中でできたことが見られた、そして、それからその輝きから、ボールまたは光線は進んで、航空機をたたく。

爆発する前に、飛行機の内側のプラスチックへの即座の火災から出たシアン化物の吸入で誰もが毒ガスで死亡した。
通常のパワーの大きな轟きよりはむしろそのエンジンは、無理に動くための痛みを伴うようなうなりをともなっていた。
遠くのロシアの操作者/射撃手が、エネルギー干渉とエネルギー抽出に関する 2 つのモードを用いて確かに滑走路の下から航空機を追跡していたと、ビアーデンは主張する。

胴体に異常な穴と、スカラー波の衝撃の特性が、あった。
これらの兵器による実際の破壊写真の 1 つをボブ・グラッドウィンは 1985 年 11 月の後のシャトル打ち上げで撮った、そして、およそ 2 週後の 12 月 12 日に、同じまたは類似した兵器はニューファンドランドで米国アロウ DC-8 を攻撃した。
1985 年 4 月に、バンデンバーグ空軍基地から発射されたタイタン 34-D ミサイルは、発射の 5 秒後に爆発した。
ビデオカメラはタイタンを破壊したスカラーEM 榴弾砲の上で、爆発より上で使われ、独立して動いていたソビエト無線位置標識を不注意に捕えた。
浮いて動いていた光のボールは、これとは完全に分離して動いていた。
間違いなくこのミサイルもソビエトが破壊したことの明確なサインであった。
この前の 1985 年 8 月のタイタン 34-D ミサイル発射も、離陸の直後に爆発した。
1986 年 5 月 3 日に、NASA デルタ・ロケットを載せたサテライト衛星も、落とされた。
それは、発射の間にその異常な『司令部-タイプ』の主要エンジンのシャットダウンで、正しい方向から外れて向きを変え始めた。
フィルムでは、ロケットとは別の異常な光がロケットの下から上がって、ロケットが破壊される数秒前に、それをたたいた。
ビアーデンはこの光がプラスされることでおこる『内部コマンドの変動』は、EM パルスを使ったこと強く示し、超地平線指向・モードで、位相共役ミラーが付属するポンプモードの干渉計で時間を逆にした、と言う。
1986 年 1 月 1 日、フランク・ゴールデンは物理的に特別な技術による点検で、ソビエトは Woodpecker 信号に、金属を和らげるスカラーEM 信号がつけ加えて、後でスペースシャトルに使ったことを見つけた。
1986 年の春に、異常に強力なソビエト気象工学は、
アメリカ南東部で急激なかんばつの原因を米国の上に起こした、
このかんばつは、ビアーデンの同僚によって、とても強力なスカラーEM 装置でジェット気流を切り換えることで阻止した。

この独特の「阻止ブロッキング」のサインは、2 つの膨大な流動で起こり
大気圏で生まれた、2 つの隣接した巨大な「ホール」として明らかに見られアメリカの中央と東部に雲の量が渦巻いた
ビアーデンの同僚は病気になって、阻止ブロッキングを止めなければならなかった、そして、ただちに、ジェット気流は戻ってきた

そして、南東はふたたびかんばつに戻った。
男が回復したとき、彼は阻止ブロッキングを再開して、もう一度元の季節的な降雨が再開した。
1986 年後半のソビエト気象兵器に関連してカリフォルニア上空の重大な巨大な放射雲のパターンは注目された。

1986 年 11 月 10 日に、異常な、巨大な「火の玉」/大気現象は、西から東への 4 つの州の上を移動するのが見られ、EM グリッドの非常に急激な変化を伴った。
ビアーデンは、いわゆる『大気現象』はアメリカの上の Woodpecker グリッドからの大きなスカラー・テスラ球の場合があったと言う
殺人モードで複数の球形の乗り物をシミュレーションしスカラー榴弾砲を動かし大きな『電磁ミサイル』を使用してテストすることに関連する。
大きな、速く動く光りが見られた、そして、雑音が聞こえた。
記録破りの異常に寒い冬の嵐が、南で起こっていた。
並行して、南東で熱波の記録が、破られていた。
フランク・ゴールデンは、ソビエト・スカラーEM グリッドで地球の電子重力フィールドが最もダイナミックな動揺と重大な活動をするのを、直接測定によって確かめた。
（その活動の約半分は、ソビエトが地震を誘発したときであった。）
また、ビアーデンは 1986 年 11 月ハンツヴィルで、巨大な放射が、夕暮れに西から東へ動き、もう一つ別のものを見たと言う。
また「大気現象」（テスラ球 Globe）事件の後、ロサンゼルスからアリゾナへの通路に沿った対空管制レーダーは、まもなく、「停電」となって苦しんだ。

5
北アメリカで広域にわたるレーダー故障とテレビ干渉の原因は、Woodpecker グリッドがその原因であることを、これは意味していると言える。
1986 年 1 月 28 日はスペースシャトル CHALLENGER の打ち上げが始まった日だが、鳥達にとって、空は苦痛だったので、鳥は決して飛ばなかった。
ブースターの炎の内側と外側の金属は、災害の原因となる金属の軟化パターンのため、ゆっくりと、着実に劣化した。
気象工学は、相当な風と乱気流をうみだした。
ビアーデンは、ソビエトが慎重に『激しいホットスポット』を加えたかもしれないと思っている、そして、NASA 科学者はこの微妙な攻撃がその事故の原因となったと思っている。
ソビエトも、彼らがその場面の近くにいなかったことを示唆するために、その地域からトロール船と船を引っ込めた。

数日後に、散発的に激しい『局地的高周波信号』はグリッドにまだ存在した。そして、バーミンガム（1986 年 2 月 1～4 日のアラバマ）で相当な数の鳥が空から落ちて死ぬ原因となった。

スペースシャトル CHALLENGER の発射の直前に、ソビエトが US で気象操作をしたと、ビアーデンは主張する。そして US 中央部の南方への、ジェット気流を曲げ、再びフロリダの突出地域を渡ってから右に曲げる。
この明確なサインは、数人の人々によって写真に撮られた。
CHALLENGER の崩壊の夕方に、スカラーEM 兵器を管理する KGB はこの崩壊を祝った。
多数の指標によってそれを落とした人々が、ロシアであることをビアーデンは明確にする。そして、それはソビエト・グリッド工学と関連する天気工学専門家が雲パターンを示したものを含む。
CHALLENGER の撃墜の後からそれほど日がたたないで、五大湖に近い 10 州に関係して、（異常な『平板な地震』'flat earthquake'）が、米国で起こった。
これは、多分、ビアーデンが言うシャトルを破壊した後の、同じソビエト・スカラーEM システムの兵器のさらなるテスト方法であっただろう。
多くの証明は、ここで見つかる。
12/11/86 のシカゴ・トリビューンは、以下のことを報告した：
「最高 4 ノットの速度でノルウェーの海岸に移動する、巨大な渦が、見つけられ（幅約ほぼ 60 マイル）水夫に対する深刻な脅威をもたらしている。
これらの巨大な渦は明らかな中心を持っておらず、見つけるのが難しい。」
1980 年以前に、巨大な渦は聞いたことがないと、新聞は報じた。（ソ連のこの時期の後に米国は ELF 波動を作り始めた）
巨大な定在波 standing waves は「ソリトン」と呼ばれて、ジブラルタル海峡の近くでみられた。
　1985 年 4/30/のニューヨーク・タイムズは、海の表面には現れない大きな広い範囲に存在する、内部の大きな波の発見を報告した。
「劇的な内部の波の連続は、1984 年 10 月にスペースシャトルからとられたジブラルタル海峡の写真で確認された」。
その新聞に掲載された地図は、巨大な定在波ライン standing wave line が海峡の西側にあることを、示す。
ビアーデンはヤクザを含め悪者がスカラー干渉計を所有していることは 100%確実て間違いないと言う、日本のマフィアとオウム真理教日本人カルトはこれらスカラー干渉計をロシア KGB から賃借して所有し 1989 年の末からこれらを使用し管理してきた、そして、米国と多分他の場所の気候を操作する。（これらの地域周辺の巨大な可動領域を熱と寒冷に動かす）
彼らは、地震を発生させることができる。
考えられる候補のこれらのリストとして最近の二、三の火山噴火を加えることができると、彼は言う。
およそほぼ 10 億ドルの賃貸料でこれらを貸り続けるために、彼らは時々航空機または何らかの劇的なことをすることを許可しなければならないと、ビアーデンは言う。
ベアデンはヤクザマフィアは日本にスカラー・干渉計技術も内密に導入していて、日本にある自身の非常に隠された施設で現在中小の、携帯用の兵器も生産していると、言う。
ヤクザは U.S の主要な敵で、その時が来たら、いつでも、最終的な米国の破壊のために直接大きな戦略的な攻撃に参加することを意図している。
第二次世界大戦の敗北、それは、武士道では、恥である、そして、原子爆弾を日本に落とした米

国に彼らは復讐を誓ったように見えると、ビアーデンは言う。

まだヤクザやくざは、修正された古い武士道倫理によって、動く。

ビアーデンはまた、003 年 2 月 1 日にヤクザの持つスカラー干渉計から故意に COLUMBIA シャトルに発射された、スカラー・エネルギーで少し爆発が起こり、その崩壊と破局的故障が始ったこともあり得ると、言う。

目次に戻る

12. 1990 年代

1997 年のイラン地震はリヒタースケールで 7.4 であった、そして、6.0 の高さの余震が期待された、しかし、余震がなかった。
それは、異常な深さで起きた。
ビアーデンは、この下記のように書いた：
1992 年 4 月にロザリー・バーテルが Defense News に書いたことによれば、1991 年に起きた砂漠の嵐で、米国が電磁パルス兵器（EMP）を配備し、核爆弾からの電気の閃光を模倣した砂漠の嵐を発生させたと、書いた。

1 秒に 20 億から 25 億ワット・パルスで 20 兆ワットを生じることができるヘルメス II 電子ビーム発振器の施設のために、サンディア国立研究所は、カークランド空軍基地（1989）に 23,000 平方メートルの研究所を建設した。

このＸ線位置決め装置 simulator は、Particle Beam Fusion Accelerator と呼ばれられる。
金属プレートに当たる電子の流れは、パルス状のＸ線またはガンマ線を生じることができる。

ヘルメス II は、1974 年以降電子ビームを発生させた。
これらの詳細情報はまばらなものしかないが、これらの装置は湾岸戦争の間、明らかにテストされた。
1993 年に、US はテスラ技術に基づいてアラスカでバーナード Eastlund と呼ばれる物理学者によって設計されたいわゆるハイ Hight Frequency Active Auroral Reseach Program（HAARP）を造り始めた。
主要契約者は ARCO Power Technologies 社であった、そして、彼らは、低出力高周波

（2.8-10.0MHz）プロトタイプ送信器配列をテストし発展させせすることになっていた。
その時までエネルギーの光を電離層まで送り目標に向けて跳ね返すことができるので、それは電離層ヒーターとも呼ばれていた。
それは、巡航ミサイルと航空機を見つけて撃つといわれていた。
このように光線は、周波数に応じて、電離層の下では直径何マイルかの領域に影響する。そして、電離層の上では数十マイルにも拡大する。
これは、USA の上を覆うロシアの Woodpeck グリッドのように物体が宇宙に上昇してくるのを見つけるスカラー波グリッドを作ることができる。
空軍と海軍は、それを所有した。
これは間違いなく、致死的なロシアの送信器への反撃のためであった。
1900 年代初期のニコラ・テスラの仕事がこの研究の基礎を作ったと、HAARP の特許は言う。
Eastlund の特許は様々な周波数の電磁波で惑星にある精巧な誘導装置と広域の電磁放射のスプレーを中断させることができる
コントロールの変化で、これらの土地、海と大気での通信を遮断することが可能になると、言う。
12 の特許は HAARP プロジェクトの基礎を作り、現在、他の何千のものもレイセオン Raytheon の名で所持され秘密にされている。
かなりの地理的面積にパルス状の電波放射を出して人間の精神的なプロセスを操作して、阻害させる、システムが開発されたことを、米空軍文書は明らかにした。
これは、HAARP より致命的な装置であったのか？
ニック・ベギーチ博士は、他に APTI 特許を 11 見つけた。

彼らは、「放射線のない原子爆弾の大きさの爆発」を生むパワー-ビーミング・システムの方法とＯＴＨレーダー(地平線の向こうを探知するレーダー)、核弾頭を運ぶミサイル、
以前に作られた熱核兵器とその他に、「スター・ウォーズ」の偽装で出される電磁パルスの検出システムについて言った。

この特許の一群は、HAARP 兵器システムの基礎をなした。
すでに、最も強力なプレ HAARP ELF 電離層加熱システムまたは Woodpeckers は、ソビエト連邦の Sura、Goriky、Monchegorsk とドゥシャンベ（タジキスタンの）サイトで造られた。
アメリカのプレ HAARP 電離層加熱システムは、
Tromso（ノルウェー）；
プエルトリコの Arecibo、；
アラスカのフェアバンクスの近く；
そしてコロラドの、プラットヴィル Platteville にある。
ロシアの Woodpecker Tesla Magnifying Transmitters とこれらのシステムは、世界的な気象パターンの大変動を 1976 年の始めから生み出した。しかも、1980 年代と 1990 年代を通してより多く ELF 送信器が造られた。
拡大送信器と呼ばれる無線技術のようなテスラ装置は、ロシアと米国により用いられ 1970 年代中頃から現在まで続く気象戦争を引き起こした。

旧ソ連の中で夜空の異常な白光と怪しい稲妻とプラズマ・タイプの効果は、Woodpecker 送信器サイトの近くで見られた。
1977 年に、ワシントン・ポストはそれを報告した、
「変な、星のような光のボールはソビエト・カレリアで Petrozavodsk の上で見られた。そして、それは光の輝きを延ばしてクラゲのようになり、光の筋をシャワーのように浴びせた。」
米国の ELF HAARP 送信器は ionosphere-を振動させる(zapping)ことによって、類似したプラズマ効果はつくられた。
1993 年の中西部の大きな洪水の
頂点にあるアラスカ大学の Geophysical 研究所は（(HAARP の研究に関係する）「中西部の夏の洪水の間に上層大気に暗雲の頂点から光の不可解なきらめきが．でるのを発見した。」
ロシアの Woodpecker ELF 波と米国の GWEN Tower VLF 波の組合せによって発生した長期にわたる気象ブロッキング・システムの巨大な定在波 giant standing-wave,がその領域に当たられていたとき、これが起こった。
新聞は、これらの不可解な閃光が「クラゲに似ている」と報じた。
最高に達する所ー一般的に高さ 40 マイルーで、これらは最も輝くそこで、頂点にあるクラゲの体から触手が下っているのをみる。」
US とソビエトが短い間スカラー波で地球を通過させる送信をし始めた後､地球の内蔵発電機は影響を受けた。
1984 年に、地球は順次、突然の予想外の減速を経験したと報じられた。
それは当然減少していたが、米国海軍研究所 Observatory と、ジェット Propulsion Lab の科学者は「地球が片寄った洗濯機のように回り、ぐらつき)」が増大したのを見つけた。
（1988 年 7/15/の『ウォールストリート・ジャーナル』)。
90 年 7 月の OMNI Magazine は、1990 年 1 月 24 日から 2 月 3 日までの間、地球の回転が再び突然、予想外に減速したと、報告した。
米国海軍 Observatory の科学者は、減速がいつもより、突然であると報告した。
/91 年/9 月 8 日のニューヨーク・タイムズは、これらの予想外の突然の変化の原因を記載した：
「金属コアの熱い流体の循環が回転変化に影響するが地球物理学者はその摂動の原因を疑っている...
下にある金属核と上に横たわっている水圏と大気の波の大きな流体流動の結果と、…大地の中の対流の力と地球表面近くの外皮のプレートの動きで不規則な回転変化はおこる。」
全て地球による ELF 振動によって影響される。
「大西洋は、前より荒れるようになっている」と、海洋の波を測っている科学者は、報告した。
1960 年代から 1970 年代後半の間に測定値はそれを示したが、ソビエトと米国の ELF 送信が始まった後、その変化が測定された。
「波は、より大きくなったようだった。」
88 年、4/19 日/のニューヨーク・タイムズは北東の大西洋の波が「1960 年代から 20 パーセント以上を増大した」ことを、英国の科学者が発見したと、報じた。
海洋研究者は、これが「重大な気候的な変化現象」であると考える。
HAARP と Woodpecker 送信器は地球上のどこにでも衛星によって送達できることは言うまでも

なく、レーザーと粒子線を通して核タイプ・エネルギー爆発を引き起こす能力があることは、気がかりである。
スカラービームは目標とされるどこにでも正に地球と海を通過することができることを心に留めておくべきである。
HAARP 送信器が造られるまで、
発見されることなく 10 年以上の間、北アメリカの天気を大きくコントロールすることが、ソビエトはできた。
しかし、米国海軍は、オーストラリアに 1960 年代後半に彼らのスカラー兵器サイトを持った。
明らかに Pine Gap 基地の 5 マイル下にある、それは同様にテスラ技術を使用し、他のアラスカとアメリカの類似した送信器が HAARP にリンクしている。
アメリカとイスラエルは、HAARP または発射の数秒後にミサイルを破壊するスカラー兵器技術を使用する対ミサイル守備陣を配備したと言われている。

スカラー波は光速を越えて通過し、最初に必要なすべては、何らかのミサイルが敵地域を発射されたのを見つける交差したスカラー形ビーム・グリッドである。
特許 4,873,928 で HAARP は放射線なしに原子爆弾の大きさの爆発を、引き起こすことができると言う。
これは、もちろん核ミサイルを時代遅れにする。
しかし、人はいつ彼らが来るかわかるために、敵地域とスパイ衛星のためにより多くのグリッドを備えていなければならない、そして、光線が交差するまで、スカラー・エネルギーは検出不可能で、その時、次の戦争は突然発生するかもしれない。
米国またはロシアは兵士ならびにすべての他の国（スカラー兵器を持っている）に対して、光速で『原子爆弾の大きさの爆発』を送達することができる。
それは片方では、光速での移動は不変であることを主張する武器から軍隊を保護する。
その移動が艦隊の移動と同じ速度である『テスラ Dome』は艦隊より上を保護し、常に彼らの上で空中停止しているので、軍隊は、スカラー波からの悪影響に苦しまないようにされる。

HAARP 送信器は、テスラ・ドームによる保護の基本になるができる。
目次に戻る

13. 現在

ソビエトは非線形数学のエンジニアリングと科学を始まりから先導する、そして、西側はコンピュータの、ソフトウェアと小型化で先導していた。
しかし現在、日本人は、コンピュータ化された構成要素を兵器に加えるために、ロシアと力を合わせた。
ビアーデンはソビエトのスカラー兵器は迅速かつ効率よく米国の住民と、その軍隊を滅ぼすこと

ができると、言う。
これらのスカラー送信器は、EM モードへの切替によって、従来のレーダーになることもできる。
ロシアは今も、『旧式の飛行機』に乗った『古い』送信器と、『古い』レーダーで誘導する発射基地と「時代遅れの」防空ミサイル・サイトを使っている。
ビルモルガンによれば：
「地震の原因を作るそれをセットできたなら一組の建物のうちの 1 つをそれで破壊したと言うべきだ。

WTC ツインタワーの倒壊が実は世界史上最初の大きなスカラー攻撃であったかもしれない。
あるモードのスカラー波の干渉は、金属を溶けやすくし、柔らかくなる原因となりえる。
もしそうならば、これらに衝突した飛行機は、単にテスラ榴弾砲が使われた事実を隠すための、架空の原因であった。
これらの装置 1 台による災害で、地上のすべての生活を一掃することができる。
地球と太陽とのスカラー波のバランスを方向によって損なうことで、大規模な太陽の騒乱と嵐の原因を生むことができる。そして、完全に地球を干上がらせる。」
ビアーデンはロシアがスカラー波動砲の射撃演習のためにシャトルを使っていたと言う、しかし、彼は COLUMBIA 攻撃のことを無名の当事者によるものかもしれないと言って、日本のヤクザマフィアが 1989 年以降スカラー兵器をロシアから賃借し、それ以来 US を目標としていたとほのめかす。
ロシアかもう一人の当事者が、2003 年 2 月 1 日に COLUMBIA を落としたのか？
CHALLENGER が 1986 年 1 月 28 日に落とされたとき、アメリカはスカラー・干渉計の使用法に十分に精通していなかったと、ビアーデンは言う、しかし、
スカラー波が物理学で教えられなかった時から、ロシアは世界からすっかり見える所でそれを落としたという 100%の証明があると、彼は主張する。
これを最後にアメリカは、ロシアと他の敵をつかまえるためにテスラ技術を使用して完全な HAARP 送信器を造ることに決めた。
しかし、今日アメリカの敵は増えて、最低 15 ヶ国がスカラー兵器を持っている、アメリカと他の国の皆は彼らの背後を見ないだけでなく、下も、その上も見ない。
まさに地球を通してどこででもすぐに攻撃することができ、オクラホマの FBI ビルディングは 1995 年 4 月 17 日にスカラー波攻撃で爆破されたという無名の当事者による複数の証拠があったという理論がある。
しかしハリー・メーソンは、1995 年 1 月の神戸地震が日本人による復讐攻撃かどうかは、疑問に思う。そして、それには疑わしいスカラー兵器の兆候がある。
他の人は、9/11 の WTC 塔にもスカラー波攻撃の証拠が、あったと言う。
アメリカの Free 報道機関のクリストファーBollyn は当初ソビエト連邦でレーザー兵器が、開発され、赤外線技術を使用して、WTC 塔崩壊の原因となったと、思っている元東ドイツの物理学者と面談したと、主張する。彼は飛行機が前方に赤外線プラズマ塊 plasmoid を持ったと思っている。それは球電のようである。
物理学者によると 1968 年に中国で紛争の間、Ussuri 川（それは満州を極東から分断している）

の壁を破壊するために、ソビエトは赤外線ビーム兵器をすでに使った。
多くの専門家は、レーザー光線が WTC 塔を崩壊させるのに用いられたと言う。
1995 年以降、米国とイスラエルは、共同の「対空ミサイル」プログラムの下で先端的な赤外線ビーム兵器を活発に開発した。
イスラエルと米国は 1970 年代初期からありとあらゆる先進のレーザー装置を開発したが、多分、彼らは南極大陸でナチスから得たのではないか？
攻撃があるごとにロシアが他にスカラー干渉計を賃借しスカラーテクノロジーを与え無限に悪くなるとして、現在のロシアを非難するのは簡単なことだ。
しかし、こんなことをしてロシアも安全なのか？
現在 US は宇宙人から届いた粒子線アクセラレータと非常に破壊的な兵器を持っている。
しかし、おそらく、兵器で最悪の種類は、量子ポテンシャル兵器と呼ばれるものである。
ビアーデンによると、ロシア、US、イスラエル、ブラジルとおそらく中国もこれを持つ。そして、それは、その病気『兆候』を再生させることによって、体の細胞に何らかの正当な病気を発生させることができる。
彼は現在のイスラエルの戦力もまた考慮に入れるべきだと言う、そして、CHALLENGER が 1986 年に落とされたとき、イスラエルは報復のため、非常に大きなロシアのミサイル保管施設と戦略的な目標を数個破壊した。
1 回の攻撃で、大きなロシア艦隊の、第 3 番目のミサイルをノックアウトした。
それは、ロシアがアメリカを攻撃するのを明らかに停止させた。
すでにイスラエルは少なくとも可動するプロトタイプの量子ポテンシャル兵器を持っており、ロシアを荒廃させることができ、同じ兵器を持つイスラエルにはこれらがどれくらい致命的かわかっている。
イスラエルがロシアの攻撃のためにどんなタイプの兵器を使うか、ビアーデンは言わなかったが、少なくともスカラー兵器と粒子ビーム兵器をイスラエルは持つ。

14.
WHAT CAN BE DONE WITH　SCALAR TECHNOLOGY?
MIND READING, MASS HYPNOTISM AND SYNTHETIC TELEPATHY

14.　スカラー技術でなにができるのか？

読心術、大量の催眠術と合成テレパ

シー

ビアーデンによると：
「リシチンは、1960 年代後期に、ソビエトが人間の脳の『遺伝子暗号』を解明したと報告した。それは 44 桁またはそれ以下だった、そして、脳は全ての EM スペクトル全体のうち 22 の周波数帯を使用した。
しかし、周波数帯の中のわずか 11 だけは、独立していた。
この研究は人間の脳の 11 またはそれ以上ある正しい周波数チャネルの『相を固定』できたならば、遠く離れた距離からさえ、大幅に個人の思考、視力、身体機能、感情と意識的な状態に影響を与えることができることを暗示した。
最高 16 の巨大なソビエト・キツツキのキャリア波は一般に、10Hz の変調をもたらすよう位相ロックされているのが見られた、そして、これはベック、ラウシャー、ビセによって実験で示された、そして、地球の磁場のシューマン振動の響きより強いならば、身体に流入させるか、または人間の脳に「位相ロック」することができる。
人間の脳は、一般に 16 のキャリヤー波の周波数において、10Hz の変調に位相がロックされ流入するのに効果的な 16 の周波数チャネルに相が固定される。
Woodpecker 送信器を使うには
目標とされた地域のかなりのパーセンテージの、人間が頭を位相ロックし、Moscow のアメリカ大使館職員に誘導された影響に似て民衆に思い切った影響を誘導するよう、強く指示されなければならない。
Kaznacheyev クズンチェフの細胞の死と病気の EM 伝染についての研究に結びついて、Woodpecker は死を誘発するように使える、そして、対象とされた民衆に異なる病気が発生する可能性も出てくる。
DNA/RNA-とウイルス自体の修正の可能性もある。」
http://www.umf.net/umf/サイトで、これは見つかった：
「1950 年代に、ITT は、人が考えていたものを文字通り読み取ることができるセンサ技術を開発した。
これは、基本的には読心術の機械であった。
人間の心は電磁機能で作用しており、理解可能な形でその思いを表現しているという原理で、それは作用した。
それは、人が座ることができる椅子から成った。
センサとして機能するコイルは、椅子のまわりに配置された。
3 つのレシーバー、6 本のチャネルと 1 台のクレイ Cray コンピュータがあり、スクリーンに対象となった人の心の内容がデジタル的に映しだされた。」
目次に戻る

15. 病気を誘発する

スカラーキャリアー波の上に病気のパターンまたは『サイン』を模倣して流すことで、スカラー形ビームを用いて病気を誘発することもできると、ビアーデンは言う。
これらは、『量子ポテンシャル兵器』と呼ばれられる。
何らかの住民を攻撃するために、特別にデザインした生物学的影響によっていろいろな病気が使うことができる。(多数の病気を一緒に誘発することさえできる)
彼は、即死、心臓発作、ひどい感情的な混乱、内部機能の管理の損失、病気、免疫系の抑制と彼ら自身の目標とされる主題と解釈される考え、感情または考えの埋め込みさえ誘発することなどの、この効果をリストアップする。
証拠なしで人々を追い払うのに用いられた自殺誘引振動も、ある。
10Hz は情報機関によって催眠術をかけるために使われる波長で、全ての住民の意識下にサブリミナル言語を加えて彼ら自身の言語のようにして大衆に催眠を誘発することができる。
これは、投票のために使うことができる。
ほとんど、ウルトラバイオレットから赤外線の周波数を使うスカラー形ビームによって、電磁気で何らかの種類の細胞死と病気をうつすことができると、ビアーデンは言う。
彼は、光子自体がセルの間で死と病気を伝えることができると書く。
スカラーEM 技術は、実際の細胞の生化学ポテンシャル・パターンの統合支配が可能になる。
特定の細胞の病気または死メカニズムを生産して、遺伝的に潜在的な病気さえ起動させることができる。
核放射線、化学中毒、細菌感染ならびに薬によって誘発された幻覚症状から、操作された徴候と結果として生じる細胞死の証拠が見つかった。
『神』の声さえ、出された。
ビアーデンを引合いに出すと：
「西ドイツのポップ博士"Dr Popp は、細胞の仮想光子によるマスターコントロールシステムを分析した。
スカラーEM は仮想粒子束で決定論的なパターンを出すことを意味するので、スカラー技術でマスターコントロールシステムに自由に病気と障害を誘発するためにすぐに入ることができる」。
サイトには、より多くのデータがある：
「スカラー干渉グリッド兵器は、目標とされた地域の住民を生物学的に完全に攻撃するのに用いることができる。
その位相を 10Hz の ELF 変調信号にロックし、それより小さなものはしばしば同時に Woodpecker 周波数で複数見つけられると言えば十分である。

16.衛星を機能不全にする

ソビエト連邦から異常な米国の衛星を『見えなくする』『レーザー』が何回か発射されたと、ビアーデンは書く。
1 回の出来事で、衛星は最高 4 時間見えなくなった。
スカラーEM 干渉計または地上に置かれたスカラーEM レーザーで衛星とその中に貯蔵されるエネルギー量が正確にコントロールすることができ、直接モニターすることさえできるので、それは正しいと、彼は主張する。
ブリティッシュ・コロンビアまたは英国の衛星 Ariel 6 がカスピ海の上を通過するとき、2 つまたは 3 つの電源に関連した異常な一時的な停止がおこった。
ロシア製宇宙船コスモスフェアとビーム兵器を用いた自身の『キラー衛星』とで、ロシアは 1977-1982 年から多くの米国の衛星を落とした。
多くの種類のビーム兵器が、衛星に置くことができる。
つい最近 2003 年 10 月/11 月に、太陽の嵐の間、2 台の日本の偵察衛星（最近、ロシアから打ち上げて宇宙に滞空していた）は、使用不能になった。
日本は人工衛星に、スカラー兵器を持っているはずだ？
中国は不明ではあるがもしも彼らが、実行したならば目標とする、人工衛星を無効にするため、ビーム兵器を開発していた。
ブラジルはスカラー兵器と量子ポテンシャル兵器を持っているのでブラジルが宇宙に打ち上げた彼らの衛星で多くのトラブルがあったならこれらが何らかの兵器を載せていることも疑える。
この章の後半にカバーされる Brazils の非常に悪い方向に進んでいる宇宙プログラムがある。
衛星をスペースに投入するために、ブラジルは、ウクライナ、ロシア、中国、アメリカとフランスを含む他の国との多くの同盟を結んだ。
D.H Childress によって編集された本『反重力と World Grid』によると
アメリカは彼女の衛星の上にスカラー兵器をおいている。
本の記事は、核攻撃に対する抑止力としてスペースで防御シールドを製造するにあたって、テスラが HAARP 送信器とともにスター・ウォーズ衛星防御システムの機能の父であったと、主張する。
スター・ウォーズ衛星は完全に惑星の人口抑制と、命の根絶と軍による管理を成し遂げることができ、文字通りの『デススター』であると、記事は主張する。
この本で、ロシアの報道機関は、1986 年にロシアが衛星を無効にすることは簡単で、米国スター・ウォーズ衛星を無効にすることができると主張し、スター・ウォーズ衛星を「役に立たないジャンク品！」と呼ぶくらい遠くに進みさえした。
スター・ウォーズ衛星のために、ワシントンがもう一つの宇宙基地システムを急いで見つけようとしているのに対して彼らは別の驚くべき方法で対応したと、言った。
プレストン・ニコルズは、スターウォーズ衛星が粒子ビーム兵器を持つと主張する。
彼らは入って来るミサイルを破壊するために複数の衛星を持っていて、テスラ Dome を作ることができるなら、それはアメリカを保護するためにはよい、しかし、人はそれが大規模なマインドコントロールのために使われないことを望む。
次の戦争は地球を通す、光線さえも使う衛星によってされるかもしれない。
目次に戻る

17. 空中で

多くのロシアの送信器が USA の上にスカラー形ビームを送っていて、北から/南への方向と東から/西への光線が 90 度の角度でクロスしているとビアーデンは言う。
このスクエアグリッドをスキャナはスキャンし、発射されたミサイルまたは飛行機を見つけて攻撃する。
攻撃するためにはスカラーパルスが 2 つ集まらなければならない、そして、発射されたミサイルがあるグリッド・セルに照準を合わせる。
これは激烈な電磁パルスの発射でミサイルまたは航空機の完全な破壊で終わる。
不思議なことに、スピルバーグ・ミニシリーズのスクリーンに、グリッド・システムは示されていた。インプラントされた者の追跡シーンのなかで、家より上にいる UFO に、誘拐されたとき、追跡している UFO が到着し、USA から離れるのを示したときそれは画面に「出た」
これは、本当に真実か？
この『フィクションの』シリーズは明らかに本当のリサーチに基づいていて、特に米軍が時々誘拐に協力し、夜、ベッドから地球外の宇宙船に体をつれていくなら、これと同じ様に追跡するかもしれないので、これは面白かった
しかし『拉致'Taken'』シリーズにおいて、彼らは同様に、グリッドの上で宇宙人のインプラントした拉致被害者を追跡した。
ビアーデンは軍のトラッキング探査目的のために、巨大なデスプレー画面の前に管理者が座ると主張する。そして、スカラーEM キャリアーの交差したグリッドは、地下、水面下または大気・モードのどちらも、示している。
スクエアーグリッド四角（セル）の 1 つにちょっとした光が、現れる。
オペレイターは、それを見落としたか、破壊されたかどうかアクセスして確かめて目標を追跡する。
したがって、operator は 2 つのスカラー・パルスを目標所在地で交差させて遠くの航空機またはミサイルにエネルギーを突然噴出させることができる。
スクリーンで目標が、突然開花する出来事によって、撃破を探知したことは示される、そして、それが見落とされたならば、空気の熱から大きな『ソニックブーム』が突然起こる。
ビアーデンはロシアは彼らのアメリカを覆う干渉グリッドを使って 1985 年末の前に NASA シャトル打ち上げで、これを 3 回起こしたと、言う。
1985 年 11 月 25 日に、光の目印 beacon/glowing ボールは、多分衛星と他の検出システムの方角を定めるためなのだろうが、試験サイトの上に作られた。
発射の 12 分後に、大きな爆発がサイトの上に起きた。そして、海岸の上で、そして数百マイル下でも聞こえた。
直後に、ジェット機より速く光は動いた。
また、ビアーデンは 1986 年 1 月 28 日のシャトルの CHALLENGER の破壊はロシアによってブ

ースターの上への発熱モードで金属軟化パターンの追加が原因であったと、言う。
Woodpecker 送信器の 1 つのシステムであるスペクトラム拡散技術によって、地球のいろいろな部分で、複数の干渉グリッドを設定することができ、それでスキャナと榴弾砲を使っている。
単一のシステムは異なるモードを使用することで、地球、水中、大気の多種多様な目標に対して、、作動することができる。（すべてリアルタイムに同時に動いている）
ビアーデンによれば、オペレーターがスクエアグリッドの上に目印をおけば、
発射されたミサイルはマルチ・ギガヘルツのスカラー周波数の範囲でオートマチックに目標を特定しているので連続的に見ていくことができる。
それからオペレーターは確立したグリッド・スカラー発火チャネルで火をつけるだろう。
連続モードのスカラー波は、焦点を広域にぼかすこともでき、すぐに着弾するたくさんのミサイルの電子工学回路を全く役に立たないものに、する。
この後に、大きなテスラ球 Globes は連続モードでつくられ、続いて連続パルスモードの『光の小さなテスラボール』にそれ、それは最後のミサイルを破壊する仕事を終えることができる。
スカラーEM 兵器を備えている航空機は、、装填した大砲の部分を部屋の周囲を爆発させて攻撃することができる。
収納されている弾薬のように。
地下ミサイルはスカラー・パルス浸透で頭上を電子工学で不発化しカバーしているもの（核弾頭を含む）を攻撃することができる。
これは、燃料と推進用燃料をともに爆発することができる。
スカラーEM 兵器付きのヘリコプターは、ジェット、他のヘリコプター、巡航ミサイル、戦闘員、装甲車両と複数の他の目標を破壊することができる。
アメリカの通報者を悩ましている彼らの家を飛び回る不吉な黒いヘリコプターは、これらの兵器を備えているのか？
遠くから 1 機で、他の航空機と、航空母艦または巡洋戦艦を沈めることができる。
広い地域全部がスカラー形ビームによって走査されるとき、おとりとダミーも含めて、本体をカモフラージュし、隠すことは何も役に立たない。

目次へ戻る

18. 気象工学

ロシアによってアメリカの上に出されるグリッドの Woodpecker スカラー・グリッド干渉セルのそれぞれは仮想送信器の働きがあるので、USA の上に何千もの EM 送信器が造られたかのようである。
これらの数千のグリッドの干渉セルの『吸熱性モード』は、USA 中で電磁エネルギーを抽出する

『冷えた発電機』の働きができる。
これは、空気の局所冷却と低圧の形成と収縮 shrinking を誘発する。
あるいは『発熱モード』の、『連続』の設定で、光線が交差するグリッド・セルは局地的に大気の温暖化と膨張化になる、そして、高気圧の形成は起こる。
これらの 2 つのモードで、ロシアは自由に米国の気象を操ることができた。
望ましい経路に沿って望ましい速度で温点・冷点を、動かすことができる。
これらの方法を用いて、米国中のジェット気流は、完全に自由に動かすことができる。
太平洋から湿気を移動させることができ、着氷性悪天をもたらすために、カナダから冷たい空気を下げてアメリカ南部まで冷やした。
広範囲な竜巻を作るために『回転』を添えて、激烈な雷雨は誘発することができ、方向を指示することができる。
かんばつ、過度の雨と氾濫は、おもうがままに誘発することができる。
厳しい季節はずれの天気によって収穫を、破壊することができる。
スカラーEM キャリアーを使った海洋へのかなりの影響で、世界の天気を逆転することができる。
積乱雲の最上位で局地的に高い熱性地点が発生し、それに対して局地的に寒冷地点が発生すると、局地的な滝のような雨の降水ダウンバーストを作ることができる。
それは自然に起こることもありえるが、アメリカの上空で気象衛星はこの組合せを検出する。
すべてのこの種の気象エンジニアリングがロシアによって 1960 年代からアメリカの気象の上に故意にされたが、1989 年以降は米国で日本のエンジニアリングもあったと、ビアーデンは主張する。
ロシアのスカラーEM 送信器が使用された時から、偶然には起こらない異常気象が、起こった。
気づかれずに、スカラー形のビームは遠く離れた領域に地球と海を横切って送ることができる、そして、この方法で同様に火山も起動することができる。
目次に戻る

19. 地震

断層帯でずれが起こるまで、岩の中にエネルギーをためて、プレート・ストレスを増やすことによって、遠くで地震を起こすことができる。

大きな岩板プレートの湾曲の原因となる交代領域 alternate areas にエネルギーを堆積し、圧縮することによって、完全にプレートの揺れを、起こすことができる。
ビアーデンは、地震を誘発する方法について書く：
「そのような兵器で非常に大きな地震を起こせる。
便利な断層帯を得てこれらをセットする。

干渉計インターフェロメトリーを「互いに異なる」モードで、断層地帯に集中させ
そして、逆の圧電性の効果 the reverse piezoelectric effect によって岩中の応力を増やして（ゆっくり）、両側の岩の中に EM エネルギーを預け、蓄積過剰エネルギーで、
水晶のメカニカルな運動を得る。
上記のプレートのずれのためにゆっくりストレスを与えて最小限のエネルギーを要求された大きな圧力まで増やす。
ある点で、岩はすべる、そして、一方または両方の側が『陥没して』、鋭く動く。そして、その地帯で非常に大きな地震が発生する。
同じように大地が下にダウンし
（思い出しなさい。スカラー波は大地と海の下をまっすぐに簡単に透過し
大地内部、または海に、自由に、『干渉地帯』にフォーカスすることが自由にできる。
とにかく、プレートの穴があるところと火山の活動部分がまだ眠っている下の、ところに、これを集中させる。
マグマ自体のエネルギーを増やし続ける、そして、結局、その火山の中と地下への海からの圧力の増加は、噴火の原因となる。
ゆっくりエネルギーを増加させると、噴火はたぶん非常に大きくなる。」
秘密の 1974 年のウラジオストック･アメリカとソビエトの人工の地球温暖化契約の一部として、米国はワシントンの太平洋の北西のサイトから、30Hz の ELF 放送を始めた。
偶然にも、ソビエトおよび米国の 1980 年の間の ELF 放送の増加で、世界中の地震の急増が、あった。
1981 年の 1/30/ワシントン・ポストは、以下を報告した：
「その前年 1980 年の間に世界は重大な地震が継続し 56 から 71 に上昇した、そして、世界の犠牲者数は 1979 年の 5 倍の 7140 人にまで増加した、と、USGS は言った。」
1989 年 9 月 12 日、カリフォルニア、モンテレー湾の近くのセンサーsensors が、変わった ULF 無線信号を見つけた、（0.01Hz と 10Hz の間の低い ELF 周波数）
「そしてそれは 10 月 5 日に 30 倍強くなり、それからいくぶん弱まって成長した。
10 月 17 日の午後 2 時 00 分に､信号は､彼らのセンサの目盛りを振り切って進むほど強くなった。
3 時間後に、サンフランシスコ湾域は 7.1 の地震に遭遇した。そして、それは 60 人以上を殺し、他に、3800 人を傷つけた。
1994 年 1 月 17 日の壊滅的なロサンゼルス地震も、地震の直前に、ソビエト・テスラ兵器使用の典型的兆しである不可解な無線信号と、2 つの大きい『ソニックブーム』が前に、あった。
通常地震は 20～25km より深いところでは起こらないが､1994 年に珍しく深い 8.2 の地震が起こった、それはボリビアの下 600 キロメートルから発散した 8.2 の地震で、それは十分堅い惑星を叩いてベルのように鳴り響かせた。
地震は北アメリカのシアトルでも感じられた。」
1987 年の Eastlund の HAARP 特許は、次のように述べた、
「磁場を適切な高さに修正したり、除くために、地球の磁場は、減少するか、途絶することができる。」

HAARP が地球大気のイオン大気層でする高周波電波のスラッシュと空孔は言うまでもなくこれは、復元不能な損傷の原因となることがありえる。
Lloyd ロイド Zirbes は書いた：
「電離層より上の自然な放射帯での政府の核爆発によってされる惑星のバランス損傷は、地球の磁場の破壊に到る。
地球の磁場は、惑星を月と太陽との関係で平衡状態にしている。
フィールドが途絶することは、結局は地球を太陽に、または、宇宙の外側に送り出すことになる。」
。
ロシア、アメリカ、そして他の国の惑星の周りに置かれた GWEN 塔と ELF と VLF システムを含むすべての送信器の、すべてのオペレーティングの複合的影響は、特に磁気嵐の間、地球の内蔵する発電機を途絶させ、上層大気の磁気ベルトを途絶させ変化させる、
そしてそれは地球の自然の発電機システムの外部の部分に、磁極の早い逆転を引き起こすことができ、地球ぐらつかせ、さらにポールシフトまたは極の反転に導く。

オンラインの『HAARP Unveiled』と呼ばれる記事は、Woodpecker の効果は、地球の融解した核心からエネルギーを移動させると書いた。
地球の複数の 30 度の地点で電磁信号が地球を通して送られるとき、縦波が直角に作られると、それは言った。
特定の入射角度のケースで
この縦波は、地球自体の熱した中心で作られる干渉性も誘発し、
そして、液体の芯の押し寄せる電磁気の流れの小さな部分の巨大な集まりは、誘発された縦波を戻し、増やし始める。and a tiny fraction of the vast, surging electromagnetic currents of the liquid core begin to feed into and augment the induced standing wave.

間違いない発生率角度において、この定在波も地球自体の融解した核心と流動性の核心の大きな、急増している電磁電流の小さい分数で作られる干渉性を誘発するという場合は、誘発された定在波を食べて、増やし始める。
これの間、人が地球に入れる誘導信号はグリッド信号である、そして、巨大なエネルギーをもつ地球の融解した核心は極板(カソード)と電源である。
確立したコヒーレンスはグリッド信号の拡大要因として用いられる、そして、現在外側から中に放たれている小さい量より非常に多くのエネルギーは縦波に存在する。
光線をクロスすることで、このタイプの複数の『巨大な響き』の波の焦点は地球の中に存在する非常なエネルギーの一部を拡大し、非常に大きなエネルギーを持つ強力なビームにする。
この強力な光線を発生させて、目標域の上に、集束し周波数とビームの波形を変えることで、中央と上層大気の厳しい騒乱で異常な天気効果をつくり、距離の離れたところに地震を誘発することができる。
何人かは、それを『テスラ効果』と呼ぶ。
米国とロシアは陸地と衛星の粒子ビーム兵器と、HAARP と Woodpecker から、スカラー波を送って、磁場をかき乱し、地球の磁場を侵食している。

数年前 Nexus 誌の記事によると、米国は 1975 年に南極大陸より上の大気に 2 つの核爆弾を放った、その後、彼らの得たデータをロシアには与えないので、ロシアは北極の上に 1 つを設置した。
地球を取り囲む磁場に知らされることなく HAARP によって大きく開いたホールがある、特に米国の強力な送信器が作ったアラスカの上に主要なホールがある。それは、我々が知ることもなかった（Dan Eden の書いた www.viewzone.com の記事による）
ユーゴスラビアより上の大気圏にも大きなホールがあると、イーデンは報告する。
多くの人工の ELF と VLF 振動は、惑星回転、バランスと安定を保持するのを助けている地球の自然の内外の電磁気システムをますます崩壊させている。
新しく発見される惑星のぐらつきと、回転の突然の低下と、スカラー兵器が特に危険な者の手に入るかもしれないことに順次悩まなければならない。
テスラの予測したように惑星を割ることができ、完全に極地がシフトするような破壊的な響きにどんな小惑星でも、近接して設定するかもしれない

ビアーデンは書いた：
「多数の核の収集は、 — 例えば星または惑星のように —スカラー照波の強い吸収装置とラジエーター放射体である。
太陽は、スカラー照波の特に強い源である。
この放射線は地球を深く透過する。そして、ますます深い層と相互作用する。そして、より大きなメカニカルなストレスの下でそれは非線形のものとなる。
地球の熱した中心核の大部分の熱は、太陽からこの吸収されたスカラー放射線の一部のデ・フェージング段階的な排除から生まれる、そして普通の電磁エネルギーを、熱として解放する。

地球のものも、太陽へ戻って、スカラー照波を再発散させる。
太陽と地球は、このように平衡または平衡に近い状態でスカラー・システムに結合している。
各々の結合した体は、前進フィードフォワードと後退フィードバックのループを占有している。」

これが地球-太陽、太陽-月と地球-月の微妙なバランスを変えるので、彼はスカラー兵器の特にパルス状モードでの重大な危険性を警告した。(それは太陽と月と地球の間の響きをひっくり返すかもしれない)
太陽に連結している共鳴反応を 1 度の共鳴が刺激するならば、そこで起こる太陽の電磁エネルギーと粒子の激烈な爆発は壊滅的なものになりえる。
地球は、炎の球で消えることになる。(聖書のペテロの第二の手紙で予言するように)
ビアーデンは、以下のように警告する：
「地球の地殻構造プレートと海の流れ」に関しての、月の異常な影響に注意しなさい。
地球-月との反響システムがもう一度刺激されるならば、人は壊滅的な地震で起きる驚異的な大きさの何百フィートの高さの津波を予想するかもしれない。」

記事『HAARP — No Man Hath It Unveiled それを公開した人は Hath でない — 』によると：
".

..巨大なスカラー電磁兵器の使用法は、両刃の剣である。(神から与えられたヴァン・アレン帯の保護と他の外部磁気ベルトに干渉する米国の装置を含む)
慎重に使用されない限り、兵器の使用はユーザーならびに犠牲者のひどい被害の原因となることがありえ、地球自体の破壊の原因となることさえありえる。(ソビエトは 1986 年にチェルノブイリのゴメルの Woodpecker 送信器のための主電源ソースが爆発したのを発見した)
スカラー電磁兵器での、比較的シンプルな電子的な錯誤の結果で、局地的な国だけでなく地球全体にとつても破滅的になりえる;
。
具合が悪い方法で偶然スカラー・パルス放電が自然な太陽と、月のスカラー電磁帰還ループを刺激するこならば、地球の表面を通して地球内部の融解したコアの熱の激烈な増加をひき起こし痙攣させ当然付随する噴火を起こす...」

目次に戻る

20. 海での攻撃

またビアーデンはスカラー干渉グリッドが、水中のすべての潜水艦を追跡でき見つけることができ dudding 攻撃し、または点火しないミサイルで、吸熱性モードの爆発を使用して破壊できるとも書く。
榴弾砲からの 2 つのスカラー・パルスは潜水艦に向けることができ、中に進入することができる。そして、開花する光として示されるスクリーンの目印でその全てが激しく爆発する。
「冷えた爆発」はパルス状の吸熱性モードで引き起こすことができる。そして、目標圏を激しく、厳寒の氷点にする。
人工の EM「ポテンシャル」は海を移動する、しかし、フォース・フィールドは移動しない。
また、艦艇の表面は、これらの外側を通して攻撃することができる。

海の堆積物と海の底にある鉱山は、彼らの完全フィールドを持つ水中『センサ』で破壊することができる。
スカラー形ビームは魚雷と対潜ミサイルを見つけることができ、魚雷と対潜ミサイルの弾薬とその突進することを含めて、破壊することができる

スカラー・グリッド・システムは、潜水艦から、航空機を破壊することだけでなく始まるとすぐに海の上の輸送機動部隊のすべてのミサイルとその船を攻撃することもできる。

精巧なスカラー・レーダーを使って、鉱山になる場所を求めすばやく広域をすべて調べることができる。
鉱山があるかどうか見分けることができる「水中の目」として、それは動くことができる。

そしてグリッド operator は何らかの鉱山、あるいは、一番底を這う小型潜水艇、その他にさえ、スカラー・パルス干渉計の同じ検出システムを用いて当てることができる。
EM エネルギーは潜水艦のコントロールを故障させ、押しつぶし、内側に破裂し深く沈む原因となるよう、送ることができる。
スカラー榴弾砲は、もう一つ別のモードでは、海から巨大なエネルギーを吸いこむ「冷えた爆発」を起こすことができる。
特に民間操縦士によって、何回かこれらの冷えた爆発は目撃された。
これらは、空に何マイルか上る大部分は水蒸気の巨大なきのこ雲をつくる。
ユーゴスラビアの地震」からひき続いて「冷えた爆発がおきた：
1979 年 4 月 15 日に、ユーゴスラビアの Kamenari で、マグニチュード 7.2 地震があった、その後アドリア海で冷えた爆発が続いた。
海は、核原子爆弾の雲のように上へ急成長した。
1984 年に、ソビエトは日本の沖のクリル列島の近くでスカラー波の『冷えた爆発』を引き起こしたと、ビアーデンは書く。
低圧の冷たい地帯は海より上に突然誘発された、そして、水は雲のような濃いキノコを作って、原子的な爆発のような後光のように輝く閃光または shockwave はなしで鋭く吸い上げられた。
伸長雲はおよそ 2 分で 60,000 フィートまで上がった。そして、それがおよそ 200 マイルの直径に達するまで、広がった。

周辺にいた数人のボーイング航空会社パイロットは、これを見たし、米国の衛星もこの地域の写真を撮るのを見た。
それは多分、吸熱性モード（熱エネルギーは下がる）で使われた巨大なスカラーEM 榴弾砲のテストであっただろうと、ビアーデンは言う。
海より上の領域で突然のエネルギーの撤回は突然の低圧に終わる。そして、巨大な水蒸気を含む雲を吸い上げる。
爆発的に吹き上がる空気は、上へ押し上げて巨大なキノコ型の雲を生んだ。

後光の最大直径は、少なくとも最約大 380 マイルで、その中心部分の 200 マイルより大きい。
ビアーデンは、これが巨大なソビエト・スカラー兵器で作られる一種のテスラ・シールドであり、1 度に最初に冷えた爆発そして、発熱モード、吸熱性モードへの切替という 3 件のテストがあったという：
.小さな半球状のエネルギーのシェルを作成し、それが球状シェルに拡大し、巨大なサイズに拡大する。

1966 年テヘラン（イラン）で観察されたソビエトのテストと、この発熱テストでの球状部分は、非常に似ていた。
前に海の上で何回か観察されたソビエトのテストでの、輝く半球状のシェルと似ていた。

1977 年に、H.M.V Kinpurnie キャッスルは海で大きなちょっと明るい光の半球と 2 つの発光体

または球体の形を観測したがそれは 10 分後に消えた。
目次に戻る

21.テスラ・シールドと球体

ビアーデンによると、1982 年に、北太平洋の釧路の東 700km で日本航空の飛行パイロットと 2 人のクルーが巨大な、光の伸長球体 expanding globe of light を発見したと報告した。
Beaden は、以下のように書く：
「これは別のスカラーEM 榴弾砲/干渉計で、膨大な距離のエネルギーの「巨大な球状シェル」を生じた実験であった。（最初にテスラがこれらをつくったので、テスラ球体とも呼ばれる）
小さな激しいシェルはシェルを物体が通過するとき、中に非常に高い EGP（電子重力パルス electrogravitational pulse）、更には非常に高い電磁パルスをもたらす。
これは電子器材を少し、または全く役に立たなくする；そして爆薬、燃料と可燃物を爆発させる；そして、他の最新の兵器を無害にする。
高い EGP は、核弾頭を中で「完全に」核爆発を起こさせ、すぐに爆発させる。
それは、あらゆる種類の細胞を含めて何らかの生きた生きものをすぐに殺す。（体のバクテリア、ウイルスと生物なども）
それは、普通の非放射性物質を何でも低-命令 a low-order の核爆発でその核をすべて爆発させる。
球状シェルが非常に大きくつくられると、そのシェルの「エネルギー密度」は減らされる。
しかし、何らかの核物質または装置は EGP からの低-命令の核爆発で損なわれる、そして、何らかの生体系は即死させられる。
EMP（電磁パルス）は、現在利用できる電磁器材を静止させ少しも役に立たなくする。

理解できるように、地球の空のセクターを―何らかの種類の入って来る脅威から守るのに 100%の効果で用いることができる。
敵自身のもつ軍事力からの防御のため、または最初の段階の犯罪に対立する力として半球状のシールドを出すことができる。」
ビアーデンはそのローカル時空内で、シェルを透過して中に起こっている電子重力パルス（EGP）と電磁パルス（EMP）を何らかの物が受けると、言う。（それは互いに層をなしている球体または半球から、成る）
EMP はすべての電子機器を役立たずにし、すべての高性能爆薬材を爆発させる。
EM エネルギー・パルスが時空自体と車両、弾頭と回路の中の至る所で起こるので、電磁干渉シールドは無駄である。
EGP は、放射性物質をただちに分裂させる。
強い EGP の経験があるならば、どんな核弾頭でもそして、ありきたりの物の核さえすぐに爆発する

強い EGP に打たれる非放射性材料は、小さなシェルはより激しくまたはシェル異型でも低い命令核爆発で分裂する。
大きなテスラ・シェルは、下位爆発 low order detonation,と核弾頭の破壊の原因となる。
テスラ・シェルは、原子力の攻撃用飛行物を含むさまざまな弾頭に対して有効である。（爆撃機、弾道ミサイル、巡航ミサイル、RPV、砲弾など）
ミサイルと航空機に対する 100%の防御が、可能である。
ビアーデンは、1984 年に書いた、

東京から飛んでいるアメリカのボーイングの乗組員は、クリル列島の近くで、地平線より上に白色光のゆっくり拡大している半球に気がついた。
彼らの前方で、光のシェルは 10 分間の間、拡大し続けた。
衝撃波はなかった。
シェルの光は星がそれを通して見えるような、鋭い先端を備えていて、半透明だった。
これはもう一つのソビエトの、テスラ・シールドの実験であった。
この現象の多数の目撃例は、日本から飛んでいる航空会社のパイロットによってされた。

目次に戻る

22. 地上での攻撃

小規模な防御作業のために、ビアーデンはその唯一可能な隠れ場所を解説している。普通の通信の搬送波の中に独立したスカラーのキャリア波を入れる。敵は、通常のコミュニケーションのキャリアを動かなくすることぱできるがスカラー波にはできない
潜水艦、航空機と船でもコミュニケーションのために 2 方向の人工のポテンシャルの方法を使うことができる。
スカラーEM チャネルを『ワイヤー』として確立し敵の変速装置をこちらから動かし、使用可能にすると、彼は言う。

敵の送信器を、固定モードを用いて『わずかに吸熱性モード』の位置にすることができる。
人は彼らの暗号機能を越して彼らの入力を「鮮明に」ロックして『歩く』ことができ、これでの情報交換のすべてを鮮明に受けとることができ、記録することができる、そして、これは離れてすることさえできる。
またそれで彼らが盗み聞きを続ける間、敵の器材を破壊するためのオプションもある。
モスクワの米国大使館がなぜ何十年も弱いマイクロ波放射を受けたかという理由が、これであると、ビアーデンは主張する、そして、これはスタッフの健康問題の原因となった。
米国は、これを知らなかったので、影響自体をモニターするための、行動を、とらなかった。
ソビエトは新しい大使館をワシントン D.C.に建設した。そしてそれは、アンテナでいっぱいだった。

それは、タンク、装甲車両、地下掩蔽壕、ピルボックスと防備の鋼の外側を透過する。
地球を通してミサイル・サイロを含む地下の何でも狙え、地球自体を通して核貯蔵サイトも攻撃することができる。そして、ミサイル基地で完全な核爆発が始まる。
弾薬集積場、レーダー方式、その他ラジオとコミュニケーション・ギアとセンター、ガソリン・ダンプ、無人機、監視とセンサーシステム、鉱山といったカバー範囲の中にあるものをスカラー波で一掃することが可能になる。

スカラー波は、電気の基礎となるものを吸い上げることができ、遠くにある配電と、発電法は機能できなくすることができる。
建物の中のラジオとテレビジョン送信機と配線施設を、破壊することができる。
多くのミサイルが発射されたならば、ロシアのオペレーターはす速くこれらをマークすることができる
そして、榴弾砲の発射の爆発の後爆発した。そして中央コースにたどり着くために、敵の多くを殺して、人数を減らした。
戦術的な戦場で、スカラーEM レーダー干渉計システムは、戦術ミサイル、航空機、巡航ミサイル、大砲、迫撃弾とヘリコプターに対して防御することができる。

隠れる場所はないので、敵がスカラーEM 兵器も使っていないならば、侵入は簡単に成し遂げることができる。

目次に戻る

23. 個人を消去する

OBLITERATING INDIVIDUALS

人がスカラー兵器を『高い強度パルスモード』と燃焼モードに設定し誰かに向かって撃つならばそれはすぐに神経系を破壊し、あらゆる生きている細胞、バクテリア、細菌その他の死の原因となる。
撃たれた体はぐったりしボロのようになる。そして、30-45 日経過しても腐敗しない。
体の状態は核放射線を食物に照射したのと似ている、すべてが殺され生きていない。
崩壊がおこる前までは、物質は保存されている。
人々のグループの全てが、ピークの力で爆破されることができ、殺すことができる。
ビアーデンは、アフガニの変な死に方は不気味な新しいガスによると推測されると言った。

しかし、ガスでは死者は激烈な痙攣に襲われ、死ぬのに何秒かかかる。
ジェーンは、1984 年にこれを『ディフェンスウィークリィ』に発表した。
ビアーデンによると、ソビエトはアフガニスタンで戦術的にスカラー殺人光線を使った、そしてこれらは HIND ヘリコプターの先端に置かれた。
彼らは、情報分析者を馬鹿にするためとこれらの殺人光線のテストをカムフラージュするために抜け目なく神経ガスで満たされたガス・ロケットも発射した。
強度の低いパルスモードで設定されると、人は、意識不明になり、後で尋問のときに復活する。
これは、沈黙のうちにされる。
器材と施設を破壊しないために、吸熱性モードが利用することができる。
冷えた爆発は、タンク、人員と器材を凍らせることができる。
北極用の衣類とヒーターは役に立たない（人々は凍って死ぬ）ー、しかし、器材は壊されることはむない。
ビアーデンは人が NATO の最前線が強くなることを望むならば、互いに一緒に 3 つの冷えた爆発を引き起こすことができると、言う。（各々の直径 50 マイル）
数秒で、あらゆる生物は凍死する。
戦いは即座に終わる。

目次に戻る

24. 携帯用のスカラー・バズーカ

PORTABLE SCALAR BAZOOKAS
これらは携帯することができ、車両またはヘリコプターで使用することができる。
バズーカ・サイズのスカラーEM パルス兵器は、機甲部隊を通して 1 撃で、タンクを破壊することができる。
それは、伝導シールドとファラデー箱さえ透過することができる。
スカラーEM パルスで、タンクの搭乗員は即死する、電子機器は dudded 破壊され、全く同時に、その中の弾薬と燃料は爆発する。そして、完全にそれを破壊する。
1 台のタンク、ヘリコプターまたはジェット機は、携帯用のバズーカを運んでいる地上の兵士またはこの武器を運んでいるタンクで 1 回の爆発で簡単に破壊することができる
同時パルスモードが十分強力ならば、戦闘爆撃機航空機も燃えて、滅失し、戦闘機と仲間が即死する、電子工学のメカニズム dudded はされ、燃料は爆発しジェットエンジンは破壊される。
スカラー・パルスまたは連続モードは重力が進むことができる場所を進むことができシールドは効果がない。
テスラ/スカラー波兵器はボスニア紛争の間、スラブ人によって使われたと、言われた。彼の仕事はテスラ博物館を主な活動とし、その人にはこのテクノロジーがあった。
ロシアは、彼らを助けたとも言われていた。
タンクまたはグラウンド送信器からスカラー兵器を使って、短い間隔のパルスは機関銃のようにみせることができて、大砲またはモルタル堰を襲うことができる。

幅広のパルスのピーク電力が十分ならば、爆薬はスパークし、爆発する、そして、ヒューズは滅失する。
目次に戻る

25. レーダー不可視性

普通のレーダーが見えない航空機にするには、機体のまわりにレーダーに対応する厳密なバンド幅の球面干渉シェルを製造するので、機上に複数の送信器を持つことに関係すると、ビアーデンも言う。
レーダービームが航空機のまわりのエネルギーのビンをたたくと、それに反応して返ってくる合図に干渉する、それは defracted 散乱し、散らばって、吸収される。
航空機の受動的なレーダー自動追跡のための放出に対する遮蔽物は自身の放出を見つけることができ、補うことができる、そのため追跡に必要なスペクトルは、『ゼロに近い』ものになる。
排気管とスカラー静電冷却を使って航空機の熱い表面を冷やすことも、できる。
ビアーデンは、航空機が光学的に『消える』原因となることができると主張する。
最初の光子が aircraf 飛行機に当たっている光子にマッチすると、反対側からの全く同じ放出が吸い取られることができる、するとオリジナルの光子は同じ方向に向く。
最初の飛行機から発される一方向からの光は他の方向からみると「それを通過した」ようになる。
そして、オブザーバーに対して、なにもない空のスペースのように擬態する、(光子は光速で共に動いている放射エネルギーの量子である)
明らかに、「フーリエ拡大エネルギーのビン」として知られているものが、このために使われる。
スカラー・干渉計インターフェロメトリーのために必要な特別な送信器を運ぶために、複数のアンテナをその上に持つミサイル弾頭、または使用する衛星ミサイル弾頭を、使用することもできる。
エネルギー・ビンは、必要条件のバンド幅の干渉シェルを、装置のまわりに出すことができる。
レーダーは、そのバンド幅の装置を感知することができない。
目次に戻る

26. 起こることができた戦争の概要

SUMMARY OF A WAR THAT COULD OCCUR
ビアーデンは、可能性があるシナリオを描く：
たとえば米国がロシアに核ミサイルを送るとしても、それさえ着陸する前に、彼らが防御のために開発した多くのスカラー技術を使用してそれを歓迎するはずだ。
スカラーキャリア波を使った秘密の盗聴は爆破しようとした音声を聞いたかもしれない、そして、

発射の前に、隠された COSMOSPHERE または航空機を使ってミサイルを爆発させることができた。
しかし首尾よく発射できたとしても、最初に、見つけることができ、追うことができれば、続けて EMP テスラ球体はミサイルの電子装置を破壊することができる。
もう一つの強烈に熱い火の玉の球体はミサイルを蒸発させることができ、あるいは、それが目標に達する前に、パルスモードの火の玉はそれを爆発させることができる。
濃い EM プラズマ・エネルギーを含んでいる光の大きな熱烈な球は交差したスカラー形ビームによってつくられ激烈な下位核爆発をさせることによって核弾頭を途中でそらすこともできた。
小さな激しいテスラ球体に飛んでくる破片のいろいろな部分は破壊されるほど
最初に遭遇する破壊するエネルギー密度は、大きな地球 globe より強力である。

何らかの残留する金属片と材料を気化させるために最大の連続的に熱を与えられるが、これはパルスモードで可能である。
ロシアに何かが雨のように降り注ぐとしても、空の領域に入ることを妨ぐために目標とされた地域の上にテスラ・シールドを事前に配置することができる。

目標を保護するテスラ・シールドはそこに入る何物にでも複数の電磁パルス・エネルギーと厳しい熱を生産する 3 つ以上の同心のテスラ・シールドでできている。
これらの同心のテスラ・シールドで、クリーンにすることもでき、核弾頭の爆発から生じている何らかのγ線を無効にすることもできる。
米国の原爆プロジェクトの 7-8 回分に相当する情報をカバーするリサーチによって、ソビエトはすでに物質と、現象と自然法則の未知の特質を使用していることは、裏書きされている。

目次へ戻る

27. ロシアの UFO は、最初から米国シャトル・プログラムを攻撃した

RUSSIAN UFOs ATTACKED THE US SHUTTLE PROGRAM FROM THE BEGINNING
Tom ビアーデンによると、スペースシャトル事故は、ロシアによってスカラー兵器を使っておこされた。
匿名で Let's forst に書かれた、『空からの火』と呼ばれる一連の記事で、このロシアが原因の事故についての他の物語を見よう。
1977 年 10 月にロシアのコスモスフェア（地元ロシアがつくった反重力円盤）は新しい作戦でスカイラブと乗っていたアメリカの 5 人の宇宙飛行士をひそかに撃ち落としたと記事は、述べる
1977 年 5 月中旬、アメリカはブースターロケットの下落により人工衛星を打ち上げることができなかった。

9 月 13 日にその打上用ロケットがリフトから発射された 1 分後に爆発し、この衛星は破壊された。
16 日後に、再び発射の 1 分後に、もう一つの衛星とブースターは、炎上した。
スカイラブはまだ軌道上にいるが、予想外に下落しつつあると、NASA は偽った。
ロシアは先進の有人兵器である秘密の三つ組宇宙シャトルを配備していたので、米国は宇宙にまだ何らかのスペースシャトルを発進させる立場にはなかった。
米国スペースシャトル計画は、秘密のうちに再編成されなければならなかった。
1939 年にドイツに着陸した壊れた UFO を彼らが『バックエンジニアリング(複製)』したあと、1946 年に、ロシアは多くのドイツの科学者をソビエト連邦の 40 の所在地の方へ動かし、彼らの研究室で、反重力円盤を造ることを強制した。(ナチスが戦争の間 1940/41 年にドイツの中の 8 つの所在地で自身のためにしたように)
もっと多くの情報が、「人類は空飛ぶ円盤を作ったーナチコネクション
Manmade Flying Saucers - The Nazi Connection
」で見つかる

目次に戻る

28. どのように、ロシアは UFO を得たか？

HOW DID RUSSIA GET UFOs?
本『UFO ナチ Secret Weapon？』によると、275,000 人のドイツの科学者ならびに彼らの家族は戦争の後 2 日間の間にドイツのソビエト占領された部分から拿捕された。そして、決して帰らなかった。
戦争に使うための魚雷、潜水艦と多くの他のものに加えて、彼らはソビエトのためにミグ戦闘機を建造した。
しかし、ナチ反重力円盤計画は戦争の後、同盟国によって見つかった、そして、この価値ある本は 1950 年代に書かれ、円盤の写真は、彼らのすべてのテクノロジーを示し、彼らのエンジニアリング計画に一致する。

『UFO はナチの秘密兵器か Secret Weapon？』は 2 人のドイツ人、マッテルンとフリードリヒによって書かれた、そして、ドイツの出版者はそれを出版することをあえてしなかったので、1960 年代中頃までカナダで出版されるまで待たなければならなかった。
1940 年代以降、ナチの UFO の設計図に似ているものは、世界中で目撃されている。
特にマッテルンとフリードリヒによると調査では、戦争の後、南アメリカで、世界中のナチフロント組織にほぼ 30 億ドルが投資されたことを、示した。
戦争以来、南極大陸の基地から飛んでくるナチ UFO によって、どれくらいの危害が同盟国に課されたかはわかっていない。そして、戦争が終わる前に、ドイツから逃げた 250,000 人のナチス

の何人かによって、それは植民地化され、前もって南極基地を使えるようにした。
しかし、彼らは、何でも、誰でも格好の標的にすることが可能なスカラー兵器を持っている。
現在もまだ南極大陸と南アメリカに秘密の基地をもつナチスと他の旧同盟国に比較して、何百ものロシア製宇宙船コスモスフェアを持つロシアとの間の進行中の戦争があるのかもしれない。
二重スパイ、離反者、スパイ、監視と観察のため、ロシアの計画は、彼らの攻撃サインは、しばしば公衆に知られている。

目次に戻る

29. アメリカを運営している前ボルシュヴィッキ

FORMER BOSHEVIKS RUNNING AMERICA

『空からの火』が書いていることによると、現在の米政府がロシアに何を計画していたかロックフェラー・カルテルは話しており、（その時は非ボルシェビキロシア政府を支えていた）スペースシャトル計画は、ロシアが裏をかいて攻撃するだけではおわらないように、秘密裏に進んだ。
彼らは、自らの資産を平和に無傷にしておくことを望んだ。
ボルシェビキは 1917 年にロックフェラー・カルテルによってロシアの権力の地位についた、そして、ボルシェビキが追い出されたとき、彼らはアメリカに来た、そして、レーガンはボルシェビキ・シオン主義者同盟として彼らをレーガンのアメリカ政府に含めた。
1980 年の後半までには、ロシアで権力を回復するために、スペースシャトル計画で前進するよう決定されて始まった。
現在のロシア政府を破壊することによって
アメリカのボルシェビキはロシアから投げ出されるが、それはロシアを引き取ることを目的としており、これを達成するために、アメリカは犠牲になることになっていた
そして、ロシアへの核攻撃で、シベリアの彼らの軍事施設を破壊する予定だった。
一方、ロシアは米国が宇宙へ打ち上げたものは何でも攻撃し続けた。そして、彼ら自身が上層大気圏を支配した。
アメリカ自身が宇宙に熟達するまで、ロシアがどんな兵器と宇宙機を持っていたか、元ロシアのボルシェビキの管理下の米軍のプランナーは Glastnost によって追い出されて、理解しなかった。

1977～1981 からの 4 年間に、アメリカが宇宙に送った何でも、落とされ、世界に偽のレプリカを示さなければならなかった。

ロシアが宇宙のかなり高い所で隠されたロシア製宇宙船コスモスフェアからアメリカに対して使ったのと同じくらい危険なアメリカ自身のビーム兵器を開発したために、アメリカは 1981 年に宇宙にようやく着いた。

1977 年に、ボルシェビキにはアメリカ政府内の戦略的な職にあった。そして、ロックフェラー・カルテルは権限の多くの領域をそこに移した replacing。

ボルシェビキは本部がニューヨークとエルサレムにあり、シオン主義者で、イスラエルと同盟していた。

目次に戻る

30. オリジナルが撃墜された後、着陸のために複製が使われた

REPLICAS USED FOR THE LANDINGS, AFTER ORIGINALS SHOT DOWN
おそらくそれは浮いているノートを完備した宇宙に行った、スペースシャトルのレプリカでつくられた内部は、変更された NASA 747 であった。
誰でもこのシミュレーションを信じていた、そして、シャトルが発進するたびに、再利用された模造されたフィルムが出された。
しかし、残骸だけになったとしても、実際のシャトルは、無傷で決して落ちてはいなかった。
アイゼンハワーは 1957-1960 年の間にロシアに 20 機以上の U-2 によるスパイ飛行を送った、そして、空軍はロシアが 1961 年までに 1000 発の ICBM を持つと報告した。
ロシアのスプートニク衛星は、1957 年 10 月 4 日に打ち上げられた。
1960 年代と 1970 年代の米国衛星は、空飛ぶ円盤を観察するのにも用いられた。
1977 年の間に、ロシアのロシア製宇宙船コスモスフェアは空の米国の偵察衛星を一掃して、US の両方の海岸に沿って非常な『エアブーム'air booms』を起こした、そして見せ付けるために、彼らは、内陸と、空を支配した、彼らは望んだことをし、数千人をびっくりさせるのを誰も止めることができなかった。
アメリカの当局は『空気ブーム'air booms』を、音速の航空機コンコルドが原因だと言うことによって釈明した、、しかし、実は宇宙のかなり高い所でロシアの、粒子ビーム兵器の焦点をぼかされたモードで使用されたことによるものであった。
ほとんど毎日いろいろな地域で（例えば空軍基地と他の軍事施設）airquakes 空震が、聞こえた。
1977 年に、7 台のロシア製宇宙船コスモスフェアはアメリカの上空に空中停止した、しかし、数ヵ月後までの間、何百機もが続いた。
それは南極大陸から飛び立ったナチ UFO だったかどうかはわからず、『空からの火』、はこの面をカバーしなかった、しかし、匿名の著者は空震 airquakes をつくったのがロシア製宇宙船コスモスフェアの活動であることをよく知っていた。
1977 年 12 月と 1978 年 6 月の間に、大きな 594 回の空震 airquakes が起こった、そして、UFO 目撃例は急成長した。
南カリフォルニアの上での音の震動はオーストラリア Pine Gap からネバダ州グルーム湖に進ん

だ、非常に秘密のオーロラ航空機に由来するとし、更にロシア製宇宙船コスモスフェアの集中が『本当の』UFO であることも暴露した。
ロシアには、洗練された秘密のステルスシステムがあった、だがそれを特別なニュートライズされた無害な存在として見せた
ある時、人々がロシアのロシア製宇宙船コスモスフェアを見て、現実に目覚める。
宇宙人の航空機は緑、黄色と青のストローブ色光を持つ、ところが、ロシア製宇宙船コスモスフェアはストロボをたかず、星として現れるためにかなり高い所にあらわれる。
目次に戻る

31. USA の上空にいる隠されたロシアの UFO

CLOAKED RUSSIAN UFOS ABOVE USA
ロシア製宇宙船コスモスフェアは地球の静電界に浮かぶ、そして、彼らは赤外線探知機とレーダーの組合せで粒子ビーム兵器の攻撃目標の狙いを定めた。
アメリカはこれを学んで彼らの感知システムをブロックして、彼らの宇宙船が浮いている位置で邪魔をすることに決めたので、彼らがロケットを発射しようとした時に、粒子ビーム兵器の狙いを定めることができなかった。

彼らは時間が過ぎると働く、コバルトの電離爆弾を設計した、
それは、全く相当な量の電子を取り除かれて空になったイオン化コバルト原子をつくった
残っている裸の核は、大気圏のできるだけ高い、物質界の浮かんでいる高度以下のところで、上空のいろいろな存在の周辺で爆発した。
これはロシア製宇宙船コスモスフェアの下の、地球の磁場に非常な電子の嵐を水平に広げる。
これは、地表にある基地の強力なレーザーと結合する。
しかし、ロシアはもう一つ原子的なサインに基づいて実際の目標に狙いをつける装置を持っていた、そして、通常の妨害は影響を受けなかった。
目次に戻る

32. 1981 年までロシアによってすべ

ての米国の衛星は落とされた

ALL U.S. SATELLITES SHOT DOWN BY RUSSIA UNTIL 1981

1981 年 4 月 12 日に、COLUMBIA コロンビアスペースシャトルは、軌道に入って、軍事衛星を配備すると思われた。

彼らはコロンビアにはいろいろなドラマがあったので、2 日後に、コロンビアを装ってもう一つのシャトルを着地させようとした。

この 3 年間で打ち上げられたあらゆるアメリカの偵察衛星は、落とされるか、多くのデータを集める前に盲目になった。

シャトル COLUMBIA はロシアの粒子ビーム施設とコスモドロームの上空を偵察衛星として飛びデータを送信することを、意図していた。

『空からの火』著者によると、CIA の中に忠実なアメリカ人以上に、前もってロシアからロシアを攻撃する計画が与えられている多くの KGB 代理人が、いる。

ティモシーS.クーパーによる記事『CIA、UFO、MJ-12、JFK と James・Jesus Angleton』に、彼は以下のように書く：

「米国国務省内で働くことは優秀な英国の外交官である証明であったとき、ソビエト核兵器スパイ活動プログラムの衝撃的な真実(法外な)は US と英国の保安に相当関係しており、ロス Alamos National Laboratories の米陸軍技術者がニューヨークで彼らの KGB 責任者に原子爆弾の青写真と資料を提供するだけでなく水爆の計画も、同様に盗んでいた。

他にも同様にソビエト・スパイが彼らの足元から盗みをしたと、保安担当者は推察をしていた。」

『空からの火』著者は、ロシアの目標がスペースシャトル計画をシャットダウンさせることであったと言い続ける。

彼らは、1960 年にスパイをするためにロシアの上空を高く飛んでいる U-2 を撃墜した。

大統領アイゼンハワーとフルシチョフは、これを議論するために会った。

それがロシア上空を飛行して、それを一般公開するならば、彼らはコロンビアを核パワード・レーザー偵察衛星と共に落とすだろうと、ロシアは言った。

第三世代ロシア製宇宙船コスモスフェアは、このための道具であった。

これらは大きくて、「スーパーHeavies」またはロシア製特大宇宙船コスモスフェアと呼ばれた。

ロシアは 1980/81 年にこれらを造ったが、これらのうちの 7 機は 1930 年代のツェペリン飛行船より大きい。、

これらにはスペースシャトル以上のはるかに大きい 50 トン以上のミサイル弾頭を保持し、電磁推進をプラスして、周回軌道の速度へ連れて行くことができる。

ロシアのスペースシャトルでこれらは、機能していた。

5 機の特大のロシア製宇宙船コスモスフェアは、宇宙で大きな対象物を探査するための探線装置を付けていた。他 2 機は中性子粒子ビーム兵器備えていた。

彼らはそれを働かなくするために、直接弾道距離内の COLUMBIA に発砲した、

彼らはシャトルのバックアップ・コンピュータがロシアの上にそれを飛ばすことを望んだので、

彼らはそれを捕えることができた。そして、それがスパイ活動のために使われていたという彼らの主張を支持した。
シャトルをばらばらにするよう攻撃し、発射するならば、シャトルの熱センサは自爆するようにプログラムされていた。
それは、ロシアの上およそ 75 マイルにばらまかれて終わった
目次に戻る

33. うそ、うそとうそ

LIES, LIES AND LIES
離陸以外のシーンは、テレビ放送はされない。
1981 年 4 月 12 日は、宇宙への最初の有人飛行以来 20 年目であった。
アメリカによってもう一つの『偽の』COLUMBIA は着陸した、そして、そのことを誰も知らなかった...
『空からの火』によると、2 人の搭乗員のクローンは、声援する群衆に応えるために、交替用シャトルに入れられていた。（ダレス Dulce と、ニューメキシコ NM の、宇宙人の/地下軍事施設で作られた）
（注:アメリカ政府の一部はこの間に dimitutive なグレイ宇宙人と reptoids 宇宙人との同盟を別に確立した。

宇宙のシャトルのプログラムとは別に、遺伝子工学が研究されていた。
現在米国に地下のクローン工場があり、宇宙人との同盟はこれまでより強くなっている。
現在いろいろな交換用クローン人間は地下で米国で生産されているータンクで成長するのに 1 年かかるテクノロジーで、合成人間、アンドロイド、クローンが作られ、魂の交換さえ企画することができる)。
『想定された』着陸のために 3 機の同一のシャトルが、保管されていた。
1982 年 3 月に、宇宙での戦いのために武装したシャトルのために新しい発射台は作られた。
米国ボルシェビキ政府プランナーは、彼らが何との戦いに直面しているか理解することを拒否した。
アメリカは彼らのシャトルで宇宙に近づくことさえできないが、ロシアは他の 7 つの国から宇宙飛行士を得ていた。
アメリカは宇宙飛行においてロシアより 5〜10 年進んでいると、誰もが話されている。

スペースシャトルに関しては、それは、うそであった、
しかし、ネバダ州の軍事施設と複数の地下施設でいろいろな宇宙人と/アメリカとの同盟があり、、ひそかにエリア 51 にいる元ナチ・エンジニアとの助けを借りて、アメリカ自身の持つ反重力円盤は、同じぐらいに進歩していた。
しかしスペースシャトル計画には戦争の後多くのロケット開発者が米国にきており、元ナチ科学者が適切に分担し、それが離陸するための援助に当たった。
戦争の後 5,000 人ほどの多くの『役に立つ』ナチスの人材が U.S.A へ連れて行かれたと言う。

目次に戻る

34. 日本との摩擦

FRICTION WITH THE JAPANESE
『空からの火』は、アメリカの潜水艦は、1981 年 4 月 9 日におそらく、日本の小型貨物船に衝突することでそれを沈めた
そして、生存者を救い出すことなく、それをそのまま残した、そして、それが起こったところから 3 1/3 マイル離れて報告し、36 時間たつまで事件を認識しなかったと書いた。
アメリカの艦艇は日本の漁網をリボンのように故意に引き裂いた、そして本来核兵器を配備した船は日本から締め出されていたが秘密裏に搭載して日本の港に寄港していた。
南アメリカと南極大陸から来るナチ贋造貨幣のため、それは日本人に圧力をかけようとして、行われた。
ナチスは、銀行がそれを見つけることができなかったほど精密にアメリカのドルと英国の 5 ポンド紙幣をユダヤ人偽造者に生産させた！

スイスの World Monetary Fund は、存在してはならないおよそ 150 億ドルが出回っていることを発見した。

また、US には、説明することができなかった国際収支の危機があった。
西太平洋の警官になろうとして再武装しようとしているオオヒラ首相はボルシェビキから圧力をかけられていた、そして、彼はロシアからの警告にもかかわらずそれを進める準備をしていた。
オオヒラは『突然』死んだ、そして、米国のボルシェビキは Suzuki も政権を離れ彼が再武装せず、彼が交代することを望んだ。
それで、アメリカは事件を発生させた。そして、それは日本の面目を（特に Suzuki 首相の）失うことになった。（東洋人にとって痛みを伴う病気）

そうしなければ Suzuki 首相はレーガン政権が共産党中国に最も洗練された兵器を売るために進んでいたワシントンとの戦争に、備えなければならなかった。
スペースシャトルは兵器とロシア製宇宙船コスモスフェア基地を破壊することができるためにロシアに関するスパイ・データを得るのに必要だった。
核爆弾でシベリアを攻撃する基地を米国に与える計画に中国は、役立っていた。
状況は絶望的だった。
1981 年 5 月 6 日に軍のために、EC-135ns はボーイング 707 に変更してロシアの衛星を追跡するために使われたが、上にいた、ロシア製宇宙船コスモスフェアによって荷電粒子ビーム兵器を用いて、日常的なフライトで撃墜された。
飛行機が飛んでいるときジェット・タービン・エンジンに粒子ビームは正確に当てることができる。
1981 年 5 月 26 日に、ロシアは、もう一つの非常に洗練された電子戦でジェト機 EA-6B Prowler を撃墜した。
原子力超大型空母船にジェト機が着艦する直前に、特大のロシア製宇宙船コスモスフェアが中性子粒子ビーム兵器でジェト機を撃墜した。
それは航空機でいっぱいのデッキに、衝突し 14 人を殺し、48 人を傷つけた。
20 機の航空機が破壊されたか、損害を受けた。
それは、『空からの火』によると 1950 年代から現在までで海軍で最悪のフライトデッキの災害であった。

目次に戻る

35. ロシアをスパイすると固く決心しているシャトル事業

ENTERPRISE SHUTTLE DETERMINED TO SPY ON RUSSIA
次に作られたシャトル『ENTERPRISE』の能力は、公表されなかった。
2 回目のスペースシャトル打ち上げは、1981 年 11 月 12 日に、フロリダで行われた。
7 時間後に管制センターは打ち上げを故意に中断した。そして、燃料電池が不完全だったと偽った。
それは、軍事的ミッションとして行われていた。
エンタープライズ自体は、偵察衛星に変換され使用された。
ロシアが『キラー衛星』を使ってアメリカの偵察衛星の全てを破壊した時から、4 年後であった。
アメリカのシャトルの偵察衛星はタングステンで作られ中央のコアのまわりを、この層が取り囲んでいた（途方もない温度に耐えることができる）。
それは長さ 30 フィート、幅 20 フィートで、粒子ビーム兵器の攻撃にも耐えると思われた。それはセンサが攻撃方向からの火を感知すると巨大な二酸化炭素ガス銃がそれに反応した。
アメリカのこのシャトルが第一世代の宇宙船を多分上回ることができるだろうということを、アメリカ人は知っていたが、彼らは新しい特大のロシア製宇宙船コスモスフェアについてはまだ知らなかった、そして、コスモスフェアは 1981 年 4 月に発進した COLUMBIA シャトルを破壊した。
その時、ロシアにはおよそ 8 機または 9 機のジャンボ宇宙船があった、これらはこのアメリカのシャトルを上回っていた。

ENTERPRISE は乗組員を乗せずに離陸した、そして、それがロシアを通過したとき、ロシアの軍事施設を上から下までスパイ・カメラで撮影した。
ロシアの 5 台の特大の宇宙船は、若干の宇宙人の航空機とともにいた。
2 年の間、ロシアは市民のために地下避難所を設置し、新しい対弾道ミサイルシステムを準備していた。
この対抗手段は、改造された超音速 TU-144 ジェット旅客機に搭載した荷電粒子ビーム兵器による攻撃であった。
1981 年 11 月 12 日に、ロシアの TU-144s の戦隊は、アメリカのエンタープライズを実行目標として、撮影妨害のためにスクランブルをかけた。
ロシアの大きなジェット機に載せた、ビーム兵器が発射されシャトルの上方に火がつき、シャトルの胴の中間部から半分は壊れた。
以前に発射したジャンボジェットの中から実際に写された最近のフィルムさえ再利用して搭乗している同一の乗組員の模造フィルムが準備され、長いシーンをリプレイして、物語を作り直した。
こうしてホワイトサンズ軍事基地からの代替シャトルは、『着陸した』。
目次に戻る

36. ロシアは、攻撃を強める

RUSSIA INTENSIFIES ATTACKS

1982 年 1 月に、ロシアは気象操作と人工地震で地球物理学戦を再開した。

カナダの地域は、国家非常事態宣言をだすほどの最大のブリザード状況との連絡を受けた。

コスモスフェアー宇宙船は US の中にあった。そして、重要な目標地域を連続的にパトロールしていた。

1981 年までは、通常のレーダーでは見えず、逼迫した範囲以外は、頭上にいる彼らの存在でさえ見つけることは不可能だった。

しかし、1981 年後半、『コンピュータ拡張赤外線感知装置』の進展が、見られた

そしてこの装置はロシア製宇宙船コスモスフェアからの熱放射を検波した。

これは 1982 年 1 月 12 日に、中部ニュージャージーの上にいたロシア製宇宙船コスモスフェアを狙った。

狙いは確定され、緑閃光を噴出しているロシア製宇宙船コスモスフェアの部分にレーザーは発射された。

彼らは命令の下にいたので、ロシアでないものの手に落ちることは無いので、彼らは海に落とすことにした。

それは 40 マイル、上空にいた、だが損害を受けたロシア製宇宙船コスモスフェアは 2、3 マイル沖合の海に突っ込んだ。

それは 10 分間、海に浮いていて、その火災がそばにいた多くの証人に見られている。

クレムリンはこれが繰り返されるならば、心底報復するというメッセージを送った。

その翌日 1982 年 1 月 13 日レーザー戦争スペシャリストが乗った Air フロリダ・ボーイング 737 ジェット旅客機はワシントン D.C.で粉砕され、人で混雑した橋に飛び込んだ。

74 人が死んだ。

それから事故とあやうい事故とが、たてつづけに起こった。

空軍サンダーバード・デモンストレーション・ジェット機の 4 機全てが、壊れた。

表面上は原因なしでかろうじて災難を避けたが、カリフォルニアのボーイング 737 は、どういうわけか飛行経路からはずれていた。

日本航空 DC-8 は 1982 年 2 月 9 日の日中に、機械に問題はないのに、東京湾に突落した。

パイロットは、意識を失ったと言い、そして、副操縦士は彼が『ぼんやりしとしていた』と感じたと言ったと報告した。

飛行機の電子装置と人々の精神神経システムを崩壊させるスカラー兵器または中性子線で、これが起きたかもしれない。
突然、UFO と宇宙人の訪問客の隠蔽に関係している情報が流れでた。

37. 再び宇宙で起きようとしていること。三度目の正直。

TRYING AGAIN TO GET UP INTO SPACE.
THIRD TIME LUCKY?
米国のスペースシャトル 3 の発射予定は、1982 年 3 月 22 日だった。
『空からの火』によると、1977 年 1 0 月中旬からロシアは月の表面に出ていった。
ロシアは、それに 8 人を乗せ、広範囲粒子ビーム装置を搭載していた。
ロシアは基地への規則的な供給ミッションで、クルーを交替させた。
米国で売られているソビエト・ライフの 1982 年 2 月号でロシアは月へ頻繁に旅行をしていたというヒントを書いた。それには月から見た地球の写真を含んでいた。
彼らは、次に太陽系にコロニーを作る意図があった。
1981 年 10 月 30 日と 11 月 4 日に、ロシアは最初に 2 機の宇宙機を金星に、送ってレポートを送らせることに成功した。
彼らはまず最初に、1975 年に無人航空機を金星に送った。
1978 年から、彼らは、人々がどのように惑星間のスペーストラベルに耐え得るか見るため地球周回軌道での長期間の宇宙飛行に人を配置するとを始めた。
彼らは、1982 年前半に金星に着陸することを期待した。
ロシアには、彼らの先祖のバイキング精神で、はるか遠くの宇宙空間を身を乗り出して調査したいという衝動があった。
アメリカは、シャトルが一般人の作ったものであると話した、だがそれは軍のものであった。
3 台目のシャトルは、頭を旋回させるための水素ガス反応レーザー装置を設置していた。
これはそれによって確実に軌道に乗せ、シャトルを保護することを意図していた。
1982 年 1 月ロシア製宇宙船コスモスフェアのレーザーによる追撃以来、その改良によってシャトルは問題なく軌道に乗れると仮定した。
ロシアのキラー衛星は、すでに米国の偵察衛星から離れて、空をさっと通っていった。
それは、どんな方向でも砲撃する能力がある複雑なレーザー装置システムで、キャビン乗組員が強制されないのでアメリカのクルーは、宇宙服を着ていた。
先端には 5 つの共振器がある核ヘリウム・プラズマレーザを持っていた、そしてそれは、射程内

に入ったロシアのキラー衛星とロシア製宇宙船コスモスフェアを消去し続けるように、プログラムされていた。
アメリカのボルシェビキはロシアが多くのロシア製宇宙船コスモスフェアを奪われ、前の仲間がアメリカのボルシェビキを殺すのを止めることを、望んだ。
偵察衛星は、クルーが小さなジェミニタイプの再突入カプセルに帰ってくるように配備されていて、スペースの上の方にシャトルはいた
6 月 27 日に、19 億 8200 万人のアメリカ人は、スペースシャトル 4 が発射されるのを見ていた。
特大のロシア製宇宙船コスモスフェアは、2 回の速い発砲だけでブースターを撃墜させた。
ロシア人は、米国政府が面目を保つのを許し、来たるべき年にこれをアメリカのものに効果的に使うことを意図した。
次はモスクワでのアエロフロート事故の後、アメリカのパンナム・ジェットがニューオリンズに墜落して 153 人が殺される報復が続いた。
また『空からの火』著者は、ロシアが米国にあるダムに核爆弾を仕掛けたと、遠く 1977 年からアメリカが警告されてきたと、主張する。
まだそこの装置は、引き金で爆発することができるようにして、ある。
これをロシア自身が米国政府に発表したと主張する。
（およそ 74 個のスーツケース原子兵器が米国の市場に出されたと、ロシアからの最高の亡命者コロラド Lunev も主張した。そして、それは遠隔操作によって爆発することができる。
何人かはそれが偽情報だと言うが、彼の著作は Newsmax.com で見られる）

目次に戻る

38. アメリカへの大胆な攻撃

BOLD ATTACKS ON AMERICA
1982 年 7 月 15 日、ロシアの気象操作によって引き起こされた暴風雨で、コロラドは動揺していた。
水の中の低いところにある鉱山は、Lawn 湖ダムの基地で爆発した。
爆発によって、それはすぐに破壊された。
1982 年 7 月 16 日に、ユナイテッド航空 DC-10 は、ボルシェビキグループの主要メンバーをアメリカに集めるためボストンへ輸送した。
ロシア製宇宙船コスモスフェアは飛行機の船首の向こうで、焦点をぼかしたモードで、激烈に空気爆発を起こす荷電粒子線をつかった。
飛行機は劇的に下ってがたついた、そして、何人かはひどく傷ついた。
威嚇射撃は、以下を意味する軍へのメッセージである：

『ただちに止まりなさい、さもなければ、撃墜される。』、1982 年 6 月 22 日に、新しい核ミサイルのパーシング-2 の試験飛行はロシア製宇宙船コスモスフェアからの中性子放射線に当てられた。誘導装置はおかしく進んだ、そして、それ自身で自己崩壊しなければならなかった。
1982 年 9 月中旬にアメリカの権力中枢のボルシェビキ・シオン主義者とイスラエルの軍の作戦課は、ロシアに核兵器を向けることを意図した。
彼らは、最初に中東での戦争が超大国を巻き込むことを望んだ。
アメリカの第一撃は、ロシアの方へ向けると意図した、それはロシアに、『報復させる』ためで、自体を US によって電磁パルスで核爆発する nuking ようにして始められた。
アメリカの周りのいろいろな所在地から、高速ミサイルの弾頭は、打ち上げられ、激烈な EMP 事例をつくった。（electromagentic パルス）
それから、戦略核戦力 the strategic nuclear forces は罪人 the culprit である（ロシア）に報復する。
2 人の高位の上級ソビエト軍人は、ロシアからさらわれて、ワシントンに持ってこられた。
それらの 2 人の男性はロシア軍機構の中のボルシェビキの二重スパイであった。アメリカに来るまで、新しい非ボルシェビキ主権者はその 2 人を見つけて、除くのに失敗した。
彼らは現在の、ロシア軍の姿勢についての豊かなデータを持ってきた。
アメリカはその時、十分な情報があり、新しい内部データがあるときにロシアをたたこうとした。

目次に戻る

39. 権力のためのトップの闘い

THE STRUGGLE AT THE TOP FOR POWER
『空からの火の著者は書く：
「1982 年前半には、アメリカ政府が大きく分裂する隠れた権力闘争が、あった。
アメリカのボルシェビキである主要な政府スパイの国防長官［半分ユダヤ人らしい］キャスパー・ワインバーガーは、一方で、向こう側は、ロックフェラー・カルテル内閣官房長官のアレクサンダー・ヘイグ国務長官であった。
ワインバーガーとヘイグは、絶えずニュースで非公式に、激しく争っていた。
ただの操り人形の大統領レーガンは、その争いの中央にぶら下がっていた。
ロックフェラー・カルテルによって、レーガンは就任したが、1981 年 3 月に暗殺『未遂』の後、主としてボルシェビキ管理の中にいるようになった。
アメリカの軍隊は、1982 年 2 月までは主にボルシェビキによって、支配されていたが.必ずしもそうでない部分もあった
ロックフェラー・カルテルは、彼らの敵であるアメリカにいるボルシェビキの「核戦争への設定」を避けることに成功することができなかった;

したがって、ロシアへのアメリカの［原子爆弾による］ボルシェビキ奇襲攻撃の前に、軍部によるクーデターが行われなければならなかった。
1982年夏の間に予定される4回目のスペースシャトル飛行に続いて戦争がただちに予定されていたので、できれば、その飛行の前に、クーデターを行う必要があった。
レーガン-ベギン枢軸 Axis は、イスラエルのシオン主義者パートナーと共謀して、核戦争を始めようとして、完全に進んでいた。」
目次に戻る

40. 救助のためにステルス機が来た

アインシュタインの相対性理論の研究をクレイコンピューターで完成することによって、アメリカは『ステルス』戦闘機を開発した。そして、彼らにはその時不可視性技術があった、
これらは『幻の』軍用機と呼ばれて、特別な電磁ギアを持っている。

これらは、温度を絶対零度にピッタリと保持された超伝導マグネットを載せていた。
低温の素材は、航空機のまわりに非常に強力な電磁界をつくる。
そのフィールドは、アインシュタインの『統一場理論』の原則に従って設計された。
類似した仕事は、1943 年にフィラデルフィア実験 Experiment の間に、されていた、
磁石を用いて見えない軍艦『エルドリッジ』を作る、
しかし、、彼らはあまりに強力な、超空間に 4 時間の長さの間、船をいれた、その後それは、400 マイル離れているノーフォーク,VA に現れた。（However there was much more to that incident and Vols.
（しかしその事件は、他にも多くのことがあった。全文は THE UNIVERSAL SEDUCTION シリーズの 1 と 2 に、ある。）
アインシュタイン自身が、そのプロジェクトに関係した。
不思議なことに、1943 年の軍艦不可視性災害の後ジョン・フォン・ノイマン博士は彼の方程式を完成し彼の仕事を続けるためにはコンピュータを発明しなければならなかった、そしてその時、コンピュータのおかげで、米国は目に見えないようにしてロシアを核攻撃する準備ができていた。（それはまた、フィラデルフィア実験にも関係する）
アインシュタインは彼の仕事を決して完成しなかったがブルース・キャシーを含む他の多くが手作業で続け時間を操作する方法を数学的に発見し、彼の計算を通してそれが存在することを理解し、それを測定することができるようになった。
すべての物質はいろいろな波の大きさをもち互いに関して異なる速度で進むと彼が言った。

時間は、特定の波長周波数の 1 つの表現で、操作可能だと、彼は主張した。

目次に戻る

41. ロシア製宇宙船コスモスフェアに対するファントマ

PHANTOM AGAINST THE COSMOSPHERE

遠く離れていると彼らは全く見えないが、ファントム機はクローズアップしてみるとぼんやりと見つけることができる。

多くの「UFO」目撃例は、フィールドが隠しているので、ぼんやりと見えるだけである。

レーダーは光と同じ方法で動く、それは、ただ異なる波長を持つからだが、レーダーと、レーザーは両方とも光の性質を使っているのだから、光のために Phantom 飛行機が見えないように、レーダーでも認知できず、コスモスフェアのアメリカ人へのレーザー攻撃にも、免疫をもつことが望まれた。

しかしロシアは、洗練された赤外線光線検出器を使うことで、これらのフィールド通して見ることができた。

不可視性フィールドはまたロシアの粒子ビームシステムの追跡能力からの保護膜となるが、すでにロシアが見えないシールドへの対抗技術を開発していたので、計画は逆効果となった。

このロシアの荷電粒子ビームは光偏向シールドに対抗できるものではなかったが、唯一の望みは、それが目標を見落とすことであった。

ロシアも不可視性シールドを透過するパルス中性子ビームを持っていたが、アメリカはそれに対して電子装置の異常を適切に防止する非常に洗練されたシールドで、保護することができると考えた。

米国の上をロシアが 1977 年後半から威嚇したロシアのビーム兵器の全てに米国はびくともしないし、ロシアがスペースにもたらしたものは何でも米国は攻撃すると、考えられた。

米国は、ロシアに最後のもの以外は、すべての衛星とシャトルが落とされて以来、宇宙からの最初のスパイ・データをえたくてたまらなかった。

最初の 2 つのシャトル飛行は、成功しなかったが 1982 年 3 月 22 日の Shuttle COLUMBIA No.3 はスーパースパイ人工衛星の配備で写真を送り返えさせることができた。

クルーは、なんとか生きており、ホワイト・サンズ基地からのもう一つの予備シャトルを使用して普通に再び空から再入国して戻って帰ることができさえした。

クルーが着水のために小さなジェミニタイプ・カプセルを使っている時、COLUMBIA 3 はひそ

かに宇宙に残されていた。
目次に戻る

42. 大量虐殺の計画

THE EXPECTED GENOCIDE

『空からの火』の著者は、米国がその時、空飛ぶ対ミサイル超音波のシステム TU-144 と粒子ビーム兵器を備えている 1 ダースの基地を含めて中部シベリアを核攻撃する準備をしたと、主張する。

バイコヌールと Tyuratam、Plesetsk と、Kaspusin Yar にあるロシアの 6 つの宇宙基地と 4 つの宇宙船発射基地とセミパラティンスクとノボシビルスクの 2 つのコスモスフェアの施設

作戦では第一目標として 6 箇所と第 2 目標として 12 箇所があった。

このために中国の Sinkiang 行政区を確保するのは、必要だった、

1978 年 12 月 15 日にカーターの内閣は台湾を予想外に見捨て、中国との完全な外交関係が発表された。

米国の意図は、国の上にあるすべてアメリカの高速のミサイルの弾頭の

激烈な電磁パルスによって 1 分後に自分自身の国に難題を与えたすべてのロシアの目標を破壊することであった。

命令に従って戦略的な核兵器 Strategic/Nuclear Forces は、ロシアに対する報復を開始する。

それはシベリアへの核攻撃が起こった時の報復と、すぐに正確に理解される。

インド洋の米国の衛星信号はアメリカの Phantom 航空機への攻撃を確かめた、そして、報復があとに続いた。

コスモフェアの多くは、破壊されるので米国に報復のためには向へないと考えると期待された。

一方、アメリカのミサイルはロシアを攻撃し、ロシアはミサイル攻撃に対してすべての防衛力を取り除かれて空になり、核猛火の海で燃える。

それは、いずれにしろ理想であった。

住民のための民間防衛体制または地下避難所はないので、アメリカは核戦争を生き残ることを期待されていなかった。(一般人のための硬いブラストシェルターをもつロシアと違っていた)

『空からの火』著者によると、ボルシェビキ・シオン主義者はアメリカとロシア国民が嫌いだった、彼らは悪意をもって、無防備のロシアへの攻撃の試みにおいて米国住民を生贄として捧げる予定だった。

一方、米国の税金で造られたキャンプ・デービッドの政府戦争掩蔽壕や、Weather ウェザーマウンテン、パインギャップ Pine Gap、チャイナレイクといった他の何十もの所在地に、彼ら上級の人達は住む。

ボルシェビキ・シオン主義者の支配する米国が Rockefellers ロックフェラーから権限を得たとき、

世界支配を意図して、彼らは、ひそかに世界中に、特に、イスラエルに軍備を備蓄し続けた。
これは、銀行家と世界的なカルテルが両方の主要国に大規模な破損や破壊をもたらすことができるだけだった。

43. ロシアの軍事兵器庫を破壊するために裏をかかれた計画

PLANS FOILED TO DESTROY RUSSIA'S MILITARY ARSENAL
残念なことに、スーパースパイ衛星の探知は、1982 年 3 月に始まり
第 3 シャトルは各々のコスモスフェアのコスモドロームのまわりに多数の小さなドームの施設がリング状に配置されているのを見つけた。
これらは、電子防衛力によって攻撃をそらすことができない Rail Guns であった。
『空からの火』著者によると、7 月 13 日にプラウダはソビエト・ウスチノフ・マーシャル国防相によるスピーチを発表し、米国はソビエト連邦との技術的戦いを組織化し国家威信をかけた取引をしようとしていると、言った。
ウスチノフ・マーシャル国防相はまた、ワシントンへすこしぼかした警告を与えた：
原子兵器の先制第一撃による使用法は、アメリカの勝利に保険をかけることができない。」
ロシアの新任のリーダーはレーガン政権に彼らを攻撃する計画があることを知っていた、そして、それが実行されるならば、ロシアは予定のアメリカの第一撃を破る用意ができていた。
しかし、米国は気にせずに計画を続けた。
『ファントム』飛行機は、北ノルウェー、東部トルコと中国北西に拠点を置いた。
ロシア製宇宙船コスモスフェアを打ち落とすために、これらの地域にハイパワーなレーザーが、持ち込まれた。
見えない無人『ファントム』は、彼らの目標に神風のような激突をしようとしていた。
ロシアがアメリカを本当に核攻撃する間、政府のお偉方は彼らの地下基地で放射線から守られている。
彼らは、ロシア国民が 5000 万人の死者と数百万人の負傷し死んでいくことを期待 expected していた。
アメリカ人の 5 人のうち 4 人は死ぬところであった、これは犠牲である、そして、多分、4000 万～5000 万人のアメリカ人は死んだろう。
総力を挙げた戦争の日は、1982 年 9 月 20 日に設定された
ー（新年祭 Rosh Hashanah）のトランペットの饗宴。
1982 年 8 月 24 日に、ニューヨーク周辺の上でもう一つのロシア製宇宙船コスモスフェアは、撃ち落とされた。

それは高速の火球を発生させた。そして、それはニューヨークタイムズで『上空にいる小惑星の燃焼』の可能性があるとして書かれた。

要約すると：

1981 年 4 月 12 日に発射される COLUMBIA 1 は、2 つのロシアのロシア製宇宙船コスモスフェアによって落とされた。
それは、中部ロシアのカザンの 85 マイルの南で粉砕された。
エドワードの空軍基地で、シャトル『エンタープライズ』と俳優を利用して偽の着陸が行われた。
COLUMBIA 2 は、乗組員を乗せずに 1981 年 11 月 12 日にひそかに発射された。
それはロシアの TU-144 ジェット機のビーム兵器を使って、フィンランドの近くの、ホワイト海の上に、落とされた。
COLUMBIA 3 は、1982 年 3 月 22 日に発射された。
それは特別な新しいスパイサテライトを軌道に乗せて回すことを意図していた。それはロシアの宇宙兵器からの攻撃に備えてタングステンで堅くされ、ロボットに制御されたレーザーで武装し、打ち返すことができた。
シャトルも、レーザーで武装していた。
それは、1982 年 3 月 30 日にホワイト・サンズに着陸したと見せかけた。
それは、新しいレーザーで武装した偵察衛星をうまく配備していた。
クルーは、初めて帰った。
1982 年 6 月 24 日に SPACE SHUTTLE 4 は、うまく発射された。
その目的は、戦争を起こすためのファントム航空機の攻撃を確かめるために人工衛星を配備することであった。
Attack Confirmation Sensor 攻撃確認センサーは、補助ロケットでインド洋の上の静止軌道に配置された。
ロシアの宇宙兵器のもつ（赤外線の）『熱』センサでの発見を避けるために、それは低温の（0 度）衛星であった。
熱を検波するアメリカのレーザーはロシア製宇宙船コスモスフェアを撃墜するためにも用いられているので、ボルシェビキはロシアが彼らの重要な偵察衛星を見つけることはできないと確信していた。
しかし、ロシアは彼らに彼らの偽装のために故意にそれを見つけることができなかったと思わせた。彼らがコスモスフェアを飛ばすのをやめた理由は見つけられるからであった。
その代わりに、ロシアの目標-追尾装置は、物質の原子的な振動を検波した。
それは、ロシアだけがマスターした秘密の兵器であった。
ロシアへ捕らえられ連れて行かれたナチスは、それも開発したのか？
ペンタゴンは罠にかかった。
CIA 内のロックフェラー・カルテルのスパイは、ロシアに最新版を与えた。
しかし、Phantoms が成功したかどうかの情報を、ロシアの電話システムががどの程度確認したかを知る、バックアップ計画を依然持っていた。

狡猾なロシアはクレムリン（権力闘争）に不安定な状況があるかのようにリークした。
米国ボルシェビキは、そのために倒れた。
6 月 24 日に、SPACE SHUTTLE 4 は発射された、そして、その翌日、ロックフェラーの操作しているアレクサンダー・ヘイグがやめさせられたとき、クーデターが起こった、そして、ボルシェビキ/シオン主義者のジョージシュルツは国務長官を引き継いだ。

ロシアは、次のスペースシャトルも攻撃し続けた。
1985 年 11 月 26 日に、スペースシャトル ATLANTIS は打ち上げられたが空に不可解な光が、出現した。
Tom ビアーデンによると、発熱モードのスカラー干渉計が、発射の前にその地域に発射された。
発射の 12 分後に、巨大な大気の、地響きを立てて進む爆発が、その地域に起こり、海岸で、そして、数百マイルにわたってその下で聞こえた。
ソビエトは彼らの ABM/反爆撃機ミサイルシステムをテストするために、シャトル打ち上げの機会を使った。
しかし、それはそこに明らかにとどまった。
Tom ビアーデンによると、スペースシャトル CHALLENGER は公衆からまる見えの所で、落とされた後、他のシャトルの打ち上げも多分ロシアの兵器テストであっただろうという情報も伝えた：

「明らかにロシア（KGB）は、それを破壊することをすでに決めた、
そして、我々の多くの人々が起こったことを認めないし仲間がスカラー干渉計形について何にも知らず、確認せず、信じないことはすでに証明され、ロシアがこの方法で続けるとすれば人は複数の致命的な追撃を予想する。
アメリカに好意的なスカラー兵器をもつ小さな国。
アメリカに友好的な小さい国が非常に大きなロシアのミサイル貯蔵施設とそうした戦略的な目標を、砲撃と干渉の連続でいくつか破壊したとき、緊急停止に追い込まれた。
1 ショットは、1 隻の大きなロシア艦隊の、3 分の 1 のミサイルをノックアウトした。

その小さい国はすでに少なくとも使用可能なプロトタイプの量子ポテンシャル兵器を持っていて、その時ロシアを地上から吹き飛ばすことができたので、KGB はその時点でゲームを楽しむことをやめた。
そして、ロシアはそのことを知っていた。
それは、彼らの外交を支えるものを崩壊させることなので、甘い理由ではなかった
それは、厳しいものであった。
舞台裏にそのようなすべての活動の余波は無気味にとどまり、それは決して公的ニュースによって公認されなかった
そして、結局、ソビエト経済は崩壊し、ベルリンの壁は崩壊した、そして、あなたはその後のことを知っている.」

彼は続ける：
「『戦争』は、決して冷い戦いではなかった。
舞台裏では、戦略と策略の継続と戦略的な攻撃に対する人間の心によってこれまでに夢見られた最も素晴らしい準備があった。
我々は神の力によって、そして、地球の上で最も強力な兵器のいくつかを持っている友好的な小さい国のガッツとスタミナによって、それを少なくとも今まで通り抜けた。」
(ビアーデンの頁は、彼の他の著作からみても、これは、イスラエルであったことは疑えない)
ロシアはロシアの兵器により宇宙と海を完全に支配することを意図していた。彼らはヨーロッパでの共産主義の指導者との会談でこのことを述べた。
彼らは、これが特に『平和共存』のための使用法のために開発され、準備することが許されていることを示した。
ビアーデンは例外があることを、注意した。
1986 年 1 月 28 日の CHALLENGER スペースシャトルへのスカラー攻撃の災難の証拠が注意された：
シャトルの右の翼の下に閃光が、観察されている。
第 2 の閃光は、右の翼を追跡しているのが見られる。
第 3 の不可解な閃光は、シャトルの右の翼の下への流れに見られた。
70mm のトラッキング・カメラによるクローズアップ：
すばらしいオレンジ球の炎は、明らかに、右の翼の下から出てきて、固形燃料ロケット・ブースターの柱と、す速く結合する。
この現象は､前の発射が行われたときにも見られた｡(発射の後トラッキング･フィルムの分析で、観察される)
シャトルが爆発する前に、この場面は撮影された。
彼らが見たこれは、スカラー干渉計『ミサイル』なのか？
これは発射が行われる前に、見られたものであった。
この最新の 2003 年の COLUMBIA シャトル災害は、ロシアによるものでないかもしれない。
2003 年 2 月 1 日の COLUMBIA 災害のスカラー攻撃は、ここで見つかる：この Gulufuture も、このタイミングでの中国のスカラー兵器の運用の可能性を探る､､。

2003 年 2 月 1 日での COLUMBIA 爆発で、中国はモスクワで
"..ありうるかもしれない米国の先制攻撃に対処するために、十分調査をする」。と言った、
Gulufuture は次のようにも書いた：
「米国スペースシャトル COLUMBIA に対するスカラー･爆発攻撃は､中東乗っ取りの英米の計画を弱めるため先制攻撃をしたのだ。
中東への US 英国侵入予定で起こる紛争の発生前の小競り合いを続ける際の、心理戦が、前面に出てきていた。
COLUMBIA がテキサスの上空で電磁波の『壁』に激突したが、このときは、風が破壊的だった。
2003 年 2 月 1 日土曜日、米国スペースシャトル COLUMBIA を撃墜する目的でスカラー・テスラ Howitzer 兵器が使われたが驚くほど成功し、ロシアはペンタゴンに計画をやめさせるよう赤

い顔を向けた。
そして、一日中、私は巨大な爆発を聞いた人々の報告と多くの証人の話を読んでいた。
Gulufuture はこれがすでにスカラー電磁イベントの大きい手掛かりの 1 つであると指摘した。
巨大爆発 Big Big Booms」
これは、また、急成長し進歩している粒子ビーム兵器でもありえた。
それが爆発する前に、オブザーバーによっていろいろな紫の閃光のようなものが見られた。
若干の例外として Conspiracy Nation によって新型の兵器からの COLUMBIA への攻撃が書かれたのが発見されたことである：
サンフランシスコ・クロニクルと他の新聞社も、不可解な写真に言及した、
「そのシャトル COLUMBIA の 5 つの変な挑発的な画像は、土曜日の夜明け以前に大気圏に再突入したときのものである。
何がシャトルの通過過程のまわりで光り輝く電気現象のように見えたか、写真は明らかにする。（三脚の上の 8 台のニコンのカメラで撮られた）」
ビアーデンは 2003 年 2 月 1 日に撃墜された COLUMBIA についての彼のコメントにおいて、未知の情報源の言うことを信じて、ロシアを非難するよりはむしろロシアからスカラー兵器を賃貸された日本のヤクザとオウム真理教が US で 1989 年以降、気象工学を使用したことによる不思議な絶えざる災害について言及した。
しかしビアーデンの COLUMBIA についてのもう一つの記事がここにある。
ビアーデンは、COLUMBIA 災害に関係することを書いた：
「危険なグループにリースを支払い続けさせるために、航空機など落とすなど随時、ヤクザなどが劇的な何かをすることを、（新しい名称になっていてる）KGB は許可しなければならない。
ヤクザは内密に縦の EM 波インターフェロメトリー技術を日本に渡しており、何からも完全に孤立した者たちか、明らかに日本政府による意図で、日本自身が、非常に隠れた施設で中小の携帯用の兵器も現在生産している...
しかし、アルカイダより強力なヤクザは米国の主要な敵である、そして、その時が来ればいつでも、彼らは米国の最終的な破壊のために直接大きな戦略的な攻撃に参加する意図がある。
これを WW II の敗北と、原子爆弾を日本に落とした米国に対して、武士道の概念で、恥のために、復讐を考えていると、彼らは見ている。
まだヤクザは、古い武士道をすこし変えて、動いている。」
1989 年後半に、危険な日本チーム（ヤクザマフィアとオウム真理教カルト）がロシアのサイトで（KGB から）スカラーEM インターフェロメトリー兵器を賃貸したと、ビアーデンは言う。

1990 年前半から、ロシアのそのサイトの危険なチームは、北アメリカの気象を直接操作していた。
いくつかの非常に大きなロシアのミサイル貯蔵施設とそれに似た戦略的目標をイスラエルが破壊したとき、シャトルを狙うことと干渉の連続は止まった。
誰もがスカラー兵器を捨てない限り、世界のもの事は崩落しそうに、見える。
ロシア自身のすることで飛行機墜落事故が起こり、恥と屈辱に満ちた何が起こっているか見るために、ウェブ検索をした。

（しかし、ナチスの南極大陸の UFO がロシアと何か関係があるかもしれず、事故とも関係するのではないかと、人は疑問に思う。そして、特に捕らえられたナチスがロシアの飛行機をつくったことを知っているし彼らも超強力兵器を持っているという証拠が、ある。）
1973 年、パリ Air Show で Tu-144 に本当に何が起こったのか？
それは操縦ミスであったのか、ソビエト SST のデザインの欠点、あるいは、不慮の事故だったのか？
ジェームズ・エーベリは、以下のように書く：
「1973 年 6 月 3 日、航空ショーの最終日、大勢の 200,000 人の航空ファンの前でマッハ 2 で、異なる 2 機の大型旅客機は、近距離で飛んだ。
最初に、そこで英仏コンコルドは素晴らしい接近飛行と旋回をした。それは大型旅客機というよりジェット戦闘機のようであった。
それから、Tu144 は旋回をした。
パイロット・ミハイル Kozlov はコンコルドを上回るために最善を尽くした。そして、Runway 060 に沿って低空接近飛行で一連の操作を完了した、...
ジャーナリストは、空中での飛行機の低速度を気遣っていた。
彼らは飛行機の後部のショック・ダイヤモンドが塗ってある 4 台のエンジンがアフターバーナーとして作動し始めるのを見た。飛行機が滑走路の端に達すると、危険なほど急速に上昇飛行に移り始めた。
パイロットの Kozlov のほとんど垂直の上昇は、その意図された効果を出していた：
... ストレスで左の翼は、壊れた。
その後の翼の付根が壊れた、そして、破裂した燃料タンクが爆発し、小さなオレンジ照明弾が炸裂した。
飛行機は、地上にまっすぐに落下した、恐怖を抱いて見ていた新聞記者は、後年思い出して「矢のようだった」と、もう一度言った。」
これについての別の意見は、Jean Alexander アレクサンダーから来る。
. ..それは、事故がフライングコントロールシステム・ミキサー・ボックスの故障によるという考えであった、
ピッチそして、横揺れをエレボン運動に変えるのはコントロール機械装置である
...その事故は、まず最初に具合が悪い滑走路に着陸しようとしているパイロットによったと非公式に報告された。
離陸地点で、彼は彼自身でミラージュ戦闘機との衝突進路を再び発見し、それを避けるために、鋭い角度で Tu-144 の先端を押し下げた。
これはその時、映画撮影をしていた副操縦士を放り投げた、そこから復ったとき、それがあまりに突然であることがわかった。そして、右舷のメイルウィングパネル構造の故障の原因となった。」
もう一つのロシアの航空機事故は、1999 年に起こった：
「パリ航空ショーが事故でオープンした。
1999 年 6 月 12 日 LE BOURGET（フランス（AP））
世界最大の航空ショーは、今日開かれたがロシアの最先端ジェット戦闘機のプロトタイプが飛行デモンストレーションの間、墜落し不吉な思いを多くのものに与えた。

第 43 回のパリ Air Show で、青と白のスホーイ-30 MK はパイロットのコントロールしていた急降下でパワーを奪われ、ダイビングしてまるで木の葉のようにひらめいて終わった。
飛行機は地面に落下して、軽くそれに触れたように見えたが、船尾が燃えて、大気に舞い上がった。
英報道機関は、それについて以下のように言った：
「エンジンから炎が出て爆発した、そして、スホーイは急に、ほとんど垂直に上り始めた。
数秒後に、空中でねじれ始めたので、2 人のクルーは飛行機から脱出した。
1 人の見物人は以下のように述べた：
『航空機は、パーワーが奪われたようだった。
船尾は滑走路に激突し、後部燃焼装置も激突した』。
他にロシアの航空機事故が、2001 年 6 月 10 日に起こった：
「聖ペテルスバーグの近くの Levashovo 飛行場で 2 機の L-39 トレーナー・ジェット機が、空中で衝突した。」
プラウダ Pravda.RU は、2001 年 6 月 23 日にロシアの航空ショー災害について次のように書いた：
「フランスの航空ショーでの飛行機の撃墜は、ロシアの戦争での誉りが侮辱された：
MP
Le ブールジェ航空宇宙ショーのロシアの戦闘機墜落に関するスイスに本社のあるノウガ社の主張は、常識に逆らったものであった。
墜落が 6 月 22 日（第 2 次世界大戦のソビエト連邦へのナチの攻撃の第 60 回目の記念日）だったので、問題はさらに悪い。
非道行為はロシアの戦争の栄光を傷つけ、自身とフランスと他の国の自由のためのの戦いにおける、兵士と戦死者への栄誉ある記憶を侮辱したと、上院議員は指摘する。
フランスの第二次世界大戦のノルマンディー-Niemen 飛行連隊のベテランがロシアを訪問しているとき彼らが突然の墜落を無視したので、フランスの当局は彼ら自身を恥で塗りつぶしたと、Marghelov 氏は言う。」
次に航空ショーの 3 回目の災害が、来た：
「2002 年 7 月 28 日。
ウクライナ：
航空ショーでの歴史上の最悪の災害。
西ウクライナの航空ショーで 83 人の命を奪った災害が、起こった、これはこれまでで最悪である。
金曜日の MSK 12.45 にスホーイ SU-27 が墜落したとき、115 人以上の人々が負傷したことが報告された。
飛行機はおよそ 2 分間、空にあって、次の動きを実行していた。
それから、それは静かに進んだ、そして、飛行機は地面に向かって進み、その翼は木を剪断し、地面でもう一つの土手に触れて止まった。
It then hit the tarmac.
それはターマックに当たった。
経験豊かな 2 人のパイロットによって飛んでいた航空機は、パワーを奪われた。

災害のちょうど 1 日後に、ロシアの航空機（イリューシン Il-86）はモスクワの最大の空港から離陸して墜落した。そして、少なくとも 14 人を殺した。
ウクライナの当局は、特にこの 2001 年 10 月の後の軍の事故を気にする、
ウクライナの軍事基地から発射された誤ったミサイルがロシアの飛行機を撃ち落としたとき、
乗っていたほとんどイスラエルへの移民全 78 人を殺した。

2000 年 9 月に、もう一つの Su-27 は、操作の間、Zhytomyr（西ウクライナ）に近いところに墜落しパイロットだけを殺した。
Su-27 は 1 人または 2 人の搭乗員の、異なる構成で作られている。
ウクライナのごく最近の他の軍の飛行機事故では、飛行機が修理されたあと、起こった 2002 年 4 月の Zaporizhia での、Su-25 ジェットの墜落でパイロットが、死んだ。
1994 年にロシアのエアバスは中部シベリアに墜落し、米国連邦航空局にロシアの民間航空を監査するようロシア政府に強制するよう依頼したことについて、英国 BBC NEWS は 2002 年 7 月 29 日に書いた。
その結果、1997 年から 2 つの事故があった 2001 年中頃までロシアの民間航空が犠牲者を出していなかった。
ウクライナの航空ショーの事故は、その国が米国の監視を求めるようにする、原因になる場合がある。
もう一つは 2002 年のドイツとスイスの国境でのロシアの飛行機の衝突で、もう一つは 2002 年のイリューシン Il-86 大型旅客機墜落があった。
ロシアは、ロシアの民間航空機が安全で国際基準であると世界に言い始めた。
すでにロシアがスペースシャトルとアメリカの航空機にしたすべての損傷とミサイルを考えると、これは皮肉である、しかし、南極大陸から来た隠されたナチ UFO 自身のビーム兵器を使って、によって、これらの一部のロシアの航空機の墜落はされたのか？の
結局、ロシアは 275,000 人のナチスを捕らえて、決して彼らを帰らせなかった。
また、携帯用のスカラー形ビーム・バズーカがあるので、飛行機はもう安全でない。
目次に戻る

44. ブラジル

トム、ベアーデンによると、ブラジルは量子ポテンシャル兵器を持っている、そしてそれは、細胞・レベルで誰かに病気を誘発するためにそのサインを入れることで、スカラー干渉計を使う。
湾岸戦争 Syndrome（GWS）で、このテクノロジーを使用しているロシアによって、複数の病気の、発生原因になったと、ビアーデンは主張する。
ジョイス・ライリーによるとその場面で湾岸戦争 GWS は、少なくとも 400,000 人の軍隊がそうなった。
何千人は死んだか、使用不能になった。
このテクノロジーは、まだ進行中でない遺伝性疾患を誘発させることもできる。
ブラジル人にある未知ものが量子ポテンシャル兵器を与えた。
Dino Kraspedon（ブラジル人）によって書かれた本『私の UFO とのコンタクト』で、ライターは 1952 年に木星の衛星の 1 つから科学者がサンパウロを数回訪問したと主張する。

彼は人間の宇宙人の宇宙船に入った、そして、乗っている間に、木星人は反重力推進力がどのように科学的に動くか説明した。
宇宙人はいくつかの言語を知っていて、聖書さえ引用し、歴史的イベントの名称と日付を言った。
彼はそこで生きているジュピターの衛星人々はいろいろなサイズと色の人間であると、言った。
彼は惑星の回りにある、エーテルの層を詳しく述べ始めた。そして、電子は磁気スペースを歪めたもので、波形で伝播するといった。

電子は、原子の中の固定された波形である
そして導体の表面に沿って動く磁石によって作られる磁場でローターを回転させることによる電子の流れによってその電気は、作られる。
電子は可変的な波形を持つ、そして結果として、その特性は実質的に無制限である。

原子のフィールドの占有した Stationary 電波には各々にこれら自身の特定の波構造がある、そして、たとえこれらがスペースの同じ領域を占領するとしても、様々な長さの周波数と波はラジオで示すように互いに干渉しない。
彼は、明示的に、磁場とアインシュタインの相対性 Relativity に関する詳細と特に太陽の光の互いによる反発方法と物が引きつけられる方法を伝えた。
Jupitarian は、すべての惑星がどのように回転するか、そして、彼らの磁場がどのように太陽の磁場に関して動いたか説明した。
また、超空間の真空、異なる大気の層と、人々が露骨には詳細には知らなかった真空についてと、すべての物理学に、光が影響を及ぼす方法について、彼は話した。
世紀の終わりに我々の太陽系にもう一つの太陽が入り補助システム作ることが彼がここに来た理由であった、Jupitarian は主張した。

彼は惑星のすべての軌道が変わると言った、そして、多くの人々は地球からいなくなる、そして、善人は『エクトプラズム』で再現され rematerialize、1 種類のより高い体に変わり再び『生きる』。

（彼は時折、幽霊がエクトプラズムを用いて『現実化する』ことができると言った、そして、彼らはその物を身体的なままにいさせることができる、そして、それはまるでそれのようだった！
Kraspedon の友人は 1952 年 6 月にソ連科学アカデミーに本を送った、そして、1952 年 9 月に、彼らは非常に興味を持っていたと言って彼に返事を書いた。
ソビエトは数週間後にちょうど 86kg の重さの最初の衛星を上げた、アメリカは軌道上で 5kg の衛星だけがそれ自体を保持することができると主張した。
ロシアのキャリヤーロケットも軌道上に打ち上げられた、そして、ロシアの宇宙プログラムは 1952 年に急速に発展したのでそれは衛星より非常に重かった。
1959 年に、もう一つの太陽が我々の太陽系に入ると主張したある金星人が、オランダに訪ねてきた。
同時にブラジルのカトリックの Santos 大学ローマ法の教授が、Kraspedon という空飛ぶ円盤の乗組員と接触していた、そして、彼は真空の作成によって反重力の推進力のシステムの詳細について話した。
1950 年代に、有名なアメリカの George アダムスキーは、彼に反重力推進力について話す金星人と連絡をとった。
主要なブラジルの週刊誌（Istoe）は 2003 年 9 月 3 日に発射された、ブラジルの VLS ロケットを電磁パルスが破壊したと報じた。
ブラジル空軍は破壊活動であったと考えていることにこれは一致する。

予定の離陸の 3 日前に、それは発射台で突然の不可解な ignition イグニッション爆発発火があった、そして、スポークスマンは以下のように言った：

「まもなくロケットに火がつくがその前に、一つの問題も見つけられることなく、すべての最終プレ発射テストは終結した。そして、完全に発射台を焼きつくした火事を誘発した。そして、それは最大限で 3,000 度 C に達した。
ほとんど手掛かりなしに起こった爆発を融解した金属の質量で、調査している陸軍将校は、（アルカンタラ宇宙センターの位置する）サオルイスに、誰がその週存在したか調べ始めた。
驚いたことに ― Istoe が報告することでは ― 彼らは、驚くべき数の海外の人が（彼らの多くはアメリカ人）その週 Sao ルイスのホテルにチェックインしたのを発見した。

それらの海外の人の少なくとも 8 人は、調査中である.... //（例えばマイクロ波光線または電磁波）ロケットの使用のための海外のエージェント代理人であるか問い合わせている。

「若干の衛星からとか、小さな装置からの電磁波、または、宇宙からさえ火で焼くことができた」と、科学者エディソン Bittencourt は示唆する。そして、教授はブラジルの Aerospace テクニカルセンターにいる」［情報源：2003 年 9 月 3 日の、EIR　sources と Istoe、］
ブラジルは、ロケット爆発と続いて起こった火事で、宇宙プログラム・チームの 5 分の 1 を失った

それは最も資格のある国の宇宙航行学者の 11 人と 10 人の技術者である。
その一連の品質を再構成するためには、3〜4 年、Aerospace Technical センターの役員、准将を連れて行かないといけない。
ティアゴ・リベイロは、話した｛Istoe｝。
［情報源：ロシアの通信社。］
ロシア専門家はアルカンタラ発射基地の大災害の 8 月 22 日以後、その宇宙技術プログラムを続けているブラジルを助けることを申し出る。

発射基地の良好な部分を破壊して、少なくとも 21 人のブラジルの宇宙技術エンジニアと発射人員の命を奪った 9 月 4 日に行われた VSL 打ち上げロケットの爆発の原因の調査を助けるために、彼らは、ブラジルに到着する。
爆発を引き起こしたのとは、スカラー干渉兵器であったか？
http://www.rumormillsnews.com のフォーラムで、それは言われた：
「ドイツ/宇宙人の 40 年 ies 以降のと同じテクノロジーが悪い意図で溶け込んでいるという、ブラジルからのボイズのストーリーは、常に火を放っている。」
ロケットを宇宙へもたらし、有利な国際的な航空宇宙の市場に入るブラジルの 3 回目の試みにおいて、2003 年 9 月赤道のアルカンタラの都市で彼らが発射に備えたときの爆発で、およそ 2 ダースの技術者が負傷した、。

ブラジルの全国の宇宙研究所によって人工衛星を開発し、6.5 100 万 US ドルの VLS-3 ロケットは、次の日打ち上げる予定だった。

6 月に、アルカンタラ基地からの国の Cyclone ロケットの発射に、ブラジルはウクライナで契約にサインした。
ブラジルは長く事業用航空機の成功した輸出者で、20 年の間衛星打ち上げの一年の市場を 600 億 $US に拡大しようとしていた。60 billion
（しかし、多くの兇器を衛星に置くことができる。）
1997 年 VLS-1 の離陸の後大西洋に衝突したエンジンが、問題の、原因となった。
1999 年に、離陸の 3 分後にそれが故障したとき、VLS-2 は遠隔操作によって破壊された。
ブラジルの大統領は、ブラジルはそれ自身の宇宙技術を用意する努力を続ける約束をその後再確認した。
ブラジルの科学技術大臣は 2003 年 10 月 21 日に行われた記者会見で中国はブラジルと科学研究について協力し、原子力とその発展のような、航空宇宙の分野で（両国のためになる）協定があると言った。
主要な建設プロジェクトを拡張することについて話すために、ブラジルの外務大臣も、インドを訪問した。
インドは、ブラジルのマイクロ-衛星を打ち上げるために、ブラジルにインドのスーパーコンピュータを売ると申し出た。
国連を改良したい一群の 20 の国（WTO Cancun 会議で引き合わせられた）に、インドとブラジ

ルはいる。
多くの国のスカラーと量子ポテンシャル兵器と彼らの同盟のため、ブラジルの宇宙プログラムについては多くのことが知られる必要がある。
2000 年 4 月に、世界の一番上の衛星打ち上げを据え付けるのにはまだ未熟な宇宙基地を改革するために、ブラジルはアメリカとの協定に入った。
米国企業は、基地（アルカンタラと呼ばれられる）を他の赤道の衛星発射基地― 例えば仏領ギアナの Kourou 基地 ―に代わるものとして考慮している。
世界の 17 の発射サイトのうち、ブラジルは赤道に近接している。 ― それの、8 つは商業発射を可能にする ― ロッキード・マーティンと Orbital　Sciences は、関係をもちたい。
しかし、現在までで最も野心的な宇宙計画の 1 つは、アマゾン（SIVAM）の Vigilance のための 1.4 億ドルのシステムでのレイセオンの役割である。
SIVAM は、大部分が軍のプロジェクトであると長く思われていた。
レイセオンは、HAARP 送信器と関係している。
マサチューセッツレキシントン、航空宇宙企業がアマゾンの 310 万平方マイルをモニターするセンサーおよびコミュニケーション装置の洗練されたウェブを建てている。 ― 衛星、監視航空機と何十ものレーダー方式を含む ―
1980 年代には、ブラジルは、航空交通をモニターするためにレーダ局を 3 つの村に設置する 6 億ドルの小さな計画をまとめた。
2002 年までに、プラットホーム、センサ、コンピュータと処理センターの非常に高度なシステムがあるようにすると約束する。
ブラジルは、スカラーと量子ポテンシャル兵器を持っている。
彼らは、誰に対してこれらを利用するか？
レーダーは、スカラー送信器に簡単に変わることができる。
レイセオンがブラジルの政府官僚に贈賄したという申し立ては表面に出た、しかし、これはその偽りを暴かれた。
プロジェクトは、天候とイメージ衛星受信装置、環境センサ、監視航空機と気象レーダーを使う。
1999 年 12 月 19 日には､2 つの失敗した発射の後､ブラジルは科学衛星を廃棄することに決めた。
ロケットの 1 機は、およそ 3 分後にぐらついて、そのロケットをコントロール所が破壊することを強いられた。
4 段・ロケットと、数百万ドルの気象衛星とコントロール所を運ぶロケットと衛星を、遠隔操作によって破壊した。

「何かが働き始める前に、見られたよりも多くの他の国のロケットを爆破しておく」』と、当局者は言った。
2000 年のブラジルのフランスの協力者は、科学実験を行うために、新世代衛星をつくった。
4 段ロケットがその推進力構成部分の 1 つに関するまだ未確認の問題で苦しんだあと、600 万ドルのフランスの Saci-2 気象衛星は土曜日に発射の 3 分後にそのロケットは（再び）破壊された。
It
それは最初のブラジルのロケットの爆発と類似しているようだった。そして、それは 2 年前は最

初の Saci 衛星に勝っていたが発射のすぐ後、爆発した。
未知の情報源では、これらを落としたのか？
ブラジルはもう一つの出来事で中国から打ち上げられたもう一つの衛星との接点を奪われた。そして、それは爆発の直後に失敗した。

1999 年 11 月に、南米の国から宇宙に発射しているウクライナのロケットに、のることを、彼らが望む海外協力合意に、ウクライナとブラジルの当局が木曜日に署名すると、KIEV（ロイター）は書いた。

その Zenit ロケットの 1 機が前ソビエト・カザフで発射台から発射の直後に乗員と 12 万-ドルの衛星とともに墜落したとき、国際的な商業衛星大型ボート事業で主導的役割を引き受けるというウクライナの野心は 1998 年に妨げられて苦しんだ。
しかし、後のもう 3 機のロケットは、うまく発射された ― 1 機はカザフからで 2 機は太平洋のサイトからであった。
人は、誰がブラジルの宇宙プログラムを破壊しているのか、あるいは、誰が本当にその後にいるか疑問に思う。
ブラジルの本当の敵が誰なのか、知られてない。
数年前 UFO がブラジルでとても一般的であることが発表されたので、数人の宇宙人は空港に着き政府とともに働いているのかもしれない。
他の国がひそかに持つワームホールを使って宇宙を旅行するための入口が開かれるならば、特にこれはいろいろな国に興味を持たせる宇宙プログラムである。
グリッドの結節点にある宇宙センターでそれは、行われているかもしれない。
バチカン宇宙センターが南アメリカにあると言われている、しかし、ブラジルの基地は知られていない。
1996 年にハッブル望遠鏡が宇宙で何を見たか、バチカンは非常に興味を持っている。
NASA は、地球より上に深宇宙に掛かっている何百もの幅 300 マイルの『skycity』の写真を明らかに持っている。（明らかにヨハネの『新エルサレム』の黙示録の説明に一致する）
この『意外な事実』は、UFO マガジン（英国）の 2003 年 5 月の記事でカバーされた。

この主題を議論するための、世界と宗教の指導者の大会と出席者数とが 1996 年にあると、それは明らかに言った。
これの後、バチカンはアリゾナでその望遠鏡をアップグレードすることに数 100 万を費やした。
たぶん、ブラジルの宇宙センターかバチカンは地球から新エルサレムの宇宙基地まで代表を送ることを望んでいるのではないか？
多くの陰謀は、地球の向こうで起こっている。

目次に戻る

45. インド

インド、南アフリカとブラジルの間にも三国協力が、ある。
彼らが南アフリカとブラジルと密接に科学的なプロジェクトに熱中するならばそして彼らとともに、特にインドが他の領域を（例えば物理学とコンピュータ）進めるならばインドにはスカラー技術を学ぶ多くの機会があるかもしれない。
それで、この事故で、21 人のブラジルのスペース技術エンジニアが死んだという事実とその週にアメリカ人と他の外国人が地域のホテルに集っていたということは疑わしい。
何人かの数の人々でこれができたのだが、ロケットを建造するのをまず最初に手伝ったナチ科学者がいたら、イスラエル人は多分興味を持つだろう。

ウクライナ人またはロシア国民がいたならば、アメリカはそこに興味を抱くだろう。
もし中国人がいたならば、日本人は興味を持つだろう。

インドの古代の vedic の著作はかつて反重力 UFO を危険なビーム兵器を完備したように書いた、そして、怪しむことは彼らは物理学に非常に器用で、コンピュータ技術を進歩した彼らが最近製造したならば、魅力的である。

目次に戻る

46. 日本

JAPAN
ハリー・メーソンによる Bright Skies という記事によると、1993 年 5 月 28 日の、23:03 時オーストラリアの西の、レオノーラから北の Laverton まで、大きな赤橙色の球状火の玉は、小さな青っぽい白円錐の尾とともに飛んだ。
通る前に、それは騒々しいパルス状の、大きいディーゼル機関音を発した。
多分非常に長い飛行経路を持っているのだろうが、それは南極大陸から始まって南インド洋の上で少なくとも 250km 以上の距離で目撃された。
それは地平線の方へ下って弧を描くように見えて、消えた。
およそ 3-5 秒の間さざ波を立てた目くるめく、青い白色光の大規模な高エネルギーの爆発が、こ

の後に続いた。そしておよそ 100km の、あらゆる方向が昼間のようになり、風のない、雲のない、月のない夜を照らした。
それは核爆発のように見えた、しかし、クレーターは決して見つからなかった。
巨大な赤い色の火が数 km 垂直に噴出しそれから、大きい地震の地上波（激しく地面を揺らした）によって人々がさかさまに倒れるた。
地震は、3.9 が測定された。
それから、非常に大きい、大きな爆発的な爆発は 150km にわたる通路のそばから 250km 以上まで聞こえた。

誰かがスイッチを入れたようで、この後、（月のサイズの設定で）外部は銀の覆いで不透明な光の大きな深い-赤い-オレンジ色のついた半球が地上から上がり、突然消えるまで、ほぼ 2 時間、「グラウンドゼロ」のまわりの上に浮かんで空中停止した。
おそらくこれらが敏感である超音波または EM 波の伝播で、広く周辺から切り離された所在地の犬は、berzerk に進んだ。
1 時間後に 3 人のオブザーバーは同じ地域に、中小の青-緑-白い火の玉を見た、それは地上から上がって続いて非常に小さな爆発と小さな地震があつたが、しかしどんな人の動きもなかった。

西オーストラリアの東採金地領域では、これらの火の玉が着陸したところは、シープステーションの、Banjawarn と呼ばれる。
それは、同じ年、4 月の遅くに日本オウム真理教（オウム真理教）カルトによって購入された。
第 3 の火の玉は、1993 年 5 月または 6 月の朝早く、約午前 5 時頃、北に向かってダイレクトに Banjawarn station に向かっていった。
それは黄色の赤橙色で、非常に小さな青白い尾を持っていた。
それは、強烈な青い白閃光で、暗い空を照らした。
オーストラリア西部の北西にあるエクスマウスで、アメリカの海軍・スカラー兵器教職員と最後に連絡をとることができた。
オウム・セクトは、Banjawarn station を 1 ヵ月だけ占領した。
メーソンは Banjawarn ステーションの上の活動がスカラーEM 起源だったと思っていて、オウム・カルトがテスラの地震を誘導する兵器システム・テクニックを知る目的で、1992 年にベオグラード（ユーゴスラビア）のテスラ博物館にチームを送ったと書く、そして、彼らは 1993 年に Banjawarn でこれを始めた。
オウム・セクトによって、Banjawarn のシープ(羊)ステーションは購入され、1993 年に占領された、そして、彼らはその目的が『人類のために実験を行う』ことだと述べた。
オウム・セクトの副リーダー早川紀代秀は 1993 年 4 月にパースを訪問して、日本の真光のカルト代理人が手伝った。そして、Banjawarn を買った。
彼はオウムにはいる前の日々、早川は大学で勉強した。それは、日本の電磁 EM 兵器リサーチの

ためのロ実であったという証拠が見つかった。
しかし、現在大阪大学は早川が「ランドスケープ工学 landscape engineering"」（おそらく地震を誘発するため）を勉強したと、主張する。
多くの米国の出身者の長い間の友人で G. H.ブッシュの仕事仲間の『キリスト教の』リーダーの役をし、北朝鮮の『偉大なリーダー』である文鮮明? Rev Moon によって動かされている韓国の『統一教会の信者』セクトと彼は言われている。
この側面に関する詳細な情報は、ここで見つかる。
メーソンによると、日本警察は、早川が北朝鮮の軍隊のためのスパイである場合があると考えていた。
「Mahikari 真光」のより高いレベルは前の時代において日本の天皇が惑星を支配し、そして、彼の運命が再び地球を支配することになっているので、惑星の皇帝でなければならないと思っている。
隠れた日本の-金融権力はオウムと真光セクトに資金を助成し、日本が米国に圧勝し、共同して世界を支配するためにロシアの超強力兵器と日本のマイクロチップを組み合わせてロシアと連合し日本政府を支配しなければならないと、亡くなったソニー会長は示唆した。
2 つのカルトは、おそらく世界を支配しようとして第二次世界大戦をした日本の熱心な神-天皇崇拝グループの分派である。
しかし、今は、テスラ技術と 1939 年のドイツに落ちた UFO と隠れた作戦で惑星中のナチ・ロケット・エンジニアと反重力科学者の拡散おかげで、パートナーシップは変わった。
メーソンは、早川がロシアに 22 回と北朝鮮に 17 回訪問したと言う。
Banjawarn ステーションを買ったあと、早川はベトナムのソビエト海軍基地を訪問した。
メーソンによると、1960 年代からそこで使われていたソ連の大陸間に地震をもたらすことができるスーパー秘密の EM 兵器技術をゴルバチョフは 1991 年に、日本人に 9 億米ドルで賃貸すると申し出た。
ロシアと日本人の大学の最高の原子物理学者の、両方で日本のマイクロチップのついた新しい兵器を開発しようと共同設定された。
オウム・セクトは、日本の代表として到着した。
オウムには 30,000 人の日本人がいた、そしてロシアでは、更なる 50,000 人がそれに加わった。

Banjawarn のテスラの火の玉が周知のロシアのスカラー技術に合致すると、Tom ビアーデンは思っている。
またメーソンは非常に以前の、1980 年代初期と 1992 年にあったと同じように、再び 1988/89 年に赤橙色の半球と球のテスラ・シールドが Banjawarn の北で見られたとも言う。
しかし 1988 年に、地域の西でちょうど、10-15km 間隔で、午前 11 時に 3 台の車両と、3 台のラジオの電気回路がすべて焼き切られたと、メーソンはかいた。
Laverton（WA）のレーダーが地平線で、使用されたと、彼は言う;
アリススプリングス、NT と Longreach QLD、これらがスカラーEM 榴弾砲に簡単に変わることができるととビアーデンは言う。
Laverton 地区には、電気故障の歴史があった。（電線が吹き飛ばされ発電所発生器の焼損を含む）

榴弾砲がちょうど光線を横切って渡る必要があるこれらのスカラーは、物理プラズマ・エネルギーの散弾だった。
見知らぬ火球はエクスマウス US ネイビー・スカラー送信器能力から始まった、そして、他の火の玉は Banjawarn からを含むその方の航行方向であったと見られた。
エクスマウスは、メーソンによると、HAARP 送信器を持っている。そして、それは地平線プラズマ兵器の実験的なプロトタイプである。

これは、日本の三井株式会社がエクスマウス、Laverton、アリススプリングズ、パインギャップの上から「石油探査」と Longreach 軍の送信機能施設を航空写真でとるためにオーストラリアの探鉱者を手配した理由である場合がある。
1990 年以降孤独な日本のバイク旅行者モーターサイクリイストは、地図を作っていた

WA と三井株式　社の NT bushtracks は、写真を衛星中継した。
なぜ、日本はこれらのサイトを情報収集するのか？
Laverton には、スカラー送信器サイトとレーダー・サイトを持つ。（ここは Banjawarn との南の境界線に近い）
Banjawarn の火の玉は日本/ロシアの同盟が Laverton 施設の所有者へ、その能力を無効にできるという警告の場合があると、メーソンは言う。

2003 年に強い地震がなぜシベリアと北日本にも起こるのか疑問に思いなさい、これは類似した警告なのではないか？
目次に戻る

47. 神戸地震

KOBE EARTHQUAKE
オウム科学大臣、村井秀夫、日本的な最も知的な人と関係して、原子物理学者 1993 年 5 月 28 日行われたスカラー火の玉イベントの間に Banjawarn に存在した。
デイヴィッド Guyatt によれば、（アインシュタインより高い IQ を持つと言われる）村井秀夫はナイフで韓国人に殺された。
彼の遺言は「Yudaya」であった。そして、「ユダヤ」と解釈された。

これは、コード名であった。
ヤクザ（恐れられた日本の犯罪マフィア）によって暗殺が組織化された、そして、オウム・セクトがテスラ電磁パルス、地震を誘発するプラズマ兵器を世界の辺境で研究し、開発していたと、Guyatt は主張する。
ムライの仕事は、EM 技術、マイクロ波と他の EM/光線/波テクノロジーを研究することと宇宙 X 線分析であった。
オウム・セクトは、強い地震を誘発することができるレーザ素子を持った。
オウム指導者は 1995 年 1 月 8 日に、日本が 1995 年に地震によって攻撃されると主張した、そして、最も見込みのある場所は神戸であった。
それは 1995 年 1 月 17 日に行われて起こった、そして、震央は早川の施設であった。
Robert スターリングによると、オウムセクト軍 the Aum sept military は、ロシアの基地でメンバーを訓練した。
彼らは、ロシアの最高の教職員をスタッフに入れた。
ボリス・エリツィンの親友、Oleg ロボフはこれを手配した、そして、助けられたオウムはカルトと行使スパイ活動に科学者を入れた。
このロシアの-日本の大学は、日本の自由民主党によって融資された。
スターリングによると、オウムは大きな財産をためて、ソビエト極東にロシアの科学者と多くの技術的な人々を含む何千人もの支持者を入れた。
生物学的抗毒素、プラズマ技術と脳波で実験を操って、彼らは遺伝的に働き続けていた。
科学的な才能を持つムライ Hideo は、ラジオで言った、彼はスカラーとテスラ兵器をよく知っていた、そして、彼は EM 兵器からオウム・メンバーを保護することができた。
強い地震の前に、神戸製鋼所（村井の施設 Murai's faculty）に近いところが正確な震央で、先の熱烈な赤橙色とピンクの光りと球面形式のものが神戸断層線の上で数日の間空中停止した、電離層に大きい電磁妨害が、数ヵ月前にあった。
5,500 人以上は死んだ。
テッド・ダニエルズは、それは予言を実現させるために必要であったロシアまたは、北朝鮮であったと、示唆した、または、多分ムライの地震研究室の事故であった。

メーソンは、US が NWO を完成するという警告のためにそれをしたのかと疑問に思った
そして 1993 年 5 月 28 日の、前宣伝の技術として脅威があったが、それは、し返しだったのか？
メーソンは 5 月 1 日に火の玉が飛ぶのが好きだと言う。そして、皮肉に、誰がその日を祝うのか尋ねている？
しかし日付を見て、人はパターンを見ることができる：
1995 年 1 月 17 日、神戸は「震え」、1995 年 3 月 20 日、東京地下鉄毒ガス攻撃（1995 年 4 月 17 日注　実際は 4/19 日）には OK オクラホマシティを爆破をし、1995 年 5 月 1 日火の玉を爆発させた。
パース(オーストラリアの)の 7 月 17 日の火の玉の爆発、

7 月 17 日 NY/LI を離れたＴＷＡ800 便の撃墜。

17 日は、メーソンの合図でありえるか？
彼は毒ガス攻撃の部分は別として、これらの全てはスカラー兵器の証拠があると言う。
メーソンは patsy.お人良しで嘲笑の的となるオウムの名で東京の毒ガス攻撃がされたかもしれないと、書く。
妙なことに（地下鉄攻撃の後の日から）1 週間、、日本自由民主党内閣の 50%以上は北朝鮮へ飛んだ。
CIA が自由民主党政府を不安定にするために地下鉄毒ガス攻撃を実行したという証拠があると、メーソンは言う。
ちょうど 30 日前に OK オクラホマシティの FBI ビルの『爆破』を計画して、村井・オウムの科学大臣は彼が東京地下鉄毒ガス攻撃に関してオウムの疑惑をすべて取り除く「すべてを言う」準備ができていると外国人リポーターに話した。
地下鉄攻撃のすぐ後、3 週間後に、村井は北朝鮮人によって突き殺された。
オウムは、神戸地震でアメリカを非難した。
スターリングによると、日本自由民主党は何十年もヤクザと取引していた、そして、彼らがモスクワでロシア-日本の大学を後援するのを手伝った、カルトとヤクザはオウムが最新の新人、その他の多くを神戸/大阪地域で得ることができた所に深い根を持っていた！

スターリングは書いた：

内部告発者のデブラ　フォン　トラップが 1995 年の 4 月下旬に、クリントン・チームが、間近に迫った［オクラホマシティ］の攻撃を述べ、いくらかの事前の予告をした
― 米軍情報部がアメリカのエージェントを買い日本人を罰するために東京で「サリンを置いた」
― そしてその人はホワイトハウスで監視オペレーションを準備し、誰かがクリントン家のコンピュータを盗聴した！

まったく、オクラホマシティ攻撃は、正確に 30 日あとに最初のサリン攻撃が続いた！
何度も...

ヤクザとオウム真理教と呼ばれる大胆で、積極的な公然たる仏教カルトをともに超強力兵器と秘密のテクノロジーの手段、動機、お金とアクセス方法」といったすべてを「日本株式会社」に関係させようと企む...

スターリングは 9/11 は、他の人がそれが内部の犯行であったと言うが、オウムによって発達したテクノロジーを用いたとしてヤクザを非難する、
しかし、スカラー・テクノロジーが WTC ビルディングを転覆するのに用いられたという証拠があるーしかし、それは誰のものか？

オウムは、日本政府のために新しいロシアの兵器システムで日本を再軍備させることを隠すため

のおおいであったと、www.pelago.com の日本の調査のジャーナリストが示唆すると、メーソンは言う、そして、日本が新しい最前線のジェット戦闘機と爆撃機を購入し、ロシアと日本の間で共同の防御行使をしたので、これに対する支持はされた。
オウムは、ロシアの軍隊で訓練を受けた。
1993 と 1994 に、オウムがガスとレーザー攻撃を負担したと、オウムのリーダー麻原彰晃はオーストラリア当局に、彼自身が不平を言った。
報道機関は非常に有力な外国人のシークレットサービスがオウムと日本政府に達していたことを、示唆した。
David　Guyatt の「テスラ Doom Weapons とオウム真理教」によるとさらにもう一つの日本のカルトはすべて政府の省を通して動いていて、日本の外交政策に対する巨大な影響力を持つ。
世界的な 1500 万人のメンバーと大きな財源を持ち、それは、創価学会と呼ばれる軍国主義的なカルトである。
あらゆる主要な日本のビジネス会社 corp は、メンバーだらけである。
彼らは 13 世紀の僧侶が教えたことを固守する。そして、その人はキリスト教の西側とイスラム世界に対してされる「最終戦争」の教義を説いた。
これは 1930 年代に日本軍の満州（中国）の侵攻 Occupation のための主要な軍事戦略家によって甦った、そして、彼はヒトラーの崇拝者であった。
それは、中国と同類の囚人への彼らの言語に絶する生物学的実験の所在地であった。
オウムも、この僧の教えを支持した。
1987 年に、日本の衛星は、ロシアと中国の核実験から出るγ線を見つけるために打ち上げられた。
彼らはソビエト衛星から発散しているガンマ線の大きいパルスを記録した。そして、それはバンアレン帯に放散していた。
結論は、ミサイル防衛と地震誘導のために宇宙基地を開発するだけでなく気象工学に、ロシアが従事していたということであった。
その時に日本の主要なX線天文学者の 1 人である村井秀夫 Hideo、オウム科学大臣は、この情報を得た。
日本の外務省の情報部の長官はオウムを後援した Japan's foreign intelligence sponsored Aum,、
そして、それゆえに、ムライはオーストラリアウェスタンで彼のスカラー・テストを始めた。
彼はすべてを明らかにしようとしたが、死んだ。
ジャーナリスト・ジャック・アマノによるとデイヴィッド Guyatt の記事で：
「羊ステーションを購入することに決めたのは、早川であった。[4 月上旬 1993]（ちょうどエネルギー・イベントと以降の地震より前の日に）
早川はロシアの滞在で、報酬を得た：
アサハラによって予測された最終兵器より強力なテクノロジーを開発するために、オウムのロシアの科学者は、詳細設計と理論的な基礎を用意した。
少なくともオウム努力で、米国の機密データ基地に侵入することによって関連した米国の兵器データの取得が、あった。
このように、日本の政府資金提供を用い、ロシアの技術的ノウハウで、主要な日本の超国際企業によって用意された器材を貸されて、恐ろしく強力な超強力兵器が、秘密に造られていた。」

目次へ戻る

48. 中国

1985 年に、中国のボーイング 747 航空機のロサンゼルスへの飛行は、異常なエンジン停止で苦しんだ。
ジェット旅客機は 32,000 フィート落下した、そして、パイロットはようやくなんとかエンジンを再開することができて、サンフランシスコに緊急着陸した。
事件では、異なる測定器は、互いに明らかに一致せず、パイロットと仲間の観察と一致しなかった。
ビアーデンはこれはスカラー兵器のテストで、穏やかなスカラー・インターフェロメトリーだけでジェット・タービンの内部の燃焼ガスが静電冷却の原因（吸熱性モード）となっていると、言う。そして、それは圧力と推進力を減らす。
中国は最新の新型の米国の兵器とタイムトラベル技術を得た。そのとき、そこの研究者ウエン・ホー・リー博士は中国へ戻って最高機密技術情報を漏らした。そのとき、彼は数年前ロスアラモス研究所で働いていた。
これには、稲妻でたたく核クラスター爆弾と兵器を含んでいた。
ロスアラモスで、テスラ Long-Pulse Magnet 自身が、数年前に戻って廃棄した。
この磁石は銅線で入れ子構造になった核心から成った。そして、そのすべては他のものの内側にあった。
それは、いわゆる 60-テスラ磁石であった。
1 テスラ磁気は紙を保持する、そして、2-テスラ磁気は冷蔵庫のドアを引き離すことができる。
時間の入口をそこでつくるのに、これは用いることができたとリチャード・ボイラン博士が書いた。
彼らが時空の向こうへ旅行するためにおそらく次元の干渉によるのと『ホログラフィック』な入口を使うと、彼は主張した、。

ウエン・ホー・リー博士は、この『ホログラフィックな入口』に取り組んだ。
ロシアが数年前非常に強力な巨大な大きさの磁石をアメリカに注文したと言われた。
磁石は、超空間をゆがめるスカラー波を放って、次元の戸口をつくるのに用いられることができる。
中国の宇宙センターは Lop Nor にある。そして、それは自然の渦として知られている。
彼らも、タイムトラベルのために自身でインター次元の戸口をつくったのか？
Lop Nor には、16 の核爆弾があり、1975 年までに Sinkiang プロヴァンスに落とした。
『要塞オーストラリア Fortress Australia』の記事によると、Lop Nor スーパーコンピューターは、Pine Gap パインギャップ（また、自然の渦の領域）と、アメリカの軍のスーパーコンピュータにリンクする。
パインギャップにある短い通路を歩いていくと、米国ネバダ州の軍事基地 Area 51 に出ることができるので、Lop Nor にアクセスすることが、その時可能である。
現在中国も、人工衛星を破壊することができるビーム兵器を持つ。
彼らがどんなビーム兵器を使って衛星を落とすのかわかっていない、しかし、彼らはスカラー兵器と量子ポテンシャル兵器を持っており、スカラー波を使って病気を誘発することができる。
1978 年に、Andrija Puharich ブハーリン博士は、テスラの『コントロールされた地震』の方法で、ソビエトの初期の研究を解説したと、彼は述べた：
「1976 年の多くの大きな地震のうち、― 1976 年 7 月 28 日の Tangshan（中国地震） は―特別な注意を必要とするものである。」
その Puharich ブハーリンの分析はソビエト Woodpecker システムによってつくられた大気光プラズマ効果を記述したので、重大である。
ELF システム（HAARP のような）で熱している電離層は、類似した効果を生み出すことができる。
彼は、以下のように述べた：
「この 1976 年の地震が私の注意をひいた理由は、Tangshan の空の輝くような光の発生後にそれがあったということである。
また、この地震が、ソビエト Woodpecker 電波の放出から最初の 1 ヶ月間に起こった...
最大限の力でソビエト Woodpecker 放出が行われたとき最も突出した効果があり、その時テスラが予測したようにー空がイオン化 し ガス灯のように明るく輝いた。」
6/5/1977 年のニューヨーク・タイムズは大きな地震を記載した。そして、それは中国の Tangshan を破壊して、およそ 800,000 人を殺した：
「午前 3 時 42 分の最初の震動の直前に、空は昼間のように明るくなった。
200 マイル離れたところから多様な色の光り（主に白と赤）が、見られた。
多くの木の葉は燃えてポテトチップスのように焼き切られた、そして一方で、まるで火の玉のように、野菜は輝きこげた。」
これらの電気効果はテスラ・スタイルと HAARP のような放送から生じる電磁プラズマと球電と変な多数の閃光に、関係する。
しかし、Tangshan 地震の 5 日前に、フランスが太平洋のムルロア Muroroa 島で核爆弾を爆発させ、そのうえ、地震の 1 日前に、U.S がネバダ州で核爆弾を爆発させたと、Nexus のガリーT.ウ

ィットフォードの地震に関する記事は、言う。
1995 年 10 月の Nexus 誌によると、Atmospheric Research 大気研究の全国センターで働いているアメリカの松下博士と呼ばれる科学者が 1974 年に、地下核実験の 10 日から 14 日後に地球の磁場そして、電離層が撹乱されるのを発見する、。
1977 年に、彼は米国政府によって核実験の後の 2 週間、測定値をとるのを禁じられた！
衛星データは、核実験が地球の異常な極地の動作の原因であることを示す。
430 日おきにおこる『チャンドラーサイクル Cycle』と呼ばれる通常の地球極地の回転の動きは、核実験ごとに急激に動く。
このポールシフトは、『新しい世界を構築する？』ために故意にされている
1945 年から 1989 年 3 月までだけで 1,800 発の核爆弾が爆発したと、ガリー・ホワイトフォードは言った！
1980 年以降、ピッタリ平均、毎年 50 回の地下核実験が起きていた。
融解した核心にロシアがスカラー波を入れることで、地球の回転が、ひどく危険になり地球の回転が不安定化する。
融解した地球の核が地球の磁場を生じさせるが、アメリカがすべての HAARP 送信器が、広い領域の地球の磁場だけでなくその自然の本来の位置から離し、故意に磁気北極を変え、これを断片化し裂いていると言われる。
目次に戻る

49. オクラホマビルディングを『爆破』した FBI

OKLAHOMA FBI BUILDING 'BOMBING'
1995 年 4 月 17 日に、FBI ビルディングは、おそらくこれを証明するには不足しているがティモシー・マクヴェイと Terry ニコルズによって爆破された。
しかしメーソンによると爆発の 5-10 秒前に、地震の場合のように、FBI ビルディングは、激しく揺れた。
記録された地震の証拠は爆発性エネルギーの 2 つに分かれた出現を示していた
2 つはほとんど 3-5 秒の、低い振幅の多数の波列で、そして、その間は何も無い空白で区切られていた。そして、爆発の 5-10 秒前に最初の地震が動いた後に、9 秒の間隔で起こった。
同様に爆発の前に大きいカチッという音が、聞こえた。
建物の前の電線から出てきたスパークの光と電気でイオン化した熱い空気の流れの感覚と、火の粉は、爆発の 5 秒前に消えた

爆心地からおよそ 200 メートル離れた目撃者が銀白色の光のフラッシュまたは光線が建物の最上部から来ているのを見た、電気の大きな青い白が続き、アーク・フラッシュまたは光線は、爆発の 5 秒前に建物の最上部から突き出て赤橙色の光のフラッシュまたは光線があとに続いた。

この後に建物の基地から出てきた 2 つの爆発的な衝撃波が、ただちに続いた。
上記のグラウンド駐車場の上のいくつかの車は完全に焼き切られた電気点火コンピュータならびに焼き切られた基板を持つ多くのオフィスコンピューターを備えていた、そして、メーソンはこれらの事実は大きな EM パルス攻撃を示していると言う。
グラウンドゼロからほぼ 1 マイルまでのすべてはノックダウンされて、粉砕され、惨害は信じがたかった。
震央で、鋼の桁はスパゲッティのようにねじられた、しかし、証人は何らかの種類の火の玉または火のような影響を解説しなかった。
ちょうどプレ爆発の光の閃光が、あってから、自動車のペンキに影響を及ぼしている非常に高いプラズマ・タイプの熱の純粋なエネルギー波が続いた。
FBI 建築の航空写真は、建物を通り抜けている 2 つのほとんど同一の管のような損害の形態を示し、わずかに位置がずれているが垂直に近いことを表し、しかし、互いに異なる光線/パルスの方向は環状のプラットホームが使われた an orbital platform was used ことを示唆する。
それは、ロシア製宇宙船コスモスフェアか衛星であったか？
ビルモルガンによると：

「あなたが地震の原因となるよう設定できるならば、白状しなさい。一組の建物の一棟を崩落させてみなさい。
WTC ツインタワーの倒壊が実は世界史上で最初の大きなスカラー攻撃であったかもしれない。
特定のモードで干渉地帯の波が金属が柔らかくし溶ける原因になることさえありえる。

もしそうならば、これらに衝突している飛行機は、テスラ砲撃砲 Howitzer が使われたという事実を隠すための単なる架空の原因であった。
これらの 1 台の装置による災難は、その地での生活をすべて一掃することができた。
大規模な太陽の騒乱と嵐の原因となるような方向で、地球と太陽とのスカラー波のバランスを損なうことができた。そして、完全に地球をフライに揚げた。」
FBI ビルディングと WTC ツインタワーの建物が崩れる原因となるよう金属を軟化させるモードに設定されたかもしれない。
UFO は WTC で見られて、その場面にいた一部の日本人によって撮影された。
彼らは、それをビデオにしてオンラインに置いた。
それは、隠れているように見えた。
誰が、その中にいたか？

爆弾が一つ以上の支柱に置かれ、(消防士が脱出の際に聞いた)、飛行機が当たり、スカラー攻撃がされた。

外側からのスカラー攻撃は、誰かによって最初に発射されたか？
目次に戻る

50. 他に誰が、UFO を持つか？

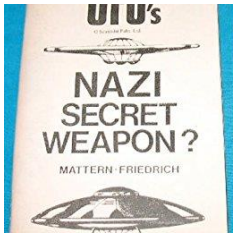
WHO ELSE HAS UFOs?
2000 年 9 月の UFO 誌（英国）は、『多くの国が反重力を進んで研究させている』といった内容の「電気重力 Electrogravitics'」という記事を発表した。
編集者 Graham Birdsall バーゾールは米国海軍幹部であった男性にそれを言われた。そして、その人はマルタ騎士団のナイトであった。
マルタ騎士団はバチカンの戦闘部隊である、そして、マルタ騎士団は軍隊と情報機関の関係者である。
反重力装置を発明した人々に、従来のエネルギー生成の既得権がある法人と多国籍機関は無地の小切手または 1000 万ドル-2000 万ドルを配ると、彼は言った。
明らかに、何兆ドルもの資産が危なくなると考えたら、これは安いものであった。
環境にとって使いやすい省エネルギー型装置が何十年も隠蔽されたと、彼は言った、そして、水で走る自動車さえ 20 年の間隠蔽された。
記事によれば B-2 ステルス爆撃機と F-117 は両方とも反重力技術を使用している。
ブラジルにも、このテクノロジーがある。
世界中の 36 人の科学者に、彼の反重力技術がどのように機能するか、フラン・デ・アキーノ Fran de Aquino と呼ばれられる物理学教授は、示した。
彼は、その承認と平行してロシアの研究を確認したために、米国エネルギー部から、600,000 ドルを与えられた。
これは、ブラジルの宇宙プログラムと関係があるか？
ブリティッシュ・エアロスペース反重力リサーチは、アメリカの中国人の女性科学者によって統括されている。
英国の反重力リサーチは、ランカシアとサウスヨークシャーの大学で、最初に展開された。
その後残念なことにあまりにたくさんのことを言ったため、Graham Birdsall バーゾールは、突然死んだ？
彼が最近発表したものは非常に秘密情報であった、そして、多くの UFO 研究者が疑わしい状況で死亡している。
.
コマンダー司令官 X の本「支配者」でセルビアの男ウラジミール Terzinski は「ナチ UFO プログラム」について話した。
カトリック・イエズス会士の上の勲位は Illuminati とナチスとつながりがあると、彼は主張した。
ナチスが造ったディスク形航空機の文書と写真を、彼は持っていた、それはシャウバーガー Schauberger タービンとケーラーのタキオンマグネティック反重力ドライブ装置によって動いて

いた Kohler TACHYON magneto-gravitic drives（すべてフリーエネルギーまたは反重力に基づく）
月に英国人が 1 世紀前に着陸したかもしれない、そして、バチカンさえ南米の基地からロケットに乗って宇宙に行く一団の科学者を持っていると、彼は主張した。
他の人は、バチカンが月の上に基地を持つとも言った。
米国反重力基地は、Area 51 である。
日本人が反重力技術を（日本の）仙台の東北大学で開発していると、本にもある。
宇宙船が発明されるずっと前に、宇宙人の同盟とともに、いろいろな国が外宇宙 outerspace にいっていたかもしれない。
Al Bielek によれば（少なくとも数百年間ここにあったいくつかの）地下と海中の宇宙人の基地を考慮すると、現在この惑星にある、1000 以上の基地の住民との同盟をつくることは、簡単ではないか？
ビル　モーガンは Tom ビアーデンに、15 の国が現在スカラー兵器を持っている、そして、明らかに、最も発達したものはロシア、中国とイスラエルであると、主張する。
米国が台湾と一緒にやったことは知られているが、中国のスカラー兵器プログラムの情報は得ることができない。
イスラエルは中国に隠れるための遮蔽技術を伝えたと言われている、そして、ロスアラモスで働いていた中国のスパイ・ウエン・ホー・リーがいた。
スカラー兵器を持っていると言われている国は、以下の通りである：
ロシア
US
フランス
英国
オーストラリア
ドイツ
日本
台湾
イスラエル
南アフリカ
ブラジル
アルゼンチン
中国
第 15 番目の国がどこであるかは知られていない（多分ウクライナであろう？）または他のどこかかもしれないが、ブラジルとインドと中国は科学的な可能性がある、おそらく、インドは幾つか点から見てこのテクノロジーにその手でアクセスしている。
彼らはレーダーを単純に修正しこの装置を製造することができる、そして、彼らは日本オウムとヤクザカルトに、ロシアは多くの国にこれらを売っているかもしれないし、これらを賃貸してさえいるかもしれない。
多分お金が与えられる限り、そして、彼らがひそかに米国と戦うならば誰にでも、彼らはリース

をする、彼らがそれをロシア自身の上に使用することだけは、喜ばないだけだ！
ヘンリー・クロール Henry Kroll は、彼の本『神の宇宙船』で南極大陸でのナチ活動を報告した。
彼は書いた：
「私はドイツの 1948 年の、261 機の空飛ぶ円盤のリストをコピーした。
直径 11.5 メートルの 84 機の Vrills と 3 機の直径 25 メートルの Haunebu II と何機かの直径 79 メートルの Hanebu III がある。
これらには、毎時 2900 マイルの速度で火星に旅立つ能力がある。
Hanebu IV は、図面にされていた。
同時に何機かのアンドロメダ型母船は、古いツェッペリン型の Vrills 宇宙船の格納機として造られた...
1948 年にナチスが 261 機の空飛ぶ円盤航空機を持っていたならば、彼らはその後、数千機造ることができるはずだ。
ドイツの彼らの基地の全てが爆撃されたとしても、1 万-フィートに位置する南アメリカの休火山のどこかで彼らのマルコーニ・プラント研究機関のような一部が生き残ったと私は確信する。
その人は今ごろ彼らがどんな地下都市を持っているかわかっている。」
W.A.Harbinson ハービンソンは、彼の本『ジェネシス Genesis』に書いた：
「バード提督は、リポーターに次のように言ったと伝えられる：
「極地の領域から来る敵の秘密戦闘機に対して米国が防衛措置をとることが、必要である」、そして、新しい戦争の場合、米国は「燃料補給することなく北極から反対の南極まで途方もない速度で飛ぶことができる戦闘機で攻撃される」。

ブラントン Branton も、彼の本『モハベの神秘 Secrets of the Mojave』に書いた：
［中で］「南極領域で米国のリチャード E.バード少将は...、よく訓練された 4,000 の、潜水艦、航空母艦と航空機と駆逐艦のような軍の船をもつ海軍部隊の作戦に関わった。
伝えられるところでは、極地の大陸に到着すると同時に、彼らは 3 つのグループに分れて、大がかりな踏査を始めた。
1 つの情報源は、そこでバードの海軍は写真を撮り、その際『抵抗』に遭遇し戦闘があり、アメリカ、およびナチ軍隊の間で両方の側に損失があったとさえ主張した。
アメリカ人が 2 週間後に去ったとき、...
伝えられるところでは、バードは、家に到着した後、怒りに燃えて、政府が南極大陸で核実験する方針を変えるよう要求した。
バードは秘密にするよう誓わされた、そして、彼の日記は今日まで封印されている。」
クロールの本によると、バード提督がナチ UFO に遭遇し、また南極大陸でナチ・基地を攻撃しようとし、多くの男性が奪われた後、彼らは戦後ドイツで発見したデザインに基づく彼ら自身の UFO を造るために、アメリカに帰国した。
彼の本には、以下のようにある：
「何千もの奴隷の労働者と彼らの SS 大物は、ドサクサのあとで姿を消し、二度と決して見られなかった。」。
「ナチスが戦争を通して南極大陸へ円盤の部品と文書と研究者を送り続けたことは、全くあり得

る。
戦後ドイツで見つかった数千の風洞、組立工場、発射台、機械工場、供給基地、宿泊設備と隣接した従属地域のある地下基地の巨大なサイズから判断して、彼らがグリーンランド、南極大陸と南アメリカで類似した基地を造ったことは、全くあり得る...
彼らのテクノロジーは、少なくとも米国より 30 年先にいた」
クロールは以下のように述べる：
キャプテンハインツ・シェッファーは彼の本「U-977」で「1945 年 4 月に、SS の同僚が彼に「殺人光線」（レーザー兵器）の実験を見せたと、述べた...」主流科学者によると、レーザーは 1960 年代まで発明されていなかった...
Ｖ１号とＶ－２号ロケットの開発を押したハンス Kammler SS 将軍は、1945 年 4 月にドイツから姿を消した。
彼の所在は、今日までミステリーである。



ドイツの空飛ぶ円盤チーム・メンバー・シュライバーと Bellonzo は死んだが、Habermohl はロシアによって捕えられた。
これは、戦後アメリカのロシアの円盤への恐れの原因かもしれない。
Projekt 円盤に取り組んだ Miethe は、研究のためにカナダとアメリカに渡った。」
連合国の爆撃機と戦闘機も飛行機の側面に沿って何百もの火の玉が飛び、更には「殺人光線」があったことを報告した。
『UFO ナチ Secret Weapon？』によるとバード提督がナチを捜して南極大陸で探検から帰ったあと、彼が原水爆と『水素爆弾の試験範囲』を南極大陸にするのを変えさせるために最高の行為をすることにした。
この意図が報道機関において発表されるやいなや、UFO の『大群』はホワイトハウスの上を飛んだ
本には、「完全に、『典型的なドイツの』隊形」と書かれている。
クロール Kroll は書いた：
「1952 年 7 月に、空飛ぶ円盤の編隊は、ホワイトハウスの上を飛んだ。

これらは、レーダーで何千もの人々と文書によって見られた。
ジェット機は 3 回スクランブルをかけた、しかし、円盤はこれらを簡単に上回った。」
しかし、クロールは 1958 年 8 月 27 日、30 日と 9 月 1 日に、U.S が核爆弾を何回か南極大陸に落としたと、主張する。
どれほどの回数かは、わかっていない。
Nexus 誌によると、1975 年に 2 回大気圏の核爆弾が、南極大陸に落とされた。
ブラントンの本『Coscon ファイル：パート 33、

「Terziski の［主張では］..ドイツでのマインドコントロールと遺伝子工学と人間と動物の間の交配実験は明らかにドイツの顕微鏡の発見と完成によって助けられた、(ドイツ人がテスラ・スカラー波顕微鏡を使ってヒトゲノムの錠を開けるのを助けた)、― それは、彼らの強い意志で南極の地下にあるナチ植民地または『都市』で 10 回繰り返された。
この都市-基地は、風説では『NEW ベルリン』として知られており、そこにはナチ哲学に忠実な 2,000,000 人以上の住民がいるという。」
著者 W. A.ハービンソンはナチスが戦争時代を通して南極に男性と資材を絶えず出荷したという考えを進展させた、と書いた、

「南極に自給自足の地下研究工場を建設しているドイツ人の隠された潜在能力に関して言うと、ナチスドイツの地下研究所のセンターには風洞、機械工場、組立工場、発射台、供給集積場とそこで働く全員のための宿泊設備を含んでおり、奴隷のための近接のキャンプを含む建設の巨大な偉業であったことは示されなければならず、極めて少ない人々は彼らが存在することを知っていた。」
Al ピントの記事「宇宙人または Man Made UFO」で、ナチ・スーパー兵器について書く。
南ウェールズ（英国）Argus の、「百眼の巨人アーガス」［1944 年 12 月 13 日］で述べた
「ドイツ人は、クリスマスの時期に合わせて『秘密の』兵器を生産した。
新しい装置は明らかに防空兵器で、クリスマス・ツリーを飾るガラスのボールに似ている。
時々彼らはドイツの地域の上に、時々単独で、または集団で宙に浮いているのが見られた。
これらの色は銀で、明らかに透明でもある。」
ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン［1945 年 1 月 2 日］は、以下のように伝えていた：
「現在、ナチスがドイツの夜空に新しい何かを放り投げたようである。

ドイツの上に侵入戦闘機の翼と一緒に、怪しい、不可解な『foo Fighter フーファイター』ボールが飛んで競争する。
パイロットは、彼らの夜間飛行で 1 ヵ月以上この不気味な兵器に遭遇している。
誰も、この空の兵器が何であるか、明確にはわからない。
火の球は、突然現れて、飛行機に 1 マイル以上伴う。
これらは地表からのラジオ波でコントロールされているようだと、公式情報部は報告する」。
彼らは、テスラ球体であったか？
1978 年のハノーバーの科学的な展示で、ドイツの数人はドイツの第二次世界大戦に空飛ぶ円盤（設計家の名には言及しないで）の詳細な図面を含むレポートを配り、その図は西ドイツ政府によって「安全な出版物に」するため変えられたと主張した。
航空機に関する特許は秘密にロシア、米国と英国に持っていかれ、そして、たぶん最も重要な残ったファイルが「行方不明の」ドイツの科学者と S.S.に持っていかれたと、それは言った。
Al ピントは書いた：
「申立てによれば、彼ら［ナチス］は円盤のために空飛ぶ円盤リサーチ・チームのメンバーで、終わったときに最も不可欠な円盤構成要素と、注と図面を彼らと一緒に持っていった、そしてハルツの山の Nordhausen の地下工場の基地に形成した巨大な地下複合施設と生活宿泊設備の設計図をもとに［アルゼンチン、チリと南極大陸］のものは作られた。
W. A.ハービンソンは、彼の本『ジェネシス Genesis』で書いた、
1945 年 4 月のナチスドイツの労働大臣 Robert Ley は､Albert シュペーアにドイツの科学者が｢殺人光線」（おそらくレーザー兵器）を発明したと、..興奮して話した。
.
U-977 潜水艦の長エインセ・シェーファー・キャプテン Captain Heinze Schaeffer（ヒトラーと Martin ボルマンをパタゴニアに、それから南極の秘密のナチ・基地に連れて行ったと疑われている）は、彼の本「Uボート 977」で 1945 年 4 月に、S.S.同僚が彼にいわゆる「殺人光線」の実証を提供したと、述べた。
1960 年のソビエト首相、フルシチョフはスカラー干渉計を以下のよう世界に発表した：
「我々はいわば、科学者の公的書類の中に、新しい兵器を持っている、とても強力で、無制限に使われるならば、それは地球でのすべての生命を一掃することができる。
それは、素晴らしい兵器である。」
なんと、多くの人々が、テスラ『殺人光線を造っただろう」？
ジェニー・ランドルズによる本「時間の嵐 Storms」によると、1966 年 5 月 22 日に、南極大陸での調査の間、アイルランドの探検家エリック Wilkinson は人工的に作られたテスラ球のように見えたものを観察したと、言う。
濃密な雪の塊は南に現れて、地上の近くから垂直におよそ 600 フィートの高度まで上がった。
その直径はおよそ 100 フィートであった、そして、それは 45 分間の間、主として 2 つあった。
それは、非常にゆっくり動いて、拡大して、密度をもち脈動する動きで接触するようだった。
それは、ミツバチの群れのような、または、変圧器のようなノイズを発した。
雲から暗い『チューブ』が出てきて、45 度の角度で雪をたたいた。
最初の『チューブ』のその点から、それは第 2 の反射光線または光線を、75 度の角度で発生させ

た。
まるで旋風のように、雪は上方へ上がった。
Wilkinson は、いくつかの写真を撮った。
ロシアのテスラ球は、中心から黒い線が下におりていた。
ハリー・メーソンは、『輝く Skies』で書いた。1995 年 5 月 1 日午前 2 時に、インド洋から青白い円錐の尾を持つ大きな球面赤橙色の火球がオーストラリアの西のパース市に飛んだ
南極大陸の日本とロシアの居住基地があるエンダービー土地の近くを、軌道は通り過ぎた
ロシアのエンダービーランドの基地の 1 つには、スカラー兵器総合ビルがある。
予測される軌道は、北アラスカの上を通って、カナダのノヴァスコシアの近くに出てシベリアのカムチャッカ半島の中心をとおって日本の北東の海岸の方で、終わる。
（カムチャッカ半島にはスカラー榴弾砲サイトがある、そして、ビアーデンによると、ソビエトはおそらく数年前それをスパイしていた韓国の KAL 007 を下から撃墜した。）
火の玉は、北北東の方向に飛んでいった。

火の玉はパースより上に急に止められると大きい騒々しいパルス状の雑音を発した)。
突然、青い白色光は上方に弧を描き、非常な爆発は障害物のない日光と同じように広大な広さの都市を照らしていた。それは核爆発と似ていた。
大きな、振動させる大きい爆音と地震波（2 分続く）は、建物を揺るがす原因となってパースに響きわたった。
火球の中心からの 4 つの輝く光線は、競争して外へ出て、空でクロスした。
その同じ夜、他の変な空中音と小さな明りは、北（パースの NE）で聞こえた。
また、パースの北 1,900km（ブルームの北）で、大きい、騒々しいパルス状のディーゼル機関のような雑音が上がってクレッシェンドし、彼らの棚から物が倒れる原因となった。
地震の振動は、1-2 分続いた。交差した光線スカラー兵器と粒子線兵器を衛星から発射して都市の全てを灰にすることができる、それは全員が死ぬほどの戦いである。
しかし、いくつかの答えのない質問が、まだ存在する。
地球は生き残れるか、あるいは、最近起きているように、地軸がますます不安定になって、ぐらつき続けるか？
テスラのスカラー技術を秘密にしておくか大学で公然と教えるのか、それは、どちらがよいのか？
フリーエネルギーのために支払う価格で、テスラがしていた研究を財政的に支えるか？
ほとんど危険はないとしても、ガンの発生に関係する高価な電気を使うのか、またはスカラー波が原動力となる多くの道具ができ、宇宙船を正当に買って、フリーエネルギーのパワーを使って他の惑星を訪問するのか、どちらを選ぶのが良いか。
正直な政府は、第二次世界大戦から無かった。
火星は公然と植民することができた、そして、地球はおそらく宇宙人によって公然と買収されたかもしれず、宇宙人の連邦の中に受け入れられたかもしれない。
その代わりに、こういうことは秘密にされた。
我々がそうした状況にある今、我々は、衛星による大衆への催眠術を問題にすることがありえる
都市は、警告なしで核のような爆発によって瞬く間に破壊されることができる

空中にあるどんな物でも、発射と同時に爆発させることができる
注文に応じて地震と火山の噴火はおこされる
大きな太陽のフレアが増加するとともに融解した核を刺激して我々の磁場が、すでに混乱し、太陽、月と地球の関係をひっくり返し、地球に大きい割目が生まれるという気がかりな心配がある。
他の国の市民を配慮しない男の手にスカラー兵器が渡ってから、ちょうど 50 年目である。
我々は、彼らの意図することは何か、兵器を何に使うか、誰がこれらを持っているか知る必要がある。
特にスカラー波が正に惑星を通過して機能させることが出来るとき、世界の地域は安全でない。
私は、次のミレニアムの世紀を通して我々のすべての旅行の安全を祈る。

RESOURCES

情報源

Tom ビアーデンによるとても恐ろしい暴露もので 1950 年代後半からロシアがスカラー技術で米国を攻撃していたということと、スカラーの多くの例が多数の見つけることができる
：http://www.earthchangestv.com/ufo/0209gandor.htm
http://216.247.92.101/pub/bearden/examples.htm
http://www.cheniere.org/correspondence/110502.htm
「スカラー戦争」:

Scalar Electromagnetics「スカラー電磁気学の素晴らしい新世界」は、Tom ビアーデンによるスカラー兵器の歴史的背景。(http://216.247.92.101/pub/bearden/scalar_wars.htm)
(http://www.geocities.com/Area51/Shadowlands/6583/project233.html)
「空からの火」Fire from the Sky
（http://www.anomalous-images.com/text/files.html）
ハリー・メーソンの『輝く空』Harry Mason 'Bright Skies':Sky

（http://www.geocities.com/Area51/Shadowlands/6583/project233.html）ファイア：
http://www.tmgnow.com.repository/secret/brightskies.html
Tom Bearden's website Tom ビアーデンのウェブサイト

(http://www.cheniere.org)
Fortress Australia:
http://www.tmgnow.com.repository/secret/brightskies.html

http://rumormillnews.com/.htm Fire From The Sky：「空からの火」：
:http://www.anomalous-images.com/text/files.html
ジェリーE スミスによる「 HAARP.　究極の兵器の陰謀」HAARP. the Ultimate Weapon of the Conspiracy by Jerry E Smith.
(www.jerryesmith.com)
UFO はナチの秘密兵器か？UFOs Nazi Secret Weapon?
マッテルン-フリードリヒ Mattern-Friedrich.
。Samisdat Publishers Toronto, Canada.トロント、カナダ。
（およそ 1966 年。）

プレヤデス星団との遭遇：Encounter in the Pleiades:
プレストン・ニコラスとピーター・ムーン Preston Nicholas and Peter Moon.による「UFO の内幕 Inside Look At UFOs」。
The Montauk Project by Preston Nicholas and Peter Moon.
プレストン・ニコラスとピーター・ムーンによる「Montauk プロジェクト」。
「反重力とワールドグリッド」Anti-Gravity and the World Grid.。David Hatcher Childress による編集。
Dino Kraspedon ディノ　クラスペドンによる「私の UFO コンタクト」。My Contact With UFOs by Dino Kraspedon.

GLOSSARY

用語集

スカラー波の別名は、以下の通りである：
テスラ波 Tesla waves
縦の EM 波 longitudinal EM waves
テレホース teleforce
放射エネルギーRadiant Energy
エネルギー論 energetics
重力波 gravitic waves
電子重力波 electrogravitational waves

フリーエネルギーfree-energy
零ポイントエネルギーzero-point energy
ゼロベクトル EM 波 zero-vector EM waves
電磁量子エネルギーelectromagnetic quantum energy
真空場エネルギーvacuum field energy
エーテル/エーテル-エネルギーaether/ether-energy
磁気進行波 magnetic travelling waves
静電/静磁気波 electrostatic/magnetostatic waves
純粋なポテンシャルの波。 waves of pure potential.

The Vril Society

ヴリルソサイティ

Jim Nichols ニコルズ著
JimNicholsUFO ウェブサイトから

ヘルマン・オーベルト博士、その人は第２次世界大戦の間、ドイツの Reich のためにロケット設計と後にアメリカの有人宇宙への打ち上げのために先進のロケット技術を開拓したが、なぞめいたことを述べた。
「我々は単独では科学的なフィールドで記録進歩を自分の手柄にすることが、間違いなくできない; 我々は助けられた。」
誰によってかと尋ねられるとき、彼は答えた：
「他の世界の人々だ。」
オーベルトの仲間の宇宙のパイオニアと関係していた第三帝国に仕えた、その人 Werhner Von ブラウンが 1959 年に述べたとき、地球外の現実についての類似した知識を送達し同じことを言った
「今まで仮定するより、はるかに強く、そして、その基盤は現在我々に知られていないパワーにあることに直面することに自身が気づく。
私は現在これ以上、言うことができない。
我々は現在、それらのパワーと逼迫した関係を締結することに従事している、そして、6 または 9 ヵ月以内に、問題に関してより多くの精度で話すことができる場合がある。」
ティモシー・グッド、ウィリアム・モローと株式会社 1988 年の本「最高機密の上」から、。
オーベルト博士がとても軽率に話したこの「他の世界の人々」は、誰であったか？
そして、これらの尊敬されたドイツの科学者の両方とも、UFOlogy の最も全面的に広がり、じれったい『神話』の 1 つへ間接的な言及をしていたのか？―第２次世界大戦前とドイツ第三帝国と宇宙人との間の嫌疑のかかっている関係 ―
第一次世界大戦の軍事的敗北の後;（かつてこの惑星で栄えた古代の失われた文明の存在の手掛かりを発見すると、即座に、超自然的な秘密結社がドイツの意図で出てきたことは間違いない）
伝えられるところではこれぱ海と空と星間スペーストラベルの把握さえを彼らに与えた、注目に値する、ほとんど不思議なテクノロジーを備えていた文明である。

バラ十字会員の著者エドワード・ブルワー＝リットンによって「THE COMING RACE 来るべき人種」という題を与えられた 1871 年に発表された小説で、そのようなテクノロジーを再発見するというインスピレーションは見つかった、。

リットンは、自身を「Vril」と呼ぶ広大な地下の世界の中で生きている人間の先進人種を発見する勇敢な探検家の話を話した。
この存在は前におきた旧約聖書洪水と違わない世界的な大災害までは表面の居住者で、彼らは地球の深いところに避難することを強制された。
彼らが言及した「Vril」のような、force 力の使用によって、この素晴らしい社会のサバイバルは、楽になった。
「ごくわずかしか、私は説明を理解しなかったし何らかの言語でわかっている Vril の正確な同義語は私が知っている事では無い。

私は、それを電気とも呼ばなければならないが、ただし、電気は、自然の様々な枝分れした他の力として理解しなければならない、
それは我々の科学的な学名では、異なった名前も、割り当てられる。（例えば磁気、ガルヴァーニ電気その他の）
これらの自然のエネルギー的な力の中で『vril』で、統一性に到着したと、これらの人々は考える。
そして、それは地球上の多くの哲学者によって推測された」
いくつかによってリットンの本が必ずしもフィクションの仕事でないと仮定され、そして、実際、彼は Lemurian の奪われた秘密に関与していた、そして、ゴビ砂漠とチベットに隠された秘密の隠し場所の中に、Atlantean の遺物はまだ存在していた。
そして、インドからの古代のサンスクリット語のテキストは、大きな洪水の前に、本当に、現代の科学の知識を越えたテクノロジーを備え栄えていた文明を記載している。
壮大な詩『Saramangana Sutradhara サラマンガーナ　スートラダーラ』の、驚くべき空飛ぶマシンの製造を参照しよう。
「強くて永続的なものが Vimana の本体に必要で、光の物質で出来た大きな飛べる鳥のようである。
内部には水銀エンジンを置き、下に鉄の暖房装置をおかなければならない。

水銀の潜在的なパワーによって中に座っている男性は、超スピードで空を飛ぶだろう。、（それは、旋風を駆動するよう設定する）
Vimana の動きは、それが垂直に上がり垂直に下る、前方へ、後に動かすことができる。
機械の助けを借りて、人間は空気中を飛ぶことができ、天国のような存在は地球に降りるこできる。」

ドイツの東洋の学者と神秘主義者は完全な真剣さでそのような古代の神話に関係した、そして、第一次と第二次世界大戦の間の凪ぎの間、これらの神話を生き残る技術的現実に変えるために、『テューレ』と『Vril』秘密結社によって苦心し努力された。
『Vril』のような超自然的な力 force を得た事はドイツの技術的な優位を保証するだけでない？ドイツの征服者を支配する国際石油カルテルのドイツへの力を失わせるほどアメリカ合衆国と英国への共同依存から最終的に解放する？。
テューレと Vril 協会の入会者は、アトランティスの『失われた』大きな文明によって備えられていた原理に基づく『他の科学』と『オルターナティブテクノロジー』を開発する決心だった：
「現代科学の機械学の概念より上の精神的な『発電機-技術』」。
このように、一般的なフリーエネルギーのこの供給源を再発見し、それをすぐに現代の世界の利益として使うようにすることは、彼らの目標になった。
Thule member, Dr. W.O.
テューレ・メンバー、W.O. Schumann シューマン博士はミュンヘンの技術大学で宣言した。「我々は、すべての現象を決定する 2 つの原理を認める;
光と暗闇、善悪、生成・崩壊？我々がプラスとマイナスで知っている電気の場合のようにそれは、常にある。
どちらのものであるか？
破壊的なすべては悪魔の起源である、すべての創造的なものは神に基づく…すべての技術は爆発あるいは、燃焼に基づいている、これは悪魔的であると呼ばなければならない。
来たるべき新しい時代は、新しい、明確な、神の技術の時代である…」
これ故、『Vril』という目標は、Prana で、基本で、無限で、宇宙エランビタール・エネルギーで ― 自然界で調和して機能するパワーの供給源であり ― これらのドイツの秘密結社の肝要な焦点になった。
霊媒 medium のマリア・オシィック Orsic は、『Vrilerinnen ヴリルリンネン』のリーダーであった。ヴリルゲゼルシャフト Vril Gesellschaft の美しい若い婦人であった。
特徴として、全員この時代で人気がある短いボブのファッションに反して、髪を長い馬の尾のように長くしていた
長い髪は、向こうの地球外生命の存在との接触を容易にするのを助け宇宙アンテナの働きをすると主張した。
ドイツの Vril ソサイティの伝説によると、宿命的な会議はベルヒテスガーデンの近くで古い猟小屋で 1919 年にされた、そこでマリア Orsic は、牡牛座の星座から、テューレ、Vril ブリルとブラックサンソサイティから集まった、小グループに示された。（彼女は 68 光年離れた遠いアルデバラン星の惑星システム Aldebaran solar system の中に存在している地球外文明からからテレパシーによるメッセージを受け取ったと主張した）
マリアのチャネリングした 1 つで One set of Maria's channeled transmissions、ドイツのテンプル騎士団員の秘密の文字は彼女には未知のものだとわかった。
2 つ目の伝達のシリーズは、古代のシュメール人と認められる古代の東洋の言語で書かれているように見えた。（それからバビロニアの学者はトゥーレグループに関連付けた associated）
マリア Orsic と一緒のジーグルン（Vril ソサイティのもう一の人女の霊媒 mediums）は、これら

のチャネリングを翻訳する仕事を始めて、彼らが円形の飛行機械 building a circular flight machine を造る命令を含むことを発見した。
しかし、Vril グループとドイツを助けるというアルデバラン星の文明のオファーの背後の動機があるという可能性を考慮することは、重要でなければならない。
研究者ヴェンデル・スティーブンス Wendelle Stevens は、アルデバラン Aldebarans は、我々に攻撃的ナチスへの助力する好戦的なジェスチャーよりもむしろ永久の戦争と紛争をあおってきた地球文化の、経済格差を認めていたことを話す

この格差を軽減するために、『フリーエネルギー』技術を提供することで、入手可能な大量輸送装置を作製し、国の間の産業、増進している繁栄とより大きな平和な交互作用の新しい革新的な発生は、起こるかもしれないとアルデバラン Aldebarans は結論した;
これは、激烈な戦争を減らす。
明らかに、テゥーレと Vril Societies のメンバーにそのような計画は満ちあふれていて、彼らの夢は夢想家の新世界のために『他の科学』の基礎を形成した。
これらの他の世界の、秘教的なデザインを勉強すると、即座に、W.O シューマン.博士とミュンヘン大学の彼の同僚はチャネリングが生き残る物理学を実際に含むと理解した、そして、引き続いた年月の間、この飛行艇を現実に建設し機械化するために事は始められた。
1922 年までに、働くプロトタイプの発展は、進行中だった。
一方、ドイツは、国家社会党とアドルフ・ヒトラーの出力は上昇傾向に見えた。(一つはテューレと Vril Societies の影響を受けた新世界秩序の空想的な展望を燃料とした)
1934 年までに、RFZ-1 の最初の有人の試験飛行が、起こった。
しかし、結果は少しも幸先がよくなかった。
勇敢な第一次世界大戦エースによって飛行に出発し(ローターWaiz)、航空機は 60 メートルの高度でぐらついた、そしてそれが制御できないほどバラバラになって素晴らしく回る前に、うまく間に合うように航空機から逃げ出せるよう管理されており、パイロットが着陸と同時に、酔った頭頂部は裂けたようになった。
その年 1934 年の終わる前に、多くの改良を加えたもの(5 メートルの RFZ-2)はテストでうまく飛び、そして、結局、空飛ぶ円盤開発はナチ軍隊の部 SS E IV によって引き継がれた。
基礎物理学は子供の回転するジャイロスコープと同じぐらい単純だったー反対方向に回転し回る円形ディスクは反重力効果をつくる;
時間を超越したそれと同じような効果は、旧約聖書予言者エゼキエルと彼の『火のような二輪戦車』で車輪の中の車輪で記述している?」
ヘブライの家長は、アルデバラン星からの飛行機の証人だったのか?
宇宙ハーモニーの世界を構築するという彼の見せかけの狙いに反して、ヒトラーは 1939 年に彼の Panzer タンクと歩兵連隊をポーランドへ出兵した。このように、全く破壊的な第二次世界大戦を引き起こした。
そして、彼はドイツですべての秘密結社を非合法化したという事実にもかかわらず、テューレと Vril Gesellschafts は彼らの自治を主張した、そして、従来のドイツ空軍戦時生産緊急事態からの

資金提供競争の過熱にもかかわらず、円盤航空機を浮揚させる Vril の発展は続いた。
航空技術的なUnit V-7はエキゾチックな反重力と従来のターボジェット推進系を組み合わせたいくつかのハイブリッド円盤を設計した。そして、基本的に最新のヘリコプターの原型である垂直揚力航空機を作製した。
しかし、他のものとは明確に分離した SS E-IV Unit,は、フリーエネルギー推進力のヒトラーの夢を現す唯一の責任を負った。
1941 年までに、成功した Vril-2 空中上昇航空機は、大西洋を横断する観測飛行のために使用された。
RFZ-2 航空機は垂直揚力に「Schumman-浮揚」駆動装置を使用した、そして、動かされるとき、この航空機は一般に多くの UFO の本で記述される効果を示した;

輪郭は見え明るくイオン化し発光させる、航空機のエンジン加速に関係して色はオレンジから緑（白に青い）の間を変化した;
また、航空機は UFO 飛行に特有の急進的な 90 度のターンをした。
悲劇的にも、Reich 帝国は Alebaran の空中上昇技術の平和的な意図を変更して、RFZ-2 の成功の後、独りのパイロットの操縦による戦闘機モデルが設計された。
パイロットに対する逆 G-の影響なし直角に回転させ、先進の Vril-1 Figh 戦闘機は、最高速度で 12000km/h がでた。
航空機がそれ自身の引力圏の中の自己充足的な膜の中にあって飛んだので、パイロットは慣性の感覚または動作を経験しなかった。
1941～1944 年の以降の空中上昇-航空機前進は、「Haunebu」のシリーズを生んだ。（帝国円盤艦隊のヘビーヒッター『heavy hitters' of Reich's saucer fleet』）

強力なタキオン磁気重力発動機は「テューレ-タキオネーターTachyonators」に発展しー（大きな球の中で水銀を垂直に回転させたと推測される）ー75 フィートの直径の円盤として設計し、下側に Panzer-タンクの大砲の筒のようなものを取り付けた武器を備えている
他の航空機は、クライストロン・レーザー大砲 klystron laser cannons を備えていた。
1943 年のクリスマスには Vril ゲゼルシャフト のチャネラーーのマリア Orsic は、、その星の軌道に乗って回っている住むのに適した 2 つの惑星があり、そして、Sumeria の古代のメソポタミアの文明がアルデバラン星からの探検隊の初期の群れにリンクしていたことを、アルデバラン星からのチャネリングが明らかにしたと、主張した。
アルデバラン星の言葉がシュメール人のそれと同一で、ドイツ人の口頭のそれと音声学上類似していることを、占い師 seers は発見した。
2 つの太陽系をつなぐ『次元チャネル』または『ワームホール』が存在することも明らかにされた。
こうして 1944 年 1 月におそらくドイツの戦争での闘争意欲が鈍ってきたことに気づいて、多分援助をアルデバラン星文明から得るために、ヒトラーとヒムラーは、Vril-7 円盤船を次元のチャ

ネルへもたらす大胆な計画を認可した。
冒険はほとんど災害に近いもので終わった。そして伝えられるところでは、Vril-7 がまるでそれが飛んで 100 年地表にいたように、いくつかの場所で損害を受けその外皮が古くなって返された、た。

一方、連合国はドイツの円盤の殺傷力のある兵器としての能力を知るために不快な経験を試した。1944 年に、大きな爆撃が、Schweinfurt で重要なボールベアリング製造工場に対して開始された。

その時間の範囲内で 10〜15 のナチ・ディスクの戦隊がーなんと爆撃機派遣団の 4 分の 1 の 150 機もの英国と米国の爆撃機を首尾よく打ち落とすことができた。
しかし、圧倒的勝算に直面し、崩壊しかけている帝国は、流れを回転させるための、十分な円盤戦隊が不足していた。
不確かな帝国の軍の運命で、SS 側近グループ・エリートの中で野心的な、彼自身多分総統 Fuhrer にさえ対抗するパワーのレベルの、精力的な将軍は、たち上がった。
ハインリッヒ・ヒムラーの被保護者ハンス Kammler、』は、地下製造施設の迅速な開発と実現のための彼の技術と強制収容所からの奴隷労働積送品の大きな流動化で評判を得た。
1945 年までに、関係するミサイルまたは『航空機』の最高機密のすべての SS プロジェクトについての管理を、Kammler は確保した。
確かに、Vril プロジェクトは、彼の一番の優先事項の 1 つであった。
ずるくて、鋭い、Kammler は南極の『特別なプロジェクト』施設のマスター・マインド建設の、資格試験に簡単に耐えた。

そして、1945 年 4 月 17 日現在、Kammler はドイツから見えなくなった。そして、おそらく未知の目的地のために拘束された重々しい 6 つのエンジンの・ユンケルス 390 アメリカ爆撃機に乗って乗員の捕獲を逃れた。

そして、軍事援助はアルデバランからはなかった
しかし、多分その代わりの、保護が提供された、
大きい直径 250 フィートの Haunebu III 大型戦艦は三つの要素からなる 4 つの大きい口径の銃と海軍回転砲塔銃で武装し、
そして、伝えられるところでは、1945 年 4 月にスペース飛行ができるよう完了した。
恐ろしいロシア人と、英国と米国の軍は全く執拗にドイツの中核地帯（必需品）に向かって進んでいる
科学者、そして、ソーサー部品は、ドイツの南極植民地の秘密の飛び地にーNeuschwabenland にUボートでヨーロッパから着実に避難していた。
Haunebu III の完成のちょうど 1 ヵ月前に、謎めいたメッセージはマリア Orsic によって Vril 協会のすべてのメンバーに送られた。そして、単に「ここには誰も、滞在していない」と述べてい

た。

サイキックチャネラーのマリアについては二度と便りがなかった。そして…― Kammler のように、多分南アメリカ、南極またはおそらくアルデバラン星に　― 逃げた！
疑問が残るのに、彼女は Kammler の協力者か捕虜であったのか？
Peenemunde でロケット施設と人員を得ることによって必然的に、ドイツのテクノロジーがどれくらい危険なほど先進的であったかを、前進連合軍リーダーシップは、本当によく知っていた。
1945 年の第三帝国の無条件降伏にもかかわらず、ナチの脅威の可能性は、まだ連合情報部に取りついていた。

南極の砦から将来の報復を開始が可能にするために南極の『頼れるもの』のポジションのインストールのための時間をかせぎのために、ドイツ・最高司令部は、ヨーロッパの運用を犠牲にしたのか？
この伝説の追記は、「High-Jump 作戦」の説明にある。
1947 年 1 月に 13 隻の船、航空母艦、水上機とヘリコプターを含む、4000 人の実戦部隊のアメリカの完全な陸軍機動部隊は、海岸線の『地図を作る』定まった目的でリチャード E.バード提督の指揮下に、南極に送られた。
8 ヵ月の極地の滞在の間この機動部隊は支給された、しかし、8 週間たって飛行機と人員の明らかにされていない紛失の後、バードは彼の力を引っ込めた。
そして、風説はバードが敵対的な行動で圧倒するものに遭遇したというものであった。彼は、「戦闘機は途方もない速度とともに､1 つの極からもう一つ極まで飛ぶことができる｡」といった。
…彼はまた『先進の文明』の恐るべきテクノロジィによって同じ様に助けられているドイツの派遣団を実際雇ったと、ほのめかした
すべてのレポートが機密扱いのままで（バードの個人の航空日誌記入事項を含む）その時から、依然として南極でバードの探検で起こったことは神秘に覆われたままである。
また、High-Jump ハイジャンプ作戦が当初海軍長官（ジェームズ・フォレスタル）によって組織された点に留意する必要がある。しかし、後で、フォレスタルは 1949 年に、ベセズダ・ナバル病院で神経衰弱のために回復するために行かせられた。
しかし、主張によれば病院スタッフに南極、UFO と地下ナチ都市についてわめいたあと、フォレスタルはすべての訪問客に会うことを許されることなく、その後まもなく、彼の病室の窓から落ちて死んだ。
彼の死は、『自殺』と分類された。

しかし、また、このエッセイの初めに起こされた問題を考えると、バードによって示唆された『先進文明』は、Von ブラウンとオーベルトによって触れられたのと同じ地球外生物でありえたか？
これらの「他の世界の人々」は、ドイツのアルデバラン星からの不可解な同盟国でありえたか？

これは『Vril』と第三帝国のディスクを浮揚するプロジェクトの伝説のようなものである。
もちろん、全部の神話を不合理なナンセンスとして完全にシンプルに退けたために、1945 年に、『空飛ぶ円盤』に関するすべての議論は、終わった。
しかし、我々がよく知っているように、UFO と円形の飛んでいる航空機の遍在する持続的な報告は世界中で第２次世界大戦以来数十年の間ずっと謎のままだった。
そして、このミステリーが未解答に進む限り、ナチ円盤の謎は万華鏡を回し、質問を要求する緊急のパラドックスのままである。
古典的物理学の面から見ると、全部の神話は、空想的なゴミとして簡単に退けられる;
スペース兄弟がアルデバラン星からきたとする超自然的なチャネリングと空飛ぶ円盤と光線銃で武装したナチスのおとぎ話の概念は、最も法外なＳＦのように聞こえる！

しかし量子力学の急進的に変わった見方によって物理学が劇的に、もっともらしさに持っていき、この同じ伝説が再考される！
Vril 協会は、単に実際的な『統一場フィールド』の使用をしたのか」？
（宇宙に広がる零ポイントエネルギーの著しく正確な完全な説明ではないとしても）紙に書かれたフィクションからは、ほど遠く、Vril つまり「自然のエネルギーの力の不変性」が、エドワード・ブルワー＝リットンによって記述されたのか？
実際宇宙が一つの意識と同時に星の間の無限のエネルギーの海を、地球の古代の失われた文明は、地球外文明と理解を共有したのか？
それは、少数の大胆なドイツの空想家がこのエネルギーを利用する秘訣を発見したということはありえるのか？
そして、最後に、第２次世界大戦の REAL 本当の勝者は、誰であったか？
ドイツの物理学者とエンジニアと軍人の派遣団は、1945 年にうまくグリッドから離れて、全く経済的に独立して世界的な石油カルテルから独立した新しい植民地を樹立したか？
そして、単に今日まで多国籍会社および銀行利益の強欲を送達するだけで、我々の環境を破壊し犠牲にして、無料のエネルギー生成の基礎は、完全に知られていても、故意に保留になるか？
そして、この『フリーエネルギー』推進力は、UFO 隠蔽の脊後にある最終的な秘密なのか？
もちろん、ただちに第２次世界大戦に続く年には、ドイツの円盤ミステリーは、多くが混ぜ合わさっていた。
1947 年 6 月に、Kenneth アーノルドという名の自家用操縦士は、ワシントンのレーニア山の近くで 1600mph の先例のない速度で疾走している 9 つの光る物体の隊列を報告した。
「あなたが水の上で皿をスキップさせて飛ばすように、円盤もそうする」とアーノルドが言ったように航空機は飛ぶ。
それゆえに、プレスは、「Saucers を飛ばす」という、彼の言葉と同時に公衆を魅惑したと報じた。
しかし、アーノルドは航空機を、『飛行機』のように、形づくられるより三日月と実際は言ったーそしてそれは偶然にも、戦争の間に、ドイツのホートン・ブラザーズによって仕上げられたもう一つの航空機の形であった。

捕えられたドイツの航空機はワシントン州の西カナダに近い共同のアメリカ/英国の軍事施設で

よく見られるように思えた。
4 ヵ月後、1947 年 9 月に、ちょうどバード提督の南極のミッションが中止された 8 ヵ月後に、戦略空軍司令部は北極の詳細な写像と偵察任務を引き受けた。
広範囲な B-29 支持基盤はアラスカ、Ft 戦艦 リチャードソン Richardson、に確立された。
カメラだけでなく、これらの爆撃機は、最新技術の、電磁スキャナ、センサと磁気放出検出器が詰め込まれた。
そして、ちょうどバードに記述されたのと同様に、北極でも『世界中に飛ぶことができる高速航空機』に、再び遭遇した。
報告を求められた航空機搭乗員は目の見える金属的な垂直揚力の円盤が氷の上に着陸すると、報告した。そして、B-29 につきまとって邪魔をするだけでなく、水から外に飛ぶ。
テープ、フィルムケースとドキュメンテーションといったすべての証拠は、ただちに機密扱いにされて、ワシントン D.C.へ急いで戻した。

捕獲された記録によると、ドイツにも、「アンドロメダ」機械と呼はれる『飛行船』サイズの浮揚しているシリンダー船を建造する計画があった。
この 330 フィートの巨大なものは、中小の Vril と Haunebu スカウトシップの 5 隻を運ぶことができた。
1950 年代初期には、George アダムスキーという名のカリフォルニア出身者は、このデザインに著しく類似した UFO の写真を撮った。

後で、アダムスキーはデザートセンター（カリフォルニア）で『北欧のノルディックの』外観に近い地球外の人との接点を持ったと主張した。そして、その人は金星の出身であると主張した。
しかし、この宇宙人が飛ばした小さいスカウトクラフトの写真が実質的にドイツの Haunebu II と同一のデザインを示す点に留意する必要がある。
アダムスキーが詐欺として後で偽りを暴かれたけれども、『金星人スカウトシップ』と同一の UFO の報告は世界中で蔓延した。
1954 年に、大統領ドワイト・アイゼンハワーは、伝えられたことによればパームスプリングス（カリフォルニア）の近くの MUROC 離着陸場で、Extraterrestrials 宇宙人との会議に隠れていった。
『北欧人の』様子の 1 つの特別のグループのことが報告された、そして、彼らは核軍縮の対価としてアイゼンハワーに Free-Energy 技術を提供したーしかし Ike アイゼンハワーは断った！
そして、物語が進んで、その後これらの『北欧の』ET は同様にバチカンでピオ十二世に会った。

そして、もちろん、戦争の間に、ドイツはアルゼンチンと他のラテンアメリカの国と心からの関係があったことは、常識で、そして、今日さえ奇妙な偶然の一致によって、UFO は一般に南アメリカの全域の広がりで、ペルーとブラジルの広大なジャングルと氷の頂上に隠れたドイツの基地の話とともに報告される

主張によれば 1973 年のペルーの近くリマで写真を撮られたこのおなじみの怪しい物を考慮しなさい。
しかし、多分、UFO のドイツの関係で最も露骨な結論は、スイスに有名なビリーMeier 場合から来る。
1975 年に、Vril ソサイティリーダーの失踪の 30 年後に、スイスの農民は『プレヤデス星団』からの女の子とのコンタクトを持ったと主張した。そして、その人は偽名を使い、「セミジャーゼ Semjase」は著しく 1919 年の『Vrilerinnen』に似ていた。
この宇宙の女の子も長いブロンドの髪で、流暢なオーストリアのドイツ語で話して、第２次世界大戦のドイツの円盤プロジェクトについて、ざっくばらんに広範な知識を共有した。
Semjase の『beamships』は、実際に古い Haunebus の現代のバージョンだったのか？
だが、謎はそのままである、第三帝国の生き残った現代の残りはその非常に優れたテクノロジーを実際に備えることになったのか、
彼らは単に筋肉を使わず、最後の素早い動作で世界をなぜ、征服しないのか？
または、そのような勝利が最後の無駄なジェスチャーかもしれないと、彼らは理解したのか？
帝国の生存者が古代のシュメール人が備えていた秘密をアルデバラン星の彼らの師から学んだことを思うー、惑星地球の表面は、我々の太陽系の友である矮星を規則的な 3600 年のサイクルで通過することで荒廃する。
まったく、21 世紀の初期の間に、もう一度、この Dark Star は、惑星の中 inner planets を揺らすことを意図していた。
そのような記念すべき出来事は、「千年王国」に 70 年ほどの乏しい寿命を与える。
このように、根気よく問題なく Dark Star の通過を乗り切る準備をして、帝国の生存者は、表面の世界から姿を消して、南極大陸の遠い荒野で硬化した地下『避難所』を開発するほうを賢明に選ぶのかもしれない？
我々は、地下の Reichskinder の現代の世代は
ひそかに、彼らの無限の科学的な驚きの成果を進め続けながら、
消費できる表面の居住者の内部の燃焼の大気への毒入りのチョークへの含有量、自動車、飛行機と産業のジャンク-技術、といった無知なものを許すと仮定する勇気がある？
それが、テューレとヴリルソサエティによって心に描かれた驚くべき浮揚する機械とフリーエネルギー技術がすべて予備として約束済みの『ニュー・エイジ』のために慎重に所持されているといえる。；
地球がダーグスターとの遭遇の苦しみから回復した将来の時まで慎重に所持されている？
我々は、これらの質問に対する答えの理解をすぐに発見するかもしれない！
一方、アルデバラン星からナチ円盤の秘密のミステリーを解くための探求は、21 世紀のうちの 10 年めに、確かに今ある我々の現在の世界との多くの関連を得た。
前第２次世界大戦ドイツのような、西洋の文明 Civilization が非常に敵対的なイスラム国家によって支配される外国の石油供給源に危険なほど依存していると、わかったことは、皮肉である。
このジレンマに対する解答が、フリーエネルギー/反重力にあるのか？
そして、最後に、TR-3B のミステリーが、表面に出た。伝えられるところでは最新の高度技術が、使用可能だといううわさの USAF ステルス航空機は、『アストラ』である。（別名 TR-3B）

この航空機は、デルタに形づくられて、垂直揚力ができる。（一般に UFO と関連するす急進的な動きだけでなく）
このベービーは、長さが 2 つのサイズで、一つは長さ 300 フィートともう一つは 600 フィートで来る。
その推進力は「磁気フィールド Disruptor かく乱物質」[反重力] と言われる。そして、50,000rpms で水銀プラズマを回すことでつくられる。そして、250,000 psi に強制される。
これは、航空機の重力質量を 89%減らす。
各々のデルタ構成の角のマルチモードインパルスロケットは、残りの 11%の推進力を供給する。

この飛行艇は、Haunebu III の見苦しい継子 ugly stepchild でありえたか??
古代インドのそれに注意することは、面白い、名前の「アストラ』は、『恐ろしい』空挺兵器…を言っている
そのような航空機技術があまりに不自然に見えるならば、人は Area-51 でロッキードの『スカンク・ワークス』の前役員（Ben Rich…）のこの声明を考えるべきかもしれない
「我々には星の間を旅行するために手段がすでにある、しかし、これらのテクノロジーはこれまで『ブラックプロジェクト』としてしまい込まれている、そして、人類のためにこれらを取り出すには、天災が必要である。」
Ben Rich リッチはまた、このようにも言ったと伝えられる、
「我々はあなたが想像できる何でも、その方法をすでに知っている。」

著者の断り書き

以前のテキストは、実質的にすべての『伝説』である。
そのような話の確実性を確かめる完全に絶対的で、決定的証拠が、ない。
ヴァン Helsing、ウラジミールタルツィスキーTerziski、ウェンデル　スティーブンス Wendelle Stevens と『Grey Falcon』と「第三帝国の UFO シークレッツ UFO Secrets of the Third Reich」.
のウェブサイト（ビデオだけでなく）の著作から、私はこれを急いで作った。
ニック・クックの新刊書（Zero Point のための探求 The Hunt for Zero Point）は、先進の、今まで明かされていない、ナチのテクノロジーについて、重要な新しい光を投じる。
そして、追加として、私は、2 冊の新刊を強く推薦する、
ダークミッション（リチャード・ホーグランド著）
そして、
第 4 帝国の上昇、
ジム Marrs 著
アメリカの政治と軍隊と宇宙探査に潜行性の（正に上の方への現代までの）隠れたナチ影響の戦後の跡の後を追った

。

肝心な点には、2 つのオプションがある;

全部の物語は純粋なファンタジーであるか、あるいは、細心に隠され、すべての証拠は隠滅され、反重力のナチの秘密は連合情報部によって戦争終了後むさぼり食われて、セキュリティ上秘密の分類 Above-Top-Secret を与えられた。

しかし、反重力推進力システムが Vril 説明のようなものを示唆し、すべての航空宇宙での航空電子工学テクノロジーを旧一晩で式にする点に留意する必要がある
ーそして、これらは、直接国際的石油カルテルと結びつく巨大な数十億ドル産業である。
きっと、ドイツの反重力リサーチの何らかの決定的歴史を消すのに、これらの軍と/産業の合同の利益は、手段と動因を所有している。
主張によれば、第三帝国の神秘的で超自然的な利益へのすべての言及を削除した第 2 次世界大戦の「公認の」歴史の出版を依頼するために、ロックフェラー財団は 1946 年に 139,000.00 ドル支払った。
ロックフェラー財団の主要な基盤の 1 つは…スタンダードオイルである！

ドイツの ET との接点に戻る？
- Its Legacy On The Twentieth Century And After...
ーその Legacy On The Twentieth Century And After...
Return to The Saga of Flying Objects
飛行物体の物語へ戻る
Return to Temas / Vida Alienigena
Temas/ヴィーダ Alienigena へ戻る
Return to Vida en Nuestra Galaxia
ヴィーダ・エヌ Nuestra Galaxia へ戻る
Return to Contact and Contactees
接点と被接触者へ戻る
Return to German Disc Aircrafts
ドイツのディスク航空機へ戻る
Return to The Vril Society　　Vril 協会へ戻る